



0022223000

002223-000

332. 22-Sy922s3

上海日本商工会議所年報

上海日本商工会議所

第24 (昭和16年度)

1942

ADC

上海日本商工會議所年報

(昭和十六年度)

332.22
Sy 922.03

上海日本商工會議所刊行誌目

△定期刊行

經濟月報 (毎月十五日發行)
會議所々報 (毎月十日發行)
會議所年報 (毎年一回發行)

△既刊書目

上海經濟提要 (昭和十六年十二月發行)
上海商工錄 (昭和十六年十月發行)
英文日本人商工錄 (昭和十五年十一月發行)
中國海關法規と通關手續 (第三版)
(昭和十七年一月發行)

中華民國海關輸出入稅率表
(昭和十四年九月發行)

支那事變日誌 (昭和十四年九月發行)

上海要覽 (昭和十四年八月發行)
註・右のほか昭和十三年以前にも多數の圖書あり

△參考資料

第一號 支那關稅改正意見一覽
第二號 第六號 維新政府經濟法規集
第一輯 財政金融
第二輯 商工關係
第三輯 商法公司編
第四輯 日支合辦會社法規
第五輯 其他經濟關係法規
第七號 上海に於ける邦商組合事情
第八號 蘇浙皖稅務總局統稅章程
第九號 經濟統制規則類纂



上海日本工商會議所

第二十四次年報

十二月八日勃發した大東亞戰爭は上海經濟の相統を一變せしめた。第三國貿易の杜絶は上海港の從來誇りとせる世界的地位を根柢から揺がし、この地に芽生えてゐた支那事變勃發以後の商業、工業の復興譜は一大變調を來したのみならず、從來とは全く異つた指揮棒の下に奏せられる事となつた。即ち七月の資産凍結前後を通じて愈よその鋭鋒を示し始めてゐた所謂A B C D陣營の上海支配は一朝にして覆滅し去り、上海は日本を盟主とする大東亞共榮圏の一環として更生の途に上つたのである。貿易港としての上海、工業都市としての上海はこゝに百八十度の方向轉換を余儀なくせられる事となつた。物資交流の中心地として將又、金融の中心地としての上海も、一大轉換期におかれた。これを各界業者の立場より見れば未曾有の震動を覺ゆるものがあらう。

我等は日米若し戦はばと言ふ假説を耳にし始めて永年月を経て來たが、今日では假説は現實となつた。この牢記すべき歴史の一大轉換の年について、上海各界邦人業者の歩いて來た荆棘の道を可及的如實に描寫しようと努めたのが本年報である。勿論それは不完全な素描に終つたかも知れないが、大東亞戰勃發以後の見透しについて何等かの示唆を與へる事に努めた跡は隨所に讀み取つて頂けるであらう。

この種年報刊行の現時局下に於ける困難性については今更絮説しない。たゞ刊行が豫定より手間取つた原因も一半は右の困難の中にひそんでゐることを諒解されたい。最後に、繁忙の中に執筆の勞を執られた各界業者の方々に深甚の謝意を表する。

目次

昭和十六年概観……………一

支那對外貿易……………二

一、全支對外貿易……………二

二、上海對外貿易……………三

海運・陸運……………三

一、全支及上海船舶出入狀況……………三

二、航業概況……………三

上海—歐洲間……………三

上海—北支間……………三

上海—漢口間……………三

上海—青波間……………三

上海—南支間……………三

上海—台灣間……………三

內河航運……………三

三、倉庫業概況……………三

四、通關業概況……………三

五、海事檢定概況……………三

六、鐵道運輸概況……………三

七、小運送業概況……………三

八、都市交通業……………三

九、損害保險概況……………三

爲替及び金融……………三

一、爲替……………三

二、金融……………三

工業概況……………三

一、一般概況……………三

二、紡績業……………三

三、養蠶、製糸業……………三

四、絹紡織……………三

五、染色捺染業……………三

六、製粉業……………三

七、榨油業……………三

八、煙草製造業……………三

九、製紙業……………三

一〇、ゴム工業……………三

勞動事情……………三

一、勞動賃銀と生計費指數……………三

二、一九四一年上海勞動爭議一覽表……………三

商品市況

棉花……………一

加工綿布……………一

落……………一

毛糸、毛織物……………一

乾繭、生絲……………一

廣巾絹織物……………一

藥品……………一

石鹼……………一

蠟……………一

塗料……………一

印刷インキ……………一

米……………一

綠茶、紅茶……………一

胡椒……………一

茶油……………一

豚毛……………一

牛骨……………一

卵及卵製品……………一

海產物……………一

鹽……………一

藥用人參……………一

牛乳……………一

二酸化硫磺……………一

紙……………一

絹糸布……………一

軍配綿業……………一

人絹糸布……………一

印度ウニト及新麻袋……………一

副蠶糸(再生絲)……………一

莫大小……………一

工業藥品……………一

構寸……………一

染料……………一

五倍子……………一

紡績機械及要品……………一

小麥、麥粉、麩、雜糧……………一

葉煙草……………一

桐油……………一

軍配蠶肥……………一

禽毛……………一

獸毛……………一

鮮魚、土產鹽乾魚……………一

砂糖(軍配)……………一

蔬菜青果……………一

麥酒……………一

鑄油……………一

珽瑯鐵器……………一

木材……………一

昭和十六年經濟日誌

統計資料……………一

上海貿易國別輸入統計……………一

上海貿易國別輸出統計……………一

上海貿易類別輸入統計……………一

上海貿易類別輸出統計……………一

上海貿易プロック別輸入統計……………一

上海貿易プロック別輸出統計……………一

手形交換所交換高週別表……………一

支那外債現物月別倫敦相場……………一

支那內債現物月別上海相場……………一

上海爲替相場表……………一

上海邦商卸賣物價……………一

上海邦商小賣物價……………一

上海公共市場小賣物價……………一

上海勞動者生活必需品物價……………一

在華日本紡績工場一覽表……………一

附錄……………一

昭和十六年概観

はしがき

昭和十六年即ち皇紀二千六百年はわが皇國の歴史において、永久に記念せらるゝ年とならう。この年十二月八日、大詔は渾發され、米英兩國に對して戦端が開かれた。世界支配の野望を抱く米英の飽くなき壓迫に、わが國が遂に彼等との協調を斷念し、自己生存確保のため、延いて恒久的世界平和確立のために、堂々膺懲の戦ひを中外に宣言した實に歴史的、世紀的な年であつた。

しかもわれらが殊に誇とするところは、わが國が米英に宣戦を布告するや、友邦獨伊兩國が欣然我れに協力し、世界新秩序建設のために共に戦ひ抜くの熱意を示したこと、わが南方の友邦泰國が米英の策謀を斷乎排除して、わが國との間に攻守同盟條約を締結し、アジア解放の聖戦に進んで参加したことである。而してこの二つの事實は、本年度中に展開された他の多くの事實、例へば米國武器貸與法の成立、獨伊兩國のバルカン制覇、英國のイラクおよびシリア占領、獨ソ戦争の勃發、英ソのイラン占領、防共協定の擴大延長等々にも増して、昭和十六年の歴史的、世界的意義を高からしむるものであつた。

ヒトラー總統は十二月十一日のドイツ國會における演説において、「日本は米國に宣戦を布告した最初の國である」と云ふ意味の

ことを述べたが、大東亞戦争の起因は斷るまでもなく、第一次世界大戦以後の世界の政治的、經濟的混亂を招來した最大の原因は、實に米國政府の誤れる認識とそれに基づく偏狹な態度にあつたのである。

果然、御稜威の下、皇軍は海に陸に赫々たる戦果をあげ、世界各國を驚嘆せしめてゐる有様。われらは昭和十五年秋、二千六百年の記念祝典を舉行したが、さらに昭和十六年も暮れんとする師走において、かくして次ぎの新たな皇紀二千七百年の輝しき大發展大躍進が約束されたわけである。

一、日 本

昭和十六年におけるわが國の政治面を回顧すれば、まづ多角多彩を極めた帝國外交の華やかさが目を牽く。而してそのトツプにクロイゾアツプされるのは泰佛印國境紛争の調停であらう。

前年十月末突發した兩國々境に關する武力抗争は、一月サイゴン沖のわが軍艦上において現地停戦協定が成立し、二月その本會議が東京で行はれた。しかし兩國の主張には多大の懸隔があり、且つ英米側の必死の牽制運動もあつて、會議は危ふくお流れにならんとする等、幾多の場面を展開後、結局、東亞における日本の立場と、測り知れざる日本の實力を良識せる泰佛印兩當局の賢明

によつて、わが調停は見事成果をみるに至つた。即ち三月十一日の正式調印となり、共同コムミュニケ、三國交換公文書の發表となつたのである。

泰佛印國境紛争の調停成るや、當の立役者松岡外相は調印の翌日訪歐の途に上つた。訪歐は盟邦首領との親交を深むるためである。現職の國務大臣が、特定の會議に代表として海外に派遣されたことはわが國でも先例に乏しくないが、一般政策の協議を目的に外國を訪問したことはこれを以つて嚆矢とする。この訪歐ではお土産が相當に持ち歸られた。四月十三日モスコで調印された日ソ中立條約はその一である。これによつてソ聯抱込みに汲々としてゐた英米殊に米國の如き、恐らく月夜に釜を盗まれた感を抱いたことであらう。その後六月になつて日ソ通商協定が成立し、續いて十月、ノモンハン停戦協定以來足掛け三年行儀んでゐた滿蒙國境確定交渉が圓滿に妥結をみる等、對ソ關係は稍々明朗性を取戻すに至つた。

また五月には日佛印通商協定の成立をみてゐたが、七月にはさらに佛印の共同防衛に關する日佛議定書がウイシーにおいて調印され、帝國陸海軍は佛印南部に兵力を増派して平和維持に當ることとなり、七月二十九日夫々進發をみた。

この間中華民國國民政府主席汪精衛氏の來朝を逸することは出来なからう。汪主席は周佛海氏以下の隨員を引具して、六月わが國民的歡迎裡に華やかな帝都入りをなしたのであるが、長く天皇陛下には皇室の賓客として汪主席と御會見、御款待あらせられた。汪主席の歸國と同時にわが政府は、國民政府に對し三

取締規則」てふ大藏省令の公布がこれであり、滿洲國および中華民國においても同趣旨の取締規則が實施せられた。

七月十六日首相近衛文磨公は「益々國策の遂行を活潑ならしめんがためには、まづ國內態勢の急速なる整備強化を必要とし、従つて内閣の構成も亦一大刷新を加ふるの要あるを痛感し（七月十六日政府發表）、閣僚と共に總辭職を決定したが、後繼内閣組織の大命は翌十七日同公に再降下した。第三次近衛内閣の誕生である。新内閣において注目されるのは松岡外相の退陣による豊田外交の登場であつた。しかし本内閣も組閣後僅かに三ヶ月、十月十六日唐突として退陣し、代つて東條内閣の出現となつた。東條内閣の特異性は、現役大將内閣として政戦一致の好機を發揮する上に、至便の性格を具へてゐるところにある。果然、新内閣は來朝前駐獨大使を起用して米國に派遣し、日米の話し合ひに最後の駄目押しを致さしめた。かくて百方手を盡したわが方の努力も遂に圓滿なる妥結をみるに至らず、長くも宣戰の大詔を拜するに至り、やがては盟邦獨伊の颯起となり、日泰攻守同盟となつた。

次に昭和十六年度の統計の發表を一束。
1 昭和十五年十月一日施行の國勢調査の結果は四月十七日發表をみたが、これによると帝國全版國總人口は一億五百二十二萬六千一人であつた。

2 事變四ヶ年の陸軍綜合戦果——聖戰滿四年間（自昭和十二年七月至昭和十六年六月）における皇軍の偉大なる綜合戦果が七月發表せられたが、敵の遺棄死體實に二百一萬五千、これに捕虜投降等を加へれば敵軍損害の總計は無慮三百八十萬（五百四

億圓を限度とする借款供與方を決定した旨發表した。また國民政府中央儲備銀行の在外資金をわが自由圓に移行する協定は、既に汪氏來朝中に調印發表せられた。さらに八月には泰國との間に一千萬パーツの借款が成立した。但しこの借款はわが方（横濱正金銀行）がクレヂットを受くる方であつて、米英の資産凍結が齎らした一現象である。十一月、防共協定がさらに五ヶ年延長された。而して期間延長の調印を機会に樞輔諸國の参加があり、昭和十一年日獨の二國間に締結された防共協定は、こゝにその参加國十三の多きに達して劃期的な強化をみるに至つた。

かくの如く一聯の軍事的、外交的成功裡にあつて遺憾ともいふべきは、日蘭會商の決裂と、米英等敵性國側の資産凍結であつた。前年九月以來バタヴィアにおいて折衝中であつた日蘭會商は、交渉調はず六月遂に物別れとなり、わが芳澤公使は同地を引揚げて了つた。

一方資産凍結は、わが日佛印共同防衛協定發表の前夜（七月二十五日）ルーズヴェルト米大統領は無制限國家非常時宣言に基づき、米ならびに在比島日本資産の凍結を命じ、二十六日から實施した。アメリカに歩調を合せ、イギリス並びに各植民地もまた同日日本資産の凍結を實施、さらに日英、日印、日緬各通商條約の廢棄を通告して來たが、引續き蘭印も日蘭印金融協定を停止し、同時に日本資産の凍結、對日滿支および佛印輸出、日本よりの輸入に對する許可制を實施した。これに對しわが國もまた直ちに報復手段をとり、有効適切な反撃を加へて毅然たる態度を表明した。即ち七月二十八日外國爲替管理法に基づく「外國人關係取引

十個師）に達する。

- 3 本年度産米第二回豫想收穫高（十月三十一日現在）は五千五百四十六萬二千石と發表された。
 - 4 本年度國民貯蓄目標額は百七十億圓
 - 5 本年度公債發行額は百三十九億四千四百萬圓
 - 6 本年度日本銀行券發行高の最高記録は十二月三十一日の六十二億三千九百九十九萬六千圓（限外發行十五億三千百萬圓）
- 次に本年度の第一四半期の物動計畫は四月決定實施されたが、本物動は八月に決定された。本物動計畫は全く自主的のものであつて、獨ソの開戦によつて兩國にも期待せず、また資産凍結によつて米英にも依存してゐない。從來の物動が、第三國物資に依存し、且つこれに依存し得た關係から、その時々第三國の事情によつて、常に改編調整を行ひつゝ實施して來たのに引換へ、十六年度物動がさらに第三國の依存を清算し、眞に日本的性格の獨自の物動となつて誕生したことは明白に想像される。
- さらに本年度の經濟界について一瞥しよう。第二次近衛内閣の成立と共に澎湃として湧き起つた新體制運動は、昭和十五年九月の「基本國策要綱」をその發足點とし、同年末の「經濟新體制確立要綱」を産業經濟における新體制第一歩とした。本年に入つては、八月の「重要産業團體令」を起點として、活潑なる統制會活動を展開し、これを補足するところの營團活動と相俟つて、産業再編成は著しく推進せられるに至つた。即ち、「重要産業團體令」に基づく重要産業部門の統制會は、十月末鐵鋼以下七部門十二種に對し第一次指定があり、これらのすべては年内に設立命令が發

せられ、鐵鋼、石炭、鑛山等大半はいづれもその結成をみた。また營團活動の例をあげれば既設の住宅營團、帝都高速度交通營團の他、新たに産業設備營團と重要物資管理營團が創設せられた。かくの如く統制會活動の展開が戦時綜合計畫經濟の推進力となつてゐるとき、日商、經聯、重産協、工組中央會、商組中央會、全産聯等の經濟團體が如何に再編成されるべきかについては、相當に論議せられ、本年度における重要トビツクの一であつた。各團體は擧つて試案を發表し、建議を行ひ、自己中心的な再編成方式を提唱した。これにつき推名商工次官が十二月の日商緊急常議員會の席上において「大東亞戰爭完遂のためには従來の因習を打破し、國內産業を再編成しなければならぬが、これがためには國家目的に即應して經濟團體を一元化する必要がある」と當局の意見を表明したことは、今後の方向を示唆するものとして注目される。

さらにまた中小商工業を中心に企業の整備統合を目標とする「企業許可令」および「企業整備令」が十二月に公布實施せられたが、貿易部門ではこれが「貿易業整備要綱」となつて、同じく十二月貿易局より發表をみた。週つて五月には「貿易統制令」が國家總動員法に基づいて制定公布せられた。而して貿易統制を實施すべき國策機關としては、前年日本東亞輸出組合聯合會が先驅的に創設せられ、本年に入つて南洋貿易會の設立をみてゐたが、十二月末設立命令を發せられた日本貿易會の結成によつて、これら既存の諸機關は吸収統合せられる。斯くしてこゝにわが國輸出入總動員體制の元締が出来ることになつた譯である。

一、大東亞共榮圈の國々

(1) 滿洲

なほ九月に「日滿支輸出計畫」が決定せられた。これは従來の餘利貿易の觀念を一掃し、日滿支最大限貿易への轉換聲明でもあつた。その趣旨は左の二點に要約される。

- 一、まづ日本より供給する物資の數量は、日滿支綜合戰時經濟力の弾力性を考慮しつつ、可及的多量の物資を供給すること。
- 二、滿洲および支那より供給を受ける物資の數量は、自給體制を強化するため、日滿支一體の見地に基づき、滿支生産力の發揮によりその最大限を以つてすること。

いまや大東亞戰爭の目覚ましい大勝利と共に、大東亞共榮圈が擴大強化されるに伴ひ、本「日滿支輸出計畫」も南方建設工作と脱み合せて把握せらるべきはいふまでもないところであるが、その際においてもなほ、圓域を一體とする物資交流増強の根本方針は依然として強調されることであらう。

四、地方債の整理
五、税制の改正

また七月には資金計畫の發表をみたが、總額二十二億四千萬圓、その調達方法は國內十一億、對日期待十一億四千萬圓の振合ひとし、結局本年度對日期待は前年に比し一億圓程度の減少となつた。

十月滿蒙國境も確定され、北邊傾みに明朗性を加へたが、更にブルガリヤより滿洲國正式承認の通達があつたのを始め、年内に芬蘭、泰、丁抹の諸國よりも正式承認の發表があつた。これにて滿洲國承認國は十六ヶ國となり、かくて日獨伊の樞軸外交は一段と強化され、世界新秩序の確立に力強く邁進することゝなつた。六月には滿獨貿易協定再延長が取結ばれ、二月には對華中貿易方針が決定された。即ち滿洲國側は棉花、小麦粉、大豆油用ドラム、麻袋等の輸入を主とし、輸出品としては特産三品、雜穀、バルブ等を主眼とする方針で、決済方法としては従來の如くパータイ制をとる建前である。

國內的には七月四平省が新設された。これは奉天、吉林兩省より分割創設したもので、南滿における穀倉地帯をなし、省廳の所在地は四平市である。さらに同月「價格等臨時措置法」が公布され、國內商品の全般に對し、七月二十五日現在の價格をもつて釘付けとし、一律に引上げ禁止となつた。また「滿洲國開拓農場法」が十一月公布されたが、本法はいふまでもなく日本内地人が滿洲開拓地において、農業を営む場合の土地制度と村造りの基本方針を規定せるもので、本法の實施により開拓農家の地位は盤石の安

きに置かれることとなつた。但し本法の實施は建國十周年にあたる昭和十七年四月一日よりとなつてゐる。なほ滿洲開拓民第一次五ヶ年計畫は本年度をもつて豫定通り十萬戸入植を了し、愈々來年度より二十二萬戸入植を目標とする第二次五ヶ年計畫に入ることとなつたが、二十ヶ年百萬戸入植の大計畫はかくして着々と實を結び行くことであらう。

(2) 支那

華北政務委員會は民國三十年度の豫算を發表したが、歳入出各々二億一千九百萬圓と決定された。また前年七月興亞院華北連絡部が決定した華北産業五ヶ年計畫要綱は、決定直後日獨伊三國同盟の締結を見、續いて日滿支經濟建設十ヶ年計畫の發表があつたため、新たに昭和十六年を初年度とする華北經濟十ヶ年計畫が樹立せられ、再出發することになつた。本計畫においては、その中心課題たる地下および地上資源の増産を圖ることは勿論であるが、單に資源の増産一本建とせず、出廻りを促進すべき收買機構の恒久的整備を圖ること、また大規模の重工業、化學工業勃興の際における金融經濟政策が特に考慮を拂はれることになつた。

さらに本年度の華北蒙疆炭の對日滿物動割當輸出については、一月北京において軍、興亞院、炭業關係者間に協議が重ねられた。華北蒙疆炭の輸入は順調に進行し、井陘、陽泉炭は二月十五日の徳石線の營業開始によつて、従來の輸送能力は倍加することになつた。また蒙疆龍煙鐵礦の對日輸出も年度末までに物動計畫通り積出され、或ひは結果において相當量の増加になると見え

られるに至つた。

對日貿易については北支當局より十月、當局談の形式をもつて次の如き發表があつた。

- 一、日支における輸出入機構 日支における輸出入機構を可及的一元化して價格調整と數量調整とを一元的に運用する。組合による輸出入、大小商社による輸出入の強化を行ふ。
- 一、支那向け輸出物資の調整料 支那向け輸入の現行調整料は變更せず、その積立法に再検討を加へ現行品目以外にも最小限の調整料を適用する。
- 一、支那よりの輸入物資 價格調整令による現行價格調整法を基本とする。

三月には華北・華中の十六年度バーターの協定が取結ばれた。十六年度バーターの總額は約一億六千萬圓、前年度に比し四千萬圓の擴張となり、品目の主なるものは華北より石炭、鹽、香煙草、華中より小麦小麥粉および卷煙草となつてゐるが、十六年度の特徵として華中よりの品目にさらに疏安が追加され、米が除外された。なほ蒙疆が本バーター協定に参加して、蒙疆の華中に對する受取勘定は、華北よりの蒙疆向け物資によつて清算されるといふ三角バーター關係は、本年も踏襲されることになつた。

これと共に中北支個人バーターも既に行はれてゐたが、米麥の資産凍結の結果、米ドルによる決済は當然不可能となつたので、これに替へて八月より特別圓建を採用するに至つた。而して九月より特別圓の對法幣相場を固定せしめ、法幣の對米公定相場たる五ドル十六分の五を標準として、二十二圓八分の五に決定、釘付

けた。また上海との匯申取引を統制するものとして、八月より「華北爲替管理規則」が實施せられた。

華北における聯銀券一色化工作に對しては華北政務委員會は四月告示を發し、聯銀券地區に編入さるべき地區内の舊通貨は、編入に先立ち、各地區當局の定むる日より一ヶ月間を限り、聯銀券に對しその都度定むる比率をもつて回収せしむることとなつた。蓋し舊法幣並に地方券は北方券と南方券たるを問はず、昭和十四年三月以降華北における流通を禁止されてゐたが、匪區地區においては依然多量に殘存使用されてゐる實狀にあつたからであらう。而して本年度聯銀券發行高は舊正前後を頂點として七億四千萬圓を突破したが、その後收縮傾向に轉じ、さらに秋には棉花買付資金放出のため再び増大して年初の數字と平行した。

中支においては、國民政府が政府直轄の最高機關として清鄉委員會を設置し、汪主席自ら委員長となり、七月一日を期してその活動を開始した。第一期實施區域として、崑山、蘇州、無錫、常州を連ねる線以北の揚子江下流南岸地帯が指定された。すでに第一期工作を終へて第二期工作は九月十五日より開始されたが、これにより地區内の治安確立と經濟生活の安定確保は大いに推進せられた。勿論皇軍の協力なくして行はざることはいふまでもない。

さらに日華條約實踐の一として、軍當局は凡ゆる困難を排して軍管理工場を返還を斷行して來たが、中支では十一月四日現在その數六十一に達し、工場總數百三十余の中約半數が返還された。また北支では七月七日現在四十工場、南支では十月末をもつて軍

管理工場全部の返還をみた。なほこゝで國立北京師範大學、國立上海大學の二大學が、日も同じ十一月一日、南北一齊に開校されたことを附記して置く。

八月國民政府は行政機構の大改革を斷行した。機構改革の要點は警政部を内政部に、鐵道部を交通部に各々併合統一し、工商部農工部は合併して實業部を興す等であつた。同じく蒙古聯合自治政府でも七月行政機構の改革をなし、主席に徳王、副主席には干品卿、兼蒙左の二氏が就任し、北京の新民會では十一月、副會長安藤中將が大政翼賛會副總裁に轉出の後を受け、鈴木中將が新たに最高顧問として就任した。更に十二月わが駐支大使館にも移動があり、本大使は引退して重光大使となつた。

曩に帝國政府並に滿洲國政府の正式承認を得てゐた國民政府はその後漸く近代國家としての體容を整備し來たり、七月には樞輔國獨逸、伊太利、羅馬尼、スロヴァキア、クロアチア、西班牙、洪牙利、ブルガリアの八ヶ國より正式承認を受け、さらに八月丁抹の正式承認通告があり、これで國民政府承認國は合計十一ヶ國を數ふるに至つた。また十一月國民政府は、日獨伊三國の要請により防共協定に参加した。

この年における皇軍の作戰行動の主なるものを摘記すれば、陸軍ではまづ四月に行はれた浙江南部の新作戦であり、これはわが封鎖圈内にあつて蠢動を續けてゐた鎮海、寧波、温州、福州等の援將諸港に對し彈壓を加へたもの、五月には山西南部に開かれた中原作戰で、これの戦果は正に徐州會戰以來のものであつた。次には九月の湘南作戰即ち長沙の占領と十月の鄭州の占領であつ

た。鄭州の占領は長沙陥落と共に重慶政權に甚大なる打撃を與へた點において二大變態であつた。

海軍では南支封鎖の擴大斷行がその主要なものである。即ち二月の香韶ルートの遮斷、三月雷州半島の作戰、四月の南朋島より澳門パイアス灣入口並に田尾角より蓮花峯角に至る海岸線の封鎖決行であつて、從來わが軍の目を掠め、殘された沿海地方に海關を設置、上海、香港等より轉送される物資を輸入して斷末魔の苦悶に足掻きつゝ、輸血ルートの開通に狂奔してゐた重慶側の手はこれによつて完全に遮斷せらるに至つた。最後に空軍の活躍と、天津、上海、沙面各租界の平和的進駐については、あらためて述べるまでもあるまい。

(ハ)南方國

わが帝國の大東亞共榮圈指導の實力を誇示する礎石として、世界の政治的關心を集めてゐた泰佛印紛争調停會議は、調停國たる帝國の輝かしい外交的勝利のもとに、五月九日東京における泰佛印和平條約の調印をもつて、目出度く大團圓となつた。かくて泰佛印調停はわが國威宣揚の上に千鈞の重味を加へ、日本の外交史に劃期的成功を持ち來たたものであり、同時にこの成功はわが南進政策の新たな第一段階をなすものであつた。

されば本條約と前後して日佛印間には、大東亞共榮圈確立への先驅的意味をもつ廣汎なる經濟協定が取結ばれ、續いて七月日佛印共同防衛協定、十二月には日佛印軍事協定が締結されるに至つた。中にも日佛印經濟協定について一言すれば、本協定によつて

相互に最惠國待遇を與へられたことが注目され、また佛印より日本への輸入に對しては各品目を通過して最小限を規定し、日本より佛印への輸出については最高割當數量が定められた。さらに對日輸出品目中、米、石炭、鐵礦、マンガン、タングステン、牛皮、鹽等凡そ佛印産物にして日本の必要とするものは、フランス本國の必要量を除いて殆んど全量が日本に優先的に供給されることになつた點、佛印における農礦業、電氣、交通事業に對し、合辦の形式を以つて日本資本の参加を認められた點等は特筆に價する。

兩國の提携強化に伴ひ、十月にはわが特派大使府が新設せられるに至つた。即ち佛印現地にある軍事を除くわが政治、經濟、文化各般の機關は、すべて大使府の下に統合されることになり、この特命全權大使としては芳澤大使の任命をみた。

大東亞戰爭が勃發するや、名宰相ビブンの裁斷一下、友邦泰國が欣然として帝國に協力し來たつたことは、特に高く評價されて然るべきであらう。その具體的現れは十二月に締結された日泰攻守同盟であり、經濟的には英貨一ポンド十一パーツの對英リンクの切斷と、邦貨にして約三億三千萬圓に上る在英米資産の贖詰、およびその全貿易中過半を占むる對英貿易の放棄であつた。

泰國本年度の貿易は、一月以降五月までの全輸出量九百九十六萬ピクルで、前年同期の輸出量一千七百七十六萬ピクルに比すればかなりの減少であつたが、金額は米價騰貴のため二千二百六十五萬パーツの増加を示した。タイ國米の輸出先は日本および滿洲が最多で、本年五月の統計ではこの二國のみで過半の五二・三五%に達した。

十月わが商工省は泰國をも佛印と同様「南洋貿易調整令」による商工大臣の指定區域に指定し、その調整機關として南洋貿易會を指定した。十二月には泰國中央銀行の設立計畫が發表された。十七年一月十七日開業の豫定で資本金一千萬パーツ、内半額は政府の出資である。

次に英領マレーは如何、所謂A B C D包圍陣内で最も強固な一環と目されてゐる英領マレーであるが、この主要産物はゴムと錫と鐵礦であることは贅言を要しないところ、就中鐵礦は日本との關係において見逃せない。こゝには統計的數字を缺くが、英領マレーの鐵礦山は大半日本の資本下に置かれてをり、日本製鐵業に強く依存してゐたのである。再び日本の手によつて開發されるの日も遠くあるまい。

最後に蘭印。世界の寶庫蘭印は、日本を目標として、軍擴に血道をあけて狂奔し、本年六月より九月に至る國民參議院の第一會期において、總額五億三千萬ギルダに上る來年度豫算を議決した。これは總豫算八億ギルダ中、實に六七%を占めてをり、蘭印未曾有の老國防豫算であつた。

本年度一月より五月まで五ヶ月間の蘭印貿易状態は左の如くであつた。
一、輸入先の最高はアメリカで、その金額は五千九百四十六萬ギルダで全輸入高の三六%、日本は第二位。
二、また輸出先の首位もアメリカが占め、その金額は一億四千二百九十二萬ギルダで全輸出高の三九%。
前年來引續き行はれてゐた日蘭會商も遂に成らず、六月に至り

わが芳澤公使は空しくバタヴィアを引揚げたことは既述した。今年度の蘭印をみて特に注目されるのは、從來の原料産出國の立場から前進して、工業國化への計畫を一步踏み出したことである。蓋し蘭印が世界大戰に刺戟され、經濟的にある程度の自給自足の必要を感じるに至つたからであらう。即ち國民參議會は總額五千萬ギルダに上る工業に關する緊急事業案を通過せしめ、一千萬ギルダは政府資本がこれに参加し、同時に工業評議員會を組織して積極的工業化政策を企圖するに至つた。その種目はアルミニウム、鐵鋼、曹達、硫酸、ガラス、製紙、紡織等に亘つてゐるが、中にも紡織は最先に着手せられ、紡錘四萬錘を有する紡織工場をスマランに建設、既にその一部は竣工し、ジャヴァ産の短纖維綿で太番手糸の紡績を開始した。なほ引續き數工場が落成し、さらに人絹糸製造にも乗出すことになつた趣である。

蘭印の工業化計畫はかくの如く進捗を傳へられてゐる。しかしながら大東亞戰爭の勃發に伴ひ、所要資材の仕入先たるアメリカとの通商路が完全に閉鎖された今日、折角の工業化計畫もまづ空息状態に陥つてゐるものとみて差支へないのではなからうか。

三、重慶政權

蔣政權の首都重慶では、日本軍の爆撃に恐れをなし、三月重慶衛戍司令部の名をもつて佈告を發し、市民の避難分散を命じ、市の人口を二十三萬に制限した。而して衛戍司令部はこの制限命令實施にあたり、豫算百萬元を計上し、引越費用を持たぬ貧民に旅費として、各人十五元づつ支給するといふのである。同時に重慶

では米の切符配給が行はれることになつた。これは切符配給の皮切りとして、政府の全國糧食管理局の手により、市内警察區域の住民二萬三千名に對して行はれたもの。また三月行政院會議の結果、從來地方税であつた田賦を中央に移管し、しかもその納税を米、麥等による實物徵收とした。さらにまた十二月專賣制の實施を發表し、明春一月一日を期して鹽、茶、マツチの專賣を斷行することになつた。

重慶の物價昂騰は一九四〇年三月以來新たな段階に入り、本年五月以降その騰勢は再び急激となつてゐる。即ち一九四〇年三月より本年六月に至る十六ヶ月間に、重慶の食糧品は百三十八割の昂騰を示し、金屬、電氣材料類は百八十七割、衣類は百十四割の騰貴を示してゐる。十一月十日重慶アヴァス電によれば、中國農民銀行貸付係長壽啓明は重慶の物價がすでに事變前の三十倍に達したと發表した。例へばこれを重慶市の歳入・歳出豫算にみるも、本年度は一千六百八十萬元であつて、昨年度の八百六十萬元に比すれば一躍倍額を示し、さらに一昨年度の豫算額三百二十一萬元に比すれば實に五倍に奔増してゐる。この幾何級數的激増ぶりはいふまでもなく物價騰貴の反映であらう。

然らば通貨の面は如何といふに、法幣の濫發は年と共に甚だしく、中國民主政團同盟の財政評論家千家駒は、本年度の法幣増發高を一ヶ月六億元とみてゐる。當局は法幣發行高の發表を中止してゐるが、最後の發表である一九四〇年六月末では三十九億六千二百萬元であつた。而して香港金融界ではその年十二月の數字を六十億元と見積つてゐた。これより推算すれば、本年末における

法幣發行高はいかに内輪に見積つても百億元突破は確實である。かゝる悪性インフレーションの進行をチェックする法幣の對外價值維持の工作機關として、四月に第二次偽替平衡資金委員會が設立せられた。本委員會は一九三九年三月成立の英蔣偽替平衡資金委員會と同様の機構をもつものであつて、その資金として米國より借款の五千萬ドル、英國より借款の五百萬ポンド、重慶銀行提供の二千萬米ドル、および前回委員會の殘額資金と、合計一億米ドル乃至一億一千萬米ドルを有してゐる。委員の顔觸は重慶側三名、米英各々一名、即ち陳光甫、貝祖貽、席德懋、フオックス、ロジヤースの五名で陳が委員長。(英側委員ロジヤースは後にホールパツチに代る)。本部を重慶中央銀行内に、辦事處を香港滙豐銀行樓上に置いたが、偽替管理の實際は香港で行はれた。本委員會の活動は米英の資産凍結以後漸く世人の注目を牽くに至つたのであるが、ノミナルの嫌ひはあつたにせよ、法幣の對外價值をマーケットレート對米五ドル十六分の五、對英三片三十二分の五の公定レートをもつて安定せしめ、ブラックマーケットの驅逐にもある程度成功せしめた効果はあつたやうである。

重慶政權は本年度も軍需公債十二億元を發行し、二月、六月、十月の三期に分つて賣出した。と言つても殆んど全部は政府銀行の背負ひ込みになつてゐるのだが、兎も角これにて抗戰以來の内債總額は五十九億五千四百萬元となる。外債公債も建設公債の名目で英貨一千萬ポンド、および米貨五千萬ドルを前年同様二回に分けて發行した。また本年度の全國節約建國儲蓄運動は豫定額を六億元とし、内外各勸儲團體を動員して大重となつてゐるが、十

一月中旬をもつて儲蓄高はすでに豫定額に達したと號してゐる。各省別の成績は海外および重慶市が最もよく、いづれも一億元を超え、次いで廣東省、雲南省の順であつたと。

重慶政權下の經濟建設の状況については、八月經濟部長翁文灝は誇大なる發表を行つたが、こゝにはその儘を紹介する。

「當局は各工場を集結することの便りを營り、今後十五の工場區を全國に設けて工場を分散をはかり、各工場區の電力供給計畫については既に四ヶ所の工場地區に計二萬キロの水力發電を起す計畫が完成してゐる。また煤礦を運搬するために地下に工場を設ける計畫も進行中で、地下工場の最大なものとしては一萬三千四百三十三立方呎の紡績工場が完成してゐる。最大の機械工場の一たる中央機器廠は湖南から雲南に移され、鐵工業においては四川省に十五の小型熔鑄爐が新設された。また四つの電氣爐が完成され作業を開始してゐるが、その日産能力はいづれも三トン乃至五トンである。輕工業方面では職區から奧地へ移轉された紡績は二十萬錠で、現在その中十二萬錠が運轉し、年七萬箱の綿糸を出してゐる。なほ一九三八年の生産高は三萬箱だつた。製粉業の増加は著しく、四川陝西、雲南、廣西、貴州の五省の工場數は戰前の八から十七に増加し、また戰後外國から奧地に輸入した機械類は少くとも二萬トンに上つてゐる。」

因みに右翁經濟部長が重慶中央銀行四半期報に寄稿した論文によれば、一九四〇年末までに政府の補助により職區から奧地に移轉した工場は機械工場百八十一、電氣機具製造工場二十九、化學工場五十六、食糧品製造工場二十二、陶磁器製造工場十五、鐵鋼工場二十、紡績工場その地を合して總計四百五十、移轉機材および原料總トン數十二萬トン、勞働者は一萬五千人に達すると言つ

てゐる。

これにつき重慶では、十月行政院より「非常時期獎勵資金内移與辦實業辦法」なるものを制定公布して、上海遊資の奧地吸引策を講じ、また經濟部よりは沿岸都市の工業、商業の奧地移轉を圖るため、八ヶ條より成る辦法を作つて上海各業公會に通達せる等、相變らず奧地導入運動には躍起となつてゐた。

本年度における重慶への物資流入は、約十八億元とみられてゐる。その内譯は外國よりの輸入が十億元、上海より南方海路を通じて五億元、その他が方占領地域から流れ込んで行つた密輸が三億元といふ次第。上海から奧地に相當の物資が流れてゐたことは、遺憾ながら認めねばなるまい。本年度では凡そ五億元は確實と言はれる。主として綿糸布類が多かつた。そのコースは上海から一旦香港に出され、香港からさらに香爾ルート、あるひは雷州ルートを通じて送られた。それが本年度後半は兩ルートの遮斷が嚴重になつたので、香港より海路ラングーン廻りが多くなつた。

然るに今や大東亞戰爭の勃發となつて、この殘された唯一無二の國際ルートも、すでに崩壞の運命にある。大東亞戰爭によつて重慶の受くる經濟的打撃は、上海、香港の喪失に次いで、實にこのビルマ・ルートの潰滅であらう。重慶にとつて、上海、香港の重要性は言ふまでもないところであるが、ビルマ・ルートの潰滅こそは、軍需、民需諸物資の流入の途を絶つのみならず、さらには重慶政權が外貨獲得のため、勸奨に躍起となつてゐた輸出の途をも完封する。重慶では早くも政府管理の桐油、豚毛、茶、鑛産品をはじめ、輸出品滞貨の聲に脅えてゐると聞く。山をなすこの

滞貨を重慶は如何にして捌くか、わが占領地帯への密輸によるダンピングも考へられるが、これとて燒石に水であらう。ビルマ・ルートに代つて印度ルートの開鑿を企圖してゐるとも傳へられるが、所詮は白日の夢の域を出でまい。かくして四面楚歌、經濟的孤立に陥つて、重慶は何處へ行く?

四、上海經濟を中心として

本年の上海經濟界は多事多端、實に激動を極めた。世界の狀勢は軍事、政治、經濟に嘗つてないはげしい動きを示し、それらの動きはどの一つとして、上海經濟を揺さぶり、大なり小なりその影響を與へないものはなかつた。

別けても、それらの最後に襲ひ來つた大東亞戰爭は、從來の上海經濟に止めを刺し、その總決算を迫つたものであつた。而してその餘の幾多國際事件の繼起は、この總決算に到る道程としての、ウオーミングアップであり、前提でしかなかつた、とも解されるであらう。實に大東亞戰爭こそは、紐育と共に世界の二大自由港と並稱された上海をして、完全に英米經濟の腐れ縁から切離し、百八十度の轉換を與へたものである。即ち自由主義經濟から統制經濟へ、重慶の孤島上海から大東亞の共榮圈上海への、轉換であり、飛躍でもあつた。次ぎに本年度の主なる經過を回顧してみよう。

まづ一月には中央儲備銀行が創立せられ、同時に華興商業銀行はその發券機能を停止せられた。一方中、交、農の敵性四銀行では新法幣の流通妨害に乗出し、工部局の受納禁止を始め、各

華銀、華商の受入拒否を強要し、また英米側でも滙豐、花旗銀行等一齊に、新法幣による外貨賣止を決定して火に油を注いだ。かくて深刻なる通貨闘争の幕が切つて落され、三四月の頃には所謂金融テロとなつてクライマックスに達した。しかし敵側のかゝる妨害にも拘らず、新法幣は着々と堅實なる地歩を占め、七月國府の對日借款の成功や、九月一日より一切の公租、公課納入を新法幣をもつてせしむる等、諸々の政治工作にも保護せられて、十二月にはその發行高三億に垂んとする驚異的好成績を擧げるに至つた。

また遊資問題、三十億とも言ひ、五十億とも言はれる租界遊資問題の解決は、本年度における重要課題の一であつた。これを如何にして占領地區へ誘導すべきか、進んでさらにわが方の生産にまで参加せしむべきか、これの解決は一切の投機市場が潰滅せる大東亞戰爭勃發後において、殊に重要且つ緊要なる痛感せしむるに至つた。この意味において本秋中支那振興が、中央儲備銀行に總額一千萬元の當座貸越勘定の設定に成功したのは特筆すべき價値があつた。

米英の資産凍結は上海にかなりの打撃を與へた。これにより上海の第三國物資の輸入は従前の三分の一に細つた。しかもそれら第三國輸入のすべては、あけて爲替平衡資金委員會の手中に委ねられた。即ち同委員會によつて指定されたA類とB類に屬する五十余の物資が、一ヶ月六百萬米ドル前後の爲替割當を奪ひ合ふことになつたのである。米、ガソリン、棉花、小麦、小麦粉、砂糖等の物資は無くならず、物價は騰貴した。反對に生糸、卵、豚毛等

輸出品は崩落を來たし、貿易商は開店休業の態たらくとなつた。

かゝる際において、工部局の活動は見逃し得ないものがあつた。事務總長フイリツプが米の割當獲得のため、香港まで出張して委員會を口説いたり、投機を防止し、物價の騰貴を抑へて、最高公定價格を設定する等その活躍は認められてよい。

なほ工部局調査による本年度の公共市場小賣物價指數を示せば次の如くである。即ち昭和十一年の各月平均を一〇〇として、本年一月の平均指數は五九五であつたのが、十二月には一、三八五に上昇してゐる。さらに本年一ヶ年の平均指數は九二八で、前年度四五二の二倍強に達した。

また邦人側の小賣物價指數は同じく昭和十一年を基準として、本年一月は三〇〇であつたのが、十二月には三二七になつてゐる。さらに前年度の平均指數二七一に對しては、本年度は三一七で二割弱の上昇を示した。(詳細は當所經濟月報参照)

一方わが方の經濟活動をみるに、經濟統制は愈々前進強化の一端を邁つた。ことに本年度經濟統制の骨子ともいふべきものは、現地自給自足を目標とせる、輸入配給部門の調整と、企業統制による産業の再編成であつたらう。まづ輸入配給部門では、現地經濟統制のトップを切つて、前年中すでに一應の統制組織と形態を與へられてゐたのであるが、本年に入つては益々その機構の整備が押し進められ、當局の指導監督下に各組織の運営も漸く軌道に乗つて來た。

即ち輸入配給のみならず、生産部門をも包括運営してゐる重要物資關係組合では、本年當初において一層擴充強化され、五月現

在では五十余の組合がこの傘下に屬することになつた。

軍配組合では本組合の最重要任務たる、軍票の價値維持は殆んどその基礎の確立をみたので、本年度は主として現地物資の配給調整の方面に重點を置いた。

因みに本年度軍票の對法幣相場場の足取は、十月末の二十二圓丁賣を高値として、安値は一月初の五十九圓二分の一賣。なほ十二月十六日より二十五圓丁賣に公定せられた。(詳細は月報参照)

輸配聯合會では前年度は創立早々のことゝて、輸入部門の活動に止まつてゐたが、今年に入つては配給部門に力を注ぎ、輸入機構と配給機構の二段制に編成替へされつゝある。そのトップとして食料品組合と纖維品關係組合にこれが實現をみた。ことに食料品組合はその配給機關として、上海食料品商業組合を結成せしむる等、機宜を得たる統制措置によつて、物價調整に多大の貢獻を致した。なほ十二月末公定價格の先驅として、當局より日本内地輸入食料品公定價格が發表せられた。

對日輸出の部門では、輸入部門にみる如き、全般的な統制組合は未だ結成されるに至らないが、懸案だつた輸出代行商社制は技術的に、また能率的に難點があるとの理由で取止めとなり、新たに雜穀、肥料、卵等の主要物資につき、日本における輸入配給統制會社の中支駐在機關を輸出機構として、これに當らせることになつた。さらに現地における收買機構としては、従前通り現地商社を當て、輸出機關との密接なる連絡の下に、對日輸出に協力せしむることとなつた。なほ日滿支の物資交流に關し、十月東京において日滿支貿易連絡會議が開催せられたが、その具體的方策と

しては今後に俟つところが多い。

次に企業統制による産業再編成の概況を一瞥すれば、その最も顯著な例としては、九月現地煙草業者を整理統合する中華煙草會社の設立決定と、十一月中支航運業者を一括して斷行された中支航運統制組合の設立、および十二月内定をみた上海オール鐵工業者の解體統合等が擧げられるであらう。

産業再編成の方針につき、當局よりの示達は次の如きものであつた。

- 一、物動計畫の高度化により、資金資材の利用は重點企業に集中され、中支の對日資金資材手當は愈々窮屈化し、加ふるに船價難からその輸入は困難となりつゝある。
 - 二、よつて現地における資材配給は輸入品、現地品を問はず、重點企業に對し優先的に行はれる。
 - 三、一方現地企業は目下濫立状態にあつて、業者の無益な競争摩擦は、品質および生産量を著しく低下せしめてゐる。これは現地生産力の水準維持は勿論、戰爭幅員縮減を企圖する國家方針に反する。
 - 四、以上の結果、資材配給、消費の適正化を期すると共に、生産力の擴充乃至現地企業の恒久的發展策として、企業の整理、統合による再編成を可及的速かに實現することが必要である。これは同時に自給自足を建前としなければならぬ。
- 以上の方針による實施策として示されたものは
- 一、現企業を(イ)鑛山業(ロ)公共事業(ハ)船舶業(ニ)紡績その他工業の四部門に大別し、生産統制組合員は從來の如き區々の生

産を規正し、以上の範疇に當てはめるやう事業の再編成を行ふ。
二、統合の目標は製作品目の單一化、技術の専門化を計ることを原則とし、同業は有力企業に統合乃至合併する。
三、統合に際し日本より新たななる物的資本の参加は原則として認めない。

右は鐵工關係を基準として示されたものであるが、他の生産事業も大體これに準じて行はれることになつた。

なほまた民間企業の統合再編成のみならず、官廳側においても十一月在支行政機構の統合整備が行はれた。從來支那には大使館領事館のほか、陸海軍關係は別とするも、内務、大藏、商工、司法、農林、鐵道、通信、厚生各省および朝鮮、台灣兩總督府から駐在員その他の職員が派遣されてゐた。然るにかゝる各出先機關は夫々の間に少からず事務の重複が認められ、命令系統の分離による國策遂行上の不便も尠からぬものがあつたので、その合理化を圖るため、軍關係を除きすべて外務省および興亞院へ統合せられることとなつたのである。すでに興亞院關係のものは十一月一日を期して實施せらるゝに至つた。

大東亞戰爭勃發によつて軍の租界進駐後、種々の適切なる非常手段が採られたことはいふまでもないが、その主なるものは、物資散逸の防止と敵産管理のための應急措置、次いで物資統制およびそれに伴ふ投機市場の崩壊等があげられる。特に自由都市上海の惡の華、投機市場の潰滅こそは注目されるところであつて、これにより不當に價格を吊上げ、若くは物資の偏在に商品市場を

混亂せしむる等、惡の諸現象は一舉に解消し、かくて一般大衆は計畫的配給制度下に、生活安定の一つのメドを得ることとなつた。

支那對外貿易

(全支)十一月迄
上海十一月迄

一、全支對外貿易

衆知の如く支那海關貿易統計表に於ては、輸入は海關金單位で表し輸出は元で表示されてゐる。右の如く異なる單位の價格で貿易額が表示されてゐる爲に輸出入の比較、貿易尻の計算其他の點で非常に不便である。もつとも海關統計表には金單位と元との換算率が掲げられてゐるけれども、これは法幣對英相場を十四片半に釘付しての換算率であつて、對英實際相場が三片半(十一月)に下落してしまつてはこの換算率は全く用をなさない。本稿に於ては輸入は海關金單位で輸出は元で表示し、特に輸入・輸出を同列に比較する必要がある時には對英實際相場を通じての法幣市中相場に換算して論ずることにする。

尙大東亞戰爭の勃發に伴つて海關貿易統計は公表を停止した。即ち全支貿易統計月報は十月、上海貿易統計月報は十一月限り發表されなくなつた。本稿に於て一九四一年とあるは全支貿易に於ては十月上海貿易に於ては十一月迄の額であることをこゝに斷つて置く。

さて支那事發勃發以後に於ける支那對外貿易の推移を辿つて見よう。

支那對外貿易額比額表

金單位表示	輸入		輸出	
	指數	法幣市中相場表示	指數	萬元
一九三六年	100	100	100	100
一九三七年	101	101	101	101
一九三八年	101	101	101	101
一九三九年	101	101	101	101
一九四〇年	101	101	101	101
一九四一年	101	101	101	101

右の統計に依つて明らかなる如く金額の上には於ては支那對外貿易は激増の傾向にあり、しかも輸入の側に於て著しく一九四一年に於ては輸入は輸出額の四倍近くに達するに至つた。輸入に比し輸出の増加の緩慢さは法幣購買力の低下を考慮に入れたならばそれは明らかに輸出數量の激減を示すものである。

而してこれを地域別にみると輸入の著しい増大は北支に於て、あつて中支は金單位表示ではむしろ減退を示してゐる。輸出は輸入と全く逆で中支の戦前に對する約五倍近くの増加に對し北支は僅か一・八倍弱に過ぎない。

このやうな北支輸入の著しい増大は何に原因するものであらうか、一つの重大な要素として我々は北支經濟の中南支に對する從

屬性をあげることが出来る。事變前北支貿易に於て移出入貿易は中南支等に於けるその地位よりも極めて重大な意義を有してゐた。北支の對内貿易は對外貿易と相匹敵する、否寧ろ對内貿易がより大なる地位を占めてゐたのである。そしてこれらの移入は米、小麦、高粱、胡麻、豆、小麦粉、茶、紙、砂糖、綿糸、棉花、綿織物、金屬類、礦産物、石油、煙草、染料、顔料、化學藥品等が多く、一方移出は棉花、石炭、落花生、同石油、雜穀、鹽等が主である。即ち移入は工業生産品、食料品等であり、移出は工業原料品、農産品等であつて、北支は中南支に對し原料供給地であり同時に商品消費市場

支那輸出入貿易地域別比較表

Table showing trade statistics for various regions (天津, 青島, 上海, etc.) from 1936 to 1941. Columns include region names, years, and values in million units.

次に一九四一年中の貿易を各港別に見れば輸入は上海の二五七百萬金單位(三三%)を筆頭に天津二三二百萬金單位(一九%)、雷州一二〇百萬金單位(一五%)、青島七〇百萬金單位(九%)等が主なるものである。貿易額は別として其の相対的な比率の上には一九四一年中に於ける北支諸港は前年度に比し輸入は減少し、南支殊に雷州は著しく増加した。

一方輸出は上海の一、八三三百萬金單位(七一%)を第一に蒙自一八八百萬金單位(七%)、天津一六二百萬金單位(六%)、青島九八百萬金單位(四%)、雷州九〇百萬金單位(四%)と云つた順位である。曾つての輸出港としての北支諸港の地位は著しく減少して、逆に南支特に蒙自・雷州の兩港は増加を來した。次に全支貿易を相手國別に見ると一九四一年は、輸入は日本の一六、一三六萬金單位(二〇%)を筆頭に米國の一五、七三五萬金單位(二〇%)、香港一二、五一一萬金單位(一六%)、英印五、九

であつた。しかるに中南支に對するこのような聯繫は種々の制限によつて一應たゞれた。勿論パーター制による交流はあるにもせよ——と考へられる。事變前程の比重を持たなくなつたことは明らかで、それは今や一個の對外貿易同様な地位に置かれ、しかも貿易數量は著しく減少し、かつての入超に對し逆に北支は中支に對し受取勘定にさへもなつてゐる。曾て移入によつて覆はれてゐた貿易はこれを輸入に轉嫁せられた。そしてそれは香港・米國・關東州よりの龐大な輸入増加となつて現れたのである。

Table showing trade statistics for various regions (青島, 上海, 其他中支諸港, etc.) from 1936 to 1941. Columns include region names, years, and values in million units.

九一萬金單位(七%)、佛印五、三九六萬金單位(七%)、蘭印四、七四七萬金單位(六%)等がその主なるものである。一九四〇年に比較して最も著しい増加を示したものは香港よりの輸入である。前年の三、六三五萬金單位に比し約三倍半近くの激増であつて、そして輸入品の最も多くを占めるものは綿布で香港よりの全輸入額の六〇%七、五一五萬金單位の巨額に達し、實に全支輸入綿布の九〇%を占むるに至つた。このやうな龐大な額に對する香港よりの綿布輸入は決して上海向けではない。北支に關しては適確な統計がないが、我々の推論に従へばそれは南支殊に本年度中に急激な輸入増加を來した雷州向けであつたと思はれる。「金融商業報」はこのことに關して次のごとく述べてゐる。「香港からの輸入額の消長と雷州に於ける輸入額の消長は符節を合してゐる點が注目される。即ち左の通り

一九四一年	香港よりの全支輸入額	雷州に於ける輸入額
千金單位	千金單位	千金單位
八月	九,二二三	九,五八〇
九月	四,五五五	二,八二七
十月	一五,〇八三	二九,三六六
十一月	一一,一一二	一一九,七五六
十二月	一一,一一二	一一九,七五六
計	一一,一一二	一一九,七五六

次に全支の輸出の側でも十月の特徴は香港向けの増大である。今や全支の香港への輸出増大を考へる時、その一部が米國向けであることは疑なしとしても、一部は雷州向けであつた事も想像されるのである。

以上の二表により(表略)我々は全支の對香港貿易は紡織纖維類と、化學藥品、紙、雜貨が輸出の兩面に於て増加してゐる事を知るのであるが、これを前述の香港經由の貿易ルートと併せ考察するならば、上海及び廣東より輸出増加せるこれらの品目の一部は必ずや雷州向けであらうと推察せざるを得ないのである。全支に於ける香港からの輸入額が、全支と言はんより寧ろ雷州一港と言ひたい程、雷州の外國からの輸入額と過去三ヶ月酷似してゐる事は看過し得ない問題である。

全支對香港輸入貿易増減比較表 (單位千海關金單位)

商品類別	一九四一年	一九四〇年	増減額
生綿布	二,五三三	一,五七〇	+ 九六三
漂白及染色綿布	六,一四三	三,〇七九	+ 三,〇六四
擦染綿布	五,五八五	六,九〇九	- 一,三二四
其他綿布	九,一七〇	一,七五五	+ 七,四一五

全支對日輸入増減比較表 (單位千海關金單位)

商品類別	一九四一年	一九四〇年	増減額
棉花綿糸及縫糸	10,119	10,311	- 192
綿製雜貨	3,579	1,315	+ 2,264
雜貨	3,574	1,915	+ 1,659
化學藥品及製藥	3,331	1,815	+ 1,516
砂糖	3,310	6,831	- 3,521
麻類及同製品	3,250	3,047	+ 203
紙書籍地圖及パルプ	2,955	3,047	- 92
皮革及其他動物質製品	2,915	2,611	+ 304
其他	2,446	7,777	- 5,331
計	3,313	5,333	+ 2,020

次に對日輸入について見よう。一九四一年中に於ける全支對日輸入額は一六、一三六萬金單位で前年度に比し二、七五四萬金單位一四・五%方の減少であつた。これら對日輸入の殆んど大部分(一九四〇年に於ては約八〇%)が北支に於ける輸入である。このやうな對日輸入の約三分の一は生産資材の輸入であり、次の三分の一は飲食料品、約十分の一は衣料品といつたやうな構成であつて、生産資材・飲食料品の九〇%は北支向けのものである。これを商品別に見ると對日輸入の第一位を占めるものは穀物及穀粉の一、九七九萬金單位でその殆んど全て小麦粉及米である。次いで紙・書籍・パルプ類の一、三八〇萬金單位、生糸及人絹の一、一六三萬金單位、砂糖の一、〇九一萬金單位、雜貨一、〇七六萬金單位、化學藥品及製藥劑一、〇三〇萬金單位、機械及工具九五二萬金單位等が主なる輸入品である。生糸及人絹は同品總輸入額の九四%に當り、化學藥品及製藥劑は三四%強に當る。

をばぢめ、木材三六%減、魚介及其他海産物の四五%減等がその主なるものである。然し一九四一年度は前年度に比し二ヶ月少ない、即ち十月迄の貿易額によつてゐるものであることを考慮に入れたならば、前年度に比し殆んど同額の貿易額に達するのではないかと思はれる。

全支對日輸入増減比較表 (單位千海關金單位)

類別	一九四一年	一九四〇年	増減額
機械及工具	九,五七三	一四,四六六	- 四,八九三
木	八,三三四	三,三九七	+ 四,九三七
魚介及海産物	四,九一八	八,六〇〇	- 三,六八二
其他金屬製品	四,八六四	七,九三三	- 三,〇六九
雜貨	三,〇七二	一四,〇三三	- 一〇,九六一
木・竹・棕櫚・麥稈・同製品	三,一五五	五,五三三	- 二,三七八
畜産・罐詰其他食料品	六,九六九	九,六二二	- 二,六五三
其他	二,三三三	二,五九六	- 二六三
計	二,三三三	一八,二八〇	+ 一五,九四七

一九四一年度の對米輸入額は一五、七三五萬金單位で日本に次いで第二位にある。戦前の八、二〇〇萬金單位に比すれば約二倍近くの増加であるが、前年の一九四〇年に比較し三五三萬金單位二・二%方の減少である。

米國よりの輸入の大宗をなすものは穀物及穀粉で對米總輸入額の二六%を占めてゐる。そしてそれは同國よりの小麦粉輸入で三、六三六萬金單位の多額にのぼる。次いで第二位を占めるものは前年度首位にあつた棉花綿糸及縫糸(その殆んど全て棉花)の二、〇六八萬金單位である。右の二品目を除いた米國よりの輸入の六

一%は生産資材の輸入によつて覆はれてゐる。

全支對米輸入増減比較表 (單位萬海關金單位)

類別	一九四一年	一九四〇年	増減額
金屬及鑽石	七三七	七三七	0
機械及工具	六三〇	六三〇	0
車輛及船艇	一,四四八	一,四四八	0
其他金屬製品	四一〇	四一〇	0
石炭・燃料・ビツチ及タール	一一二	一一二	0
化學藥品及製藥劑	五七三	五七三	0
染料・顔料・ペイント・ワニス	三二七	三二七	0
油脂・蠟燭・石鹼・ガム・樹脂	一,七四三	一,七四三	0
木	二〇一	二〇一	0

然してこれはこのやうな生産資材總輸入額の三割に當り、一九四一年中に於けるこの地域別は判然しないが、一九四〇年に於ては北支が三二%、上海四四%、南支二四%を占めてゐる。

前年に比較して増減を示せば金屬及鑽石類(主としてアルミニウム及鐵鋼の減少)の二、一九五萬金單位(七五%減)をばぢめとして棉花綿糸及縫糸類(殆んど棉花)の一、四一〇萬金單位(四一%)減、煙草六九九萬金單位(五一%)減、紙・書籍・地圖及パルプ類の六七四萬金單位(九一%)減、木材二四九萬金單位(五五%)減等がその主なるものである。

一方増加を示せる商品には小麦粉の激増による穀物及穀粉類の二、一三七萬金單位(一〇七%)増加を筆頭に、車輛及船艇六六〇萬金單位(八四%)、雜貨三九五萬金單位(六九%)、機械及工具二七九萬金單位(七九%)等の増加がある。

全支對米輸入増減比較表 (單位萬海關金單位)

類別	一九四一年	一九四〇年	増減額
金屬及鑽石	七三七	七三七	0
棉花・綿糸・縫糸	二,〇六八	二,〇六八	0
煙草	六六六	六六六	0

紙、書籍、地圖、パルプ	101	101	101
木	101	101	101
羊毛及毛製品	101	101	101
穀物及製粉	101	101	101
車輛・船艇	101	101	101
雜貨	101	101	101
機械及工具	101	101	101
其他金屬製品	101	101	101
其他	101	101	101
計	101	101	101

次に英印・佛印・蘭印・ビルマ・泰國・マレー・比律賓等からの輸入貿易について一言しよう。

右の諸國の内でも多額を占める國は英領印度で一九四一年中に於ては五、九九一萬金單位を輸入し總輸入額の七・四%を占め第四位にある。續いて佛領印度支那は五、三九六萬金單位(六・七%)で第五位に、蘭領東印度は四、七四七萬金單位(五・九%)で第六位にある。第八位及び第九位をビルマ及泰國が占めてゐる。ビルマよりの輸入は前年に比較すれば約十倍近くの激増であつて佛印進駐後にあつて残された唯一つの援蔣ルートとしての若干の貢獻の跡がうかがはれる。輸入額はビルマ三、七五六萬金單位(四・七%)、泰國二、〇六九萬金單位(二・六%)である。海峽植民地及比律賓は輸入額も非常に少く僅か前者は六一八萬金單位、後者は三四八萬金單位に過ぎない。

これらの地方から輸入するものも重要な商品は米であつて、事變以來これら南方諸國の支那輸入貿易中における地位の上昇は

實にこの米の輸入激増にかゝるものである。米穀總輸入額一〇、二〇七萬金單位中佛印は四、三八四萬金單位、ビルマ三、〇五七萬金單位、泰國一、六五九萬金單位を占めてゐる。ビルマよりの増加は特に激しく前年の十二倍に達する額で、前にふれたビルマの總輸入額中に於ける増加も實にこの米に要因を發してゐる。次に次いで第二位を占める商品に棉花がある。即ち英印からの棉花輸入は四、二五五萬金單位に達し、棉花總輸入額中の約五十%に當る。その大部分が蘭印からであるが油脂・蠟燭・石鹼・ゴム及樹脂類(蘭印からの輸入は大部分がガソリン・石油等の油類)等も重要な輸入品である。次に一九四一年中に於けるこれら諸國よりの重要商品輸入額を掲げる。(單位萬金單位)

棉花・綿糸・縫糸	5,384	5,384	5,384
麻類及麻製品	1,659	1,659	1,659
穀物及製粉	5,396	5,396	5,396
糖	5,396	5,396	5,396
漢藥劑及香料	2,069	2,069	2,069
化學藥品及製藥	2,069	2,069	2,069
油脂・蠟・石鹼	7,477	7,477	7,477
ゴム・樹脂	3,756	3,756	3,756
木	3,756	3,756	3,756
石炭・燃料・ピ	3,756	3,756	3,756
ツチ・タール	3,756	3,756	3,756
雜貨	3,756	3,756	3,756
計	3,756	3,756	3,756

一九四一年中における全支輸出貿易を相手別に見れば前年の米國に代つて香港が六一、九四四萬元、總輸出額中の二四%を占

めて第一位にある。次いで第二位は米國の五六、六一八萬元(二一・九%)、第三位は日本の二九、八八五萬元(一一・六%)であつた。上記三國への輸出によつて輸出總額中の約六割を占められてゐる。其他にも關東州(二〇、三七六萬元、七・九%)、蘭印(一四、五八〇萬元、五・六%)、英印(一〇、四〇八萬元、四・〇%)等は支那輸出貿易中において主要な地位を占めてゐる。

對香港輸出額表 (單位萬元)

一九三六年	10,408	19,399	3,310
一九三七年	11,290	19,400	6,110
一九三八年	11,310	19,411	6,100

然して激増の原因をなすものは、タンクスステン鍍及錫の銜違ひの増加による礦石・金屬及其製品類の約五倍にも達する激増及綿糸・綿布・桐油等の各二倍近くの増加等である。勿論香港がそれらの最終輸出地ではない。タンクスステン・錫は米・英援蔣借款の重要な引當品で桐油と共にその大部分が米國及英國向けのものであらう。綿糸及綿布の増加した支那よりの輸出の大部分を輸入した香港は、前にも一寸ふれたやうにその一部は米國向けであつたとしても、他の或る大きな部分は再び支那に向つて——南支特に雷州——輸出され、輸入の側における綿糸・綿布の香港よりの輸入増加となつて現されてゐると考へられる。

一九四一年中における對香港輸出商品中第一位は礦石・金屬及其製品類で一七、六二八萬元の多額に達し總輸出額の二八%を占むるに至つた。前年第一位にあつた茶は六、〇八八萬元から一、〇二三萬元へと激減を示した。

對香港輸出商品増減表 (單位萬元)

類別	一九四一年	一九四〇年	増減額
礦石・金屬及其製品	17,628	3,310	+14,318
織物	8,350	4,780	+3,570
織糸・縫糸・編織品・リヤス	6,730	3,800	+2,930
油脂及蠟	6,880	3,400	+3,480
漢藥劑及香料	3,550	2,100	+1,450
化學藥品・化學合成品	2,100	1,100	+1,000
雜貨	1,850	1,100	+750
茶	1,020	6,088	-5,068
動物及其製品	1,270	8,420	-7,150
其他	2,270	4,820	-2,550
計	6,260	61,944	+55,684

一九四一年度中に於ける對米輸出額は五六、六一八萬元で前年度の五六、五六七萬元に比し極く僅かながら増加してゐる。これを月別に見れば (單位萬元)

一月	5,085	六月	7,100
----	-------	----	-------

七月二十六日の資産凍結の影響を受けて對米輸出は減少を示し、日米關係を見越した輸入激増の反映として對米輸出も亦六、七月における如く増加を示してゐる。そしてこのやうな増加、減少が生糸・豚毛・鴨毛・豚腸・乾蛋等を中心に行はれたものであることは左に示す統計によつて明らかである。(單位萬元)

Table with columns for months (二月 to 九月) and categories (動物及其產品, 豚毛, 鴨毛, etc.).

次に對米輸出構成を商品別に見れば、一見してそれは動物產品及製品と紡織纖維及紡織品によつて占められてゐることがわかる。即ち一九四一年度においては總額の八二%余はこれらの商品で占められてゐる。中でも最も重要な商品は紡織纖維類で總額の三二%を占めて對米輸出商品中の第一位にある。そしてそれが殆んど總てと言つていゝくらゐ生糸輸出であることは前掲の表によ

つて既に明らかだ。次いで動物及其產品類(それが豚毛・豚腸・禽毛・卵等)で主として構成されてゐることは既に述べた)が第二位にある。皮革類・織糸・縫糸・編織品類も大切な對米輸出である。これら重要商品の輸出額を左に掲げる。

Table with columns for years (一九四一年, 一九四〇年) and categories (動物及其產品, 其他紡織產品, 鮮果及加工果實, etc.).

對日輸出商品の第一位を占めるものは燃料——石炭——であつて一九四一年度においては日本向け總輸出額の二一%六、三四三萬元を占めた。その九七%は北支からの輸出である。主として棉

花によつて構成されてゐる紡織纖維類は前年の約二倍に増加し四、七九七萬元で第二位を占めてゐるがその八九%迄は上海からの輸出である。第三位の穀類及其製品類も總額三、八八五萬元の中八八%を上海から輸出してゐる。左に對日重要輸出額中における上海の占める割合を示す。(單位萬元)

Table with columns for categories (燃料, 紡織纖維, 穀類及其製品, etc.) and years (一九四一年, 一九四〇年), including a '増減額' column.

商品別にこれら貿易の推移を見よう。全支輸入商品別比較表 (單位萬元單位)

Table with columns for years (一九三九年, 一九四〇年, 一九四一年) and categories (織物, 其他設備品, 化學藥品及化學合成品, etc.).

漢藥劑及香料	570	433	535
砂	215	215	215
酒・麥酒及其他飲料	218	297	358
煙草	108	110	101
化學藥品及製藥劑	308	312	397
染料・顏料・ペイント・ワニス	181	183	191
油脂・蠟燭・石鹼・ガム・レジン	443	553	557
紙・書籍・地圖及パルプ	245	288	327
皮革及其他動物製製品	295	505	33
木材	155	101	110
木・竹・藤・棕櫚・麥稈及其製品	45	76	50
石灰・燃料・ピッチ及タール	105	188	108
陶磁器・磁器及硝子類	33	29	44
石材・土砂及其製品	33	29	33
雜貨	285	332	339
計	538	588	633

先づ輸入の第一位を占むる商品は、北支並に中支に於て歴大な輸入を必要とした米及小麦粉を含む穀物及穀粉類であつて一九四一年度には總輸入額の二五・八%を占めてゐる。然して穀物及穀粉類中の約五〇%（一〇、二〇七萬GU）を占むる米の約半數は上海における輸入であり、残りの大部分は北支における輸入であつて、南支は極く僅かに過ぎない。

一九三六年	北支	中支	南支
(萬GU)	33	5	108
一九三七年	1	33	178
	1%	33%	67%

おける輸入である。穀物及穀粉類について棉花・綿糸・縫糸類が一、九七〇萬金單位、總額の二五%を占めて第二位にある。棉花及綿糸が主要なる構成商品であつて、前者はグループ總額の七四%八、八六七萬金單位に達し前年度に比し金額の上では若干増加となつてゐるが、數量においては二七%方の減少である。英印の四、二五五萬金單位、米國二、〇六六萬金單位、ブラジル二、〇二〇萬金單位等がその主要な相手國である。

全支棉花輸入數量表 (單位萬担)

一九三九年	一九四〇年	一九四一年
英領印度	113	108
米國	26	81
ブラジル	20	27
ビルマ	4	7
エチオピア	8	11
其他	3	6
計	171	160

綿糸の本年における輸入は前年の約二倍近くに増加し、このグループ總額の二五%を占むるに至つた。輸入總額三、〇〇六萬金單位の中、六割五分（一、九五一萬金單位）を香港が占めてゐる。漂白及染色綿布類は前年の約四倍近くの激増を示して第三位につけてゐる。このやうな激増が實に香港よりの輸入によるものであり、しかも先に對香港輸入の項でふれた如く、支那より輸出増加した香港向け綿布の再輸入であると考へられることを我々は知つてゐる。

一九三八年	75%	55%	15%	5%
一九三九年	138	86%	9%	5%
一九四〇年	351	33%	5%	10%
一九四一年	1	50%	50%	1

然しながら戦前の支那に於てはそれは全く逆であつたのである。即ち主要なる米産地である長江流域の諸平野において生産された米は北支並に南支に同じやうな比率で移出されてゐた。北支にあつては移入と地場生産米とで需要を満たし、外米輸入はごく僅かに過ぎなかつた。南支は中支よりの移入米に更に相當量の外米を（全支における外米輸入の殆んど全て）輸入してゐたのである。が戦争の直接・間接の影響を受けて支那の穀倉であつた中支米の民食用としての出廻り量は極端に減少すると同時に、米の供給地であつた中支においてさへも巨額の米穀輸入をよぎなくされたのである。勿論中支よりの移入に全く便つてゐた北支においても、外米輸入によるほかに右に示せる如き歴大な輸入の激増となつたのである。ひとり南支のみは輸入の減少を示してゐるが、おそらくそれは長江中上流地域の奥地流入とビルマからの海關統計にのらない輸入によつてであると考へられる。

このやうな巨額に上る米の主要なる供給地は佛印・ビルマ・泰であつて、一九四一年度においては佛印四三%、ビルマ三〇%、泰一六%を占めてゐる。次に米について穀物及穀粉中の三八%（七、七二三萬金單位）を占める小麦粉の相手國は米國及澳洲であつて、米國は三、六三六萬金單位、澳洲は二、六九九萬金單位を占めてゐる。その大部分は北支（一九四〇年においては八八%）に

前年度に比し増減の著しい商品を左に掲げる。(單位萬金單位)

類別	増・減額	類別	増・減額
穀物及穀粉	六、三三九	金屬礦石	二、八七六
漂白・染色綿布	四、七〇七	機械・工具	八三五
棕染綿布	五五五	麻類及同製品	一、〇七八
生綿布	二九九	羊毛及毛製品	五八八
其他綿布	七四一	生糸及同製品	三一八
綿製雜貨	二一六	石灰・燃料類	八八五
砂糖	三七〇	木材	六九一
紙・書籍・パルプ	四七九	果實種子・蔬菜	五四四
車輛及船艇	二七八	煙草	七四八
計	五、〇四七		

次に全支輸出貿易中に於て第一位を占める紡織纖維類は三三、四二七萬元總輸出額中の一三%を占めてゐる。生糸及棉花のそれらの主要な商品であつて、生糸はその約八割は米國向け輸出であり、棉花はその五五%は日本向け、四〇%は關東州向けである。然してこの棉花輸出の九八%は上海からのものである。礦石・金屬及其製品類は三二、五四萬元、總額の二三%を占めて第二位にある。主たる仕向國は香港及佛印・關東州・英印等であつて、特に香港は前年度の五倍半もの激増を示し總額の五四%を占むるに至つた。

主要輸出國統計表 (單位萬元)

一九四一年	一九四〇年	一九三九年
香港	1767	337

香港への輸出の大部分はタンクステン鋼及び錫錠。塊であつて、前者は全支總額的全額、即ち八、三三四萬元全部が香港向けであり、前年度に比し約十二倍にも達する激増である。後者に於ても一九四一年度は六、七二二萬元で前年度の約十倍に及ぶ増加であつた。日本への輸出の大部分は鐵鋼及鋼鐵製品であつて、次表に示せる如くいづれも前年度に比し相當な輸出増加であつる。

Table with columns for categories (e.g., 鐵鋼, 銅鐵及鋼鐵製品, 動物及其製品) and years (1936-1941). Values are in 10,000 Yuan.

第三位の動物及其製品類は前年度に比し二割方の減を示して總額二五、六三三萬元で、その五四%は米國向け輸出である。

全支輸出商品類別比較表 (單位萬元)

植物性染料 鮮果及加工果實 漢藥劑及香料 油脂及臘 種子 酒類 砂糖 茶 煙草 其他植物製品 竹 藤 木料 木及其製品 紙 紡織纖維 絲綢・絲・編織品及メリヤス製品 織物 其他紡織製品 礦石・金屬及其製品 硝子及其製品 石・土砂及其製品 化學藥品及化學合成品 印刷物 雜貨

Table with columns for categories and years (1936-1941). Values are in 10,000 Yuan.

計 更に貿易構成を商品の生産過程に従つて集約し支那貿易の性格を特徴づけると、 支那輸出入商品分類表 (百分比比較)

Table with columns for categories (e.g., 飲食料品, 原料及半製品, 全製品, 雜貨) and years (1936-1941). Values are percentages.

右の表によつて明らかなる如く支那貿易の特徴が全製品類の輸入に對し原料及半製品類の輸出であると言ふことに於ては變りないが、事變後の一特徴として飲食料品の著しい増加をこゝでも挙げることが出来る。そしてその要因をなすものが米穀輸入の激増によるものであることは既に述べた。そしてこれと相對的に輸出の飲食料品の項は%において減少を示してゐる。 又其他の項目に於ても全製品の輸入減に對して輸出は約二倍以

上に増加した。この輸入の減少は決して支那の工業の發展を示すものではなく、寧ろ反對に衰退を示すものである。即ちそれは全製品中における生産建設材と目される機器及工具・車輛船艇・金屬製品類の輸入減退に對し綿製品・特に綿布の輸入激増と云ふ形で現されてゐる。

Table with columns for categories (e.g., 機器及工具, 車輛船艇, 金屬製品, 綿布) and years (1936-1941). Values are in 10,000 Yuan.

木、竹、藤製品	六二	三〇	三六	一五五	一八
其他製造品	七五	九五	八三	二七九	二〇〇
計	一三七	一二〇	一二九	四三四	一八〇

二、上海對外貿易

一應支那から隔離せられたが如きその特異な自由性と、豊饒な中支那と、近代資本主義産業の支那における殆んど大部分を擁した上海は、貿易の面においても全支輸出輸入額のそれ／＼約五割以上を占めて、支那におけるそのユニークな地位を示してゐたが、支那事變の勃發によつて上海のよつてゐた背後地は狭小化せられ分散化せられて、著しい變質を來した。我々は次に海關統計によつて若干の分析を試みよう。

尙大東亞戰爭の勃發によつて海關發表の「上海貿易統計」は十一月限り公表を停止した。従つて本稿における一九四一年貿易額とあるは十一月までの累計である。

戦前において上海輸出入額の全支のそれに対する比率は輸出入の割合の側においても約五割程度であつた。即ち一九三六年は輸出は五一％、輸入は五九％を占めてゐたが、輸出は其後中支農村の治安回復に伴つて、一九三八年を境として漸次その地位を回復し一九四一年には總額の七一％と云ふ巨大な比率を占むるに至つた。

一方輸出は漸減して一九四一年には三二％を占むるに過ぎない上海貿易の全支貿易額中に於いて占むる比率

さてこのやうな傾向にあつた上海貿易を金額の上にて見れば次表に示す如く、輸出の激増と言ふ姿をとつてゐる。勿論これは物價の戦前に對する十倍以上の騰貴を考慮に入れたならば、絶對數量の上では寧ろ減少を示してゐると考へられるけれども、その増加の割合が全支の場合におけるそれよりも、遙かに大きく支那の輸出貿易中重要な地位を占めてゐた北支諸港の著しい減少によつて、全く支那輸出貿易は上海一港に依存すると言つても敢て過言でない。

上海對外貿易額表

年	輸入		輸出	
	金額(萬G.U.)	指數	金額(萬G.U.)	指數
一九三六年	三三三	100	三三三	100
一九三七年	三三三	100	三三三	100
一九三八年	三三三	100	三三三	100
一九三九年	三三三	100	三三三	100
一九四〇年	三三三	100	三三三	100
一九四一年	三三三	100	三三三	100

一九四一年上海輸入商品中第一位を占める商品は全支の場合と同じやうに穀物及穀粉類で前年度に比し約二倍半近くの増加を示

し、總輸入額中の二五％六、九〇三萬金單位を占むるに至つた。第二位は前年度第一位にあつた棉花綿糸及縫糸類の五、七九四萬金單位であつた。穀物及穀粉類を構成するものは主として米及小麦粉であつて、米は前年度に比し約二・六倍(數量の上では一・六倍)もの増加を示して總額五、二九九萬金單位の巨額に達した。その主要な仕出國はビルマ・佛印・泰・蘭印等の東亞米産國からであるが、特にビルマからの輸入は著しい激増振りで前年度の二十倍にも達した。

上海米穀輸入主要國

國	一九四一年		一九四〇年	
	金額(萬G.U.)	數量(萬担)	金額(萬G.U.)	數量(萬担)
ビルマ	二、二九二	二、五六八	一一八	二、二二三
佛印	二、〇三一	二、六六四	一、三九一	二、六九二
泰	七四九	八三〇	五二八	九八八
蘭	二〇七	二〇六	—	—

小麦粉も亦前年度に比し五倍以上の増加を示して七九七萬金單位の輸入を見た。米國カナダ・濠洲がその主なる相手國である。

上海小麦粉輸入主要國

國	一九四一年		一九四〇年	
	金額(萬G.U.)	數量(萬担)	金額(萬G.U.)	數量(萬担)
米	三九六	四一三	五六	八二
カナダ	二八一	三〇七	二三	二九
濠洲	一一一	一六三	七五	一一三

戦前における中支六省の米穀生産高は約一九、八五八萬市石で全支生産高の大體半分以上を占め、中支を通視する時は約五十萬

市石程度の過剩米を生じてゐたのである。然しながら中支那は北支・南支に對する食米移出といふ重責を負ふ地位にあつて、年々約二百四十萬市石程度の外米を輸入して、北・南支に對する約三百萬市石に達する食米移出を行つてゐたのであるが、日本側の大都市及主要縣城等を結ぶ點と線との占據地帯は必然的に支配下に置ける背後農村を狭小化し、同時に軍其他の需要米も相當數量にのぼつて戦後年を加へるに従つて急激に民食用としての出廻り量は減少を來して前述の如き巨額の米穀輸入を見たのである。

米に次いで小麦粉も民食として重要なものである。戦前における中支六省の小麦生産高は約一三、九六九萬市擔を生産し、殆んど地場飯用として消費され、製粉用として市場へ出廻る量は二千七百萬市擔程度に過ぎなかつたけれども、それでもなほ一、四〇〇萬袋ほどの小麦粉を移出することが可能であつたのであるが、生産地の狭小化と治安の不確立は一層出廻りを減少せしめ、又地場消費量の増加等も影響して三分の一程度に出廻り量が減少し、外國小麦粉に依存する程度は増加の一途を辿つたのである。

米穀及小麦粉の上海移入量(單位萬担)

品	一九三六年		一九三七年		一九三八年		一九三九年		一九四〇年		一九四一年	
	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量
米	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
小麦粉	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九	二八九

第二位を占める棉花綿糸及縫糸類の五、七九四萬金單位は殆んど總てと言つていくらくらゐ棉花輸入によるものである。即ち一九四一年中における棉花輸入は一五、四二五萬担、五、七七九萬金

單位の多額にのぼつたけれども、これを前年度に比較すれば二六%方の減少であつた。それは英領印度エチプト・米國等よりの輸入の減少によるものである。

上海棉花輸入主要國

Table showing cotton import values for 1939, 1940, and 1941 from various countries like Brazil, India, and the UK.

近年石炭も亦重要な上海輸入商品となつた。即ち戦前の一九三六年には總額一二七萬金單位で僅か上海總輸入額の〇・五二%を占むるに過ぎなかつたものが、一九四一年には一、〇二四萬金單位、總額に對して三・七四%を占むるに至つた。

一九四一年中における上海輸出商品の第一位を占むるものは、生糸を主たる構成品とする紡織纖維類で、總額二九、六六九萬元に達し總額の一五%を占めてゐる。そのうち生糸輸出は一七、六

Table of Shanghai important goods import and export changes for 1941, 1940, and 1936.

たものが一九四〇年には六四四萬金單位に増加し、一九四一年には一、五五九萬金單位五・七%を占むるに至つた。一方減少の傾向を辿つてゐる商品は金屬及礫石・機械及工具・車輛及船艇・其他金屬製品・化學藥品及製藥劑・染料顏料ペイント・ワニス等の建設生産財をはじめ羊毛及毛製品及綿布等がある

Table showing the percentage composition of total Shanghai import goods for 1936, 1937, 1938, 1939, and 1940.

二〇萬元で紡織纖維類中の五九%余を占め、その大部分は左に示す如く米・英及英印向けの輸出である。

Table of cotton export values to various countries (USA, UK, India, etc.) for 1941, 1940, and 1939.

に南支向けに再輸出されたであらう事については先に全支貿易の項において説明した。

上海綿糸輸出

輸出先	一九四一年		一九四〇年		一九三九年	
	数量(萬担)	金額(萬元)	数量(萬担)	金額(萬元)	数量(萬担)	金額(萬元)
蘭印	五三六	一、三三六	四八〇	一、一八〇	四三〇	一、〇二〇
香港	三〇八	七、四九八	三〇八	七、四九八	三〇八	七、四九八
佛印	三三	一、一〇〇	三三	一、一〇〇	三三	一、一〇〇
泰	三三	一、一〇〇	三三	一、一〇〇	三三	一、一〇〇
其他	一七	三、三三三	一七	三、三三三	一七	三、三三三
計	一、〇二七	一、三六六	一、〇二七	一、三六六	一、〇二七	一、三六六

次いで第三位は織物類の二四、九三〇萬元で、綿布及綿製品一九、三二二萬元及絹織物四、六三九萬元がその主なるものであり主として比律賓・香港・佛印・蘭印・泰等に向けて輸出されてゐる。

右の三類に第七位にある其他紡織産品を加へた合計は、戦前において二七・五%餘に過ぎなかつたものであるが、一九四一年中においては上海總輸出額の四八・五%約五割を占める額に達した。嘗て上海輸出貿易の背後を形成してゐた、中支農村との關聯の稀薄化は、戦争勃發後における輸出品の構成を著しく變質せしめ、輕工業地としての上海の上に立脚せしめるに至つた。

即ち一九三六年における上海重要輸出品を、金額によつて序列すれば、桐油・生糸・茶・皮革及毛皮・卵及び同製品・棉花・絹織物・綿糸の順であつて、桐油は四川・湖南・湖北、生糸は江蘇・茶は湖南・湖北・江蘇、皮革及び毛皮は河南・湖北・湖南・四川

上海重要商品輸出増減(單位萬元)

品名	一九四一年		一九四〇年		一九三九年	
	輸出額	増減	輸出額	増減	輸出額	増減
棉花	〇・八	(〇・七)	〇・八	(〇・七)	〇・八	(〇・七)
生糸	〇・六	(〇・五)	〇・六	(〇・五)	〇・六	(〇・五)
桐油	〇・五	(〇・四)	〇・五	(〇・四)	〇・五	(〇・四)
茶	〇・四	(〇・三)	〇・四	(〇・三)	〇・四	(〇・三)
皮革及毛皮	〇・三	(〇・二)	〇・三	(〇・二)	〇・三	(〇・二)
其他	三・九	(三・八)	三・九	(三・八)	三・九	(三・八)
計	一・六	(一・五)	一・六	(一・五)	一・六	(一・五)

卵及び同製品は湖北・湖南・四川・河南・浙江・江西・江蘇・安徽を主要生産地とする。

上海の工業製品たる棉絹織物及び綿糸は——これさへも江蘇・浙江・湖北・北支の棉花によつてゐる——第六、七位を占めるにすぎず、しかもこの兩者の輸出額は三千萬元なるに對し桐油のみで六千八百萬元、生糸のみで二千八萬元に達してゐたのである。一九四一年においては全く逆に上海の紡織工業によつて生産された紡織織維及製品が第四位迄を占め、總額の約五割に達するに至つた。戦前總額の約二割を占めて支那輸出品中の第一位にあつた桐油は僅か二千八百萬元程度に減少した。

一九四一年上海重要輸出品(單位萬元)

- 一、綿布及綿製品 一九、三二二
- 二、生糸 一七、六二〇
- 三、綿糸 一三、六七二
- 四、其他綿織物 一〇、三六〇
- 五、毛 八、五二四
- 六、其他金屬及同製品(鐵及鋼材)以外 八、一四四
- 七、絲・綿・編織品 七、七二一
- 八、鐵及鋼材 七、一四一
- 九、棉花 六、〇二四
- 十、毛皮及皮革 五、八三五

上海輸出重要商品百分比

品名	一九三六年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
紡織織維	三三	三三	三三	三三	三三	三三
生糸	二八	二八	二八	二八	二八	二八
桐油	一七	一七	一七	一七	一七	一七
茶	六	六	六	六	六	六
皮革及毛皮	三	三	三	三	三	三
其他	一	一	一	一	一	一
計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

相手國別

上海對外貿易主要國別百分比

相手國	輸出					
	一九三六年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
美國	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
英國	八	八	八	八	八	八
日本	七	七	七	七	七	七
其他	一五	一五	一五	一五	一五	一五
計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

蘭領印度	101	133	234	289	324	367
英領印度	234	144	73	510	624	533
佛領印度	000	000	114	351	075	045
英領國	100	114	303	233	236	045
海峽植民地	184	114	303	233	236	045
泰國	000	000	000	000	000	000
其他	294	294	304	190	276	266
計	1000	1000	1000	1000	1000	1000

(貿易金額は尙未統計参照)

上海貿易を相手國別に見た時、事變後の一特長として、輸出先としての香港及蘭印・佛印・英印・泰等の地位の高上と、輸入における佛印・蘭印・ビルマ・泰國等の車亞南洋諸國及びブラジルの比率の増大、英國及び獨逸の激減を揚げる。

南洋諸國家の上海輸出入貿易に占める地位の高騰は、輸入の側

においては上海の最も重要な輸入品と化した米の尨大な輸入によるものであり、輸出の側におけるそれは、歐洲戰爭の勃發によつて、これらの地域における歐洲からの輸入の杜絶或は激減及び日本この方面への供給力の不足と言つた間隙に乗じての、綿布、綿糸等を主體とする上海工業製品の輸出増大である。而してこのやうな輸出の増加も、輸入の側の尨大な激増には比すべくもなく、左に示すが如き貿易差額を示すに致つた。

輸入(萬元)		輸出(萬元)		差額
佛印	3000	975	入超	2025
蘭印	2607	1455	同	1152
ビルマ	3087	250	同	2837
比律賓	423	70	出超	353
海峽植民地	189	86	出超	103

海 運 ・ 陸 運

一、全支及上海船舶出入狀況

一九四一年十月迄の全支船舶出入噸數(對外航路)は一、六九五萬噸で、前年の二、五六八萬噸(十月迄二、一三四萬噸)に比し、八七三萬噸(四三九萬噸)の激減である。一九三六年を一〇〇としてその指數を示せば左の通りで、一躍戰前の約三分の一餘りに過ぎない數字に轉落した。全支出入船舶指數(對外航路)

一九三六年	100.0	一九四〇年	56.8
一九三七年	78.4	一九四一年	37.5
一九三八年	65.1	同月平均	45.0
一九三九年	65.9		

國籍別に見てみると、第一番に我々は英國船の激減に注意をひかれる。自國の戰爭物資輸送の増大に加へて、英國の戰爭によつて失つた船舶の數は尨大な數字にのぼつた。そして支那航運界に特殊地位を誇つてゐた自國船の徵用を餘儀なくされたのである。英國船は一九三六年の一、六一六萬噸から一九四〇年は四四四萬噸に、更に一九四一年は一五四萬噸へと衰落して、戰前の十分の一にも満たない數字に減少した。一隻當りの平均噸數も亦變化した。一九三六年における平均噸數は一、三七〇噸であつたが、一

(全支)十一月迄 上海十一月迄

九四〇年には二、三四〇噸に増加し、更に一九四一年には一、四五〇噸に減少してゐる。

米國も歐洲への輸送量の激増と日米關係の悪化との爲に、東亞水域に根を下してゐた自國船の引揚を行つた。

事變後轉籍購入した舊支那籍船舶をもつて支那航運界に進出しかけてゐた諸國も、英國の徵用にあつて急激な減少を示してゐる。

全支出入各國船舶數(外國貿易)單位千噸

	一九三六年	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年	一九四一年
日本	124	127	124	124	124	124
英國	1616	1616	1616	1616	1616	1616
美國	333	333	333	333	333	333
支那	337	337	337	337	337	337
同民船	115	115	115	115	115	115
和蘭	115	115	115	115	115	115
佛蘭西	115	115	115	115	115	115
巴拿馬	115	115	115	115	115	115
諸國	115	115	115	115	115	115
荷蘭	115	115	115	115	115	115
其他	115	115	115	115	115	115
計	115	115	115	115	115	115

地へ歸來せる飛鳥丸を臨時當地へ回航して長期内地に滞貨果増せる中南米印度方面積此地揚貨物の一掃を見た。

Table showing shipping statistics for the Shanghai-Japan route (東亞海運) from January to December, including arrival and departure counts and cargo tonnage.

上海—日本 (東亞海運)

前年は大體輸入に於ては荷動き旺盛にて船腹それに伴はず輸出に於ては船腹に對する出荷も奥地治安の關係にて活潑なる荷動き無き状態、本年に於ては輸出荷物出廻り活潑化は輸出入共に船腹の増減に左右される状態となつた。

最高記録を示し輸出入全般的には後半は船腹不足に依り低調なる成績を示した。

尙特に國際狀勢逼迫化する年半よりは資金凍結令實施に伴ひ輸入に於て濠洲小麥、ブラジル棉の内地接續荷物の入貨止まりたるも之に反し食料品、化學工業藥品、建築材料の輸入激増、輸出に於て鋼材、棉花、屑鐵、ボロ、油類、穀類、飼料、肥料の輸出と相待ち凍結令に反映する東亞共榮團自給自足性強化は今後の圓城貿易に大なる示唆を示し大東亞戰勃發は更に配船の合理化強化に依り今後に期待する處尠からざるものと思惟せらる。

△輸出

一月二月は配船の順調荷物出廻り之に伴ひ好調なりしも三、四月に入りて本航路船腹の主力たる横濱—上海線の配船減並に四月に入り中央統制輸送組合機能充實に伴ふ配船積荷割當制實施せらるゝに及び船腹の激減、配船不圓滑は一時平調となり、次いで六月七月は夏期新雜穀の出廻期、肥料、棉花、ボロ等原料出廻り旺盛に加へ配船減、配船不圓滑を補ふ臨時船、賃積船、船腹船等の増配努力と相待ち本年最高記録を示す好成绩を挙げた。然し七、八月以降〇〇事情に依る配船減は漸次其の成績を低下せしめた。

其の間七月在米日支資金凍結令公布、十二月大東亞戰勃發も本航路荷況にはさして影響はない模様であつた。大宗品としては棉花、鋼材、屑鐵、ボロ、油類、肥料、穀類、飼料を主なるものとする。

△輸入

前半年、月毎に成績を挙げたのは一般食料品、化學工業藥品、

Table showing shipping statistics for the Shanghai-Japan route (東亞海運) from January to December, including arrival and departure counts and cargo tonnage.

七月資金凍結令實施は八月に入り俄然ブラジル棉、濠洲小麥等の阪神接續荷物の入貨を止め漸次成績低下せるも其の反面食料品、化學工業藥品、人絹、紙等更にセメント、陶器等建築材料の激増は之をカバーし得たと雖も、船腹減の成績低下は如何ともし難く今後の配船合理化を期待する處尠からざるものがある。

上海—日本線上海輸出噸數一覽表

上海—日本線上海輸入噸數一覽表

Table showing shipping statistics for the Shanghai-Northern Branch route (東亞海運) from January to December, including arrival and departure counts and cargo tonnage.

上海—北支 (東亞海運)

年初兩月は漸次出荷活況する徴ありたるも北支積出荷物出廻り不況と南支線船腹強化の爲め本航路就航船尠かりし爲不振であつた。

春季出廻り期に入り輸出入共俄然荷動き活潑となり、特にシベリヤ經由獨逸向荷物の大連任向け桐油、椰子油、コブラ等の大量出荷北支パイターに依る小麥粉の大量積出あり、之に對し北支物資も春季を待つて天津穀類(豆)の未曾有の積出あり又天津、青

烏炭の多量積出も期を同じくし之等に對應し豫め計畫せる配船増加は三、四月に入り輸出入共に新記録を呈した。

右輸出入の同時活況に伴ふ配船の合理化は六月中頃に於ける獨ソ開戦に依る大連任向(獨逸行)荷物の杜絶も、小麦粉の大量出荷許可に依りカバーして餘りあり、正に好調の一途をたどつた。

然れ共其の間社外船の配船の減少に加へ吾社も〇〇事情に依る船腹不足は免れ難く其の配船に困難を生じた。

十二月に入り大東亞戰勃發は其の荷動きに多少の變化はあつたが本航路の性質上、配船に就き南支、臺灣航路の如き大打撃は受けなかつた。

△輸 出

本年度に於ける北支向大宗荷物として麥粉其の過半数を占めたるは北支方面食料物資補給の爲、北中支パーターに依る大量積出に依るものにして棉花、紙類、セメント、コブラ、玉蜀黍等之に次ぐ更に之を月別に見れば一月二月兩月は前述の通り配船減に依り不況なりしも春季出廻期に入り三月は麥粉、棉花の荷動き活況を呈し加ふるに獨逸向大連經由荷物の積出等あり俄然出荷旺盛、引續き四月も船腹不足を告ぐる状態なりしが、五月は麥粉の積出許可繰延べとなり幾分小康、六月に入り獨蘇戦に依り大連任向荷物の積出杜絶せるに拘らず、麥粉の大量積出許可あり之にてカバーして餘りある状態となり更に加へてセメントの大量出荷命令あり引續き九月迄は順調なる出荷を見た。然れ共十月後又パーター制に依る麥粉等の出荷制限は荷況や不振となり、十二月大東亞戰勃發は本航路荷況にはさして影響なかりしもパーター制々限に依

り平調裡に終つた。

△輸 入

本年度に於ける北支積當地入荷大宗品は青島、天津積石炭其の大半を占め又特に春季出廻期に入つて天津穀類(豆)は未曾有の出廻りを見た外、海州鹽を其の主たるものとす。

北支線上海輸移入噸數一覽表

月別項目	昭和十六年度		昭和十五年度	
	航數	輸移出噸數	航數	輸移出噸數
一月	三	三、八七噸	三	二、九二噸
二月	九	五、三三噸	九	三、八〇噸
三月	一八	一四、〇〇噸	二	二、〇一噸
四月	一九	一六、五五噸	三	一、五五噸
五月	二五	三、二七噸	〇	一、〇一噸
六月	二四	一、五〇噸	三	一、五五噸
七月	三三	一、七六噸	三	九、五五噸
八月	二五	一、七六噸	三	一、二七噸
九月	二二	八、八六噸	九	一〇、九〇噸
十月	二	〇、五九噸	五	九、三九噸
十一月	六	九、四九噸	三	七、三三噸
十二月	一五	一五、二五噸	〇	三、四九噸
合計	一五五	一五二、五七噸	一七	一七、七九噸

月	噸數	噸數	噸數
一月	10,121	10,121	10,121
二月	7,766	7,766	7,766
三月	10,264	10,264	10,264
四月	10,264	10,264	10,264
五月	10,264	10,264	10,264
六月	10,264	10,264	10,264
七月	10,264	10,264	10,264
八月	10,264	10,264	10,264
九月	10,264	10,264	10,264
十月	10,264	10,264	10,264
十一月	10,264	10,264	10,264
十二月	10,264	10,264	10,264
合計	10,264	10,264	10,264

上海—北支 (大連汽船)

△輸 出

(上海—青島—大連線)

前半期は滿洲對中支のパーター大量の成立を見たる爲滿洲特産物の輸入に對し當地より棉花、小麦粉及大豆油、空ドラムの積出相當數量に上り又シベリヤ經由獨逸向荷物即ち茶、胡麻、生ゴム油類等活潑なる荷動きあり、前半期大連向け貨物七萬噸に上りたるも、後半期は獨ソ戰勃發に因るシベリヤルート杜絶及米英資産凍結、物資搬出入取締の強化、海關特定品目の輸出許可制度採用等種々の制約を受け、荷況頓に沈滞の一途を辿り前半期に比し積出半減した。

青島向けは定期船青島碇泊時間の關係上小口雜貨の積取りに終

始した。

就航船數

大連向 一〇九、〇〇七隻
青島向 二四、〇一一隻

(上海—青島—天津線)

期初青島、天津向け共に小麦粉、棉花等の出廻り旺盛にて活況を豫想されたるも重要物資積取船腹不足の爲從來永年に亘り本航路に就航せし定期貨物船、相次いで不定期船部門に編入された爲後半期に至り本航路線は遂に中絶の己むなきに至つた。

就航船數

青島向 一一五隻
天津向 一九、一二三隻

△輸 入

從大連 五〇、三三三噸

當地軍配組合等の輸入機整備と共にパーター約定品たる大豆、豆油等の滿洲特産物の入荷順調なりしも、往年大連よりの輸入貨物中王座を占めたる豆粕は現地生産及南支向積出し不振によるストツク消化難等の爲入荷寥寥たり、又從來相當數量の入荷を見たるシベリヤ經由の歐亞連絡貨物即ちアニリン染料、化學藥品等の獨逸荷物は獨ソ開戦と同時に輸入杜絶となつた。

從青島

入荷凡調にして葉蓆、綿糸布等管ての大宗貨物は全く姿を消し託送扱による野菜、青果、魚類は輸入の首位を占め豆類、落花生實粉干等之に次ぐ。

從天津

二〇、〇八三週

前半期は豆類、糖等相當量の輸入を見たるも後半期は配船減により纏りたる入荷とて無く一部は大連接続にて弗々入荷を見るに至つた。

△船客

邦人の渡支制限、旅行者の携帶金額制限或は外人旅客の査證の嚴重化等東亞情勢の險惡化を反映し邦外人の乗客數減少したるも北支中支の爲替並に物價の稍稼きを目的とせる三、四等華人旅客著増した。

青島行

五〇、二七一一名

大連行

一〇、六五二名

上海—朝鮮

(朝鮮郵船)

朝鮮と北支那とを結ぶ航路は大正の初年當社の自營を以て其運航を見たるが中南支に對しては直通航路無く豫て取引頻繁な對上海貿易は擧げて北支那或は内地を中繼とする他なく相互の不利不便尠からざるものがあつたが大正十三年六月に至り自營上海航路の實現を見ることとなつた。本航路は翌年四月より朝鮮上海線として朝鮮總督府の命令航路となり年十八航海仁川、鎮南浦、群山、木浦、釜山の各港より上海、青島の間を往復した。次で昭和十一年四月北支の驚異的發展に伴ひ續々清津、羅津、雄基三港に流下滯積せる北滿特産の上海直通輸送を劃し本航路を臨時北鮮へ延航對處する處があつた。然るに翌十二年八月上海事變の勃發は本航路の一時休航を餘儀ならしめたが、昭和十三年四月上海方面の

し北中支の建設飛躍に備へる處あつた。

越えて昭和十六年に於ては朝鮮總督府の方針に基き從來の北鮮上海線を臺灣に延長す。

臺灣航路の新設に伴ひ朝鮮對上海間物資交流の主體は専ら西鮮青島上海線に傾注のこととなり、決戦體制下船腹は極度に壓縮せらるゝの餘儀なき情勢に置かれたるも、當社としては本航路の使命に鑑み依然配船を繼續しつゝある次第である。右情勢裏に本航路に於ける荷況推移を見るに汪精衛氏を主班とする南京政府の基礎は愈々固まり中支の明朗は日一日と増し朝鮮との物資交流にも劃期的一大飛躍を豫期せられた。而るに極度の船腹不足は統制の強化と相俟つて本航路荷動きに深甚なる影響があつたが朝鮮よりは林檎、黒鉛、煙草、上海よりは棉實粕其他相當の出貨あり、就中十六年度に於ける新規出廻りとして支那特産の胡麻、胡椒等多量にあり、之は支那事變後本航路再開に際し期待せられたるものであつて中支奥地方面治安恢復の證左として特筆すべき事象である。

(B)船客關係

事變の進展に伴ひ上海方面の治安漸く恢復するや旅客の本航路を利用するもの多く當社に於ては昭和十五年四月より朝鮮鐵道局と旅客連帶輸送契約を締結し一層旅客の利便を圖る處があつた。因に事變以來上海への自由渡航は禁止せられおるも一度之が解放せられんか之が増加は期して待つべきものがあり當社は之に對處して更に華中鐵道との間に昭和十六年十一月一日以降上海を中繼港とする旅客の連帶輸送契約を締結

治安恢復と共に直に配船復活せしめると共に昭和十五年四月には本航路の臨時に北鮮延長を定航化し北鮮上海線と改稱年十五航海清津、釜山、上海、青島の各港に寄港す。

又同時に既に昭和十三年度より開設を見たる西鮮青島線を上海迄延長し愈々緊密化せる鮮支間の物資交流に寄與し、爾來今日に至る。

一、支那事變以來の本航路に於ける貨客推移

(イ)貨物關係

昭和十二年七月北支に端を發せる今次支那事變の戦火上海に及ぶや一般船舶の同港への入港は全く危険となり本航路も自然休航の儘昭和十三年を迎へたが漸く同方面治安の恢復著しきものがあり四月以降本航路の復活を見た。而して従前本航路の北鮮大宗貨物たる上海向白楊丸太は同地に於ける燐寸工場未だ復舊せず當分出荷の見込無き爲め本航路の北鮮延長を取止め爾來釜山止めとし釜山、仁川、鎮南浦より復興材料、生活必需品等當時相當の出貨を見たるも上海より朝鮮への輸入は事變前よりのストツク品と目さるべき棉、棉實粕等少量のものに過ぎず、常に片船腹の状態を以て推移した。

昭和十四年に入るや中支方面は一段と其の明朗化を増し復舊に建設に愈々著しきものあり建設資材生活必需品等鮮産品の上海向輸出は引續き好調を呈した、一方上海積としては同年度に於ても殆んど云ふに足らず極めて不振であつた。

昭和十五年度に於ては西鮮青島線を上海に延長すると共に從來西南鮮と上海間を往復したる航路は北鮮釜山より上海向と

し積極的に旅客への利便を圖る處があつた。本連帯は曩に昨年四月開始せる仁川港を中繼する朝鮮鐵道局との連帯と相呼應し鮮支間旅客輸送の完璧を期する劃期的施設である。

一、大東亞戰爭勃發以後の見透し

支那事變を包含する大東亞戰爭の勃發により從來英米の大東亞に於ける榨取の據點は次々と潰え上海に於ける長年の痛たる共同租界も無事我國に接收を見、同地に於ける政治經濟文化と凡ゆる面に亘る我國の地位は牢固として抜く能はざるものとなつた、此處に明朗上海は偉大なる前進の第一歩を踏出した。大東亞の戦果愈々擴大し大東亞共榮圈の確立は決定的存在となり且蔣政權も今や崩潰の一路にあり全支の汪親日政權の下に平和を謳歌するの日も近きを豫想せらるゝ折柄、豊富なる南洋資源の鮮滿支輸入の中繼港として、或は全支より集中せらるゝ特産物の對日輸出の據點として、又は本邦生產品の中支に於ける唯一の輸入港として、上海の地位は從來に増して其の重要性を加重せられ、此等諸物資は擧げて船舶を唯一の運輸機關とするものなれば鮮支間最短距離を結ぶ朝鮮上海航路の使命は、將來にかけられ居ると云ふべく期待せらるゝ次第である。

上海—漢口 (東亞海運)

本航路一般荷物は搬出入制限の爲め出荷入荷共に低調裡に終りたるも其の反面船腹は殆んど特種荷物に依りてオールトとなつた。尙三月以降減水期も過ぎて漢口直航も可能となつた事は出入荷共幾分活況を示した。

△輸出 荷動きの見る可きものとしては〇〇品其の過半数を占め一般荷物としては鹽、綿糸布、米、煙草、砂糖等にて一般荷物の出荷状態は月別にさして變化なく、別表噸數變化は大體〇〇品の出貨状態に左右された處が多かつた。

輸入に於ても輸出と同様で、一般荷動きにさ程大差なきも〇〇品、接續荷物の増減に依り月別噸數の差を生ずるものと見る可きであつた。一般荷物の主なるものとしては胡麻、柏類、穀類、茶種小麦、石膏、桐油、石炭、葉煙草等である。

Table with columns for months (十一月 to 一月) and rows for shipping numbers (航數) and transfer numbers (移入噸數) for 昭和十六年度 and 昭和十五年度.

Table titled '漢口線上海移入噸數一覽表' showing monthly shipping and transfer numbers for 昭和十六年度 and 昭和十五年度.

六月我が軍占領後治安の維持に伴ひ他社に魁け鳴門丸一隻を以て定期航路を開始した本航路は、頭初先づ宜撫工作荷物に依り始められたるも漸次治安維持確立されるに及び僚社中華輪船、浙東輪船の配船と相俟ち漸次一般荷物の荷動き活潑なるを見た。

般雜貨の荷動きを見、十一月に入り國際狀勢逼迫は上海商人の賣惜み、十二月に入り大東亞戰勃發に依る法幣不安は一時出荷を停頓せしめた。

△輸入 頭初治安維持の關係にて出廻りなきも月を経るに従ひ漸次寧波土產品入荷を見、月毎に好成績を示した。大宗品としては土酒、土紙、草蓆、棉花等

Table with columns for months (六月 to 九月) and rows for shipping numbers (航數) and transfer numbers (移入噸數) for 昭和十六年度.

Table titled '上海—臺灣 (東亞海運)' showing monthly shipping and transfer numbers for 昭和十六年度 and 昭和十五年度.

舊年の輸出不況も本年に入り月毎に活潑となり輸入に於ては石炭の出廻り依然活潑にして南支航路船の船腹をも使用する状態であつた、十二月に入りつて大東亞戰の勃發は水域危險を伴ひ配船皆無となつた。

Table titled '臺灣線上海輸出噸數一覽表' showing monthly shipping and transfer numbers for 昭和十六年度 and 昭和十五年度.

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
航數	二	七	六	四	七	八	八	七	八	七	七	七	五
輸入噸數	三,四〇〇	一〇,五〇〇	一〇,六〇〇	一〇,五〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇
航數	二	七	六	四	七	八	八	七	八	七	七	七	五
輸入噸數	三,四〇〇	一〇,五〇〇	一〇,六〇〇	一〇,五〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇	一〇,六〇〇

上海—南支 (東亞海運)

本年に入り本航路荷動きは活潑を極め出入荷共船腹不足を示し且北支—南支、南支—北支の荷動きも之に伴ひ旺盛なる爲上海積上海揚荷物の積取も困難となり六、七月に入つては更に穀物類の出廻り期となり船腹極度に窮屈となつた。之に對し吾社としても極力南支航路増配に努め特に上海南支線の増配に努力其の對策宜敷きを得好成績を得た。然れ共八月に入り本航路の盤谷延航等もあり又特殊事情もあり船腹極めて減少し、大量の出荷に於ける滯貨を示した。十二月に入り大東亞戰勃發は本航路に對し特に大なる影響あり、水域の危険は一時配船出来ざる事となり北支來荷物も總て當港にて滿載の儘出帆待機するの已むなきに至つた。

△輸 入

本年度に於ける大宗荷物は米、砂糖、石炭(鴻基炭)團扇(廣東積)生絲(廣東積)等にて又福州寄港に寄る〇〇荷物を示し又特に三月初めより激増せる法幣輸送は八月迄引續き活況なりし事は注目に價するものと思考さる。

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
航數	七	八	二	四	六	一〇	一〇	五	二	二	七	七	七
輸出噸數	八,七〇〇	七,五〇〇	二,〇〇〇	四,〇〇〇	六,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇
航數	七	八	二	四	六	一〇	一〇	五	二	二	七	七	七
輸出噸數	八,七〇〇	七,五〇〇	二,〇〇〇	四,〇〇〇	六,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇	七,〇〇〇

内河航運 (上海内河汽船)

長江三角地帯の交通において特殊の重要性をもつものに内河航運がある。此の地帯は支那に於ても内河航運に恵まれた地域で、民船可航内河水路延長は五萬軒、内小蒸汽船可航水路延長は八千軒に達し、就中江蘇省の如き可航水路の延長は四千五百軒に及ぶ従つて之等内河に依る航運は極めて重要な意義をもつもので、貨物運送量に於ても事變前江南三角地帯の物資は鐵道によつて二三%汽船によつて三二%、民船によつて四五%輸送せられて居たと云ふ。

事變勃發と共に之等内河航運は一時休航状態に陥つたこと勿論であるが、總て戦火の移行に伴ひ多數の支那側小輪船が邦人に捕船せられて動き初め、外國船の横行も加はつて其の使用する船舶

の性質上、難然たる競争状態を呈した。内河航運の復舊は経済的政治的にも極めて重要であるが、同時にその統制把握は来るべき段階に對して又重大なる意義を持つ。依つてその混亂是正と統制の爲に昭和十三年三月暫定的に日清汽船を主體とする、江浙輪船公司なる組合を設立し、該組合所屬以外の一切の汽船汽艇の航行を禁止すると共に、一面有力なる日支合辦の統制會社設立が企畫され、陸海外三省指導の下に同年七月二十六日資本金二百萬圓を以て、日華合辦支那普通法人として上海内河輪船股份有限公司が創立され、同八月六日より業務を開始した。業務目的はいふ迄もなく中支那主要内河航路に於ける客貨の輸送を主とするが、船舶の賃賃借建造修理、倉庫及碼頭の經營をも行ふ。

現在蘇浙皖三省に涉り昭和十六年十二月末營業航路は大約九〇餘線六千餘に達す。主要航路は

- (一) 上海を中心とする蘇州河線(蘇州、無錫、常州、丹陽、鎮江を貫く幹線並に支線として常熟、溇浦、太倉、江陰、和橋、金壇等に至る相互間)
- (二) 上海を中心とする黃浦江線(松江、嘉善、嘉興、崇德、杭州を貫く幹線並に支線として該線一帯の南匯、平湖、楓徑、金山等に至る相互間及錢塘江渡船)
- (三) 上海を中心とする湖州線(一部蘇州河を經由青浦、朱家角、蘇州、平望、湖州に至る幹線並に支線)
- (四) 揚州、鎮江を中心とする江北大運河線、揚州、邵伯、高郵、淮陰を結ぶ幹線並に泰縣、興化等に至る支線
- (五) 南通を中心とする串場大運河線(天生港より南通、唐家園

創立當時月平均一萬五千噸、一萬人前後の貨客に比すれば格段の激増振りである。

倉庫は一般荷主の便宜と蒐集機構整備の見地より、上海に收容能力合計三棟、三萬三千噸を有し、毎月出入各々三萬噸前後の貨物を取扱つて居る。地方に於ては蘇州、無錫、南京、蚌埠に合計九〇〇坪、約五、〇〇〇噸、倉庫は已に設立完了し、諸多の箇所にも建設を急ぎつゝある。

小型船の建造備船には上海内河船廠並に蘇州瑞茂工場を有し、此の種の規模に於ては中支は勿論内地に比較しても随一のもので一は敷地八千坪、建坪二百坪、一は三千坪に六百五十坪あり、鑄物汽罐の製作より、附屬機械工場あり、一ヶ年の能力は小蒸汽船八〇餘隻、総二五〇隻位の新造を初め、自家所用のもの多數に亘る船舶の修理をなして居る。

日支事變頭末の一段階に於て中支の水運は長江並に沿岸の主要開港地は東亞海運にて、不開地相互間には中華輪船にて、又内河クリークの航運は上海内河汽船にて担当、夫々其の分野に従つて東

五月	三三、九七五	一、四〇、〇〇〇	三、九七、五〇〇
六月	三三、三三三	一、四〇、〇〇〇	三、九七、五〇〇
七月	三三、三三三	一、四〇、〇〇〇	三、九七、五〇〇
八月	三三、三三三	一、四〇、〇〇〇	三、九七、五〇〇
九月	三三、三三三	一、四〇、〇〇〇	三、九七、五〇〇
十月	三三、三三三	一、四〇、〇〇〇	三、九七、五〇〇
十一月	三三、三三三	一、四〇、〇〇〇	三、九七、五〇〇
十二月	三三、三三三	一、四〇、〇〇〇	三、九七、五〇〇
合計	三三、三三三	一、四〇、〇〇〇	三、九七、五〇〇

亞交通體系の一環である中支の水運部門に重要な役割を果しつゝある。初め業務分野に於て若干の凸凹は免れなかつたが、時日の伸張と共に以上の理念は具體的に明瞭になり、昭和十六年末に於て安慶上流、九江以下各港の短區間運送は幾多の犠牲と業跡を残し、之を中華輪船に引継ぎ、一方未開拓の蘇北地帯は十六年度初期計畫通り東台、鹽城、興化並に江北大運河による淮陰まで餘すところなく航路を擴張し、其の他既設水路も繁閑に應じ、配船陣の強化を計つた。今亦大東亞戰の勃發に依り、東亞交通體系就中新分野南方諸地方とは刻下の作戦遂行上、將來資源獲得上絶對海上輸送能力の強化、能率増進が必至となり、各方面の船腹は極度に切りつめられ、いさゝかの能率低調を許さず其の影響は當然中支の航運界も一段の統制強化を必要として、昭和十七年一月一日より中支航運統制組合の組織活動を見るに至つた。當社も其の一員として中支全般的の航運に寄與しつゝあると共に一方其の特殊な性質上、陸上交通機關に代替する分野も背負ふて居り、其の責任は愈々重大である。

只問題は曳船の内約半數が燃料として油を使用する爲、この補給は窮屈に陥りつゝあることである。

大上海が、取り残された唯一の自由港としての性質が一夜にして喪失され、こゝを經由して第三國との貿易面に立脚して居た奥地との貨物移動低調は考へられる。然し航洋船並に陸上運送の窮屈、北中支水運の連絡が企圖されてゐるから、計畫實現の曉には總取扱數に於ては十七年度も依然引續き増加するとも減少することはあるまい。

如皋、海安、東台、鹽城を貫く幹線並に支線及、(四)(五)大運河を系を横斷的に結ぶ東台—泰縣、泰縣—興化等の線)

- (六) 蕪湖中心の京浦線、京揚線
- (七) 蕪湖中心の蕪裕線、運巢河線、蕪荻線
- (八) 蚌埠中心の淮河線(蚌埠、懷遠、田家庵、壽縣、五河を貫く大淮河本流)

其の使用する船舶は、創立當初僅に社船二〇隻、借入船一二隻計三二隻の汽船に過ぎなかつたが、十六年末現在社有船一五三隻軍貨下船二六隻、外に備船一〇〇隻、合計二七九隻、六、五〇五噸の汽船に、社有船二八六隻、備船二、一一七隻、計二、四〇三隻一〇五、六〇二噸外に荷主直接所有に係はる多數の船をも合せ運送して居る。貨客の運送型態は殆ど小蒸汽船による、貨客船の曳航にて水上列車とも稱すべきものである。従業員は陸員日人三一三名、中國人は八三〇名、計一、一四三名、外に船員、小蒸汽船一四六一名、船一、五二〇名、計二、九八一名あり。航路の擴張、配船、人員の陣容、創立當初に比し隔日の感あり、業務成績は左記の如くである。

貨客輸送統計

月別	昭和十六年度		昭和十五年度	
	貨物	客	貨物	客
一月	六、七〇噸	三、三〇人	九、四四噸	二、八八八人
二月	八、六六噸	二、五〇〇	六、六六噸	二、一〇〇
三月	二、三三〇	五、八八	三、八八	二、三三
四月	二、八八	五、八八	三、七六	二、三三

(附)
 以上の外中支内河航運上見逃し得ないことは一般民船である。昭和十六年十月末蘇浙皖民船總會月報に依れば、上海地區二四〇〇隻、二七二、四〇〇噸を筆頭に無錫の二八、〇〇〇隻、一八二、五〇〇噸、外蘇州、杭州、鎮江、揚州、南京、蕪湖、安慶蚌埠等三省各地計一二四、〇〇〇隻、八七四、〇〇〇噸の民船が登録されて居る。又我克協會に於ては上海を中心として舟山、長江下流並沿岸航洋民船が同年十一月末一六、〇〇〇隻、二〇二、〇〇〇噸登録されて居るが、此等の内クリーク内民船並に沿岸航洋我克の役割は其の数の絶大に依り大、小運送上重大なる役割を持つて居ることが推察されること序言の如くである。

三、倉庫業概況

昭和十六年中に於ける倉庫業の概要を述べると、先づ上半期に於ては南京政府の機關銀行たる中央儲備銀行創立せられ、同行發行に係る新法幣を以てする關稅納付を認められたのをスタートとして、爾來新政府の金融工作は逐次進捗し、對日三億圓のクレヂット設定せられる等、若々安定の地歩を固むるに伴ひ、舊法幣に對する不安は漸次濃化し、逐日低落の一途を辿り、赤字財政を補填せんがため、租界工部局が米英との合作により一月發表した四割増税は市民怨嗟の的となり、臨時納稅者大會に於て不祥事を惹起せる等の事件あり、重慶側金融の混亂により期央其の機關銀行四行の休業を見る等經濟界は一抔の不安に襲はれ、舊法幣の續落

は換物人氣を呼び、諸物價並に勞銀の急騰を來し、又石炭の在荷減少による電力の供給制限は各種産業に於からざる影響を與へた一方米英兩國の對樞軸國資金凍結に次で其對日經濟壓迫は益々濃化露骨となり、期初上海在留米國婦女の引揚を見たが、四月日ソ不可侵協定成立し、重慶政府機關及其軍事施設の徹底的覆滅新政府の政治經濟工作に對する吾國の支援強化等、支那事變完遂に一路邁進する吾國力の伸張は、租界市參事會委員の改組に現はれ、期末には新政府首席汪精衛氏の渡日となり、帝國の和平經濟其他當面の諸問題處理の具體的對策逐次確立せられると共に、執拗なる重慶側の妨害工作頻發せるテロ行爲は漸く衰微に瀕した。此間國際情勢緊迫による外貨輸入難の見越により棉花、セメント、石灰、人絹糸、食料品、罐詰等の入荷多く、舊法幣の下落と香港方面華僑より流入せる巨額の遊資消化に困惑せる華人の換物傾向により、土產雜穀、麥粉、支那棉、綿糸布、屑綿等の出廻り旺んであつて又米價騰貴對策として租界當局の輸入に係る西貢米の大量輸着するあり、援蔣ルート遮斷強化による滯貨及季節向麥酒其他清涼飲料水の回着と相俟つて、當地倉庫業は租界内外共に保管殘高を加へ、頗る活況を呈し滿庫狀態を繼續した。下半年期に入るや對日經濟壓迫に對する報復的措置としての米英資金凍結、自給自足を目標とする物動計畫の樹立、現地各種産業の再編成等着手せられ、特定外國人取引取締令により取引を統制し、重要物資の搬出入許可制は強化せられ、利敵物資の移動就中非占領地區への流入を嚴重監視するの措置を講ずる等東條内閣の出現により帝國の事變處理大東亞共榮圈確立の不動の國策は益々

強化せられたが、一方中央儲備銀行の經濟活動は益々整備せられ皇軍占領下重要地區に於て倉庫業務を開如する等一大飛躍を見たので、敵性金融筋は大恐慌を來し、米英系銀行は上海市場に於ける外貨供給額を制限せるため輸入は極度に抑壓せられ、輪送船舶の減少と相俟つて第三國貿易は次第に凋落して、世界自由貿易の中心であつた、上海の國際性は漸次其特性を失ひ、圓ブロック經濟へ移行の傾向を示し、且對米英外交關係の險惡化と共に十四年の歴史を有する米國マリンの上海引揚となり、舊法幣は更に落凋を續け、軍票及新法幣の眞價離散せられ、換物人氣旺盛にして綿糸布、其他暴騰し、租界工部局の物價對策も其效を奏せず、期央棉業取引所の立會停止を見るに至つたが、物動計畫による石炭の入荷増加し紡績筋の操短により棉花の倉庫保管となるもの著増し、又租界内所在外華人倉庫に保管中の貨物を邦人經營倉庫に移動するもの尠ならず絹糸、土產雜穀、麥粉其他一般貨物收藏のため倉庫業界は依然多忙を示した。

然るに期末日米會談決裂し、大東亞戰勃發を契機として租界に於ける米英系金融機關、船舶、碼頭、倉庫其他の建物は一舉にして皇軍の占領するところとなり、皇軍の租界進駐により過去百年間に亘り自己權益の擁護を志にした、米英勢力は退陣し、完全に吾勢力下に移り、帝國の眞價は茲に遺憾く發揮せられた。此間一時的金融の梗塞、物資移動の中絶があつたが、軍接收の黃浦江岸碼頭倉庫の運営は邦人商社に委計せられ、秩序漸次回復すると共に、我國の權益は若々其地歩を固めつつ昭和十七年を迎へた。

更に將來の見透しに付一言述べると、今後大東亞共榮圈を確立するに當つては日本本土のみにては資材勞力の不足、運輸の不便製品消化力の制限等があるので大東亞の産業發達を期する上に於ては廣く南方諸地域及北邊地域をも包含して考察しなければならぬ。而して其の經濟的並に政市的中心地域は實に勞力資源と運輸利便とに優勢なる中支、殊に上海が其重點となる可きは明かなところであつて、今後中支の各種産業を興隆せしめ、一般經濟力の充實を計り、支那五億民衆をして南方諸地域の過剩物資を吸收消化せしむること最も賢明且良策であつて、斯くして始めて北米大陸の大規模な經濟力に對抗し得るものと思考せらる。此點より見ても、將來上海港を中心とする共榮圈物資の交流は月と共に増大すべく、倉庫業も亦重要物資の保管、配給並に金融機關の一翼として益々其重要性を加ふることと確信する次第である。

四、通關業

事變勃發以來十三年五月迄は日本上海間及占領地域間は輸出入とも通關を要しなかつた爲通關業者は其間専ら輸送貨物の受渡し等運輸業に従事した。十三年六月以降稅關事務再開され事變前通り通關手續を要する事となつてから通關事務が復活開始された。十六年十二月八日大東亞戰爭開始以前の一般業務狀況を述べれば一、輸入——日本、滿州國、沿岸各港、長江各地

一、輸出——上
 尙米國向輸出の主なるものは生糸、同屑、茶、豚毛、事變前との取扱件数及數量比較大要左の如し。
 十三年六月以降は外支人専門方面の事業に邦人商社飛躍的進出あり従つて之等商社貨物の件数漸増し邦人通關業者の事務も愈々多忙としり、爲に従業員を新規に雇用し約二倍の人員とした。従つて事變前十數年に亘る排日風潮盛なりし當時取扱件数に比較すれば約二倍以上の取扱件数となつた。
 他方事變後特に見る現象としては自家通關をなしてゐた商社が相當數あつたものが煩雜の爲め通關業者へ依頼する向増加し之れによる件数増加相當のものがある。
 尙米國の資産凍結以來米國向け輸出皆無となり一方統制に依る減貨等を合すれば三割見當の減少を見た。
 更に大東亞戰開始以來は船腹の不足による滞貨等の關係上業務は一般的に閑散の状態であるが最近船腹も若干増加の傾向を見るに至つてゐる。

五、海事檢定

本上半期には相當多忙を極めたが、下半期即ち米英の對日資金凍結以後は船舶の出入、輸移出物資減退し上海海務所業務も相當の影響を受けた。
 十六年中
 檢査件数 三五〇件
 分析件数 一七〇件

檢査件数 三五〇件

六、鐵道運輸概況

△旅客運輸
 華中鐵道線上海市内の上海、大通庵、江灣、西上海、南上海、新龍華の各驛に於ける乗降客は昭和十六年一月から同十二月迄の年間乗車人員四、三七八、一〇九人、降車人員四、三九二、八〇三人で、一日平均乗降とも夫々一萬二千人となつてゐる。
 之を前年と比較すると乗車人員は四割九分、降車人員は四割六分の増加となつてゐるが、之等旅客の大部分は地方の治安状態や搬出入物資取縮の如何、或は經濟界の微妙な動きに影響され増減を見たが、概して五月より九月迄の農繁期、及び夏季閑散期はその他の各月に比し二、三割程度の減少を示してゐる。
 之等乗降客の大半を占める上海驛は、前年に比し乗降客共約三割増加し、十二月を除き一般に降車客の多かつた同驛が、十二月に至り引續く法幣の暴落と物價高に依る生活難並に大東亞戰勃發に伴ふ敵性工場の失業者の増加等幾多の原因に依り、世智辛い租界を後にし平和の光に恵まれた清郷地區に新しい生活を求めて、懐しの故郷へ歸る者が急激に増加し、十二月のみは、乗車人員一日平均二、〇七七人、月間四〇、四九二人の超過となつてゐる。

其の他の各驛は孰れも昨年より二倍以上増加して本年度に於て大體事變前の數量に近く迄達したのであるが、獨り南上海驛のみは事變前乗降共一日平均一、五〇〇人近くあつたに拘らず僅に二

○人程度で依然として甚だしい凋落振りを示してゐる。
 西上海驛は十月一日から開設したので本年中はまだ一般へ徹底せぬ點も認められるが、租界及び滬西地區からの出入客には非常に便利である爲今後乗降客は益々増加するものと考へられる。
 各驛の月別乗降人員を示せば次の通りである。

驛別	上海 天通庵	江灣	西上海	新龍華	南上海	合計	平均
一月	三〇、四一〇	三六、五三三	—	六、八三三	八、五三三	八二、二七六	二、六七四
二月	二六、九四九	三二、七一一	—	三、〇一一	三、九〇九	六六、五六〇	二、一八二
三月	三三、一三三	三九、五五五	—	三、八九〇	四、五五五	七七一、〇〇〇	二、三二七
四月	三三、六六一	三七、九二二	—	四、七〇〇	五、九〇〇	八二、一八三	二、六七〇
五月	三三、〇三二	三三、三三六	—	四、六七一	五、三三六	七六、七〇二	二、四七六
六月	三三、〇三二	三三、三三六	—	四、六七一	五、三三六	七六、七〇二	二、四七六
七月	三三、〇三二	三三、三三六	—	四、六七一	五、三三六	七六、七〇二	二、四七六
八月	三三、〇三二	三三、三三六	—	四、六七一	五、三三六	七六、七〇二	二、四七六
九月	三三、〇三二	三三、三三六	—	四、六七一	五、三三六	七六、七〇二	二、四七六
十月	三三、〇三二	三三、三三六	—	四、六七一	五、三三六	七六、七〇二	二、四七六
十一月	三三、〇三二	三三、三三六	—	四、六七一	五、三三六	七六、七〇二	二、四七六
十二月	三三、〇三二	三三、三三六	—	四、六七一	五、三三六	七六、七〇二	二、四七六
年計	三〇、四一〇	三六、五三三	—	六、八三三	八、五三三	八二、二七六	二、六七四

イ、月別乗車人員
 次は旅客輸送に附隨的に行はれる手荷物、小荷物は各驛の總計に於て昨年より發送一割五分、到着一割の減少となつてゐるが、その主なる原因は搬出入物資取縮制限の強化にありと考へられる。左に一ヶ年間の發着數量を記し物資移動の一斑を窺ふ參考とする。

月別	發		送	
	手荷物	小荷物	手荷物	小荷物
一月	一四、九三三	三〇、六四四	一四、九三三	三〇、六四四
二月	一四、九三三	三〇、六四四	一四、九三三	三〇、六四四
三月	一四、九三三	三〇、六四四	一四、九三三	三〇、六四四
四月	一四、九三三	三〇、六四四	一四、九三三	三〇、六四四
五月	一四、九三三	三〇、六四四	一四、九三三	三〇、六四四

六月	二七三	三〇六	四〇〇	九〇九	一七三	三六六
七月	二二七	三〇五	三二八	九〇九	一七三	三六六
八月	二二七	三〇五	三二八	九〇九	一七三	三六六
九月	二二七	三〇五	三二八	九〇九	一七三	三六六
十月	二二七	三〇五	三二八	九〇九	一七三	三六六
十一月	二二七	三〇五	三二八	九〇九	一七三	三六六
十二月	二二七	三〇五	三二八	九〇九	一七三	三六六
年計	二二七	三〇五	三二八	九〇九	一七三	三六六

突如として展開された獨ソ戦、之を契機として英米、就中米國は公然と授ソ、授蔣を敢行する一方、日米通商條約廢棄以來英國並に蘭印と結び資産凍結令の發動により東亞樞軸に對する實質的經濟封鎖を斷行する一方、益々軍事上の脅威を増大し、以て我に挑戦せし爲遂に十二月八日の大東亞戰爭となり、斯くの如き狀勢下に在りし上海經濟界は強く刺戟され諸物價の奔騰、法幣不安の激化、物資の移動を益々窮屈化し鐵道出貨に大なる影響を及ぼして居る。

本年一月より十二月迄一ケ年内の上海地域所在四驛（上海、麥根路、江灣、南上海）の貨物發着總數に就て之を見るに、發送總數三六一、四四七噸、到着總數五五二、八九九噸にして昨年と比較するに發送に於ては甚だしく遜色があり、之れが全般の運輸成績に及ぼした影響は甚大であつたが、到着に於ては微減を示したに過ぎない。今之を月別に見るに次表の通りである。

別表 一號

月別	備考 指數昭和十五年一月を100とす	
	發	到
一月	三六六	九〇九
二月	三六六	九〇九
三月	三六六	九〇九
四月	三六六	九〇九
五月	三六六	九〇九
六月	三六六	九〇九
七月	三六六	九〇九
八月	三六六	九〇九
九月	三六六	九〇九
十月	三六六	九〇九
十一月	三六六	九〇九
十二月	三六六	九〇九
計	三六六	九〇九

主なる着驛

米	二九八八二	南京、鎮江、杭州
石	三三三三〇	杭州、南京、崑山
煙	二〇〇九五	常州、杭州、蘇州、南京
綿	二七九九五	南京、蚌埠、蕪湖、蘇州、杭州
紙	一〇四九六	蕪湖、蘇州、鎮江、南京
礦油	一六九八三	鎮江、常州、蘇州、杭州
砂	一六二二五	無錫、杭州
二、到 着		
石	三五、三五六	浦口、震山、大崑崙
炭	一一、二八一	良山門、杭州、南京
木	一一、二八一	良山門、杭州、南京
材	一一、二八一	良山門、杭州、南京
類	一一、二八一	良山門、杭州、南京
豆	一八、四六八	嘉興、杭州、長安
類	一八、四六八	嘉興、杭州、長安
果	一九、五四九	蕪湖、臨平、嘉興、杭州
物	一九、五四九	蕪湖、臨平、嘉興、杭州
野	七〇、一八五	外跨塘、當塗、南京
菜	七〇、一八五	外跨塘、當塗、南京
鳥	一〇、八三七	鎮江、當塗、南京
卵	一〇、八三七	鎮江、當塗、南京
肥	一七、四四四	常州、鎮江
料	一七、四四四	常州、鎮江
穀	一一、五五六	南京、鎮江、蕪湖
粉	一一、五五六	南京、鎮江、蕪湖
類	一一、五五六	南京、鎮江、蕪湖
紙	二二、一三七	蕪湖、杭州、南京

七、小 運 送

一、概説（支那事變以來の推移概観）
昭和十三年九月十九日、軍の軍事輸送の餘力を以て一般鐵道運

送營業を開始すると共に、日本通運では驛構内に於ける貨物の取扱事務及積卸作業の一切を請負ふこととなり、併せて一般小運送業を經營する爲、先づ上海に支社を設置して中支那に第一歩を印したのである。爾來これに要する人員の整備とトラック其他營業諸施設の擴充に努め、軍需品の運送取扱を以て軍の作戰に協力すると共に、宣撫物資の輸送或は中支經濟再建の爲の諸材料の運搬等を遂行し、其の使命達成に一意邁進したのである。

而して昭和十四年當切に於ては海南、海杭、蘇嘉、南寧、津浦淮南各線の主要驛所に營業所を設置し、更に漢口、九江に於て江運貨物の取扱を開始するに至り、同年二月には一般民需貨物の集貨配達作業に着手すると共に、上海に於ては江海關と密接な連絡を取り、通關代辦業務を行ふ様になつた。

昭和十四年五月一日、華中鐵道株式會社創立後は、日本通運は軍鐵道局に引續き、同社と貨物取扱事務及貨物積卸、貨車手押其他作業の請負契約を締結し、又七月には軍と軍需品の全面的運送取扱契約を締結する等其の使命益々重きを加へるに至つた。

一方昭和十四年十月には京漢線、同年十一月には粵漢線、翌年一月には南潯線が軍事輸送の餘力を以て、一般民需輸送に開放せられると共に、日本通運は旅客及貨物の取扱を軍に代つて行ふこととなつた。

斯の如く事業の擴張と責務の重大化に伴ひ、日本通運は昭和十五年十二月一日、上海、南京、蕪湖、杭州、漢口、九江の六箇所に支店を設置し、各驛に於ける營業所、派出所を管轄せしめることとした。現在の組織は上海支社の下に支店六、營業所一五、回

漕所一、派出所一四二、荷扱所一五、計一七九の店所を有するのである。而して其の營業範圍は

- 一、鐵道貨物取扱事務
 - 二、貨物積込、取卸、集貨、配達作業
 - 三、回漕業
 - 四、通關代辦、貨物運送保險代理
 - 五、貨物引換證發行、代金取立
 - 六、貨物の保管
 - 七、トラック供給、人夫供給
 - 八、其他前各號に關聯する一切の業務
- 等であり、中支那小運送業の整備發達に最大の努力を傾注してゐる。

二、昭和十六年中の取扱數量

昭和十六年中に於ける鐵道貨物並に水運關係貨物取扱數量は次の通りで、治安の回復と經濟狀態の平常化に伴ひ、前年に比し著増してゐる。尙軍需品取扱、自動車供給、人夫供給等に就ての統計は省略する。

イ、昭和十六年中に於ける日本通運扱

月別	發送		到着		合計
	小口扱	車扱	小口扱	車扱	
一月	八二六	一〇九,五五五	八二四	一一三,三三	三九〇,三九
二月	六三〇	八九,四三三	五九五	八八,〇〇	一九〇,三七
三月	九三七	一三三,八六五	八五五	一三三,八六五	二八〇,七三

月	發送	到着	合計
一月	九四八	一四,一三三	八,四〇
二月	九二二	一三,〇二六	八,五五
三月	九三三	一四,四八八	八,七三
四月	八三二	一三,九三三	八,五九
五月	八二一	一三,七三〇	八,五九
六月	八二一	一三,七三〇	八,五九
七月	八二一	一三,七三〇	八,五九
八月	八二一	一三,七三〇	八,五九
九月	八二一	一三,七三〇	八,五九
十月	八二一	一三,七三〇	八,五九
十一月	八二一	一三,七三〇	八,五九
十二月	八二一	一三,七三〇	八,五九
合計	一〇,四三〇	一三,八六一	一〇,三三三

ロ、昭和十六年中に於ける日本通運扱江海運

月	發送	到着	合計
一月	一〇,六六	七	三,六〇三
二月	一五,〇〇	八	三,三七九
三月	二八,五五	九	三,〇三三
四月	三三,〇三	十	三,九六四
五月	三九,二七	十一	三,七三三
六月	二九,一四	十二	三,〇三三
合計	一四,一四	一三,八六一	一三,八六一

八、都市交通業

一、種目 都市交通業

昭和十二年八月戦火上海に擴大と同時に、蘇州河以南地區に於ける交通は杜絶した。皇軍の上海完全占領と同時に之が復舊を必

要とし軍の命令に依り昭和十三年一月一日より興中公司在車輛五輛を以て運行を開始した。其の後中支那振興株式會社設立と共に

中支重要都市に於ける都市交通運送を目的とする華中都市公共汽車股份有限公司設立され、上海(蘇州河以南地區及南市)南京、杭州、蘇州、鎮江、無錫の六都市に於て運送を開始し、今日に及んで居る。

一、昭和十六年度概況

占領地區に於ける治安の確立及避難民の復歸等に依り著しき交通量の増加を來した。當社に於ては之に對應して運行時間の改正車輛の整備、擴充に依り輸送力の緩和を圖つた。一方昨年度に引き続き、國際情勢は益々切迫化し、該社所要資材に多大の影響を與へ、特に燃料部門に於ける切迫は九月以降に於て激化の一途を辿り、燃料配給量は殆ど半減するに至つた。斯る變轉極り無き狀勢も、十二月八日大東亞戰爭の勃發と共に一變し、從來の英、米勢力一掃と共に新たなる發足をなす事になつた。

昭和十六年營業概況(自昭和十六年一月至九月)

- 一、車輛數 二四八輛
- 二、總走行軒數 六,八七六,三二〇軒
- 三、乗客輸送數 二八,四二七,三八六八
- 四、營業路長 三二一,四軒

一、第三國勢力消長

昭和十六年度に於ける外國系交通會社、即ち上海電車會社、法商電車會社、中國公共汽車公司是増加の一途を辿る交通量に對して、何れも乗客輸送數に於ては、多少の増加を示したが、一方法

幣の低落、輸入資材の高騰に依り著しき經費の膨脹を來し、之が對策として、各社共一齊に料金値上を行つた。一般に昨年度に比較して營業成績は低下を來して居る。

一、大東亞戰爭勃發以後の見透し

昭和十六年十二月八日、大東亞戰爭勃發に依り、上海電車會社中國公共汽車公司是軍に接收され、爾來軍監督の下に運送中であるが、中國公共汽車公司是燃料補給の方法無く、昭和十七年一月八日營業を停止した。一方上海電車會社は唯一の交通機關として從來通りの運送を行ひつゝあり、當社に於ても燃料節約の見地より、北四川路、楊樹浦に電車運送を電車會社との折衝に依り開始した。今後に於ける見透しとして最も要望されるものは、從來蘇州河を中心に南北に二分されて居た、交通機關の一元化が期待せられる。

車輛代燃化に依りバスの輸送力は幾分低下を免れぬが、電車の一元的運送と相俟つて相當の輸送力を發揮するものと思はれる。バス代燃車の完全裝備は本年度に於て完成され、従前運行せる程度の輸送力は保持し得る見込である。

九、損害保險概況

本年度上海に於ける損害保險界は米英蘭の對日資産凍結令及び大東亞戰爭の勃發に因り一大變貌を來した。即ち前者は本邦保險會社の第三國輸出入貨物に對する海上保險の引受量を極度に減少せしめ、後者は米英等敵國系保險會社の營業禁止により、本邦保

險會社が爾後其の後継者として上海保險界の王座を占めんとするに至つたのである。

本年度中支一圓の治安は所謂清郷工作の進展と相俟つて著々其の成果を挙げ、治安の確立を前提條件とする損害保險に對し之が引受けを助長するところ極めて多かつた。

今本年度損害保險の概況を保險種別により略述すれば次の通りである。

(一)海上及び運送保險

昨年度に引續き本年度上半季に於ては棉花、石油、米、石炭等の重要物資の輸入並に絹絲糸布、雜貨類の輸出旺盛なりし結果海上保險は相當巨額の引受けを示したのであるが六月の資産凍結令以降第三國貿易の杜絶に伴ひ之が引受けは激減せざるを得ざる状態となつた。上海を起點とする奥地鐵道輸送は可成りの活況を呈したが、反面之が輸送に伴ふ綿糸布類の資難、不着事故は相變らず頻發の跡を斷たなかつた。茲に重ねて此の種資難防止對策の必要を強調し此の際輸送業者の一段の善處を要望する次第である。下半季に於ては南支各港仕向のもの相當巨額に達したことは特筆に値する。

本邦損保各社は従來とも海上及び運送保險に付き最低正味保險料の取極なかりしため各社個々に之を徴收して居たのであるが、三月上海日本人損保協會に於て右の點を明確にした。即ち月貨契約の場合の海上及び運送保險の最低正味保險料を保險證券承認狀又はリストノート一通に付金五拾錢と取極め爾後各社とも右申合せを遵守することとなつた。

(二)火災保險

中支に於ける治安の恢復並に生産機構の整備は本年に入り特に顯著なるものがあつたので勢ひ奥地に於ける火保の需要も相當旺盛であつた。殊に現地に於ける中支棉の收買機構の強化に伴ひ上海及び漢口を夫々中心とする其周邊市鎮に於ける棉花の火災保險は一段と其重要性を増して來た。仍て之が引受けに應ずるため六月北中支棉花火災保險プールを東京に結成し北支と呼應して中支棉花の引受け消化機構を確立したのである。之により棉花保險に關する限り條件料率は一定せられ一地區に於ける棉花の收容量大なる倉庫は之を數個の特定プロツクに分け一プロツクの最高引受額を金二百萬圓と定め以て極力荷主の火保需要に應ずる途を講じたのである。資産凍結令以後の火災保險は本邦各社とも其の引受量に於て上半季と大差なかりしものと見てよいと思ふが、其後大東亞戰爭の勃發により敵國系保險會社の營業禁止のため従來是等敵性保險會社に附保して居た華人及第三國人の本邦各社への契約移管は相當活潑に行はれた模様である此の點に徴しても本邦會社の多年企圖した大陸進出計畫も愈々實現の軌道に乗つて來たかの感がある。

上海外人火災保險協會に於ては十一月以降火保料率の一部引上及び一割の臨時附加率を徴すべき旨を決議したが同協會加盟本邦會社は非加盟本邦會社との對抗上日本人物件の引受けに限り臨時附加率の適用を免除せらるべき旨の諒解を得た。

(三)自動車保險

本年度自動車保險の需要は、前年度に比し略々同等と見るのが

妥當であらう。而してリスタ自體の觀點よりすれば一車全體の盜難(路上にバイク中のも及び車庫内に休車中のも)を盜去るの類)事故が頻發し、保險者として之が全損金の支拂を餘儀なくせるものありしことは注目すべきである。今、共佛兩租界當局の發表に係る車體盜難數字を示せば次の通りである。

- 昭和十四年度 七車盜難 内三車發見
 - 昭和十五年度 四六車盜難 内三〇車發見
 - 昭和十六年度(上半季) 九三車盜難 内六一車發見
- 一方部分品の盜難も頻發の傾向にあり而も現狀に於ては部分品の市中ストックは漸減必至と見られしため相當の値上りを來し同時に修繕費の昂騰を考慮に入れば現行クリフの Theft Excess \$60 は過小に失する嫌ひあり仍て North China Motor Insurance Association に於て、之が對策として
- (一)盜難エキセスの限度を従來の六〇元より一五〇元に引上ること。
 - (二)自家用車の盜難に因る一車の全損担保に就ては被保險車の評價額に對する一パーセントを割増として徴收すること

を決議し夫々實行したのである、但し同協會加盟の本邦保險會社の引受けに係る日本人物件に對しては前記(二)を適用せざることをとした。

(四)傷害、盜難及び硝子保險

此の種特殊保險は各社とも未だ積極的に營業せんとする方針を見受けなげであるが一般の需要は漸次増加の傾向にあるものと觀察せられる。

前記四項の各保險種目を通じ本年度に於ける損害事故は概ね少かつたと言へる、從つて各社の營業成績は良好なりしものと見てよいと思ふ。

要するに永年上海に確乎たる地盤を築き踏踏跳躍して居た敵國系保險會社は今回大東亞戰爭を契機として茲に一齊退陣を餘儀なくせられたので、今後中支に於ける本邦保險會社の活躍こそ期待するに足ると言へるであらう。

爲替及び金融

一、爲替

一、重慶爲替政策の進展と上海自由市場の消滅

重慶政権の經濟政策が、常に法幣の對外價值維持の基本線に沿つて行はれ來つたことは周知の如くであるが、上海が所謂孤島上海として重慶政権統制力未達の彼岸にあつた爲に、上海爲替市場の自由性は重慶の戦時通貨インフレーションと云ふ基本的な底流の下に、一時三十億乃至四十億と稱せられた遊資を擁し、其の恣意的な活動は法幣不安に依る通貨逃避、換物投機となり事態は常に重慶の政策と背馳した方向に趨つた。

客觀狀勢の悪化、即ち米國を中心とする國際情勢の悪化、皇軍沿海作戦の進展、中央儲備銀行の設立、日蘇條約の成立、樞軸國の新政權承認等の弱材料は益々この傾向を助長し、一月に於ける第四次爲替賣止より爲替は軟調の一途を辿るに至つたのである。遊資の活動に對しては奧地經濟建設の爲の資金内移が盛に勸奨せられたにも拘らず、其の條件の劣悪と、遊資自體の非生産性の爲殆ど不成功に終り、斯くの如き情態に於ける上海市場の自由性存続の爲には法幣安定政策は絶えざる動搖と崩壞の危険に曝されねばならぬ。茲に上海市場の自由性の犠牲に於ける之が管理と統制は重慶爲替政策發展の段落に於て必然に要請せらるべき結論で

あつた。

七月英米兩國に依り採られたる資産凍結は、永い間繁榮を誇つた自由市場上海の特殊性を完全に覆滅した。其の狙ひとする所は(一)邦商の外貨獲得の機會剝奪(二)法幣を通ずる資本の海外逃避の抑壓(三)英米の支持に基く他力的爲替管理型態の採用であり、其の裏に見出さるゝ意義が重慶政権爲替統制力の一元的擴充であり、其の基底とする所は上海を重慶政権の統制下に包含せしめんとする點に大きな意味を有する。

其後相繼いで生起せる諸々の事實、例へば外匯審核所の變貌、商業市場の廢止、爲替割當制の實現、政府系銀行の爲替能力増強及貿易統制等凡て此の觀點に於ける一の共通地盤に立つものと見られよう。然し乍ら斯かる統制の進展、自由市場の消滅が果して重慶統制政策の成功を約束せるものであつたらうか。

上海市場に對する貿易の統制、爲替の管理に依つて、法幣の對外價值は一定の公道相場に釘付けはせられたが、生産流通の内部的機構が依然從前の自由經濟的基礎に放棄せられた結果は、輸入物資の不足に基く一般物資の退蔵、換物投機の促進より、物價の昂騰、生産の衰退を惹起しインフレーション的效果を増大、法幣の對内價值は益々下落するに至つたのである。

重慶の戦時爲替統制力の一元的擴充と云ふ點よりすれば、かゝる上海市場を重慶の統制下に存続せしむるのも、亦上海を放棄し

二、市況

爲替及貿易市場を撲滅し奧地經濟開發に安定資金を流用するも、等しく戦時統制の進展であり、此の故にこそ重慶の一部には強硬なる上海放棄説が生ずるに至つたが、安定資金其のものは最も端的に云へば、中支に於ける英米既得權益保存の爲の擬裝手段に過ぎないものであり、重慶の統制政策が安定資金運用方針に於て英米と對立したことは興味を惹く問題である。

上海市場が從前の自由性を喪失し、物資の充分なる輸入不可能となり奧地經濟への參制が停止し、且つ市場が前述の如き混亂を呈するならば、之は經濟機構の根本的な變化であり、基本的な對策が要求せられねばならない。應急策としては工部局の物價統制を見るに至つたが、基本的對策の樹立を俟つ迄もなく十二月八日上海市場は一瞬にして日本の支配下に入り、上海の歴史的自由性は完全に消滅し、法幣は其の對外價值を喪失し、上海は東亞共榮圈の自主的確立と云ふ日本の使命の下に更生することとなつたことは、重慶統制政策の高度化と云ふ事象にとつて、極めて皮肉なる結末であつたと云はねばならない。

一月

中央儲備銀行の創立發表直後より換物人氣抬頭、爲替も買慕はれ、十六日匯豐銀行は第四次爲替賣止を行ひ相場ノミナル三%五%に低落

二月

米國の武器貸與法案の上院外交委員會通過、在米外國資金凍結

案に對する大統領署名手配完了、五千萬米弗對支借款の決定米國參戰懸念濃厚等、米國を中心とする國際情勢の緊迫に加へ、年末を控へ買持筋の賣戻に相場一般に強調三%、五%迄昂騰

三月

市場閑散保合の處、租界銀行テロ事件、平衡資金サポート放棄説等の爲若干軟轉

四月

日蘇條約成立、重慶四行休業、皇軍沿海作戦進展、英米借款成立等の強弱材料幅轉に底意軟調乍ら小浮動大凡三%、五%見當

五月

米國參戰説、日支和平説に投機筋賣進み最高三%五%と跳上り外銀の防戦買に底意堅調乍ら平穩に越月

六月

獨蘇開戦のニュース、獨伊兩國に對する米國資金凍結もさして響かず中央投機筋邦人銀行賣つて三%、五%迄昂騰したが後半穩、香上銀行は建値を三%、五%に變更した

七月

在米資金凍結の報に相場若干浮動したが新規取引少く、市場は各種ルーミー交錯し一般に成行待にて氣迷状態

八月

八月に入つて棉花、油、煙草の實需盛に出廻り買物殺到、香上銀行は建値を二%、四%に引下げ、月央に至り三%、五%の公道レート發表と共に外銀筋一齊に賣止め市場混亂したが、後開市場大體二%、四%見當にて實需買一方に相場は連日軟化した

九月 英米系銀行は開市場より退場して爲替開市場は一應消滅、公定相場三%、五%にて市場殆んど無爲、下旬對英公定相場は五%に引下げられた

十月 公定相場依然不變、安定委員會の爲替割當は上海の需要を充たすに足らず、英米香港經濟會議に對する悲觀的觀測は益々法幣不安を濃化し、米弗紙幣買入氣旺盛となり三九・五〇元の新高値を示し軍票亦投機の對象として採り上げられ、三十九圓%から二十三元迄昂騰した

十一月 公定相場は依然不變、米國陸戰隊引揚に租界不安人氣益々激化した、米弗札は英米兩國對支貿易統制實施に依り、米弗手當の輸入不可能となつた爲二十九元迄下落、軍票は盛に買煽られ二十圓%迄昂騰したが後利喰賣、日米交渉好轉、日支和平のルーマに買手見送りにて二十七圓%迄戻す

十二月 對英米開戰、皇軍の租界進駐に依つて英米重慶銀行は接收せられ、爲替市場は消滅した。邦人銀行、中立銀行、華人銀行は十五日迄休業した。軍票に對しては十六日より公定建値二五・二五%發表せられ、市場も大體基準相場に附隨、米弗札は十八弗迄下落した。

二、金 融

上半季にあつては二月爲替實需手當の決濟に一時匯割引率の昂騰を示したが、一般に尨大なる遊資の處分難に金融基調は緩慢匯割引率は五月以降消滅し却つて匯割にプレミアムが生ずるに至つた。資産凍結後は法幣の外貨兌換性狹隘化に換物人氣拾頭し、双十節前後拆息は十一仙迄昂騰した。大東亞戰爭勃發後一時引締を見せたが市場の沈滞の爲相不變の緩慢狀態を續けた。

一九四一年	匯割引率	錢業拆息
二月十三日	五・五一六・五	(單位仙・日歩)
三月卅一日	五・〇〇	
四月廿五日	七・〇〇	
五月二十四日	一・〇〇	
(六月初旬匯割は却つて四一弗プレミアムが生ずるに至つた)		
六月二十八日	〇・〇三	
七月二十五日	〇・〇四	
八月二十三日	〇・〇二	
九月二十五日	〇・〇五	
十月卅一日	〇・〇八	
十一月廿九日	〇・〇五	
十二月廿七日	〇・〇六	

工 業 概 況

一、概 説

上海が全國工業の中心をなし、事變を経過したるにかゝはらずよく從來からの地位を保持し得たことはその環境の特殊性によるものである。

昭和十六年前年の情況に較べるとそこには既に困難な條件の増大が見られ、生産はすべて減退を來してゐる。新工場の新設は稀有であつて在るものは機構の改組に止まり、舊來からの工業に於て原料の入手難から閉鎖するものが續出してゐる。それらの最も顯著なるものは製絲及び麵粉工業であつた。

本年に於て操短を餘儀なくせられたものは紡績、電器製造、機器鐵工、化學品、塗料、蠟燭、石鹼、卷煙草、毛紡織、染織、製罐、製革等の廣汎な諸部門に亘つてゐる。その間操業をよく繼續し得たものは僅かに絹織、ゴム、製紙業のみであつた。

本年に於けるその盛衰を季節によつて比較すると、年初の三個月間を最佳として、四月より六月間には既にその減退が行はれて以後毎況愈々悪化の一途をたどり、困難なる情況が轉換して繼起してゐる。こゝにそれらの主要な原因を概述すると次の如くであ

(一) 石炭、電力の節減

上海の工業に於ける毎月の石炭、電力の需要は巨額なるものである。

本年に於ける國際風雲の緊張による海上の船舶運輸の漸減は、上海の工業用石炭を日増し缺乏へと導いた。

電力公司發電所に用ふる石炭は開採公司より毎月供給されてゐるのであるが、その數量も過去に較べて減少し、毎月發電用としては僅か二萬五千噸となり過去の半數に過ぎないものとなつた。該公司の貯藏準備せる石炭を三月の統計で見ると十五萬噸であるが、其後の國際情勢と運輸狀態から考へて決してそれ以上の増加は豫想し難く、茲に工業用電力の節減が問題化せられるに至つた。すべてモーターの新設は受付を停止し、所有の電力も一千キロワット以上を使用せるものは、昨年のも最も使用量の多き月の三分の三十を縮小せられ、若しその百分の三十を超過する場合は三分の七十を縮減するに至つた。

石炭は無煙炭の海外に仰ぐものの逐次減少せるを別として、淮南などから供給するものも工場側の需要を充し難く、石炭と電力の不足による諸工業への影響は蓋し深甚なるものがある。

電力会社の統計によると工業用電量は毎年總電量の百分の八十前後を占めてをり、各種工業部門中その使用量の最多なるものは紡績業で、毎年百分の七十餘を占め、その他は麵粉、木材、製紙、ゴム、機器、巻煙草、搾油、製蛋、製氷など合計百分の三十を占めるに過ぎない。

石炭の需要も紡績業が筆頭で工業用石炭の百分の七十三強を占め、その他は染織、メリヤス、製紙業などが占めてゐる。

而して本年の屢次に亘る石炭、電力の節減によるそれらの不足は、當然各種工業の活動を制約したることは云ふまでもなく、故に生産方面に就いては下半年を上半年に較べるとその減退の差が著しく目立つてゐる。

(一)原料の入手難

本年に於ける原料の入手難は前年よりさらに甚しいものがある。上海工業の原料はもとより國內外に仰いでゐるが、それらの供給は逐月減少を呈し、五、六月以降は特に甚しさを加へてゐる。

それは一昨年の英佛の敗戦後、英國及びその植民地は原料品の樞軸側への流出防止から、嚴しい統制を施行したため、國外原料の上海への輸入は、すべて英領事館の許可證を必要とするに至つたからである。

又、輸入數量も制限せられ、即ち英、漆の羊毛、南洋及び蘭印の錫、ゴム、鋼鐵などがそれである。

米國も昨夏日米關係の緊張後對上海向けの銅、鐵板、鋳力及び一部の化學原料に嚴しい統制を加へ、七月二十六日にはさらに米國の中日資産凍結が行はれて輸入品の爲替申請に制限を設ける等

だ完全に遮断せられなかつたところは、外船の自由な往來を見てゐたが、本年四月に浙江の寧紹が皇軍によつて占領せられ、福州相繼いで攻略せられるに及び、その重慶側への輸送路は全く切斷された。かくして、物資の輸送は僅かに香港、漢口路及び澳門等を経由するものに局限された。但し漢口路は軍用道路であつて、そのみにて不足を告げてゐる現状から、他の物資輸送は推して知るべきである。

此の外に和平區域及び華北に就いて見ると、現在なほ軍事狀態の下にあり、物資の外への流出の防止と、非必需品の消耗を制限する立前から、パーター制が嚴重に施行せられ、そのために上海工業製品の搬出は昨年よりも一層の困難さを加へてゐる。同時に本年に於ける日米關係の悪化は生絲の對米向輸出に大減色を生じ、又機器及び金屬製品は海關がその輸出を禁止した。

資産凍結後は綿絲布及び綿織物、化學品の類もひとしく輸出禁止に遭ひ、又泰國、安南は中國織絹品の輸入數量を限定するに至つた。

以上の如く各種工業は多岐な事由による多様な影響を蒙つた。國內の再輸出は、海關の統計に於ても参照すべきものがないが輸出は本年十ヶ月間の統計を昨年全年のそれと比較するとなほ超過になつてゐる。

その超過の第一の原因は生産品の價格が昨年より倍加してゐることによるものと、第二の原因はその數量が南洋、新嘉坡、印度などの需要旺盛により増加してゐることによるものである。而して多くは八月以前に輸出せるものである。茲にその主要なものを

工業界が受けたる相續ぐ打撃は極めて大きいものがあつた。

十二月の大東亞戰勃發はその在庫原料をも封鎖するに至り、諸工場は未曾有の苦境に當面した。又國內の原料に於ても、蠶繭、小麥、落花生、胡麻、棉實、木材、皮革、棉花、葉煙草など軍によりその各産地よりの自由搬出が制限せられ、且つ船腹の不足などから上海各種工業中その影響をもつとも受けたるものは製絲工業であつた。

その三、四月間に操業せるものは僅か三軒で六月に入つてからは全部停工してゐる。

其の次が麵粉工業で下半年に於て所有せるところの在庫麥は十月間には僅か數日の操業に漸く堪へ得るに過ぎないものであつた。その他はエナメル、製罐の鐵板、皮革業の牛皮、ゴムなどの原料、又は製蛋の鶏卵、搾油業の棉實、落花生、毛紡織業の羊毛などに於ても不足を來さざるものはなく、すべてはその最低生産限度を餘儀なくせられ、しかも十一月にはもはや停工に立至つてゐる。

(二)交通の困難と販路縮小

上海の各工業製品は國內外にその販路を有し、すべては輸入の船舶を俟つて出荷せられてゐるが、昨年各地港灣が封鎖せられ、英、獨戰争の激化は、外洋船舶の屢次の徵用を伴つた。故に昨年の噸數を外洋を往來せるものに就いてみると、既に一昨年の一千五百萬噸より一千二百萬噸に減じ、その沿海を往來せるものは一昨年の六百五十萬噸より五百萬噸に減少を見てゐる。

過去に於て香港、浙江、上海、福建及び長江下流沿岸の如く未

列記すると次の如くである。

品名	本年度輸出額(十個月)	昨年度輸出額
生絲	一七三、三四九	二五二、〇五一
綿布	一九二、九一五	七九、〇四五
金屬製品	一五二、六八四	七五、六五九
蛋製品	三七、五九五	七一、九七四
綿絲布	一三六、七三三	七〇、七五〇
其他綿織	一一九、五二〇	一〇一、六七三
茶葉	三三二、一一二	四二、二〇九
植物油	三七、五三四	三八、九一四
化學品	四二、七五五	三四、九七四
絹織品	五三、五八四	二五、九一三
其他紡製品	二七、七二二	一八、六七八
其他紡製品	一一、九七六	一七、〇六五
電氣用具	一一、九七六	一七、〇六五
紙類	二二、〇四三	一三、三四一

(四)生活費騰貴と購買力低下

上海の人口は華、外人合せて五百萬に達し、その消費力は輕視し難いものである。麵粉、毛織の如き食料品及び衣料品などの生産品は一部の再輸出せるものを除き、すべては上海に於て消費せられてゐる。

本年の労働者の生活費指數は昨年の百分の五七九に對し本年六月には既に百分の七七二を示し、十一月には百分の一、一一七に達してゐる。

即ち給料に依つて生計せるものはその收入によつて支出を維持

し難く、従つて工業製品の賣行きも自ら過去に於ける如き好調を
缺き、工業生産品の消費力減退の原因をそこに伴つてゐる。
かくの如く工業生産はその消費力の減退により生産額の縮減を
餘儀なくし、従つてそれは労働者の生活に脅威を與へる結果とな
り、労資間の紛糾を惹起するに至つた。そのために本年は罷工、
停工などの事件が特に多く見受けられる。

工場はこれらの影響により生産を減少し、その負担の増大を見
たることは又昨年と較べてさらに著しきものがある。
こゝに三期間の生活費指数を比較すると次の如くである。

食料	家屋	衣料	其他	總指數
二十九年十二月	六六三	三六一	四八七	五七七
三十年六月	八五九	五五三	五五三	五七九
十一月	二五三	八三三	一〇七〇	一三三三

上述せる如き數項が上海工業の停滞の主要な原因である。

即ち米國の日支資産凍結、安定資金委員會の原料品輸入に於ける
爲替申請の制限、並に輸出禁止により各種工業は次第に停頓の
状態を露出しつゝある際に、日米の戦争勃發は國際情勢を激變せ
しめ、國外の販路を全く杜絶し、英米系の商社はすべて監視を受
けることとなり、同時に金融方面に於ては預金拂出に制限が設け
られて商業はその活動力を喪失し、就中生産事業の受けたる打撃
は特に大きかつた。

そのために工業界はかゝる情勢下に、極力當局の支持を得たる
にもかゝらず、遂に環境の歸趨に従はざるを得ずして、停工、
休業せるものを續出した。而して年末には紡績、巻煙草、絹織、

メリヤス、ゴム、毛織各工場とその他一部分の操業せるものを除
き、其の殘餘のものは全部停工した。

右の如く本年各種工業に於ける國際情勢の激變と上海經濟の屢
次の變動によつてもたらされた生産事業の停滞を業種別して各々
その一年間の動態を分述すると次の如くである。

(一)紡績業

上海紡績業は工業部門中の首位をなし、全埠の華、外商工場は
合計六十四軒、紡績數二、一八六、〇二六錠、織機二六、八〇六
台その中、華商紡績工場二十一軒、紡績數計六一六、六〇八錠、
織機一八、五二五台、日商及びその代理經營せるもの計三十八軒
紡績數計二、一六六、〇二六錠、織機一八、五二五台、その他は
英商五軒、紡績數二四一、〇〇〇錠、織機三、六八六台である。
總紡績數に就いて云へば華商は昨年より一、九四〇錠の増加で、
その他は増減なしである。

本年に於ける紡績業の活動狀況は、年初の稍減退せるを除き、
春季の賣行なほ旺んであつて各工場は一樣に以前の生産額を取戻
してゐる。三月に於ける景況は昨年度の最終の三個月間に於ける
ものをなほ超過してをり、四月には華商に於てさらに錠數、織機
の増加を示してをるが、電力会社が節電を行つて以後は各工場の
生産額は俱に減退し、同時に英商新怡和が罷工し、又華商の大工
場は操短してゐる。

七月には物價昂騰により香港向けの販路が活潑となり、工場側
はその刺戟を受けて一時生産を増加するに至つたが、其の後の原
料の缺乏に伴ひ、奥地物資移動に統制が加へられ、これに繼い

で海關の輸出禁止が行はれ、怡和、鴻章などはすべて労働争議を
發生して、十一月には公大第四廠が失火し、該業活動の減退の原
因をなした。

本年に於ける綿絲の生産額は三月の七四、〇〇〇餘梱を最高と
し、十月の五六、八八八梱が最低となつてゐる。綿布の生産額は
三月には一一五萬疋であつたが、十月には八六萬疋への減少であ
る。然し最近の情勢の特異性より推してその生産額の低下はさら
に増大するであらう。

最近の二年間の生産額を比較すると次の如くである。

二十九年平均(梱)	三十年平均(梱)	減少百分比
華 廠	二〇〇、一六三	三〇・一
日 廠	二九九、六五三	六一・一
英 廠	三五、四六二	三七・七
二十九年平均(疋)	三十年平均(疋)	減少百分比
華 廠	一、二二三、〇七六	二八・一
日 廠	一、一三九、九五九	三〇・一
英 廠	一一五、六二〇	六一・一
二十九年平均(疋)	三十年平均(疋)	減少百分比
華 廠	八八七、四一七	二八・一

右表に據ると平均生産額は昨年より減少してをり、就中日商紡
績工場のそれが最も甚しい。綿絲は百分の六一・一、綿布は百分
の五九・六の減少で、その次が英商工場である。華商工場が最少
で綿絲布各々約百分の三十の減少となつてゐる。但し表記の本年
に於ける數字は十個月間を計上するものであるから、なほ最近の
二個月間の狀況を考量すればその減少の程度は上述のものより更
に大きなものとなるであらう。

綿絲布の販路は八月末の輸出禁止に遭ふ以前、春季に於ける皇
軍の北海上陸による浙江、福建の封鎖線の擴大によつて、先づ最

初の打撃を見、四月に入つて奥地輸送の道が阻止されて、さらに
その決定的影響を蒙つた。しかし六、七月は香港、大鵬灣等を経
由して奥地輸送が行はれてをり、此の外に泰國、印度、フィリッ
ピンなどの販路も弱からず、又日商綿絲の台灣向輸出せるものが
夥しき數に上つてゐる。

北支、中支はバーター制のために華商の取引は困難であり、八
月以後は海關の斷然たる輸出禁止によつて、上海の紡績業の命脈
は僅かに本埠をもつて唯一の活路となすに至つた。換言すれば、
その過去に於ける好況は結局一時的な現象であつたと云ふべく、
本年に於ける二十支綿絲の價格は年初の一、三四五元より十一月
の三、二〇〇餘元、十二磅綿布の三十九元より一百元以上の昂騰
振りはむしろ奇蹟的な事柄に類するものであらう。

資産凍結後外國爲替の相場場の暴落と棉花の輸入困難は遊資と
投機の弊害を無際限にした。

該業の原料は、支那棉としては火機、太倉、崇明、下沙、姚花
通州、安慶、烏江等毎月平均四萬担足らずで、大部分は印度より
輸入し、米棉巴西が之に次いでゐる。海關の統計によつてみると
本年の輸入數量は非常な減少を示してをり、昨年全年の輸入合計
二百三十餘萬キントルに對し本年十個月に輸入せるもの僅かに一
百三十七萬餘キントルに過ぎず、昨年の半數である。

その原因は勿論紡績工場の毎況の操短によるものであるが、又
國際情勢の激變に伴ふ船腹の不足により各業者は成行きに對し傍
觀的となつたことなどによるものである。

若し紡績工場の毎月の消費量を二十萬担としてみてその不足

は免れず、結局毎況操短によつて、辛うじて現在の在庫高をもつてなほ三四ヶ月の消費に供するの外はなかつた。該業の本年に於ける景況は昨年好調には到底匹敵し難く、價格の昂騰を見たるもその時宜を失し、昨年の利潤率には遠く及ばない。

(二) 染織業

上海の染織工場は僅かに紡績業に次ぐもので、合計三百六十餘軒、機數約四千台、本年頭初に新設せるもの計二十二軒、資本計一百五十餘萬元、共有機數五五二台、每軒平均資本七萬元である。然し既設の中小工場の中、既に停工せるもの二十餘軒あり、該業の凋落は既に昨年よりその徴候を露呈しつゝある。本年に入つてからも國外への販路は依然停滞し、且つ浙江の要路温州、寧波が最初封鎖を受け、後に攻略せられるに及び販路の狹隘は異常なものとなつた。

その後重慶側は奥地物資の極度な缺乏を見越し上海工業製品の奥地吸收を計り、以前に禁止せる日商の綿絲布及び獨逸の顔料、顔料及び化學顔料が缺乏せるためその價格の昂騰を來してゐた。重慶側が製品の吸收を企圖するも、要路はすべて遮断せられてをり、且つ製品は需要のみに終始して、同業者間の軋轢を激成し、いたづらに價格の昂騰を現出した。

そのために七、八月には染織工場の大部分は停工し、綿布工場は操短して漸くこれを支持したが、それも綿織品の輸出禁止に當面して半數は停工するに至つた。

造が漸次減少せるため上海に於ける販路も縮小したること等である上海絲業界の斯くの如き不振は華中蠶絲公司にも當然反映し、その營業成績は昨年好調に遠く及ばない、該公司の三月の開工後に於ける蘇浙兩省の春繭の收穫は不良であり、秋繭を收穫して繭絲後には日米關係漸く緊張して、資産凍結が行はれ國外の販路は阻止せられるに至つた。

海關統計によると本年の生絲の輸出額は昨年同期のものに較べて百分の二三・四の減少である。昨年全年と本年十個月間を列記して比較すればその大體は窺知し得よう。

國別	二十九年	三十年(十個月)
米	二,五〇二,八一九	一,七〇二,二八一
英	二四五,九一七	一四七,七〇二
印	二八九,〇一六	二七二,三八二
佛	二六一,一八七	三三,三七三
其他	二二九,七八〇	一七二,三三二
總計	三,五二八,七一九	二,二九八,〇六〇

(四) 絹織業

その操業せるもの常に二百四五十軒前後あり、機數約二千四百台、大工場に於て操業状態及びその生産額が環境の推移によつて逐次衰退せるものは別として、該業は比較的小工場が多數を占めてゐることから、その盛衰常ならず、本年は新設せる工場は皆無に等しかつた。

が然し停業するものもあるも、またそれを繼承して經營するものがあり、即ち該業の特徴は小資本をもつて容易に經營し得ること

年末の二個月間に運轉せるものは僅か二千台前後で、その生産額に就いてみると、上半期の平均毎月八十萬疋を保持するに對し下半期は四、五十萬に過ぎない。

従つて本年の生産額は毎月約五十萬疋平均として昨年に較べるとその半數である。かゝる不振によつて來るところのものは結局販路の閉塞にそのすべてを見出してゐる。

(三) 製絲業

上海は曾つて製絲業の一時の全盛をみたことがあるが、本年頭初より六月間には終始三四軒の操業をみるのみで、虹口の日商工場と合せて十軒足らずである。

華商工場の主なものには怡和、鴻大、大陸、上海宏利等であるが、その繭絲車は未だ千台以上を超えたことがない。

此の落莫なる有様は上海工業の前途の凋落の前觸れを暗示するものがある。その生産額を昨年に比較すると甚しき低下が見られそれを過去の本絹製品の生産額に徴してみればさらに一層明白となる。

上海絲業のかくの如き衰落の所以を跡づけると(一)華中蠶絲公司の嚴重な蠶繭の統制により蘇浙產繭區からの收買が困難となり僅か少數の密輸せるものに依存してゐること、(二)輸出制限によつてすべては華中蠶絲公司に屬する工場の製品以外は檢査を受けて自由に輸出することを得ず、(三)歐洲戰爭の擴大によつて英、米、佛向けの販路狭少し絲價が下落したるにも拘らず、實銀は値上を見、過去に於ける如き利潤を見ることが不可能となり各工場はその經營の關心を喪失した事、(四)絹織工場に於ける本絹の織

とが其の一、絹織品の種類多様にして國外に輸出しなくとも上海及和平地區にその販路を見出してゐることが其の二、該業の原料は一時缺乏を告げたが然し英米の需要減少に伴ひ、國內需給に餘裕を生じ且つ本年は國內絲價があまり騰貴しなかつたことが其の三、等に基因して該業はよくこれを支持することを得た。

次にその生産額に就いてみると電力節減による人絹の不足と價格昂騰及び生活費指數の上昇は美亞、美文、勝德等の諸工場に労働争議を引起してその生産額を減少せしめた。

統計によると本年は毎月平均約五萬疋で、昨年の六萬疋に對し約百分の二十の減少である。それを比較すると次の如くである。

産品	三十年(百分比)	二十九年(百分比)
本絹製品	四・二%	四・四%
人絹製品	三三・二%	三八・五%
交織製品	五三・八%	五七・一%
其他	八・八%	—
總數	一〇〇・〇%	一〇〇・〇%

該業の需要原料は二十乃至二十二條絨が約四千元、輯里絲が約三千元である。

これらは十月十一月に一時騰貴し、そのために賣惜みが行はれて價格昂騰をみた。該業は緊急なる部門に屬せざるも、人絹はその製造不足と日貨の供給減少と軍票の値上りのため暴騰して、一二〇號が一千元より四千元となつた。

然し諸製品の價格もひとしく暴騰をみたるため、該業のみ相當な利潤を得るには至らなかつた。

本年に於ける絹織品の販路の多くは安南、泰國、新嘉坡等で輸入制限に遭つてゐるにも拘らず、輸出の増加をみてゐる。此の外には上海に於て總生産額の百分の二十が維持せられ、その他は長江流域が未だ嚴重に統制せられざる以前江北、京滬、滬杭一帶の需要が百分の二十前後を占めてゐた。

國外向けは香港が首位で三四〇、九三九公斤、價格一三、二五四〇四元、その次が印度の二九九、〇一六公斤、但し價格は前者を超過して一三、四七七、二八二元となつてゐる。その次が泰國の七七、九三六公斤、價格五、一六一、八九一元である。

十個月間の輸出總額は合計五、三五〇餘萬元で昨年全年の輸出總額二、五九〇餘萬元に較べて二倍となつてゐる。

(五)毛紡織業

該業は合計四十八軒その中、華商が四十軒を占め、その他は外商の八軒である。これを更に分けると毛織物業が二十七軒で毛絲専門のものと、紡毛その他を兼ねるものが合計六軒その他はすべて駝絨工場である。

華商各工場の資金の總計は一、千一、二百萬元前後、外商は僅か八工場に過ぎないがその資金の豊富なことは華商の到底企及し得ざるどころである。全埠の毛織機数は華、外商工場を合計して約一千台を數へ、此の種設備の整備に於ては事變以來の最高記録をなしたが、惜しいことには本年は海外よりの原料供給が英、濠に於て制限せられ、國內の供給も交通梗塞により又減少したことである。そのために操業の程度は昨年と較べて著しく縮減された。

八月以前は大抵夜業をして注文の多い工場はこれを支持したが

その後は夜業も毎週三日の割合となり、十月以降は夜業全部を停止するの止むなきに至つた。

毛紡織工場は外商密豐廠を除きその他の華商安樂の如きは早くから停頓して人絹の生産に従事し、裕民は原料不足で停工し、上海毛絨廠は大巾操短をみた。此の外は十餘の駝絨工場もさらに營業振はず、三、四、五、六月はひとしく不況裡に経過した。

その後操業を欲するものもあるも各種情勢は上半期より悪化し五六軒の工場再開せるも羊毛の獲得容易ならず、又販路は停滯し、如何ともし難き状態の下にあつた。

その織物の上に就いて推量すると昨年約一百七八十萬碼であるから、本年は羊毛及び毛絲の輸入減少を考量して、少く見積つても四割の減少とみるべく、その生産額は多くとも一、百餘萬碼に過ぎぬであらう。

毛紡織の原料は駝絨工場の紡織せる羊毛の浙江の吳興、杭州附近一帶となほ少數の密輸せるものから供給されたるものを除き、その他は英濠州より輸入されてゐたが、本年英濠州の輸出統制の強化と歐洲戰爭の擴大による東亞時局への反映は往時の比にあらず又資産凍結後は輸入品の申請を困難ならしめ、そのために昨年同期に於ける羊毛の輸入は計二、七九五、八七六公斤に對し本年十個月間に輸入せるもの一、二五〇、九九七公斤で半數以上の減少である。

羊毛絲の輸入も激減して居り、原料のみに就いてみても該業の生産額の減少は疑ひ無きものであるが、製品の價格昂騰は莫大な利益をもたらした。

其の四倍の増加であつた。

但し小麦の輸入は之に反し本年は五二一、九一九キントルで昨年同期の一、三三五、二二二キントルに對し減少の程度約一倍以上となつてゐる。

(七)卷煙草業

卷煙草業も本年は逐次不況となり昨年とは比較にならぬものがあつた。

華商工場の筆頭をなす華成、南洋の如きも前後して德興、利興、德隆、匯業、大東等の諸工場に製造を委託した。

が工場と機械を有する規模の大なる福新、大東等も、奥地の統制嚴重となるに伴ひその販路を失し、さらに労働争議を誘發してゐる。

葉煙草は未だ缺乏してゐないが、捲紙の供給に既に恐慌を生じ又美倫捲煙廠は一度失火したることなど錯綜して、此のために該業は苦境に陥つた。

英米煙草工場は華北の日商煙草工場の進出に伴ひ過去の擴張力を抑制せられ、且つ本埠日商工場の華盛、東亞等の異常な活躍振りが大きく反映して華、外商の退陣を餘儀なくせしめた。

上半期に於ける華商四大工場の毎月の平均なほ六千箱前後を産出したが、その後は四千箱前後に減少し、最近既に三千箱にも達しない状態である。

英米工場又然りて、僅かに日商工場がひとり順調な生産を續けてゐる。各月に就いて見ると、本年は一月の生産額が最高で、次が十月、三月は全部停頓しており、昨年の總産額に較べると百分の二十七の減少である。

その主要な原因は販路が本埠のみに局限せられ、且つ此の種製品は原料の輸入が減少し外國爲替が下落したため久しく遊資を擁してゐたものの垂澁措く能はざるものとなつたことによる。その他は僅か華北、長江下流各都市及び京滬杭一帶に少數の賣行をみた。

(六)麵粉業

本年の麵粉工業の最大の困難は小麦の入手ができなかつたことである。

地場麥の收穫は不良の上に搬出が禁じられ、外國麥は船腹の不足で減少したため華商の兩大製粉系は阜豐の年初改組を行つてより未だ製造を開始せざるを除き、福新及び華豐は臨時に操業を行つてこれを支持し、而して上半期は平均毎月僅か九日半の操業で産出せる麵粉は約一百萬包、その中には工部局の廉賣粉が二十五萬包含まれてゐる。

下半期は七月より十月迄原料不足で操業されず、十一月間に兩工場の合計八萬餘包に過ぎず、故に華商に於ける生産額は全年を通算して平均毎月僅かに九萬包のみであつた。

日商工場の生産額は近郊より小麦の入手が比較的便利に行はれたため、毎月の生産額はよく五十萬包乃至七十萬包を維持した。

但しその中百分の七十は華北向の輸出に係り、パートナー對象の一環に供せられた。

此のために本埠に於てはその大半の需要を洋粉に仰ぎ、十個月間にその輸入せるものは八十八萬キントルに達してゐる。昨年全年の輸入は二十二萬餘キントルに過ぎないから、およそ

華商工場は百分の五十以上の減少である、即ち昨年の總産額四十一萬箱に對し本年の總産額は僅か三十二、三萬箱前後に過ぎない。

(八)皮革業

該業は合計八十餘軒で華商を代表せるものは精益、榮益、中南老永森等の諸工場である。

該業は昨年より既に牛皮の購入に困難を感じ、局面の推移に伴つてその困難を増大した。

當初華北からはなほ青島、芝罘等から供給をみてをり、浙江省は江北一帯を除いてもなほ寧波があり、その他にも一部分密輸せるものから補給を受けてゐた。

がその後長江以北が統制せられてからは専ら海波のみを唯一の供給地として頼みにしてゐたが、四月に陥落してから該業の死命を扼せられるに至り、遂に路を海外に轉ずるの外なく、香港、海防、泰國、マニラ等に活路を求めざるに至つた。

而して英國が四月にさらに牛皮の香港よりの再輸出を禁止することを命じたため、かくして最後に残るは西貢と泰國からの少數の供給に係るもののみとなつたが、しかしその注文せるものも何時着荷するか一定し難き有様で、少くとも二、三ヶ月は經由するものと見られ、且つ上海に於ては糶革に用ふるタンニンが甚しき缺乏を告げ、之の英米からの供給も早くから杜絶してゐる状態であつた。

が年初各工場は鋭意努力して五、六月には半開工するものが二分の一を占め、小工場に於ても四分の一の操業を見た。

以後は停工するものが日毎増加しはじめ、四大工場の中、中南が工場の一部失火して損傷を受けて停工せるを除き、その他は十一月に相次ぎ停工した。

試みに海關統計によつて之をみると昨年の生皮の輸入は計二五八三四キントル、本年十個月間の輸入は計三七、八四〇キントルであるから昨年よりは却つて増加を見てゐる。

その中目立つてゐるのは工場側に於ける大量購入で、爾後の異變に備へたことである。

本年の年初と年末の皮價は一倍以上の値上りを示してをり、華商の産額減退の所以をまたこゝにも窺知し得る。

(九)ゴム業

該業の上半期に操業せるものは合計十六軒であるが、下半期には十四軒に減じてゐる。

その中生産の大なるものにしてよく正常の業態を維持し得たものは僅かに大中華、養生、正泰、雙龍等數工廠のみである。

産額に就いて云へば、此一年間は、五月以前をもつて最佳として三月がその最高をなしてゐる。

以後は電力節約に影響せられて逐次減退して夏季に入つて不況となり、産額は急に低下してゐる。七月末には米國の日支資産凍結が行はれ、蘭領東印度よりの原料の上海向輸出は禁止され、その振軸側への流出を防止した。

そのために泰國より購求するの止むなきに至り、また他方には上海に於ける輸出禁止による原料の買占めが行はれて、工場側の需要に不足を生じたため、生産の低下を招來した、十月に入つて

ガソリンが漸く嚴重な取締を受けるに及び、愈々その低下の程度を深め、以後の二ヶ月間にそのもつとも大きな變化が行はれた。が然し本年は尙昨年と較べると大した差異は認められない。

(一〇)五金機器業

該業の範圍は至つて廣汎である。鑄物、電氣機器、基本工作機、各種機械の部分品などのすべてに亘つてゐる。

全上海では計一千三百軒あり、英獨からの鋼鐵の輸入が一昨年六月以後杜絶えて、米國も又秋より輸出禁止を行つたため五金機器の原料は電池、電球、無線電信機、錄音機等諸原料の一部分を除き、總ては本埠の在庫品にのみ依頼することとなり、而して懐中電燈、電池類は早くから輸出を禁止せられ、その生産は大量減少を來して僅かに労働者の生活を維持し得る程度となり、其他モーター、電氣機器、各種の機械類は英領印度、南洋、香港向輸出が巨額に上つてゐたが、これも四月に於ける海關の輸出禁止が大きく影響した。幸ひにも今後は華北向の販路が活潑であるが、再三の電力節減で石炭の價格昂騰し、鋼鐵原料の暴騰は境を知らず、且つ海外への輸出解禁の望が失はれてゐることにより、十月には既に百分の五十以上の停工を生じてゐる。

昨年に較べその衰退は著しく、一昨年初頭の狀況を彷彿せしむるものがある。

(一一)今後の希望

上述せる如く各種の工業生産の本年の景況は昨年には遠く及ばない、而して表面その繁榮を保持し得たのは結局通貨下落と物價騰貴とによるものである。十二月八日の大東亞戰爭勃發後の一般

經濟情勢の變動はことさらに大きかつた。金融方面は銀行に於ては預金拂出制限を施行して、大きな波紋を投じた。

本埠工業界の需要原料は十中の九迄海外に仰ぎ、その大なるものは紡績業の原料であるが、その最近數年の情況をみると外棉が百分の八十を占めてゐる。

捺染業の化學原料もすべて外來であり、卷煙草業の捲紙、紙箱包裝紙の類も葉煙草の約百分の十を除き、其の他は全部外來である。

機器五金工業の銅、鐵、鋼、錫の類も一として英米からの輸入に依らざるはない。

次に販路に就いてみると國內に於ては和平區域及びその他少數のものを除き百分の七十はすべて海外に向けられてゐる。

現在の如く戰爭の最中にあつては、生産が行はれても販路がなく工業本來の製造と消費が原則的に成立せぬ現狀に於て、生産事業は如何にして推進せらるべきか、多端な困難に逢着してゐる。

此の外にも原動力の問題が關聯して居り電力、石炭、ガソリンの供給は相當大きな支障を伴つてゐる。

かかる條件の下に工業はその本年の上半期の狀態への復歸を企圖することも既に容易ではなく現狀を維持することに汲々としてゐる。

然し生産事業は經濟部門中の最重要の一環をなし、各國平時にあつては極力生産の増進を提唱し國內の一切の生活水準の向上が企てられ、戰時に於ける莫大な戦費は無論軍事資源によつて據出せられるが、それにも増して重要なことは、各方面の民心が

安定してゐることで、軍事上の勝利にとつて一層不可分なものである。

現在日華の提携が行はれ、共同して米英東亞の殘餘勢力を驅逐し東亞和平、共存共榮の實現のために邁進すべく、偉大な艱苦にみちた使命に遂着してゐる。

かくして生産事業に課された役割又大なりと云ふべく、而かも上海は全國に於ける最大の生産都市として二重の意味に於て中心的な役割を擔つてゐる。

上述の如き事由によつて吾人は上海の工業生産を回顧する時、日華協力互助の下に、次の如き數項の諸施設を必要と考へる。

(一) 消耗品生産の制限 戦時下に於ては軍用物資及び生活必需品を前提とし、巻煙草、化粧品、玩具、メリヤス及び絹織品などの諸事業はその最低生産に限定せしむ。

(二) 實需品の生産増加 すべて軍需、實需に關する工業の生産増加を計らねばならぬ。即ち皮革、電器、罐詰食料品、ゴム、麵粉業などであり、次に、毛織、紡績業等も軍用資源に資する處多大であるのみならず又日常生活の必需品である。

(三) 原料の充分なる供給 過去に於ける租界の中立性はなほ充分清算されず、生産事業も未だ充分利用されてゐない。原料に對してはもとより厳格な統制を施行すべきではあるが、今後はその封鎖を緩和し工場の手當に便宜を與へ、工業界をして既成の設備を運轉して、各種需要品を供給せしむ。

(四) 合理的な生産管理の採用 戦時工業は平和時の生産事業とは自ら異り、自由な製造は限定せられ、原料の入手も容易ではな

い。故に一切の生産品は規定に應じ先づ普遍的な消耗品の生産を主體となし、その數量を制限し、且つ製造を規正して合法的な利益以外には不當な所得を占めることを防止し、公定價格の安定を計る。

(五) 金融界と工場との關係 平和時工業の發展はすべて金融界の資助に依存してゐる。戦時に於てはさらにその緊要性を深め、金融界の支持を不可欠ならしめてゐる。蓋し時局の不安な環境の下に於ては、工場側にあつてその預金あるものは勢ひ拂出を行ひ、他方その外からの回收が必ずしも圓滑を期得ざるに拘らず、同時に銀行、錢莊などの貸付も一齊にその回收を行ふため、往々工場側の立場は苦境に陥り、その資金調達に困難となる。かゝる事態にあつては私立銀行、錢莊の能力に限りあることは、怪しむに足らないことで、少くとも國立銀行がその衝に當つてこれを支援することが要望される。(中央儲備銀行調査)

二、紡績業

一、日支事變前の概況

日支事變前數年間には於ける支那紡績業は世界的經濟恐慌の影響を受け極度の苦境に沈淪したが、昭和十一年に至り例年に無い好天候に恵まれた結果各種農作物も大農作を告げ、自然購買力も増大したので紡績業も再び活況を呈し事變直前には國籍の別無く何れも全機能を發揮せるのみならず、進んで増設擴張さへも計畫さ

れるに至つた。

上海及其の附近は支那に於ける紡績業の中心であり、支那紡績五〇〇萬錠中その七割は上海を中心集中され、其の國籍別割合は支那人紡五〇%、邦人紡四五%、英人紡五%にして、日支兩國紡績業は外觀的には略相匹敵して居るが優秀なる設備と卓越せる技術更に優良なる製品を有する邦人紡績は實質的に斯業をリードしてゐたのである。

然るに南京蔣政府は上述の事情に鑑み邦人紡の躍進を抑制せんとし所謂抗日政策を實施した。即ち先づ原棉對策として支那棉の改良増産を標榜し積極的に農村合作社を支持すると共に、農民の金融を圍り極力良質棉花を支那側に確保せんとし、更に製品對策として所謂國貨提倡(國產獎勵)の美名に隠れ邦人紡製品をボイコットせんとした。

二、事變に依る損害と復舊狀態

支那に於ける邦人紡績が日本對支經濟力の根幹をなす關係上豫て抗日分子よりは對支經濟侵略の最大なるものと目され終始抗日畫策の對象となつてゐたが、日支事變に於ても攻撃の主要目標となつた。即ち邦人紡は昭和十二年八月十三日戦端開始前一齊に工場閉鎖を斷行したが、敵の砲爆に曝され精紡約二十三萬錠(全體の一六%)、捻糸約四萬錠(全體の一%)、織機約四千台(全體の二%)破壊せられ、それに工場建物、社宅、其他原料製品の損害を加算すれば僅に三千萬圓以上の損害に上り、更に青島邦人紡(九社)及漢口泰安紡も爆破放火に遭ひ全滅の憂目を見るに至つた。然るに昭和十三年上海附近の秩序恢復と共に宣撫上の必要より操

業に着手し、舊正月後正式運轉を開始し、三月末には精紡約七十七萬錠を運轉し、四月に至り本格的に操業し、六月には八五%となり、漸次操業を擴張し、十二月末には九八%、翌年三月には全運轉となり爾來フル操業を續け、昨年九月に至り四圍の狀勢に鑑み一律に夜業を全廢し五割操業を敢行した。

支那人紡績の損害狀態を推定すれば精紡約二〇〇萬錠中その一割以上全壞し、更に二割は大部分使用不可能となり、邦人紡が戦火治まると同時に操業を開始し得たに反し、占領地區内支那人紡は殆んど再起の見込無く、日本當局の命令により邦人紡に於いて運轉することとなつた。

支那人紡績中占領地域内所在紡績は邦人紡の協力無しには自力更生不可能の事情にあつたが、唯租界内紡績(九工場、精紡三四萬錠、捻糸三萬九千錠、織機千七百台)のみは事變中も運轉を續け戦時を外に相當の利益を擧げた。その結果昭和十三年五、六月頃より第三國人名義で紡績新設の氣運起り同年末には七工場設立せられ、昨年末に於ける操業工場は九工場に上つた。

邦人紡は前述の通り當局の指令に依り占領地域支那人紡三七工場精紡約百二十萬錠、捻糸約九萬三千錠、織機約一萬三千台を運營し、原所有者との間に適正妥當なる條件にて日支合作の實を擧げることとなつた。或る程度の修理を加へて運轉可能なる設備は精紡約六十萬錠、捻糸約三萬六千錠、織機約五千五百台であるが漸次運轉錠數を増加し、昨年末には精紡四十七萬錠、捻糸一萬二千錠、織機三千八百台を運轉するに至つた。

其の間軍管理工場整理委員會の斡旋により崇信、振華、民豐、

工業概況

工場名	工場数	精紡錠数	燃糸錠数	織機台数
新工場	1	11,000	1,100	3,100
昌興	1	11,000	1,100	3,100
榮興	1	11,000	1,100	3,100
廣動	1	11,000	1,100	3,100
公永	1	11,000	1,100	3,100
通成	1	11,000	1,100	3,100
返還工場	6	67,000	7,700	21,600
仁德	1	17,000	1,700	5,100
蘇輪	1	17,000	1,700	5,100
民豐	1	17,000	1,700	5,100
大生	1	17,000	1,700	5,100
廣新	1	17,000	1,700	5,100
振業	1	17,000	1,700	5,100
合計	18	212,000	21,200	63,600

英人紡績和、輪昌は邦人紡績と略同一の操業を維持したが十二月八日大東亞戦争勃發と同時に日本軍當局に接收せられ、次で工場閉鎖を命ぜられた。更に左記準米英工場及假裝米英工場も一應日本側に接收せられたが會計監督官の派遣と同時に工場を閉鎖した。

純米英工場

會社名	工場数	精紡錠数	燃糸錠数	織機台数
怡和(英)	3	39,200	3,920	11,760

工業概況

工場名	工場数	精紡錠数(%)	燃糸錠数(%)	織機台数(%)
昌(英)	2	22,000	2,200	6,200
合計	5	22,000	2,200	6,200
準米英工場	5	22,000	2,200	6,200
崇信(英)	1	11,000	1,100	3,100
中紡(英)	1	11,000	1,100	3,100
信和(英)	1	11,000	1,100	3,100
統益(英)	1	11,000	1,100	3,100
合計	6	67,000	7,700	21,600
假裝米英工場	1	17,000	1,700	5,100
申新第二	1	17,000	1,700	5,100
申新第九(英)	1	17,000	1,700	5,100
永安第三(米)	1	17,000	1,700	5,100
保安(米)	1	17,000	1,700	5,100
安達(英)	1	17,000	1,700	5,100
合(米)	1	17,000	1,700	5,100
德(米)	1	17,000	1,700	5,100
合計	7	119,000	11,900	35,700
總計	12	141,000	14,100	42,300

次に中支に於ける邦人紡が占めつつある具體的地歩を表示すれば左の如し

支那人紡績

會社名	工場数	精紡錠数	燃糸錠数	織機台数
支那人紡績	3	39,200	3,920	11,760

工業概況

今回の大東亞戦争を契機として國民の一切の営みは高度の國防體制の基に所謂決戰態勢に即應する必要に迫られ、一切の經濟機構は好むと好まざるに拘らず、共榮圏の自給自足を根本標識としてその機能を極度に發揮しなければならなくなつた。従つて共榮圏の一部を構成する中支に於ける紡績業も大東亞戦争の發展に伴ひその特殊性を十二分に發揚する爲めにはその指導的地位にある在華紡が渾然一體となり根本的に再編成を企圖しなければならぬ。

何んとなれば中支紡績業は情勢の推移に伴ひ或る期間自發的に最少限度の操業を維持する必要に迫られることあるべく、しかもその困難に耐へつつ中支、南支、更に泰、佛印と擴大する明日に備へて充分なる復元力を保持しなければならぬ。

前述の如き觀點から中支紡績の將來に就いて二、三の點を取上げて見よう。

一、中支棉の増産改良の緊要性

支那は棉産國として特に將來性に於て世界有數であり、且つ綿製品の消費國としても著名なることは周知の事實である。更に中

支は支那三大棉産地の二つを包含し、特に江蘇一帯はその作付段別に於てその首位を占め、日支事變前には全支收穫の二割を占めてゐた。従つて東亞共榮圏に於ける自給自足の觀點から、中支棉の増産改良は益々その緊要性を加へるに至つた。一昨年六月設立せる華中棉産改進會は過去三年間に亘り専ら中支棉の増産改良に當り模範耕作農場の設立、委任栽培地の設定、技術員、指導員の養成に努め相當の成績を擧げてゐる。今後華中棉産改進會の活動は今回の對米英開戦により極めて重要視されるものと思惟するが、右に對する組織的積極的施設が差迫つた問題の一つであらう。

二、中支紡績業の再編成と租界對策

中支紡績業の指導的立場にある在華日本紡は對支經濟の根幹をなすものにして、創業以來五州事件を始め幾度か排日毎日の厄に遭遇したが刻苦勵勵克く難局を打開し今日の地位を確保し得たのである。

更に今次日支事變に際しては當局の指導下に率先萬難を排して軍管理工場の運営に當り、一面東亞新秩序建設の基礎たる宜撫工作に寄與すると同時に、日支經濟提携の實を擧げ支那人紡績業者の對日依存度を高め、併せて日滿支經濟プロツク内に於ける棉業の調整を計つたのである。

租界所在の米英人紡績乃至米英依存支那人紡績は抗日の温床たる租界の特殊性を利用しつつあつたが、殊に支那事變直後の如きは邦人紡及支那人紡が戦火の爲め工場閉鎖の餘儀無きに立至つたにも拘らず、自國の敗戦を外に全運轉を續け所謂漁夫の利を占めたのである。

然るに今回の皇軍進駐により租界の性格が根本的に改変せられたる結果、米英人紡績乃至米英依存支那人紡績も否應無しに日本に依存せざるを得ざる情勢となつた。

三、中支紡績製品販路の擴大とその対策

日支事變前に於ける中支紡績製品は主として中支及南支に販賣せられ、その一部は北支乃至南洋印度方面に輸移出入されてゐたが日支事變後は専ら揚子江流域の所謂占領地域に限定せられ、更に本年に至り米英の資金凍結令に伴ふ綿製品輸出許可制の實施により海外輸出は完全に停止するに至つた。

然し乍ら今回の開戦により重慶政權の崩壊は必至の情勢にあり最早時期の問題となり、自然南支方面の販路も漸次回復される譯である。更に時局の推移に伴ひ泰國佛印方面の主要物産と綿製品との交換が急速に考慮される必要があり、日本綿製品との關聯に於て中支紡績製品もその主要部分を負擔しなければならぬ。

仍て前述の如き情勢に即應し得る如く一日も早く中支紡績業の態勢を整備しなければならぬ。要之中支紡績業は大東亞戰爭の遂行に即應し東亞共榮圏の自給自足を確保する爲めその特殊性を極度に發揮しなければならぬ。仍て中支紡績業の指導的立場にある在華日本紡績としては現在の原料難、動力、金融難等の惡環境を積極的に克服すると同時に明日の飛躍に備へて復元力を保持しつつ飽迄中支紡績業の指導者たる

の自覺と決意を持たねばならぬ。

三、養蠶、製絲業

△養蠶業

昭和十六年度に於ける養蠶状況は春秋を通じて稀に見る不良氣象に遭遇し、加ふるに春蠶期に於ては國民政府の提唱による産繭調整措置等の爲、蠶種掃立の減少もあつて收購量減少し、特に浙江省に於て思はしからず其の作柄五分作にも及ばなかつた。かくて本年の産繭額（占領地区のみ）は江蘇省約二十七萬七千擔（鮮繭）、浙江省約二十八萬擔、計約五十五萬七千擔と推定せられ、昭和十五年に比し約三割弱の減産を見た。

而して本年度に於ては絲廠側の購繭活潑でなかつた爲、殆んど其の半は土絲化せられたるもの如く、特に土絲地帯たる浙江省地方に於て多く約六・七割は土絲化したと云はる。

△製絲業

一、華中蠶絲公司……華中蠶絲は一、二月は殆んど操業を休止したが三月より一部操業を開始し、四月以降七月末迄は六、〇〇六釜を以て操業を續けた。但し、同月末に至り英米の對日支資産凍結に遭ひ八月一日より約五十日間停工した。其の後九月二十日頃より約三、三〇〇釜を以て再び操業を開始し本年を終つた。斯くて本年の操業延釜数は九七七、七〇六釜であつて其の産絲量は約一五、〇〇〇擔である。

二、上海租界絲廠……上海租界絲廠は本年頭初以來原料手當困

難であつて其の經營振はず、僅かに江北地方より得た原料で二三工場が辛うじて經營して居たに過ぎず、新繭出廻期後に於ても密搬入の取締強化により原料手當愈々困難を加へ、八月中二工場のみ操業し、九月に入つては全く操業するものがなく其の儘年末に至つた。

三、家庭絲廠……本年頭初より多少の操業を見たが大部分は新繭の出廻る迄休業し、新繭を仕入れたる六月中旬より一齊に開工を見た。八月に入り英米の對日支資産凍結の影響を受け一時下火の傾向を示したが、其の後十月に入り現地相互間に於ける物資移動制限の緩和、法幣の崩落乃至は生絲が上海其他地方に於ける遊資の換物對象となつた等の爲、蠶絲類の交易に活況を呈し、家庭製絲方面に於ても、原料を保有するもの又は入手し得たるものは活潑なる狀況を示した。

然し乍ら本年の蠶況思はしくなかつた爲製絲原料拂底し、家庭絲廠も十二月、大東亞戰爭勃發直前の狀況は原料難に脾肉の歎を仰つもの多き實狀であつた。然る處大東亞戰爭勃發以後に於ては特殊事情にある極少部分を除いては市況悪化した爲殆んど停工するに至つた。かくて一月より十二月迄の毎月操業釜数の合計は約二萬釜程度と云はれ其の産絲量は約一萬擔前後であつたと云ふ。

四、絹紡織

一、概論

期初に於ける絹紡製品は、對內的に於ては南京中央儲備銀行設

立後、法幣不安に伴ひ一般換物人氣多く、外貨爲替も急落を呈したのと、對外的には歐洲戰爭の發展並に日米、獨蘇の國際關係逐次緊張化せる爲、海外買氣は品物不足の懸念を以て益々旺盛であつた等の原因で前期に繼續し、引續き實行順調に推移したが三月より石炭不足のため電力を制限せられ、生産高は相當の打撃を蒙つた。且つ八月中より英米の對日支資産凍結の對策として、外國人取引取締規則發表により、原料たる副蠶屑物の搬入が許可せられないと共に、製品たる絹、紬糸及富士絹が殆んど全部第三國輸出品である爲め、重大なる影響を受け益々販路狭少を來すに至つた。

十二月八日になつて日米英宣戰布告以降は、從來の印度南洋向たる製品は全然引合社絶し、同時に金融機能不圓滑と物資移動制限等の關係で、所謂地場向の絹紡製品商賣も寥々たる裡に越年した。

一、地場産業及び第三國勢力の消長

從來絹、紬糸及び平絹は實需關係並に價格の引合により、多少地場向に賣れる事もあつたが、大體に於いて印度南洋向へ輸出した故、本年は八月末迄即ち外國人取引取締規則發表前は自然海外買氣濃厚のため殆んど第三國へ消化した。地場向に賣約出来る數量は輸出數の一、二割見當である。

一、今後の見透し

今後地場向として諸物資益々不足の傾向ある爲引續き一部賣れる見込もあるも、輸出向は當分見込薄である。然れども皇軍の戰況如何に依つては早速南洋方面へ絹紡製品の復活を見るものと思は

一、次に参考迄に錦紡公大の絹、絹糸布の昭和十六年度に於ける生産高を示せば次の通りである。

絹布 (富士絹)	二六、〇〇〇反
絹紡糸	四二〇箱
絹糸	八五〇俵

五、染色捺染業

皇軍の戦果擴大と援將物資の撤出禁止益々強化せられ、外華人工場は其の製品の奥地販路全然杜絶し、僅かに南方々面に其の餘喘を保ちつゝあつたが、第二次歐洲戦争の擴大と獨ソ戦争の勃發に依り、染料其他の諸原材料の暴騰入手難に、之等諸工場は殆んど休業状態に在り、反面、邦人經營諸工場の製品は、占領地區内に宣撫物資の一部として月々一定量の荷捌きが有つたが、これ又必需減退と染色加工材料の入手難に半減以下の操業状態に推移した。

年末大東亞戦勃發を契機として、赫々たる皇軍の戦果と共に南方共榮圈への宣撫或は交換物資としての輸出は期待出来るが、前述の諸原材料關係にて操業の擴大は至難と思はれる。

六、製粉業

(一)概説(支那事變以來の推移概観)

無錫寶興	一、〇〇〇、〇〇〇
丹陽金壇	一、三〇〇、〇〇〇
常州江陰	一、二〇〇、〇〇〇
鎮江	四五〇、〇〇〇
南京	一、一〇〇、〇〇〇
一、蕪湖淮南地區	一、九〇〇、〇〇〇
三、江北地區	八、五〇〇、〇〇〇
四、津浦線地區	一、一〇〇、〇〇〇
計	一九、五五〇、〇〇〇

而してその出廻りは順調に推移するもの如く期待されたが數回に亘る法幣の大暴落、世界情勢の大變化に伴つて製粉工場原料として供給されるものは生産額の四割五分八八七萬擔に過ぎず、このうち邦人工場に供給されるものは約七〇七萬擔八割五分を占め、残り一八〇萬擔は奥地華人工場にて消費されたものである。

2.小麦粉生産額

今年の占領地區内に於ける小麦粉生産額は一、四五〇萬袋にして、その内譯左の如し

邦人工場生産	一一、〇〇〇、〇〇〇袋
奥地華人工場生産	三、五〇〇、〇〇〇袋

3.邦人經營工場並にその生産設備

現在操業中の邦人經營工場並にその生産力左の如し

工場名	バレル	小麦粉一年間推定生産可能高(但月二十五日操業とす)
三興麵粉公司	六、三八〇	七、六五六、〇〇〇袋

1.事變前揚子江流域より産出せられる小麦は全支産出量の四割に相當してをり、これに河南省の一部も加はりて、ここに揚子江の流域に上海を控へて製粉工場の發達する原因を作つたのである。勿論天候其他の事情に依り作柄産額に變化あるもその生産額より見る時は製粉工場に供給される小麦は極く少量にして、問題は生産高よりも寧ろ出廻り如何にあるのであつて、戦前の上海地區への出廻り量を見るに、

江南地區	二、〇〇〇、〇〇〇擔
江北地區	五、九〇〇、〇〇〇
計	七、九〇〇、〇〇〇

漢口工場への出廻りは大體三〇〇萬擔と推定せられる。

2.事變後、其生産高は中支一帯が占領地區と非占領地區に別れたため占領地區のみの豫想しかつかず、而も正確なる調査は困難であるが、昭和十四年度は生産激減のため、且奥地の治安關係に依る交通杜絶等に原因してその出廻り高は事變前の約半分にし加減してをらぬ。また十五年度は天候に恵まれて海南線、津浦線、江北一帯豐作にして品質も向上し沿線地區の出廻りも極めて良好であつた。

(二)昭和十六年度中業界概況

1.昭和十六年中に於ける占領地區小麦生産高は左の如し

一、江南地區	三五〇、〇〇〇擔
海杭線地區	八五〇、〇〇〇
嘉定、崑山、太倉	八〇〇、〇〇〇
蘇州地區	八〇〇、〇〇〇

東福麵粉公司	一、五〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
華友製粉公司	三、九五〇	四、七四〇、〇〇〇
鎮江麵粉公司	一、五一〇	一、八一二、〇〇〇
有恒麵粉公司	二、二五〇	二、七〇〇、〇〇〇
揚州明記麵粉廠	七一〇	八五二、〇〇〇
三井高郵工場	五五〇	六六〇、〇〇〇
計	一六、八五〇	二〇、二二〇、〇〇〇

4.消費量

現在中支に於ける機械製粉工場消費量は約九〇〇萬袋にして其の地區別消費量は左の如し(但上海地區消費の大部分は外國粉三〇〇萬袋、租界工場麥粉二二〇萬袋を以て賄はれた)

上海地區	四、〇〇〇、〇〇〇袋
蘇州地區	七七〇、〇〇〇
無錫地區	六五〇、〇〇〇
杭州地區	五〇〇、〇〇〇
南京地區	六〇〇、〇〇〇
常州地區	二五〇、〇〇〇
鎮江地區	一七〇、〇〇〇
丹陽地區	一一〇、〇〇〇
嘉善地區	一九〇、〇〇〇
嘉興地區	一五〇、〇〇〇
揚州地區	九〇、〇〇〇
蕪湖地區	一五〇、〇〇〇
蚌埠地區	三六〇、〇〇〇

南通地區 二四〇、〇〇〇
其他 七六〇、〇〇〇
計 九、〇〇〇、〇〇〇

5. 輸移出量

一、輸移出地區別數量左の如し
北支 向 七、〇〇〇、〇〇〇袋
滿洲 向 一、二〇〇、〇〇〇
蒙支 向 四〇〇、〇〇〇
南支 向 九〇〇、〇〇〇
計 九、五〇〇、〇〇〇

一、外支粉上海港輸入數量

外 麥 外 粉
昭和十四年 一三三、五二四噸
昭和十五年 四二二、五〇四
昭和十六年 五二、一九二
三、九六九、〇〇〇

(三) 地場産業及第三國勢力の消長

中支製粉業は原料小麦の手當如何にあり、従つて奥地治安の回復輸送機關の完全化と共に地場産業は漸次戦前の状態に復歸しつつあり、一方租界の麵粉工場は租界の封鎖に依つて占領地區内よりの供給杜絶したる爲大なる打撃を受け、これがため租界内消費向として外國麥粉の大量輸入を見たのである。然るに十二月大東亞戦争の勃發に依り外國麥粉の輸入は全く期待出來ざることとなり、外粉のストックを喰ひ盡せば租界消費は全部中支麥粉の負擔となり、且北支滿洲の中支麥粉に對する

大 中 華 計 一、〇〇〇
一三三、二五〇

(四) 大東亞戦争勃發以後の見透し

大東亞戦争の勃發以來對外國貿易の杜絶に依り共榮圈内相互の交易は増大し、各地物資の交流は愈々緊密化され、従つて中國民衆の主食品たる小麦粉の北支、南支、滿洲方面への供給は増大すると共に中支製粉業の任務は愈々重く、また戦局の進展と共に大東亞共榮圏が確立し滿洲小麦の輸入が見られる場合には、この原料小麦の供給を受けて製品を廣く南洋方面一帯に亘り供給することを計畫し得ることとなり、ここに中支は共榮圈内小麦粉の供給地として製粉業は股賑を極めるべく今後大なる期待が持たれる。

七、榨油業

本事變に依り打撃を蒙つた上海榨油業も逐次復興整備完了し、邦人工場を以て組織せる中支製油業聯合會も新たに利生油廠を加へ九社となり、戦前邦人工場皆無に比し隔世の感がある。

一方華人側經營は大有餘油廠、大徳油廠の外二、三小規模のものあるに過ぎぬ。該華人側工場は滿洲及奥地方面より大豆入手困難と、奥地の原料高に依る採算不能とに依り目下操業中止中である。

惜て邦人九工場の製油能力は、上海市民需要の二倍に達し、尙奥地向、南支向け需要をも満すべく各社原料獲得に協力し業界の

全面的依存を加へたため、中支製粉聯合會は邦人業者の一致協力を強化すると共に華人工場をもその統制下に加へ麥粉の圓滑なる供給を行ふべく努力し居る。

また事變後衰微しつつあつた第三國勢力は大東亞戦争の勃發と共に完全に掃せられ、中支製粉業今後の日華業者提携に依る活躍は大いに期待されると共にその責任は愈々重大となつて來た。

而して中支製粉聯合會は現在會員七十八社を數へ軍、興亞院等當局の指導の下に各業者間の連絡を緊密にすると共に、原料手當販賣方面に就いても協力し、また上海經濟界の變貌に對處する外現地物動計畫に即應するため、機構を擴充強化し以て生産配給其他に萬全を期し、また日華經濟提携の立前から華人業者と一致協力して斯業の健全なる發展を圖るべく着々準備を整へつつある。

現在租界内所在工場名並に其の生産力左の如し(註：現在華人工場は中支製粉聯合會の統制下にあらす)

工場名	現經營者	生産能力
福新第二廠	王 郷	四、〇〇〇(バレル)
第七廠	"	四、〇〇〇
第八廠	"	四、〇〇〇
華 豐	福新にて經營	二、五〇〇
早豐舊廠	孫 景 西	一、二五〇
新 廠	"	五、〇〇〇
信 大	"	一、五〇〇

發展を計りつゝある。尙副産物たる棉實粕、菜種粕は内地肥料として對日主要輸出商品の内に缺くべからざるものである。

△邦人工場榨油設備

日華製油株式會社上海工場	水壓式ボツクス型榨油機	一〇台
	水壓式圓筒型ゲージプレス	四台
	水壓式大豆榨油機	二四台
日本油脂株式會社上海工場	エキスペラー榨油機	二台
	ゲージプレス榨油機	三台
板橋プレス	板橋プレス	一一台
川南工業株式會社	板橋式榨油機	四台
	水壓大豆榨油機	二四台
吉田製油工場	板橋式榨油機	四台
大日本塗料株式會社上海工場	エキスペラー榨油機	八台
	水壓式大豆榨油機	四八台
泰山油廠	エキスペラー榨油機	二台
萬谷製油工場	エキスペラー榨油機	二台
	大豆プレス榨油機	二四台

関行搾油廠
 手搾搾油機 一〇〇台
 利生油廠
 手搾搾油機 八〇台
 水壓式大豆搾油機 二六台
 △一ヶ月製品別生産能力(邦人九工場分)

大豆	油	一、三〇一、二一〇
棉實	油	一、二七三、五〇〇
菜種	油	二、六七七、八四〇
椰子	油	二、二〇〇、〇〇〇
カボツク	油	一、二〇〇、〇〇〇
桐	油	三三〇、〇〇〇
胡麻	油	五〇五、〇〇〇
ヒマシ	油	三二二、〇〇〇
大豆	粕	一四、一一三、三四〇
棉實	粕	六、〇八八、六〇〇
菜種	粕	五、四六三、二〇〇
椰子	粕	一、一四〇、〇〇〇
カボツク	粕	五六〇、〇〇〇
胡麻	粕	五八七、五〇〇
ヒマシ	粕	三二二、〇〇〇
棉實	挽殻	一、三七〇、〇〇〇

然るに原料獲得は依然として緩和されず、各工場平均三割見當の操業率に過ぎないのは遺憾とされてゐる。従来南方方面より入荷を見た椰子、カボツク等は敵性諸國の輸出禁止と共に全く期待出来ず、中支土産たる棉實、菜種、大豆等の搾油に制限せられてゐる。大體に於て各工場共に上半期は棉實、大豆、夏期の菜種、下半期は菜種、棉實を主として搾油してゐる。

△搾油原料一九四一年度見當(邦人九工場)

棉實	一、二〇萬担	上海周邊浦東、太倉地區及北江南通地區より出廻るもの大部分なり
菜種	三〇萬担	蕪湖、蘇州、平湖より出廻る
大豆	五〇萬担	蕪湖、蚌埠方面のもの買付努力したるも本品は移動制限物資で貨意の如くならず、殆んど軍配組合より滿洲物の配給を受け搾油してゐる
大豆	油	一、八六一、〇〇〇
棉實	油	一、九八三、〇〇〇
菜種	油	四、七八三、〇〇〇
椰子	油	五九六、〇〇〇
カボツク	油	一三一、〇〇〇
其の他	油	四九、〇〇〇
大豆	油	三、一〇二、一八六
棉實	油	三、三〇五、四七八

大東亞戰爭以後の見透し
 大戦勃發により中支食用油の自給自足對策の必要に迫られ、軍配組合を其の指導者として中支製油業聯合會は全力を擧げて協力

菜種	油	七、九七一、六〇二
椰子	油	九、九三三、六〇五
カボツク	油	二、一九九、四九〇
其の他	油	八二、四〇〇
大豆	粕	三〇、五六一、〇九三
棉實	粕	一三、六二九、八九三
菜種	粕	一六、五八〇、七六五
椰子	粕	六五五、九五九

大體一五、六七二萬噸の食用油を供給したが中支の食油消費量を一ヶ月大體一千五百萬噸乃至二千萬噸一ヶ年合計一萬八千萬噸、二萬五千萬噸と推定せるに不足一萬萬噸は滿洲より大豆油七千八百萬噸、北支よりの落花生油二千萬噸を以て需要を滿して來た。

尙ほ副産物たる粕は内地肥料として對日の主要輸出商品の内缺くべからざるものである。

一九四一年度食用油各月相場(百市斤裸)變動を示せば

一、概説(支那事變以來の推移概観)
 支那事變の當初は、英米トラストを初め支那資本の大宗たる南洋兄弟、華成等の有力者を筆頭に、群小製造工場合せて卅一を數へ、卷上機台數五〇三台と稱された。然るに華商業者側は事變の爲焼失逃避等により大量淘汰を受け、租界内に在つたもののみ操業再開し、その數二十社に減少、卷上機は一六九台を失つたため製品著しく不足を告げるに到つた。此處に邦人系工場拾頭の機到り東洋、東亞等の商社を初め十指に及び、その保有台數一八八台を設備し、全能力を動員して製造に従事、軍需民需の供給に當り煙草界は異常の活況を呈し始めた。而して事變の慘害を蒙らなかつた英米トラストは、其大資本大機構により當局の撤出撤入の制限にも拘らず、依然煙草界の大勢を牛耳る状態であつた。

日系品は十五年當初迄は軍票の安定と品質比較的優秀であつた爲賣行非常なる好況を呈した。

一般的に煙草業者は十五年末迄は活況を見せたものと云ひ得ら

れる。然るに年末煙草配給組合の成立を見、その運行不調滑により、且つは軍票高騰し従つて法幣建値の英米華人業者の製品に比し、日系煙草製造業界は空前の不況を呈し始めた。
華系工場については、物資の統制及船腹不足による原材料入手難深刻化に依り操短休業するもの漸次増加した。
一、昭和十六年中(自一月至十二月)の業界概況
十六年に於ける生産設備状態は順中煙公司(英米トラスト)一七六台、支那側二十社にて一一七台、日本側一二二台の合計四一五台の煙草捲上機を有す。詳細次表の如し

工場名	資本金	所在地	捲上機台数	月生産額(千本単位)	主なる製品
東洋煙草	10000千圓	昆明路	100	350,000千本	マシヤル、オニヤル、百利、長壽
東亞煙草	10000	塘山路	100	350,000	スピリア、美芳、ゴルドロマン、シヤン
共盛煙草	1000	華德路	100	350,000	パレス、龍、黃、龍包、龍拜堂
興亞煙草	1000	白利南路	100	350,000	愛力多、富士山
健身煙草	100	北四川路	100	350,000	サルタン、跳湖M.C.C
遠東煙草	1000千圓	北蘇州路	100	350,000	快馬、遠東
德昌煙草	1000千圓	新記浜路	100	350,000	金星
合同煙草	1000	華德路	100	350,000	飛鷹、勝利

東映煙草	大連煙草	華華煙草	小計	英米系工場	順中煙公司	華商工場	元華煙廠
300	1000	1000	1000千圓	1000千圓	350,000千圓	100	100
歐嘉路	歐嘉路	歐嘉路	別米	別米	浦東、楊林路	肥子路、河南路、寧波路、愛而近路、莫干山路、蘇州路、卡德路、愚園路、徐家匯路、新大沽路、哈同路、文匯路、浙江路	浙江路
1	1	1	3	3	1	10	1
100,000	100,000	100,000	300,000	300,000	1,100,000	300,000	300,000
アリナー、レイ	別米	別米	別米	別米	大英牌、老刀、哈德門、仙女、紫金山、三龍台、前門、白鶴包	旗美、華成煙廠代卷、黑人、姑娘、紅妹、時態、華成煙廠代卷、雙煙、派克、金字塔、香寶	公國、金門

前表によれば年産約三三〇億本にのぼつて居るが、中支地區販賣機構として中支煙草配給組合が、奥地への搬出入許可申請を一手に握つてゐるが、その運行圓滑を缺きたる點、又軍票の變動劇しく且つは非占領地區への流失取締り嚴重となつた爲、前半期は一般に製品賣行き減少を示した。
華商中小資本による簇生的工場の場合は、統制強化による原料の不足甚しく、又電力節約の強化の爲、操短又は休業せるもの多く、年産三三〇億本は相當の割引を要し、實際は三〇〇億の生産すらも覺束ないものと思はれる。
販賣状況に就いては、華系品は前述の如く原材料不足が大なる原因となり、製造量は一般に減少したが製品不足により賣行は割合に順調であつた。
英米トラスト側は國際狀勢の緊迫化により、年初より製造増加

瑞倫煙廠	大華煙廠	江浙煙廠	魯信煙廠	友利煙廠	華成煙廠	南洋兄弟	華美煙廠	小計	總計
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
開封路	甘世裏路	平濟利路	康橋路	平濟利路	戈登路角	照華德路	塘山路	24	24
8	3	6	7	3	1	1	1	24	24
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	2,400,000	2,400,000
寶島、古琴	金鐘	網球	美皇后	友利、金城	美皇、金風(和興、德隆代卷)	金風、長城(德興、福榮代卷)	買司干、フェデラル(大東南代卷)		

し賣行相變らずの好調を呈した。
日系品は軍票建であつた、軍票の底知れぬ高騰の爲賣價比較的高まり商況見送りを示し、且つは奥地への搬出も不調滑であり前半期の賣行は工場開始以來の非常な不振を呈した。
一、大東亞戰爭勃發以後の見通し
十二月八日大東亞戰爭勃發し皇軍の疾風迅雷的租界進駐行はれ、敵性工場として英米トラストは軍の占領管理するところとなつた。今までの大資本を以て公然我軍票工作を攪亂し、必需品たる煙草の重慶側流失、製品のグンピング又は賣止めによる價格の上昇等の敵性行爲を擅にせる英米トラストも、此處に完全に止めて居る状態である。將來は當局の決定を待たねば不明であるが、その偉大なる機構は今後日本側諸經濟工作の一助として活用されて行くことは明白である。
戰爭開始と共に諸統制は更に嚴重となり、現地自給自足の原則より中支に於ける煙草業者は、強力なる團結を必要とし關係業者と共に一丸となり、中支地帯の需要を充たさねばならぬならう而して現在各關係者は之が爲萬全の措置を執るべく着々準備中である。
即ち、中支日系六社は合同により中華煙草の成立を見るの間近く、又在中支の原料供給先たる中支煙草會社もその機構を擴大し、將來葉煙草の耕作を指導強化し、收買の一元化を計りつゝある。
又租界内に於ける華商工場も今迄の如き無統制は許されなくな

り、又日本側の主張たる日支提携の實行の爲にも華商工場の衰退を防ぐべく、華商製造家組合の設立を計り日本側と歩調を一にして煙草供給に協力せんとしつゝある。

九、製紙業

一、概況

上海を中心として中支一帯に製産される紙は連史紙、毛邊紙、海月紙、白灰黃板紙、マニラボール、捲煙紙、印刷紙其の他各種包裝紙類にして、其の内連史紙、毛邊紙、白灰黃板紙が大部分を占め全生産量の七〇乃至八〇%である。支那事變勃發に依り上海地區製紙工場中、戦火の爲め烏有に歸したるもの五工場、其の他の工場は事變直後の混迷時代より次第に一般經濟界と同様一時に略型的發展を辿り既設工場の開工、邦人工場の進出等事變を契機として容貌を一新した。

昭和十四年より同十五年に亘り物資の缺乏と法幣の暴落に依る換物人氣の拾頭、且つ世界戰爭に依る歐米よりの紙類輸入の減少及び奥地方面に對する需給の不均衡、加ふるに南洋香港方面に對する引合旺盛を極め異常の景氣を示現したが、我が方に依る沿岸各埠頭ルートの封鎖徹底、並に搬出入貨物の統制強化に、當地よりの輸送は相當打撃を蒙るに至つた。

昭和十六年七月、資金凍結以降上海の對外通商は殆んど杜絶同様に至曲化されたる結果、原材料の入手益々困難を加へ大東亞戰爭を契機として特に外、華人工場は愈々難材料の高積に喘ぐに至

り、從來の一般自由主義的色彩は次第に容貌を變じ、我が統制傘下に逐次包括されつゝある。邦人工場は何れも事變後の進出ながら進歩せる技術と當局の強力なる指導統制により次第に健全なる發展的過程を辿りつゝある。

一、昭和十六年度に於ける生産並に販賣高概ね左の通り

邦人側	生産數量	販賣高
邦人側	二二、〇〇〇噸	一一、〇〇〇千圓
邦外人側	一五、〇〇〇噸	一〇、〇〇〇千圓(推定)
合計	三七、〇〇〇噸	三一、〇〇〇千圓

邦人工場は九社にして資本總額約金八百餘萬圓
華人工場は十四、五社にして資本總額約法幣七百餘萬元
外人工場は一社のみにして資本金米貨二十五萬弗

一、工場現況左の通り
邦人工場

一、江南製紙株式會社(鎮滬實業株式會社)

資本金 壹百萬圓

所在地 上海曹家渡濱北光復路一〇號電話(〇二)三六四〇

二九二八

營業所 同所

設備 丸網ヤンキー抄紙機四台

生産能力 月額約三三〇噸

製品種目 毛邊紙、連史紙、海月紙等

二、株式會社上海紙業公司

設備 丸網板紙抄紙機一台

生産能力 月額七三〇噸

製品種目 白灰黃板紙

五、大中華製紙株式會社

資本金 壹百五十萬圓(日商株式會社、田附商店、滿洲製

絲株式會社)

所在地 上海吳淞蘆漢濱

營業所 上海北蘇州路河濱大樓一一二室 電話四五九五六

設備 丸網ヤンキー抄紙機二台

生産能力 月額約三〇〇噸

製品種目 鷹紙、毛邊紙及各種包裝紙

六、新東亞興業有限公司

資本金 七萬五千圓(合資組織、臺灣籍)

所在地 上海楊樹浦匯山路二〇二號

營業所 上海四川路三二號企業大樓二室 電話一八八七一

設備 丸網ヤンキー抄紙機二台

生産能力 月額約五〇噸

製品種目 鷹紙、毛邊紙及各種包裝紙

七、井上製紙廠

資本金 六萬五千圓

所在地 上海開北天通庵路六九五號

營業所 上海北四川路哈桂路二六一號 電話四四五九八番

設備 丸網ヤンキー抄紙機一台

生産能力 月額約五〇噸

四、杭州造紙廠

資本金 貳拾萬圓

經營 軍管理單獨委任經營

所在地 杭州市外小河施家村

營業所 上海開北寶山路三號 電話(〇二)六〇七八番

三、株式會社天章造紙廠

資本金 五百萬圓

經營 日支合辦(邦人側大日本紡績會社系)

所在地 東廠 上海浦東北護塘路三一八號

西廠 上海楊樹浦路四〇八號

營業所 上海博物院路一四號 電話一〇九九四番

設備 フォードリニヤキ抄紙機二台 長網ヤンキー抄紙機一台 丸網ヤンキー抄紙機一台 合計四台

生産能力 月額約六〇〇噸

製品種目 印刷紙、各種包裝紙、連史紙等

四、杭州造紙廠

資本金 貳拾萬圓

經營 軍管理單獨委任經營

所在地 杭州市外小河施家村

營業所 上海開北寶山路三號 電話(〇二)六〇七八番

八、高林板紙廠
製品種目 塵紙、トイレットペーパー及各種包裝紙

資本金 個人經營

所在地 上海刑家宅路華福里四號

營業所 上海天潼路二〇四號 電話四〇三七九番

設備 丸網ヤンキー抄紙機一台

生產能力 月額約六〇噸

製品種目 マニラボール

九、民豐造紙廠

資本金 壹百五十萬圓

經營 民豐造紙廠經營委員會（軍並に興亞院にて組織せしもの）

所在地 浙江省嘉興縣嘉興東門外

營業所 上海黃浦灘路廿四號正金ビル一九室 電話一五四七〇番

設備 ライスマシ一台

生產能力 月產約七〇〇箱

製品種目 煙紙

但し丸網板紙抄紙機一台あり共一部毀損せり

二、華人製紙工場

一、光中造紙股份有限公司

資本金 法幣貳拾五萬元

所在地 上海戈登路一二四二弄四〇號

營業所 上海博物院路一四號

五、竟成造紙公司

資本金 法幣四拾萬元

所在地 上海北成都路一〇八六弄一〇號

營業所 上海廣東路二〇號

設備 丸網板紙抄紙機一台 丸網ヤンキー抄紙機二台 計三台

生產能力 月額約六四〇噸

製品種目 黃灰板紙、各種包裝紙

六、國華造紙股份有限公司

資本金 法幣壹百貳拾萬元

所在地 上海西摩路一七四一號

營業所 上海北京路三五六號國華大樓

設備 ヤンキー長網抄紙機三台 丸網抄紙機一台 計四台

生產能力 月額約二〇〇噸

製品種目 毛邊紙、連史紙、海月紙、有光紙、黃表古紙、各種包裝紙

七、中華製紙廠股份有限公司

資本金 法幣貳百參拾萬元

所在地 第一廠 上海東京路七六四號

第二廠 上海東京路康福脫路（建設中）

營業所 上海江西路漢彌登大樓三二四室

設備 圓網抄紙機一台

生產能力 五〇噸

製品種目 連史紙、海月紙、其他各種包裝紙

設 備 フォードリニヤ抄紙機一台
生產能力 月額一五〇噸

製品種目 薄板紙、灰報紙

二、永安造紙廠

資本金 法幣四拾萬元 個人經營

所在地 上海北成都路九七一弄一〇號

營業所 同

設備 圓網ヤンキー抄紙機一台

生產能力 月產約四〇噸

製品種目 連史紙、毛邊紙

三、晉豐紙廠

資本金 法幣五拾萬元

所在地 上海滬西哥倫比亞路一八〇號

營業所 同

設備 單光製紙機一台

生產能力 月產約五〇噸

製品種目 毛邊紙、有光紙、各種包裝紙

四、海龍製紙廠

資本金 法幣五拾萬元

所在地 上海滬西哥倫比亞路牛橋濱五〇號

營業所 上海江西路二八號

設備 ヤンキー抄紙機一台

生產能力 月額約二〇〇噸

製品種目 毛邊紙、連史紙、灰報紙

八、天豐造紙廠

資本金 法幣六拾萬元

所在地 上海徐家匯柿子灣塘子經六六號

營業所 上海寧波路四七〇弄一號

設備 圓網板紙抄紙機一台 圓網抄紙機一台 計二台

生產能力 月額約一五〇噸

製品種目 灰黃板紙、薄板紙

九、金星造紙廠股份有限公司

資本金 法幣貳拾萬元

所在地 上海北成都路一〇九五弄二五號

營業所 同

設備 丸網板紙抄紙機一台、丸網ヤンキー抄紙機一台 計二台

生產能力 月額約二三〇噸

製品種目 白灰、單白、黃板紙、毛邊紙、連史紙、海月紙、各種包裝紙

一〇、大陸仁記造紙廠

資本金 法幣拾萬元

所在地 上海星加坡路一八七弄八〇號

營業所 上海石路一四〇弄九號

設備 丸網ヤンキー機一台

生產能力 月額約一〇〇噸

製品種目 灰報紙、其他各種包裝紙

一一、勤益造紙股份有限公司

資本金 法幣四拾萬元
所在地 上海星加坡路膠州路西首二五五弄
營業所 同
設備 長網ヤンキー抄紙機一台
生産能力 月額約一〇〇噸
製品種目 灰報紙其の他各種包裝紙

二、美泰造紙廠
資本金 法幣四拾萬元
所在地 上海信路
設備 九網ヤンキー抄紙機一台
生産能力 月額約七〇噸
製品種目 連史紙、毛邊紙、海月紙等

三、第三國人製紙工場
一、中國紙版製品公司(チャイナ・フアイバー・コンテナ社)
國籍 猶太系米人經營、株式組織(十二月八日以後軍管理工場)
所在地 上海楊樹浦海州路二七三號
資本金 米幣貳拾五萬弗
設備 丸網板紙抄紙機一台
生産能力 月産約五〇〇噸
製品種目 マニラボール

一〇、ゴム工業(ゴム靴)

一、概説(支那事變以來の推移概観)

上海に於ける華人ゴム工業は一九二五年以後發達したものであつて、當初事業は不振を極め經營を續けたものは數工場に過ぎなかつたが、之は當時農村に於ける疲弊が原因であつた。
滿洲事變後反日運動の激化に伴ひ急速に發展し多數工場が新設され、國貨の需要に應じ來つた。前上海事變に於て之等工場多數は破壊されたが、幣制改革後再び工場増加を見た。
一九三七年の調査に依れば工場數は三一に上り、此の中にはタイヤ其他ゴム製品を造つて居る處もあつたが、之等工場の資本金は五百萬弗に上り、明細は次の如くである。

資本金	工場數
五萬弗以下	一九
五萬—十萬弗	四
十萬—二十萬弗	五
二十萬—三十萬弗	—
三十萬—四十萬弗	—
四十萬—五十萬弗	—
五十萬—百萬弗	—
百萬弗以上	—

一九三七年に於ける生産額は、ゴム靴三千萬足、自動車タイヤ一三萬本、人力車タイヤ約十八萬組、湯タンポ、レインコート等七十萬弗である。金城銀行經濟研究調査に依れば、一九三七年事變勃發に依り蒙つた損害は、直接的及間接的の損害を合せて、約六百萬弗であり、明細は左記の通りである。

損害程度	工場數	資本金
一、完全に破壊されたもの	五	二二萬弗
一、殆んど破壊されたもの	一〇	一一六萬弗
一、損害輕微のもの	一五	一、二八五萬弗
一、破壊を免れたもの	四	二四二萬弗

然して一九三八年春には操業を再開した工場があり、同年末迄には其の數は逐次増加した。此の間に新設された工場は一二工場に上るが、一方再開不能に陥つたものは八工場である。再開工場及新設工場は次の如くである。

工場數	資本金
再開工場 一四	三四八萬弗
新設工場 一二	二三萬弗

一九三六年九月より一九三七年四月に至る生産額は月額三百萬足であるが、五月より八月に至る間に於ては月額百五十萬足に半減し、年額三千萬足となつた。
一九三八年支那軍の上海撤退後、同年生産額は僅かに八百萬足であつたが、一九三九年には一千二百萬足に増加した。事變前に於て自動車タイヤ、人力車タイヤを製造した工場は四工場あつたが事變後は二工場に半減し勢ひ生産總額は著しく減退した。
事變前上海工場製品は三大市場に販賣されたが、其の最大なるものは南京、漢口、重慶等を含む長江流域であり、天津、北京、濟南等の北支が之に次ぎ香港、廣東方面市場が第三位を占めて居た。
一九三八年、一九三九年に之等奥地との物資交流が杜絶状態にあつた爲、自由支那に積送されたゴム靴の數量は僅かである。

然し乍ら福建及南洋の新市場が開拓され、夥しい數量が之等方面へ輸出された。一九四〇年日本軍に依る沿岸封鎖及取引の統制強化に伴ひ、上海に於ける製品は滞貨となつて其の處分に困難を生じ、小資本工場は多數工場閉鎖を餘儀なくされたが、其の大部分は事變後新設された工場である。
過去四年間に於て原料及製品共數回に亘り暴騰したが、一九三八年、一九三九年中、未だ原料が比較的昂騰して居なかつた時、原料手當をした工場は莫大な利益を擧げた。
然し乍ら原料の昂騰と、政治、軍事、情勢の逼迫化に依つて著しく狹隘となつた市場より見れば、薄資小工場等は速からず閉鎖其他の苦境に直面するものと思はれる。

勞働事情

一、勞働賃銀と生計費指數
華人勞働者生計費類別指數

△一九四一年と前年の比較		一九四〇年	一九四一年	同上増加率
食料	二五五・一	二六九・三	二七二・七	二・七%
住宅	二六六・六	二七二・七	二八二・五	三・六%
衣料	二五七・五	二六六・六	二七二・七	二・七%
雜	二五七・五	二六六・六	二七二・七	二・七%
△一九四一年の年頭と年末の比較		一月	十二月	同上増加率
食料	二五七・五	二六六・六	二七二・七	二・七%
住宅	二六六・六	二七二・七	二八二・五	三・六%
衣料	二五七・五	二六六・六	二七二・七	二・七%
雜	二五七・五	二六六・六	二七二・七	二・七%

華人經營工場に於ける華人勞働者の待遇

全工	一九四〇年	一九四一年	同上増加率
男工	〇・〇〇元	〇・二〇元	二〇・〇%
女工	〇・〇〇元	〇・一〇元	一〇・〇%
時間給工人	〇・〇〇元	〇・二〇元	二〇・〇%
出來高拂工人	〇・〇〇元	〇・二〇元	二〇・〇%
全工人	〇・〇〇元	〇・二〇元	二〇・〇%
男工時間給	一九四〇年	一九四一年	同上増加率
男工出來高拂	〇・〇〇元	〇・二〇元	二〇・〇%
女工時間給	一九四〇年	一九四一年	同上増加率
女工出來高拂	〇・〇〇元	〇・一〇元	一〇・〇%

一九四一年上海勞働爭議一覽表

註一、参加人員は概數、男女別は記入せず、日數は日數半日以上は一日として計算す、團體は雇主側(華人側は特記せず)
 註二、▲印は爭議再發せるもの 註三、爭議中止、紛、閉以外は凡て罷業

發生月日	工場名	所在地	人員	日數	要求條件	結果	備考
三三三	法文上海日報	公館馬路二三	五	五日	五〇%増賃、毎月半額分米手當と俵炭一担、年末賞與一ヶ月半分賃銀	全部解雇	印刷工、植字工、苦力、見習、華人一七名新雇
三三三	中和廠	丹陽路一五九	二	二日	待遇改善、増賃	解雇手當二〇元支給	南京路に不潔文書發見
三三三	編織廠 (家内雜物工人)	白克路 四三四弄二六	五〇〇〇	二日	六〇%増賃、米手當三・二元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷業中の賃銀支給	二〇%乃至六〇%増賃、米手當支給、協約の締結	
三三三	新亞橡皮印刷公司		三	二日	六〇%増賃、米手當三・二元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷業中の賃銀支給	四〇%増賃、米手當二・四元 年末賞與半ヶ月分賃銀、罷業中の賃銀半分支給	
三三三	福記製釘廠		二〇	八日	六〇%増賃、米手當三・〇元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷業中の賃銀支給	四〇%増賃、米手當二・四元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷業中の賃銀支給	
三三三	信遠製煙工廠		六	八日	六〇%増賃、米手當二・〇元 食手當四〇仙	四〇%増賃、米手當二・四元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷業中の賃銀支給	
三三三	徐德記電筒製造廠		五	七日	五〇%増賃、米手當三・〇元 年末賞與一ヶ月分賃銀、罷業中の賃銀支給	三〇%増賃、米手當二・五元 承認、罷業中の賃銀支給	
三三三	拔佳皮鞋公司 第二工廠	濟寧路一四七	五	八日	五〇%増賃	三五%増賃	
三三三	新連廠	拉都路 三八三弄一五	三〇	八日	勞資協約の規定、増賃	二月一日より二五元乃至二九元増賃	
三三三	時進五彩印刷廠		六	七日	六〇%増賃、米手當三・二元 理由なく解雇せず、年末賞與一ヶ月分賃銀	三〇%増賃、米手當一・七元 理由なく解雇せず、年末賞與一ヶ月分賃銀	

三三〇	柳藤印刷公司	香港路一七	英	五日午	退職手當四ヶ月分賃銀	四名無條件復業、一名退職	植字工
三二〇	升泰木器家具製造廠	大西路三六〇	佛	七日	五〇%増賃、米手當二四元 年末賃與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀支給	四〇%増賃、米手當二二元 年末賃與一五五分賃銀、罷 業中の賃銀支給	看護婦五〇名、附添男女 二九〇名、露人一〇〇名 臨時雇
三二〇	廣慈醫院	金神父路一九七	佛	三日	同僚二名解雇反對、五〇% 増賃	一五元増賃、罷業中の賃銀 支給、理由なく解雇せず	一月七日工場閉鎖
三二〇	浦東第一玻璃瓶部	麥根路二一〇	佛	七日	一〇〇%増賃、舊正手當	否認	
一一三	永固仁紙版製器廠	星嘉坡路一八 七弄六一	英	二日	待遇改善	交渉無し復業	靴工
一一三	ユダヤ靴店五軒	晒山地區	英	八日	四〇%増賃	資働若干讓歩	靴工
一一三	人和雪霜製煙製造廠	檳榔路五三	英	四日	六〇%増賃、米手當三二元 理由なく解雇せず、罷業中 當二ヶ月分賃銀	四〇%増賃、米手當七元 理由なく解雇せず、罷業中 の賃銀支給、年末賃與二〇 日分賃銀	
一一四	華東皮鞋商店	南京路七七七	英	二日	四〇%増賃	六名無條件復業、一一名交 渉無し復業	靴工
一一五	蘇州河碼頭工人	老關地區	英	六日	増賃、夜業は工人頭押取せ ず、工會の承認	開演毎包三仙、賃六仙増賃 午後五時以後は夜業とす、 工會を承認	苦力
一一六	銀行倉庫一三軒	老關地區	英	四日午	増賃	〇・五仙乃至一仙増賃	
一一六	怡盛祥製藥廠	蘇州路一八五	英	三日	五〇%増賃、米手當二四元 年末賃與一ヶ月分賃銀、夜 食費四〇仙	三〇%増賃、米手當二四元 年末賃與一ヶ月分賃銀、罷 業中の賃銀支給	
一一六	錦昌機器製砂廠	蘇州路一八五	英	四日	五〇%増賃、米手當三二元 年末賃與一ヶ月分賃銀	三五%増賃、米手當二七元 年末賃與一ヶ月分賃銀	
一一六	中國化學工業廠	檳榔路一五〇	英	六日	解雇工七名の復業、生活手 當一八〇仙、毎月現米五 斗、八時間制	復職承認、生活手當一日六 〇仙、毎月現米五斗、新年 から八時間制承認	

一一七	德昌祥茶棧	七浦路六〇二	英	三日	五〇%増賃、待遇改善	三〇%増賃、米手當二七元 年末賃與一ヶ月分賃銀 退職手當二ヶ月分賃銀 不詳	電車一時停止、蘇州路、 車掌及び運轉手、蘇州路 沿線兩路、機械工
一一七	永業印刷製本廠	馬浪路一七七	英	六日	五〇%増賃、待遇改善	五〇%増賃、毎月四日分賃 銀追加、年末賃與一ヶ月分 賃銀、切符賃一名増賃	
一一八	英商電車公司	蘇州路一八五	英	一日	五〇%増賃、毎月米手當三 六元、年末賃與一ヶ月分賃銀	三五%増賃、米手當三二元 年末賃與一ヶ月分賃銀	
一一八	大明電器製造廠	華成路一九弄 三六	英	四日	五〇%増賃、米手當三六元 年末賃與一ヶ月分賃銀	三五%増賃、米手當三〇元 年末賃與二〇日分賃銀	
一一九	同安製床廠	大沽路四一一 弄三	英	三日	五〇%増賃、米手當三六元 年末賃與一ヶ月分賃銀	三五%増賃、米手當三〇元 年末賃與二〇日分賃銀	
一一〇	華利製煙廠	河南路二一 一	英	三日	待遇改善 數名解雇反對	交渉無し復業	
一一〇	商務印書館發行所 製版印刷廠	龍安寺路二〇 六	英	三日午	待遇改善	増賃承認、理由なく解雇せず	
一一〇	彭福記眼鏡廠	小沙渡路七五 六	英	五日	五〇%増賃、毎月米手當三 二元、年末賃與一ヶ月分賃 銀、夜勤料四〇仙	三〇%増賃、米手當三二元 年末賃與二〇日分賃銀 夜勤料三〇仙	
一一〇	榮昌機器織工廠	赫德路六五二	英	三日	増賃	年末賃與一ヶ月分賃銀、食 事供給	
一一二	四達橡皮印刷所	愛文義路一九 威海衛路三五	英	三日午	待遇改善	一二月一〇元増賃、大多數 復業、二二日五〇名解雇、 三日罷工大牛未拂賃銀支給	英字版二〇〇名、華字版 七七〇名、南京路にアデビ ヲ發見
一一二	大美晚報	北河南路三〇 八	英	五日	増賃、待遇改善	四〇%増賃、米手當二七元 年末賃與二〇日分賃銀	
一一三	榮泰昌紙盒製造廠	共佛租界	英	五日午	待遇改善	交渉無し復業	
一一三	理髮業五〇〇軒	澳門路五二一	英	五日午	待遇改善	資働讓歩	
一一三	福新烟公司	澳門路五二一	英	五日午	待遇改善		

三三	美聯實業公司 第一工廠 第二工廠 第三工廠 第四工廠	檳榔路一五〇〇 新加坡路三〇〇 同檳榔路二二〇〇	日	二日半 善	解雇工五名の復職、待遇改善	一日男工〇仙、女工一四仙 手當引上	一七日アヂピラ撤布さる
三二	婦人服店	四川路三四六	日	二日	六〇%増賃 手當に代へ一・二五封度の 現米支給	二〇%増賃	從來米手當一日二五仙
三三	石利浴毛織廠	威安瑪路六九	日	五日	解雇工の復職	承認	
三三	蔡同德國藥號	河南路四五五	日	二日	解雇工の復職	承認	
三二	紙盒廠二〇〇工廠	共佛租界	日	三日	待遇改善	承認	
三二	理髮店一五軒	中央地區	日	四日半	資額六〇%、勞酬四〇%の 補給分配率、食料供給の協 約履行	承認	大福か口火となり以下逐 日合流
三二	永動機皮廠	武定路四二三	日	一日半	一五〇%増賃	承認	
三二	皮革業一四軒	共佛租界	日	二日	待遇改善	承認	
三二	五和織造廠	廣慶路一一 一九	日	二日半	待遇改善	承認	
三二	美商織布公司	華德路五八一 弄六	日	二日	解雇工一〇名の復職、六〇 増賃%	交渉無し復業	
三二	工部局衛生課	遇而西愛路九	日	二日半	待遇改善	無條件復業	
三二	泰來汽車公司	呂班路二四九	日	三日	待遇改善	生活手當一八元引上	電話交換手四〇名、運轉 手三〇名
三二	法商水電公司	揚州路四六四	日	二日半	待遇改善	承認	二八日南京路にマンフレ ット意見
三二	上海自來水公司	共佛租界	日	三日	待遇改善	承認	
三二	印刷業三〇軒		日	三日	待遇改善	承認	

三一	滌染水廠	船塢路四〇〇	英	二日半	三〇元増賃、米手當二〇元 引上	六元増賃、米手當二〇元引 上	
三一	新華織造廠	小沙渡路四七 一弄B四	英	三日	増賃、待遇改善	二〇%増賃、一〇%住宅費 米手當一五元支給	
三一	張錦年堂國藥號	新開路九六九	英	二日	解雇工の復職	解雇手當四ヶ月分賃銀支給	
三一	▲維也納計織廠	近勝路四九三	英	四日	五〇%増賃、毎月現米五斗 支給、理由なく解雇せず	解雇代三三六元四一仙支給 新賃銀制を考慮	
三一	▲五和織造廠正頭部	小沙渡路四七	英	六日	毎月米五斗支給、解雇工二 名の復職	無條件復業	
三一	恒豐染織廠	檳榔路一四〇	英	二日	工場閉鎖の爲、多年の純益 分配、技師の養老金	純益八萬元を分配、解雇手 當八ヶ月分賃銀、養老金五 〇〇元	
三一	汽車行七軒 月宮、東新 世界、南方 祥泰、亞洲 華匯	愛多亞路 威海衛路 福照路 九江路	英	七日	日給二〇仙引上	日給二元支給	
三一	義大布廠	星加坡路一八 七弄一四七	英	三日	三〇%増賃、日給は三五日 分米手當一日七〇仙、理由 なく解雇せず	男工一五%、女工一〇%増 賃、罷業中の手當一元支給	
三一	大東機器廠	戈登路一〇八 〇弄二一	英	四日	一擔三〇元の米半擔を資額 より購買、五〇%増賃、理 由なく解雇せず	四員の變動に準據米手當引 上、解雇手當の規定	
三一	中華油漆廠第二工廠	赫德路七九三	英	四日	待遇改善、四〇%増賃	一日手當二〇仙引上	
三一	木器業工人		英	九日	八〇%増賃	米價一〇〇元基準米手當三 〇%引上	
三一	第三區化粧品		英	三日	待遇改善、禁錮の工人釋放	罷工代表五名に解雇手當支 給、男工二〇仙、女工一四 仙増賃、夜勤料四仙引上、 釋放承認	
三一	光華公司	無錫路七二	英	一日	一五仙乃至二〇仙増賃	無條件復業	
三一	華通電業機器廠	小沙渡路五九	英	六日半	解雇工二名の復職	一日手當二〇仙引上	

三二七	百老匯洗衣公司	福州路五三七	日	三〇〇	一日	待遇改善、取締役の意向に反対	生活手當九元引上	同僚七名の仕事の分擔を除外せるに抗議、同僚六五〇名合流
三二八	工部局土木課	楊樹浦路一四二六	英	七〇〇	三日	上司の指圖に反対	生活手當一日三五仙引上	
三二九	祥泰木行有限公司	膠州路七三	英	三〇〇	三日	現米半給支給、生活手當一〇元引上	無條件復業	
三三〇	國際飯店	膠州路一八五	英	三〇〇	三日	待遇改善、増賃	生活手當一日三五仙引上	
三三一	▲福新煙公司	澳門路五二一	日	二〇〇	三日	三〇%乃至八〇%増賃、生活手當六〇仙引上、毎月現米四斗支給、機械修理中の停業は賃銀手當支給	資額減歩	
三三二	華洋理髮店	膠州路七三	日	三〇〇	三日	歩合率五〇%に引上	毎月二元乃至三元の特別手當支給	現在歩合率三五%、五名任意退職
三三三	商業印字館	四川路一二六	日	二〇〇	一日	〇%増賃、生活手當一〇元引上	二〇%増賃、米手當若干引上	
三三四	精益製革廠	松江街二六	日	三〇〇	三日	二〇%増賃、米手當二〇元	五〇%増賃、米價一〇〇元	
三三五	石炭運搬工人	蘇州河碼頭	日	四〇〇	一日	運搬費毎噸一元二五仙	無條件復業	
三三六	中美化學廠	昌平路九六一	日	三〇〇	一日	増賃、生活手當引上	無條件復業	
三三七	香料店一〇軒	共・佛租界	日	三〇〇	一日	増賃	無條件復業	
三三八	華生電器公司	戈登路一六	日	三〇〇	一日	不詳	三分賃銀支給	
三三九	布織染色廠五〇軒	共・佛租界	日	二〇〇	一日	一〇〇%増賃	五〇%増賃	
三四〇	上海製造電氣有限公司	福州路一八五	日	三〇〇	一日	増賃、米手當支給	資額減歩	
三四一	英商公共汽車公司	號康福路一七一	日	二六〇	八時	法商電車罷業應援、待遇改善	三月分米手當五五元支給、四月より一五元及一九日米價基準、生活手當六五仙引上	怠工に對する對抗手段として四月間工場閉鎖

三三九	▲法商水電公司	呂班路二四九	佛	一三〇〇	五日	既決協約の履行	交渉終了復業	バス、電車五日間停止
三四〇	華成印刷製版廠	愛多亞路一四六二弄六一	佛	三〇〇	五日	六元増賃	五元増賃	
三四一	誠孚織工廠	澳門路五九六	日	三〇〇	一日	待遇改善	増賃、米手當引上	
三四二	▲五和織造廠正頭部	號小沙渡路四七一	日	一〇〇	一日	増賃	四月一日より増賃	
三四三	綢緞廠四二軒	共・佛租界	日	二〇〇	一日	一〇〇%増賃	交渉終了復業	
三四四	婦人洋裝店一七軒	福州路、湖北路	日	三〇〇	一日	米手當四元	米手當一・七五元引上	
三四五	▲英商電車公司	蘇州路一八五	日	三〇〇	一日	二五〇%増賃、米手當一日二〇仙	二五%増賃、米價一石一〇〇元基準一〇元値上毎二〇仙増賃	
三四六	▲法商水電公司	呂班路二四九	日	三〇〇	一日	電車、バスの罷業應援	法商電車、バス罷業と同様結果	
三四七	▲柳蔭印刷公司	香港路一七	日	三〇〇	一日	米手當引上若は現米支給	未解決	
三四八	美亞織造廠第四工場	膠州路九三四	日	三〇〇	三日	生活手當一日三〇仙引上、現米毎月〇・三五名、四〇%増賃	生活手當一〇%引上、現米毎月〇・三石、二〇%増賃	
三四九	▲華通電業機器廠	小沙渡路五九六	日	三〇〇	二日	米手當八〇%引上	米價一石八〇元基準一〇元値上毎一日二六仙支給	三月九日工場閉鎖、四月二日一〇〇%増賃、逐日全部復業
三三〇	靴下染色業二二軒	共・佛租界	日	三〇〇	二日	五〇%増賃	染上一打毎四仙引上、米價一打一〇元、基準値上毎一打に付二仙の米手當引上	現在染上一打二仙
三三一	勝且織造廠	康福路一一九〇	日	三〇〇	二日	五〇%増賃	一五%乃至二〇%増賃手當一日五五仙支給	
三三二	男子洋服店	四川路	日	三〇〇	六日	増賃	佛界六〇名は三〇日合流	
三三三	四〇軒	湖北路	日	三〇〇	六日	増賃	四月九日四名復業	
三三六	▲大北電報公司	愛多亞路三四	日	二二〇	二日	米手當五元九角に引上	未解決	配運夫

三三	成衣業一〇軒	共・佛租界	共	二日	待遇改善	月給四〇%乃至五〇%引上 出来高拂四五%歩合率 三〇%乃至三四%増賃、仕 立一着毎三〇%増賃、米價 値上に準じ手當二〇%乃至 三〇%引上	四月三日青嶋の廠で六名 拘引
三二	上海市西服業	共・佛租界	共	五日	八〇%増賃、米手當支給、 契約改正	粉炭工一五元、運轉手、運 車夫一石一元〇仙、三輪車 一石一元〇仙、豆炭一擔支給	
三一	南洋煤球廠	共・佛租界	共	三日	四〇%増賃、米手當二五元	生活手當八元引上 賣倒歩歩 一日二〇仙乃至三〇仙増賃 毎月〇・三一石支給	
三〇	▲福新煙公司	東京路	英	數時	待遇改善	三〇%増賃、米價一擔一〇 〇元超過毎手當一五%引上 四〇%増賃	四日一、〇〇〇名合流 七日、五〇〇名復業
二九	▲德字染織廠	澳門路五二一 華盛路一一二 七號	英	六日半	待遇改善	生活手當五元引上、毎月現 米〇・五擔支給	分工場三〇名は青嶋によ り参加 運轉手、苦力
二八	▲上海市製履業(支那 靴)	漢口路一一五	米	二日	待遇改善、協約の締結	二〇元乃至二五元増賃 一〇%乃至四〇%増賃、朝 食手當毎月八元、徒弟毎月 三元支給	監督委員の廠で逮捕
二七	▲茂泰織造公司	漢口路一一五	英	數時	待遇改善	一〇〇%増賃、釋放約束	
二六	▲養氣織造公司分工場	倍開路一〇一 華盛路六九一	米	六日半	待遇改善	一〇〇%増賃、釋放約束	
二五	▲瑞豐轉運公司	圓明園路五三	米	二日	二〇元増賃	一八元乃至三〇元増賃、雇 業中の賃銀支給	
二四	▲公置局殺牛公司	九六號	米	八日	増賃、逮捕の工人二名釋放		
二三	▲永安織造公司	愛文義路	米	三日	一五%乃至三〇%増賃、朝 食手當毎月一〇元、徒弟每 月八元支給		
二二	▲上海市新衣業	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
二一	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
二〇	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
一九	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
一八	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
一七	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
一六	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
一五	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
一四	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
一三	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
一二	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
一一	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
一〇	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
九	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
八	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
七	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
六	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
五	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
四	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
三	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
二	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		
一	▲公置局殺牛公司	愛文義路	米	三日	増賃、生活手當引上		

四六	上海市製本業	天福路五三〇	米	二日	待遇改善	交渉種々復業 日給七〇仙、徒弟は一月五 元、米價一〇元値上毎手當 三元支給 勞資協約修正一、六元増賃 米手當男工四〇%、女工二 〇%引上 三〇%増賃	一一日北河南路にアヂビ ラ發見
四五	▲茂泰織造公司	漢口路一一五	英	九日	待遇改善	協約締結考慮、女工一名復 職承認 便米半石(一石一二八元基 準)、住宅手當本俸の三〇% 支給	
四四	▲大統染織廠	北四川路一九 弄一二	英	一日	五〇%増賃、米手當引上	左官一元、石工九〇仙、徒 弟三〇仙増賃 一日二〇仙増賃 月給三元引上	
四三	▲華豐飯店	南京路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
四二	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
四一	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
四〇	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
三九	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
三八	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
三七	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
三六	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
三五	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
三四	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
三三	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
三二	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
三一	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
三〇	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
二九	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
二八	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
二七	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
二六	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
二五	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
二四	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
二三	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
二二	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
二一	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
二〇	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
一九	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
一八	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
一七	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
一六	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
一五	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
一四	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
一三	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
一二	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
一一	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
一〇	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
九	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
八	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
七	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
六	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
五	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
四	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
三	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
二	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		
一	▲華豐飯店	江西路	英	六日半	月給七五%乃至一〇〇%引 上、特別手當二〇元外人 ホテル雇傭人互助會承認		

五八	治中機器工業公司	靜安寺路一四八	三〇	一日	勞資間の誤解より衝突	無條件復業	要求なし
五九	彩印業一〇〇軒	共・佛租界	三〇〇	五日	二〇元増賃、二號四頁米六斗支給	二〇%乃至五〇%増賃、一石の三五%乃至四五%支給	
六一〇	石利洛兄弟紡織廠	威安瑞路九四	三〇〇	三日	四〇%増賃、米手當引上	二〇%増賃、米手當一日一元四〇仙支給	
六一一	太古汽船碼頭工人	浦東バンド	一〇〇〇	一日	露人監視の華人コソ泥殿打に抗議	賃傷工人に治療費及入院中の賃銀支給	
六一二	運米場車業	佛界バンド	二〇〇	三日	資側のトラクタ雇用反対	交渉無し復業	請負車夫
六一三	永安公司天福樓	南京路六一七	三〇〇	五日	顧客の茶代一杯一元に引上但し公司支拂分はやはり三五仙	承認	女給仕
六一四	沙利文糖菓公司	南京路二二二	四〇〇	七日	現米五斗支給、年未賃與二ヶ月分賃銀同俵四名の復業	三〇%増賃、米手當四〇元支給、同俵四名に五ヶ月分賃銀支給	テロブル・ポリー、ポリーコック
六一五	童廷春國藥號	虞洽勝路三〇	三〇〇	四日	四〇%増賃	無條件復業	店員二四名、見習六名
六一六	德泰飲片部		三〇〇	九日	勞資協約履行工人幹部の解雇反対	協約修正、生活手當賃銀の引上、特別手當一五元支給	
六一七	黃浦江渡深棧局	南京路	六〇〇	六日	五〇%増賃、毎月現米五斗支給	不詳	
六一八	華成絲光染廠		五〇〇	七日	待遇改善	七元増賃	
六一九	登記理髮店	南京路	五〇〇	一日	米價下落による米手當二〇%引下反対	給與食事の改良	
六二〇	浙江興業銀行倉庫	北蘇州路	二〇〇	一時	米價下落による米手當二〇%引下反対	不詳	
六二一	密魯織機廠	鄧陽路四〇〇	七〇〇	六日	待遇改善、正式に要求提出せず	賃銀減少	苦力數名倉庫番罷職
六二二	上海市南貨業(食料品)		四〇〇〇	一日	毎月現米五斗支給、生活手當二元引上	米手當一二元乃至一六元支給、生活手當二元引上	五月二日アデピラ撤去、六月二日工場閉鎖、六月四日工場再開、労働者官と衝突して八名逮捕

五二二	上海市油漆業		三〇〇	九日	米手當一日一元引上	三〇%乃至八〇%増賃	臨時罷工、五月二六日資料招牌店組合の通告により大多數閉店
五二三	萬利泰記服裝號	南京路七七五	元	四日	一五%増賃	未解決	テイラー、新規雇で操業
五二四	乾物店二〇軒	佛租界	一〇〇	五日	待遇改善	交渉無し復業	米手當二〇元支給、見習徒弟毎月手當四元支給
五二五	▲靴下染色業 (露昌水汀染廠外二〇軒)	共・佛租界 新嘉坡路三八	二〇〇	三日	三月罷業の損失補償金三五元支給	承認	二五日二〇〇名合流
五二六	山西大戲院	北山西路先	三〇〇	四日	米手當毎月六〇元支給	五〇元支給	攝影技師
五二七	彈簧沙發業 (スプリング椅子)	共・佛租界	五〇〇	三日	米手當一日一元二〇仙支給	三〇%乃至五〇%増賃	
五二八	綿業織造廠	康福路一〇二 一八弄三四	一〇〇	五日	工資の承認、工會事務補助費毎月一五〇元支給、理由なく解雇せず、治療費慰籍費支給、男女工同様待遇	工會を承認、理由なく解雇せず、二五%増賃、治療費慰籍費考慮、自炊工に米手當一日間の賃銀は倍額不況に上る解雇は手當五〇元支給、男女工同様一ヶ月二日分賃銀追加	
五二九	上海市司機業一八軒	共・佛租界	三〇〇	六日	米手當引上、生活手當は賃銀の七五%支給	米價七〇元に對し一二元支給、値上一〇元毎六元引上	運轉手
五三〇	米製業九〇〇軒	共・佛租界	三〇〇〇	一日	米價一石五〇元基準一〇元値上、米手當五元引上、民國二六年基準七倍の増賃、毎年決算期に特別賞與支給	社會運動指導委員の命により一應復業	資側の態度強硬、解決に至らず再發の惧あり
五三一	國華造紙廠	西摩路一七四	二〇〇	五時	端午節に二ヶ月分賃銀賞與	承認、近々増賃考慮	
五三二	中央洋傘原料廠	海防路一九五	三〇〇	八日	三〇元賃與	承認、生活手當五〇元支給	
六二	華麗公司內衣部	四川路五七二 弄二一	六〇	三日	解雇工六名の復職、罷業中の賃銀支給	承認、生活手當五〇元支給	
六三	協成銀箱廠	新開路一五三 六弄一九〇	八〇	八日	手當一日五〇仙、日曜日は休息、但し賃銀支給、苦力社へ食事供給、但し二〇仙會社へ支拂、労働時間短縮、苦力工人同様待遇	賃銀追加、一〇時間制、米手當一六〇元基準米手當二二仙引上、同俵三名の復職	

六一	▲上海市新衣業	大通路	英	三日	工會の承認、理由なく解雇せず、徒弟は人数の三分の一を超過せず、徒弟の三月分賃金を引上る。賃金引上は米通りの米手當	承認、双方理由なく解雇退職せず、徒弟は人数の三分の一を超過せず、徒弟の三月分賃金を引上る。賃金引上は米通りの米手當	六月四日脅迫の腹で三名拘引
六二	▲上海自來水公司	江門路四八四	英	三日	米價下落による日給二・七五元、二・五〇元へ引下三對補助監督打による三名解雇に反對	無條件復業	六月四日脅迫の腹で三名拘引
六三	▲法西電車公司機務部	呂班路二七九	佛	三日	日給一元引上、食事供給、但し二〇仙代金支拂	無條件復業	六月四日脅迫の腹で三名拘引
六四	▲上海香業總香製部	延平路分處	英	三日	解雇監督一名の復業	無條件復業	六月四日脅迫の腹で三名拘引
六五	▲上海香業總香製部	西康路八四六	英	三日	解雇監督三名の復業	無條件復業	六月四日脅迫の腹で三名拘引
六六	▲上海香業總香製部	弄八	英	三日	賃銀及手當五〇%引上、罷業中の賃銀支給、日曜、祭日の賃銀支給、公傷、死亡の慰勞料支給	無條件復業	六月四日脅迫の腹で三名拘引
六七	▲上海香業總香製部	福州路三〇	英	三日	賃銀及手當五〇%引上、罷業中の賃銀支給、日曜、祭日の賃銀支給、公傷、死亡の慰勞料支給	無條件復業	六月四日脅迫の腹で三名拘引
六八	▲上海香業總香製部	戈登路八七五	英	三日	賃銀及手當五〇%引上、罷業中の賃銀支給、日曜、祭日の賃銀支給、公傷、死亡の慰勞料支給	無條件復業	六月四日脅迫の腹で三名拘引
六九	▲上海香業總香製部	北蕪州路八五	英	三日	賃銀及手當五〇%引上、罷業中の賃銀支給、日曜、祭日の賃銀支給、公傷、死亡の慰勞料支給	無條件復業	六月四日脅迫の腹で三名拘引
七〇	▲上海香業總香製部	楊樹浦路二五	英	三日	賃銀及手當五〇%引上、罷業中の賃銀支給、日曜、祭日の賃銀支給、公傷、死亡の慰勞料支給	無條件復業	六月四日脅迫の腹で三名拘引

六一	▲上海女子大學附屬小學校	大沽路四五一	米	三日	毎學期一〇〇元の生活手當	承認	男女教員
六二	▲上海電話公司	麥特基司脫路	米	三日	解雇の工會幹事復職、二〇%乃至五〇%増賃、現米毎月一五支給、現米毎月一五支給、現米毎月一五支給、現米毎月一五支給	承認	男女教員
六三	▲上海電話公司	愛而近路二七	伊	三日	四〇%増賃、手當一五%引上、解雇工に二〇〇元支給	承認	男女教員
六四	▲太古汽船公司碼頭工人	佛租界バンド	伊	三日	七五%乃至一五〇%増賃、毎月二圓四角米五斗支給、給、罹病者に治療費支給	承認	男女教員
六五	▲太古汽船公司碼頭工人	小沙渡路一四	伊	三日	七五%乃至一五〇%増賃、毎月二圓四角米五斗支給、給、罹病者に治療費支給	承認	男女教員
六六	▲太古汽船公司碼頭工人	阿拉白司脫路	伊	三日	七五%乃至一五〇%増賃、毎月二圓四角米五斗支給、給、罹病者に治療費支給	承認	男女教員
六七	▲太古汽船公司碼頭工人	一七五弄一六	伊	三日	七五%乃至一五〇%増賃、毎月二圓四角米五斗支給、給、罹病者に治療費支給	承認	男女教員
六八	▲太古汽船公司碼頭工人	菜市路七三號	伊	三日	七五%乃至一五〇%増賃、毎月二圓四角米五斗支給、給、罹病者に治療費支給	承認	男女教員
六九	▲太古汽船公司碼頭工人	上海市切通業	伊	三日	七五%乃至一五〇%増賃、毎月二圓四角米五斗支給、給、罹病者に治療費支給	承認	男女教員
七〇	▲太古汽船公司碼頭工人	亞細亞火油公司	伊	三日	七五%乃至一五〇%増賃、毎月二圓四角米五斗支給、給、罹病者に治療費支給	承認	男女教員
七一	▲太古汽船公司碼頭工人	西服洗染業二〇〇軒	伊	三日	七五%乃至一五〇%増賃、毎月二圓四角米五斗支給、給、罹病者に治療費支給	承認	男女教員

六九	金門、九星、巴黎、 瀨光、恩派亞電影院	裕興大街四二	空	紛八日	解雇工六名の復職	巴黎瀨光の解雇工交復使 用、金門、瀨光、九星解雇 工他處へ紹介、恩派亞否認 未解決	
六八	洽茂冷氣公司	新加坡路五四	空	紛?	毎月現米一石支給、年末賞 與支給	一〇%乃至五〇%増賃 未解決	
六七	瑞記老永森製革廠	同原路八六	空	紛三日	増賃、一石三〇元基準現米 三斗支給	未解決	
六六	慎昌洋行	同原路八六	空	紛?	退職手当	未解決	
六五	同興織廠	周家嘴路	空	紛一日	即時休業再開休業中の賃銀 全額支給、解雇工一五名の 復職、工場内の炊事許可、 賃銀未拂分即時支給	七月七日休業再開、一〇日 臨時工三〇〇名を強し大半 復業	不況の爲五〇名解雇 一三日休業、一五名解雇 工場内に炊事用燃料無料 支給のチビラ発見 男女工一、〇〇〇名中二 〇〇名罷業、五日間の臨 時休業に對し日給二〇仙 米手当支給に不服工場退 去を拒否日給一元要求、 七月一日休業再開するも 残存二四名で操業
六四	▲福新煙公司	澳門路五一	空	紛二日	梅雨期の臨時休業反對	六名解雇 未解決	資働の工會切崩し工作に よる解雇及新雇に反對 新任重役が協約を無視し て新雇人を解雇せるため
六三	▲久豐織機廠	橫橋路三二八	空	紛一日	絹織一碼毎二仙増賃	五五%増賃、純益の二〇% を年末賞與に配當、年末精 算四ヶ月分賃銀、煙草代 毎月四元支給 不詳	
六二	▲法國水電公司 電事部	呂班路二四九	空	紛?	勞資協約の履行	未解決	
六一	▲英商公共汽車公司	廣福路七一	空	紛?	勞資協約の履行	未解決	
七〇	正言報館	九江路二八九	佛	半日	解雇工の復職、三五元増賃	解雇工五名に手當二〇元二 五元支給、若干の賠償支給	
七二	克來門公寓	練德路一三 六三	佛	元日	八〇%増賃、毎月一石相當 の米手当支給、解雇工の復 職日給は休息、但し賃銀手 當支給、理由なく解雇せず 罷業中の賃銀支給	理由なく解雇せず、罷業中 の賃銀支給	

七三	豆米業二〇〇軒 中國電氣有限公司 本社 分行	共・佛租界 Mortimer 二二〇〇 單助路五七八 里橋一〇六 佛租界	米	九日	七〇%増賃、待遇改善	不詳	倉庫助手 電話會社工人を脅迫して 四名逮捕、アヂビラ発見 さる、分行六四名は脅 迫により缺勤
七四	▲石利洛兄弟工廠	威安瑪路六六 陝西路益湯街 三六	米	三日	解雇工四名復職、待遇改善	交渉無し復業	脅迫を恐れて缺勤
七五	義興印刷所	共・佛租界	米	五日	毎月現米五斗支給、二〇% 増賃、日給は休息	無條件復業	
七六	紗織業工廠二二軒	愛文義路一〇	米	九日	一五%乃至五〇%増賃、一 打毎二五%増賃、朝食手当 毎月一〇元支給	無條件復業	
七七	徐重道藥房	巨福路二八一	米	一日	解雇工二名の復職、待遇改善	無條件復業	
七八	美惠工業公司	七浦路一九九	米	?	一〇〇%増賃、米手当二〇 元に代へ現米三斗支給、生 活手当一日五〇仙支給	争議解決困難、輸出需要の 缺如により停業	三〇〇名中一〇〇名不参 加 男女
七九	又新印刷所	博信路一四五	米	三日	露人監視の解雇、解雇工二 名の復職	毎月六元引上	
八〇	Blue Ribbon Dairy	九登路一〇四	米	八日	二名の解雇反對、露人監視 殴打に抗議解雇要求	一三名復業、二名手当支給 解雇	
八一	都是佳藥廠		米	四日	五〇%増賃、生活手当五〇 %引上、米手当一五元支給	一〇%乃至七〇%増賃 承認	
八二	陶元春合線工場		米	四日	勞資協約の履行		

七四	▲新煙公司	澳門路五二一	〇〇	二日	解雇工六〇名の復職、休業の場合賃金、手當全部支給、復職後は二〇%乃至三〇%増賃、理由なく解雇せず	六〇名に解雇手當一〇〇元、解雇後の賃金考慮、将来の再雇を約束	七月七日閉業するも二五日休業、二八日再開
七三	▲大東電報局	愛多亞路三四	〇〇	三日	五〇%増賃、一年二回の特別賞與、毎月現米五斗乃至三斗支給、日曜就業は特別手当支給	二五%増賃、年末賞與一ヶ月分賃金、賃銀一〇%の米手當日曜祭日も就業但し二日分賃金追加	配達夫
七二	▲江蘇汽車行	貴州路一二五	二	三日	二〇%増賃、米價一〇元値上、毎三元の手當支給、生活手當一日六元、公傷、不具の慰勞料	一〇%増賃、米手當一二元支給、生活手當毎月一六元、慰勞料支給	
七一	仁義帽子製造廠	馬白路一五〇	七	一日半	労働時間改善	考慮を約束	
七〇	民生鞋帶廠	周家嘴路二五九	二	七日	六〇%増賃、米手當三〇元、年末賞與一ヶ月分賃金、理由なく解雇せず	四〇%増賃、米手當一二元、年末賞與半ヶ月分賃金、罷業中の手一當日八〇仙支給	八八名中七名罷業 一七五五名三時間半息業、無條件復業、二二日へ拉置さる、二五日工場閉鎖宣言、二六日再開
六九	光明織物廠	楊樹浦路	三	二日	待遇改善	無條件復業	
六八	大新酒家	南京路	支	四日	三三元増賃、毎月現米五斗、相済の米手當支給、サビビ、ス料の五〇%分配	全部解雇	九月五日閉鎖
六七	法商球場總會	酒而西愛路二九〇	三三	初五日	生活手當八〇%乃至二五〇%引上	二九名解雇、残余無条件復業	八月一〇日より罷業罷人二〇名、華人二名新雇
六六	▲華通煤球廠	荔浦路三五號	合	三日	日給三〇仙引上、賃銀六〇%の米手當	二〇仙乃至二五仙引上、一〇仙の米手當	炭掘工、運轉手、苦力
六五	利興煙草廠	運路一〇二二	三	?	三〇%増賃、賃銀五〇%の米手當、休業の場合賃銀、米手當全部支給、解雇は未前に通知	未解決	
六四	福源苦力	佛界バンド	三	半時	米のコソ泥塵症で同僚二名逮捕に抗議	釋放	

七六	新康印刷所	新開路四七七 一四八一	三	二日	毎月現米六斗支給、二〇元増賃、罷業中の賃銀支給、解雇手當は二ヶ月分賃金	毎月現米四斗乃至四斗五升の賃銀支給、解雇手當は二ヶ月分賃金	
七五	東亞煙草株式會社 第二工場	塘山路九〇二 倍開路五九二	合	二日	一〇〇%増賃、毎月現米三斗支給、休業の如何を問はず最低二六日分賃金支給、年末賞與は一ヶ月分賃金の三〇%、罷業中の賃銀、米手當支給	二〇%増賃、年末賞與は考慮、その他否認	
七四	華忠工業廠	福壽路一九	六	九日	待遇改善	生活手當一〇〇%乃至一五〇%引上、現米三斗乃至五斗支給	
七三	國泰金屬印刷公司	北四川路仁智里六六六	六	九日	五〇%増賃、毎月現米一石支給、年末賞與一ヶ月分賃金、理由なく解雇せず	五〇%増賃、現米五斗支給、一五%乃至五〇%増賃、最低五元の米手當	
七二	▲照相業一六三軒	共・佛租界	三〇〇	四日	四〇%乃至七〇%増賃、賃銀五〇%の米手當	華人生活手當一九元引上、罷業中の賃銀一ヶ月分減額、罷業のため禁錮されし工人釋放	警察保護下に電車九運轉のみ
七一	▲法商電車公司	呂班路二四九	二〇〇	三日	生活手當外人五〇%、華人一五%の差別反對	一一名解雇、毎月二斗相當の米手當、生活手當毎月一元、罷業中の賃銀支給	
七〇	美商新織公司	小沙渡路一四 五七	六	急急日	毎月現米四斗、生活手當一日五〇仙	一一名解雇、毎月二斗相當の米手當、生活手當毎月一元、罷業中の賃銀支給	
六九	生達信封廠	廈門路一二〇	二	八日	毎月一〇元増賃、手當一日二〇仙	交渉なし復業	
六八	美亞織物廠第九分廠	徐家匯路一〇	三三	急急日	五〇%増賃、五〇%手當引上	三〇%増賃、三〇%手當引上	
六七	蘇存德堂國藥號	河南路五〇六	七	一日	苦力一名採用反對	全部解雇、新規採用承認	
六六	美康織物廠	靜安寺路一九	三	數時	社員殴打の工人一名解雇反對	承認	
六五	錫蘭鑛寶石公司	佛	元	元日	六〇%増賃、毎月米手當三二元、年末賞與一ヶ月分賃金、理由なく解雇せず	無条件復業	

八二〇	▲美商ニコルス中国 織造公司	檢林路六二〇	米	一七名	閉	不況により停業、解雇手當 八〇〇元支給	天津向歸省せしむ
八二一	華豐飯店五〇軒	共・佛租界	米	四〇名	四日	三〇%乃至四〇%増賃、工 人収入最低二〇〇元	純益を年末賞與に配當 生活手當二〇元支給
八二二	第一工場 第二工場 第三工場	大西路一三	米	三〇名	三日	二〇〇名解雇反対、退職手 當半ヶ年分賃銀	二〇〇名に退職手當半ヶ年 分賃銀、二三〇名に五日分 乃至一ヶ月分賃銀支給
八二五	謀得利公司	倍開爾路九二	日	一七〇名	四日	増賃、米手當支給	交渉残し復業
八二六	張園游泳池	靜安寺路六〇	米	一〇〇名	閉三日	不詳	手當二ヶ月分賃銀支給解雇 毎月一五元引上
八二七	仁濟堂藥部	雲南路三五	米	二〇名	四日	六〇%増賃、新賃銀制八月 一五日より施行	四五%増賃、新賃銀制は八 月三〇日より施行
八二八	園木業(箱桶屋) 一〇〇軒	共・佛租界	米	八〇名	二日	六〇%増賃、賃銀協約の締結 考慮	三〇%増賃、協約の締結考慮 生活手當二〇%引上、罷業 中の賃銀半分支給
八二九	▲華豐飯店 華豐飯店 漢口路一八〇 江西路一七〇 濟南路登公寓	南京路一八〇 江西路一七〇	英	二五〇名 二六〇名 二〇〇名	七日	禁烟の工人代表釋放、待遇 改善	華豐飯店二五〇名中一七〇 名無條件復業、漢口路登公 寓は事務所に改築、罷業中 の米手當七分支給、六四 名解雇
八三〇	▲美商中國公共汽車 公司	康福路一七	英	三五〇名	六日	生活手當六五%引上、労働 時間短縮、罷業中の賃銀支 給、解雇工五名の復職	二八〇名残り他は解雇、八月 二八日工場閉鎖、九月一日 無條件復業
八三一	Mark L. Moody 印書業五〇軒	蒲石路四〇六	米	二五名	二日	請負の一五名が常雇要求	植字工、製本工、印書業 工人聯合會の名でアヂビ ラ撤布一名逮捕
八三二	▲英商中國公共汽車 公司	康福路一七	英	三五〇名	六日	生活手當六五%引上、労働 時間短縮、罷業中の賃銀支 給、解雇工五名の復職	調整工一〇〇名が發起、 罷業中共租のバス運轉停 止
八三三	慎昌機器廠	同原路八六	米	六〇名	七日	五〇%増賃、毎月米手當三 五〇元、罷業中の賃銀支給 夜勤に晩食代六〇仙支給	警察が罷工の退場を命ず 三日間意業、四日間閉鎖

八三三	汽車行噴漆業工人	共・佛租界	英	六〇名	七日	五〇%増賃、労働時間八時 間制、残業毎時五仙の手當 五〇%乃至八〇%増賃、罷 業中の賃銀支給、一週一回 の休息日	二〇%増賃、九時間制、残 業毎時三〇仙支給、日曜就 業は二日分賃銀支給
八三四	大陸報館	愛多亞路一六	英	七名	三日	六〇%増賃、毎月現米四斗 乃至四斗五升支給、労働時 間改善、夜勤料一日四〇仙 罷業中の賃銀支給	四〇%乃至七〇%増賃、罷 業中の賃銀半分支給、休息 日承認
八三五	上海特別市印刷業 一五〇軒	共・佛租界	米	二〇〇名	七日	六〇%増賃、毎月現米四斗 乃至四斗五升支給、労働時 間改善、夜勤料一日四〇仙 罷業中の賃銀支給	二〇%増賃、毎月現米二斗 乃至八斗支給、夜勤料は三 〇仙別に晩食支給、罷業中 の賃銀半分支給
八三六	上海駁運會社	四川路一二五	米	七名	一日	待遇改善	生活手當二〇元支給、夜勤 料六〇仙引上
八三七	雲林織造公司	臨青路四八四	米	七名	三日	労働時間短縮反対、二〇% 増賃	承認
八三八	一導華織布廠	昌平路四八三	米	六名	五日	一〇〇%増賃、織揚一碼毎 八〇仙増賃、住宅及食事も 八〇仙増賃、残業は毎時 一〇〇%増賃	二〇%増賃、織揚一碼毎二 仙増賃、日給工人に食費供 給九時間制、残業は毎時三 〇仙増賃
八三九	羅斯福碼頭工人	佛租界バンド	米	六名	三日	窃盜のため逮捕の同僚釋放 電力節減による時間短縮反 對、罷業不参加工人の解雇	承認
八四〇	九豐絲織廠	澳門路六〇一	米	二名	一日半	三〇%増賃、生活手當五〇元 怠慢による四名解雇反対	承認
八四一	露商印刷業公司	斜橋路一〇五	米	二名	三日	八〇%増賃	承認
八四二	P.W.D. 順德路分局	順德路九二	米	二名	三日	八〇%増賃	承認
八四三	德豐針織廠第一廠	武定路六〇九	米	二名	三日	八〇%増賃	承認
八四四	網染業工人	共・佛租界	米	二名	五日	増賃	四五元乃至一五元の解雇 手當支給、男女一七名解雇 女工二〇名無條件復業
八四五	無線電製造業一六軒	共・佛租界 南市	米	二名	一日	四〇%増賃、毎月米手當二 六元、中秋節賞與二ヶ月分 賃銀	染上一碼毎三〇%乃至一三 〇%増賃、最低毎月賃銀五 元支給、野菜手當一日一五 仙乃至三〇仙引上

九九	湯姆生洗染公司	康福路八八 八弄三	露	八時一時	八〇%増賃	四〇%増賃	
九〇	保羅生皮鞋公司	靜安寺路一〇 四一	露	六日	一五〇%増賃、毎月煙草代 一二元、住込工人に特別手 當二〇元支給	五〇%増賃、煙草代八元支給	
九〇	▲義興印刷所	山四路一八一 弄三六		三日	解雇工二名の復職五〇%増 賃、中秋節賞與一ヶ月分賃銀	一名解雇手當五〇元支給、 二〇元増賃、中秋節賞與一 〇日分賃銀	増物印刷工
九〇	德興印刷所	喇格納路一五 〇弄六		三日	解雇工の復業、労働時間の 改善、徒弟は工人の半数を 超過せず	解雇工に二〇元支給、九時 間制、徒弟は工人を超過せず	
九二	墨筆製造業			八日	一〇〇%増賃、食料供給、自 炊工人に二五元支給	七〇%増賃承認、自炊工人 に一五元支給	
九二	西式木器業工人	戈登路二四二〇		三日	熱練の程度により六〇%乃 至一〇〇%増賃、徒弟毎月 二〇元支給、米手當引下反對	最高五〇%増賃	職員五、〇〇〇名中二、〇 〇〇名罷業
九二	品華玻璃公司			三日	解雇手當三ヶ月分賃銀支給	解雇	警察調停
九二	萬豐織綢廠	臨青路一二六 弄五九		五日	五〇%増賃、生活手當二〇 元支給	閉鎖宣言により無条件復業	残余一八名不参加
九二	▲洽茂冷氣公司	裕興大街四二 弄六		二日	一五〇%増賃、煙草代二五 元、住宅手當支給、一週一 回の休息日	八元増賃	運搬夫、九月一五日六〇 名臨時採用
九二	大有餘油公司			二日	二〇元増賃	六〇%乃至八〇%増賃、生 活手當一八元乃至二五元支 給、罷業中賃銀のみ支給	男女
九二	紙盒製造業			二日	増賃、生活手當引上、罷業 中の賃銀及手當支給	一二元増賃、解雇手當は三 ヶ月分賃銀支給、解雇工全 部の復職	切符で乗客と喧嘩無軌道 電車一部停止
九二	▲照相製版業	共・佛租界		四日	三〇元増賃、生活手當毎月 一〇元乃至二〇元支給、理由 なく解雇せず、解雇手當一 ヶ月分賃銀、八月中の解 雇工全部の復職	承認	
九二	▲英商電車公司	共同租界	英	二日	二二五〇紛七時		

九二	製履業工人(靴店三 〇〇軒、工場八〇軒)	蘇德路八〇	露	六日	靴上一足毎六〇仙増賃、 食料供給、中秋節賞與は一 ヶ月分賃銀	靴上一足毎四五仙増賃、 食料供給、中秋節賞與は考 慮、最低半ヶ月分賃銀支給	工人のみならず工場主及 請負業者も仕上増賃要求 九月二九日罷官が工人を 工場外に放逐、一〇月六 日一〇名無条件復業、一 〇月八日残余復業、三三 名は歸省又は轉勤
九二	彼得織布公司	星加坡路一八 七弄一四七	米	三日	四〇%増賃、米手當引下反 對、生活手當一五元	二五%増賃、米手當引下せず	新聞一時休刊
九二	▲義大布廠	愛多亞路三〇	米	二日	對	資額調歩	
九二	中美日報館	漢口路一二六		五日	二五%増賃	承認	
九二	大美轉運公司	廣西路一六一		五日	一〇〇%増賃、毎日生活手 當二〇元、中秋節賞與二〇 日分賃銀	否認、七名解雇、残余無條 件復業	
九二	福和公雜貨店	楊樹浦路 二六四五 二〇三三 一八一七 臨青路九三		四時	増賃	未解決	
九二	萬豐米號			四時	増賃	未解決	
九二	民船木業工人	北四川路八一 六		三日	本帮工人四〇%、養育工人 六〇%増賃、殘業毎時六〇 仙、夜勤は夕食及晩食支給	三〇%増賃、殘業毎時二五 仙支給、夕食のみ供給	
九二	▲上海市成衣業			三日	六月締結の米手當條項嚴守	承認	
九二	新協女子服裝公司			二日	五〇%増賃	四〇%増賃	
九二	上海市電影院業			二日	六〇%増賃、生活手當四〇元	未解決	
九二	寶興洋服號	四川路一五〇 弄一〇〇一		二日	監督とテイラーの紛争	無条件復業	テイラー
九二	大船織綢廠	小沙渡路一五 〇弄一〇〇一		五日	増賃、九月二七日の紛議決裂 ダイアナマリー號を開演 炭礦にチャーターするため 乗組員解雇に反對	一七名無条件復業、残余は 無条件復業、罷業中の賃銀 一日分支給	工人は店主を襲撃物品を 破損逃走
九二	▲馬勒輪船公司	福州路三〇	英	四日			

101	▲南貨業(食料品)	共同租界 梅白路五三 新開路四七七 新開路四七七	元	五月の勞資協約廢止、一八元増賃	新協約考慮、三元乃至六元増賃	
102	▲上海市油漆業	共租界 新開路四七七	元	一日一元増賃、一日食費五仙、福利事業費二〇仙、一日から有効	五〇仙増賃、食費五〇仙、福利事業費五仙、六日から有効	一日十三日五二名の備後者逮捕、一七名釋放他は起訴、六日一二名逮捕
103	▲新康印刷所	新開路四七七	元	九月に締結せる協約に洩れた一部工人の脅迫による	六日二名無條件復業、一七日老開地五八三名無條件復業	一月以降三四名の靴下製造部員は染上工九名の罷業のため失業、残余四名で操業
104	公益電線廠	蘇州路六六四	元	染上一打毎一仙増賃、夜勤は特別手当一元支給、罷業中の食料供給	四名無條件復業、五名解雇	
105	洗衣業五軒	蘇州路六六四	元	不詳	未解決	
106	王維新	蘇州路六六四	元	洗濯工一〇〇%増賃、機衣工一〇〇%増賃、配達工八〇%増賃、煙草代一日五〇仙支給	三〇%乃至八〇%増賃、煙草代一日三〇仙支給	
107	大新	蘇州路六六四	元	臨時工四一名の解雇反對	無條件復業	常雇六一名は七日復業したが臨時工の脅迫で再罷
108	屈臣氏汽水公司	蘇州路三三三	元	三五%増賃、毎月生活手當二〇元支給	未解決	
109	▲德太汽車公司	湖北路一八八	元	ガソリン不足による減賃、減車に反對	交渉に入る	運轉手
110	▲中和汽車公司	白克路七三二	元	減車取止め	一〇%増賃、一名再雇	
111	▲卡德汽車公司	白克路七三二	元	前同罷業の解雇取消し	日給八五仙引上、見習工五〇仙引上	勞働より工部局へ調停申込
112	恒興絲織廠	海州路一三三	元	一〇〇%増賃、年末賞與一ヶ月分賃銀	一〇%増賃、毎月米手當一元支給	男女
113	中國樂器製造公司	愛文義路一二一	元	ケ月分賃銀	四五%増賃、營業成績により年末賞與決定、毎月三三三分賃銀支給	
114	男子洋服店五〇軒	湖北路、四川路	元	増賃	二〇%より四五%に増賃	
115	上海市西服業	湖北路、四川路	元	比〇%増賃、殘業毎時五〇仙支給	三八%増賃、三〇%増賃	
116	上海特別市輪渡公司	廣東路一〇〇	元	六〇%乃至一二〇%増賃、米手當一日一元一週一回の休息日	一〇%乃至一〇〇%増賃、米手當一日八〇仙支給	
117	華德電泡廠	東京路一九一	元	待遇改善	三〇%増賃、米手當毎月五元支給	運西の硝子工一〇〇名が華德の二〇〇名に増賃要求を強め、拒絶されて同工場に物品を破壊五五名逮捕、華德の事務所のピラ撒布二名逮捕
118	▲成衣業一〇軒	佛租界、菜市路	元	増賃	月給七〇%引上、見習月給四元引上、毎月食料手當八元支給	脅迫者三名逮捕
119	▲成衣業三五軒	福州路	元	一八〇%増賃、毎月現米三斗乃至麵粉一袋支給、自炊工人に米手當二元支給	一〇〇%増賃、實銀三〇%の米手當支給、外資仕上一着毎八〇仙増賃	女子衣服仕立
120	水木業工人	共、佛租界支那街	元	大工一日二元五〇仙、左官一日二元増賃	大工一元三〇仙、左官一元二〇仙増賃	二〇日脅迫で一名逮捕、全上海一〇〇〇〇名中三、〇〇〇名罷業、一七日アチピラ撒布

101	▲南貨業(食料品)	共同租界 梅白路五三 新開路四七七 新開路四七七	元	五月の勞資協約廢止、一八元増賃	新協約考慮、三元乃至六元増賃	
102	▲上海市油漆業	共租界 新開路四七七	元	一日一元増賃、一日食費五仙、福利事業費二〇仙、一日から有効	五〇仙増賃、食費五〇仙、福利事業費五仙、六日から有効	一日十三日五二名の備後者逮捕、一七名釋放他は起訴、六日一二名逮捕
103	▲新康印刷所	新開路四七七	元	九月に締結せる協約に洩れた一部工人の脅迫による	六日二名無條件復業、一七日老開地五八三名無條件復業	一月以降三四名の靴下製造部員は染上工九名の罷業のため失業、残余四名で操業
104	公益電線廠	蘇州路六六四	元	染上一打毎一仙増賃、夜勤は特別手当一元支給、罷業中の食料供給	四名無條件復業、五名解雇	
105	洗衣業五軒	蘇州路六六四	元	不詳	未解決	
106	王維新	蘇州路六六四	元	洗濯工一〇〇%増賃、機衣工一〇〇%増賃、配達工八〇%増賃、煙草代一日五〇仙支給	三〇%乃至八〇%増賃、煙草代一日三〇仙支給	
107	大新	蘇州路六六四	元	臨時工四一名の解雇反對	無條件復業	常雇六一名は七日復業したが臨時工の脅迫で再罷
108	屈臣氏汽水公司	蘇州路三三三	元	三五%増賃、毎月生活手當二〇元支給	未解決	
109	▲德太汽車公司	湖北路一八八	元	ガソリン不足による減賃、減車に反對	交渉に入る	運轉手
110	▲中和汽車公司	白克路七三二	元	減車取止め	一〇%増賃、一名再雇	
111	▲卡德汽車公司	白克路七三二	元	前同罷業の解雇取消し	日給八五仙引上、見習工五〇仙引上	勞働より工部局へ調停申込
112	恒興絲織廠	海州路一三三	元	一〇〇%増賃、年末賞與一ヶ月分賃銀	一〇%増賃、毎月米手當一元支給	男女
113	中國樂器製造公司	愛文義路一二一	元	ケ月分賃銀	四五%増賃、營業成績により年末賞與決定、毎月三三三分賃銀支給	
114	男子洋服店五〇軒	湖北路、四川路	元	増賃	二〇%より四五%に増賃	
115	上海市西服業	湖北路、四川路	元	比〇%増賃、殘業毎時五〇仙支給	三八%増賃、三〇%増賃	
116	上海特別市輪渡公司	廣東路一〇〇	元	六〇%乃至一二〇%増賃、米手當一日一元一週一回の休息日	一〇%乃至一〇〇%増賃、米手當一日八〇仙支給	
117	華德電泡廠	東京路一九一	元	待遇改善	三〇%増賃、米手當毎月五元支給	運西の硝子工一〇〇名が華德の二〇〇名に増賃要求を強め、拒絶されて同工場に物品を破壊五五名逮捕、華德の事務所のピラ撒布二名逮捕
118	▲成衣業一〇軒	佛租界、菜市路	元	増賃	月給七〇%引上、見習月給四元引上、毎月食料手當八元支給	脅迫者三名逮捕
119	▲成衣業三五軒	福州路	元	一八〇%増賃、毎月現米三斗乃至麵粉一袋支給、自炊工人に米手當二元支給	一〇〇%増賃、實銀三〇%の米手當支給、外資仕上一着毎八〇仙増賃	女子衣服仕立
120	水木業工人	共、佛租界支那街	元	大工一日二元五〇仙、左官一日二元増賃	大工一元三〇仙、左官一元二〇仙増賃	二〇日脅迫で一名逮捕、全上海一〇〇〇〇名中三、〇〇〇名罷業、一七日アチピラ撒布

10115	啓中化學廠	澳門路五〇九	三	一時	待遇改善、解雇二名の復職	毎月特別手当八元支給、二名再雇	新機械入手二〇日から再開
10118	安達紡織工廠	靜安寺路一四八六	三〇	罷六日	一〇月から二〇%増賃、米手当一日二〇仙	一〇月分賃銀二〇%引上、一二月から米手当一日六仙支給	
10118	Long Mei 印刷公司	馬路路四九五	三〇	二日	他からの脅迫で停業、脅迫者三〇名は工場機械一部を保持する	四名無条件復業、三名歸省五名任意退職	馬丁
10119	建築機器廠	勞勃生路一二二六弄三〇號	三〇	三日	五〇%増賃、毎月米手当三〇元	承認	
10120	上海馬路總會	馬路路三〇四	三〇	四日	特別手当一五元引下反對	七〇%増賃、食料支給、米手当一五元支給	
10121	▲墨筆製造業	南市	三〇	四日	一〇〇%増賃、食料又は米手当二五元支給	一五%増賃、米手当一日五〇仙、年末賞與は營業成績により決定	警察調停
10122	華生電器廠	戈登路一六六	三〇	六日	五〇%増賃、米手当一日一元、年末賞與二ヶ月分賞與	未解決	電車、乗合自動車
10123	▲法商水電公司	呂班路二四九	三〇	紛	三〇%増賃、住宅手当二〇元、生活手当三〇元引上	生活手当一日一元、賃銀一日五〇仙、機部工人は毎月六日分賃銀追加	
10123	▲英商電車公司	蘇州路一八五	三〇	意半日	生活手当一日三元野菜手当一日五〇仙、機部工人は毎月六日分賃銀追加	一四名解雇	
10124	永昌織綢廠	橫橋路三〇九	二〇	一日	前回は業交渉決裂	普通靴仕上一足毎四〇仙増賃、棉花靴仕上一足毎八〇仙増賃、一年以上勤続工一〇%増賃、夜勤料支給	日給三〇仙引上、罷業中の賃銀五元支給を提示するも勞働不服
10125	婦人靴店五二軒	浙江路及びその附近	二〇〇	八日	普通靴仕上一足毎六〇仙増賃、棉花靴仕上一足毎一〇〇%増賃、夜勤料支給	一日二八仙増賃、生活手当一日四〇仙支給	二名歸省
10126	同利織綢廠	小沙渡路一二〇九弄四二二	三〇	三日	一日六〇仙増賃、毎月三五日分賃銀支給	二五%増賃	三名解雇
10127	永動橡皮製造廠	武定路四二二	三〇	三日	一〇〇%増賃、毎月現米四斗支給		

10128	大華機器廠	蘇德路八五三	三〇	四日	待遇改善	生活手当六元引上	
10129	竹籠屋一三軒	共同租界	三〇	七日	増賃、待遇改善	八〇%増賃	
10130	新昌織綢廠	戈登路四〇〇	三〇	數時	待遇改善	生活手当一日女工三〇仙、男工四〇仙引上	
10131	分工場	小沙渡路四〇〇	三〇	二日	生活手当一〇〇%引上	生活手当二五%引上	一〇月分給料受取拒絶
10132	麥加利銀行	バンド一八	三〇	二日	増賃	一〇名無条件復業	
10133	華德印刷局	新開路九〇六	三〇	二日	増賃	交渉無し復業	
10134	長發皮鞋店	阿拉白司脫一四四	三〇	七日	九月罷業協約賃銀の履行	交渉無し復業	
10135	字林西報	バンド一七	三〇	半日	一五%乃至三〇%増賃、毎月生活手当六〇元	三五%乃至一〇〇%増賃	
10136	瑞瑞織廠總辦事處	楊樹浦路六四	三〇	二日	二〇%増賃	交渉無し復業	
10137	久盛絲織廠	小沙渡路一二三弄七〇	三〇	七日	一〇%増賃、男女工同様待遇、毎月三五日分賃銀、年末賞與二ヶ月分賃銀	男工一日三〇仙乃至六〇仙、女工三〇仙増賃、毎月三二〇日分賃銀支給、年末賞與二〇%増賃	
10138	▲上海修船廠	勞勃生路一五	三〇	二日	一〇%増賃、一年一四ヶ月に特別獎金六〇元支給	二〇%増賃	
10139	公益紗廠	澳門路五九五	三〇	意一日	一〇〇%増賃、毎月工部局米五斗、野菜手当二五元支給	五〇%増賃、現米一日、封度特別手当八五仙支給	
10140	志裕橡皮印刷廠	澳門路五九五	三〇	六日	原料不足のため停業	未解決	
10141	華豐搪瓷工廠	馬白路二四三	三〇	二日	五〇%増賃	一二月四日全部解雇	
10142	新華機器廠	四庫路一三四	三〇	二日	五〇%増賃	四ヶ月分賃銀支給解雇	

二、五	恒豐染織廠	橋樑路一四〇	三	一日	一〇〇%増賃、米手當六〇元、理由なく解雇せず	六〇%乃至八〇%増賃、米手當四〇元支給、理由なく解雇せず	
二、五	景綸衫襪紡織廠	西安路二八四	三	二日	八〇%増賃、野榮手當一日一元、罷業中の賃銀及手當支給	二六%増賃、野榮手當四五元支給、罷業中の手當五元支給	
二、五	天成織造廠	小沙渡路五七	三	半日	増賃	交渉終了復業	
二、七	オスカI・ステイツ ズア商店	茂海路五〇三	三	四時	生活手當毎月二三元四〇仙	五〇%復業	ハンド・バッグ製造女工
二、六	▲米穀業八〇軒		七〇	二日	三〇%増賃	交渉終了復業	
二、六	美生印書館發行所	酒涇路五	七〇	四日	一〇〇%増賃	三〇%増賃	
二、六	竹造器具業四〇〇軒		一〇〇	六日	七〇%増賃、現米支給	無條件復業	
二、中旬	景成木材公司	西康路三五五	九	一時	就業中工場の門扉閉鎖に抗議		
二、八	光陸電影院	博物院路二二三	九	五日	生活手當毎月二九元、日曜祭日午前中上映は手當一元引上	生活手當毎月二〇元、午前中上映は手當四五元引上	
二、八	浙江 杜美 練斐德	練斐德路三三	三三	三日半	五〇%増賃、生活手當一日六五元引上、年末賞與三ヶ月分賃銀	二五%増賃、生活手當三〇元支給、營業成績により決定	
二、八	美興絲織廠	澳門路五九五	四	五日	八〇%増賃	四〇%増賃	
二、九	但丹女衣店	靜安寺路二二	三	六日	五〇%増賃、不況のため工場閉鎖、解雇手當支給	否認、六名解雇	タイラー
二、九	大新絲織廠	華德路五二二 弄七五八	三	三日	一〇〇%増賃、生活手當一日分賃銀、夜勤料支給、徒弟一〇元乃至三〇元支給	三〇%乃至三五%増賃、三ヶ月経過後更に五%引上、年末賞與は復業後考慮、一月二回の休息日	新雇の工人により發刊續行
二、一〇	▲上海市彩印業 八〇軒		二四	七日	一〇〇%増賃、毎月現米五分支給、夜勤料支給、徒弟一〇元乃至三〇元支給	一五〇%増賃、毎月現米四斗五升支給、勤続半年以上者に解雇手當二ヶ月分賃銀支給、休日就業は二日分賃銀、徒弟一〇元乃至三〇元支給	
二、一一	▲印書業一五〇軒		五〇	二日	一〇〇%増賃	未解決	
二、一二	二區西式女服業二〇軒	佛租界	六	二日	八〇%増賃、殘業毎時一元支給、自炊工人米手當三〇元支給	四〇%増賃、殘業毎時四〇元支給、自炊工人米手當二〇元支給	
二、一三	▲上海市司機業		三	六日	六〇%増賃、現米一日五斗支給、八時間制、殘業毎時一元増賃、一部停止するも賃銀及手當支給	四〇%増賃、米手當一日四〇元支給十時間制、殘業は毎時五五仙増賃	
二、一四	鴻章紡織染廠	麥根路三八一	二四	二日	五〇%増賃、生活手當六〇%引上	三〇%増賃、生活手當一日五〇%引上	一四日工場より放送
二、一五	廣福記汽車運賃公司	界路二四一	三	?	五〇%増賃、野榮手當一日八〇仙、年末賞與二ヶ月分賃銀	三〇元増賃	トラック工人
二、一五	大來棉織廠	薛華立路一九	三	二日	待遇改善	四〇%増賃、米手當一日九五仙支給	
二、一六	絹織廠一〇軒	勃利南路二五	三〇	七日	五〇%増賃	三〇%増賃	
二、一六	宏義織布工廠	周家嘴路九〇 弄一〇四號	三〇	一日	殘業反對	二時間半の殘業	
二、一七	汽車行四軒	北京路 戈登路 遇爾西愛路 靜安寺路	三〇	三日	二五%増賃、現米毎月四斗支給	一六・四%増賃、米手當毎月三五元支給	
二、一八	銀色 雲飛		三	?	五〇%増賃、毎月米手當六〇元支給	市内の状況變化により停業未解決	運轉手、苦力、一二月二日倉庫苦力五〇名合流、一二月三日はトラック三台を徵發、ミラー轉運公司のトラックも同様損傷

二、一〇	▲上海市彩印業 八〇軒		二四	七日	一〇〇%増賃、毎月現米五分支給、夜勤料支給、徒弟一〇元乃至三〇元支給	一五〇%増賃、毎月現米四斗五升支給、勤続半年以上者に解雇手當二ヶ月分賃銀支給、休日就業は二日分賃銀、徒弟一〇元乃至三〇元支給	
二、一一	▲印書業一五〇軒		五〇	二日	一〇〇%増賃	未解決	
二、一二	二區西式女服業二〇軒	佛租界	六	二日	八〇%増賃、殘業毎時一元支給、自炊工人米手當三〇元支給	四〇%増賃、殘業毎時四〇元支給、自炊工人米手當二〇元支給	
二、一三	▲上海市司機業		三	六日	六〇%増賃、現米一日五斗支給、八時間制、殘業毎時一元増賃、一部停止するも賃銀及手當支給	四〇%増賃、米手當一日四〇元支給十時間制、殘業は毎時五五仙増賃	
二、一四	鴻章紡織染廠	麥根路三八一	二四	二日	五〇%増賃、生活手當六〇%引上	三〇%増賃、生活手當一日五〇%引上	一四日工場より放送
二、一五	廣福記汽車運賃公司	界路二四一	三	?	五〇%増賃、野榮手當一日八〇仙、年末賞與二ヶ月分賃銀	三〇元増賃	トラック工人
二、一五	大來棉織廠	薛華立路一九	三	二日	待遇改善	四〇%増賃、米手當一日九五仙支給	
二、一六	絹織廠一〇軒	勃利南路二五	三〇	七日	五〇%増賃	三〇%増賃	
二、一六	宏義織布工廠	周家嘴路九〇 弄一〇四號	三〇	一日	殘業反對	二時間半の殘業	
二、一七	汽車行四軒	北京路 戈登路 遇爾西愛路 靜安寺路	三〇	三日	二五%増賃、現米毎月四斗支給	一六・四%増賃、米手當毎月三五元支給	
二、一八	銀色 雲飛		三	?	五〇%増賃、毎月米手當六〇元支給	市内の状況變化により停業未解決	運轉手、苦力、一二月二日倉庫苦力五〇名合流、一二月三日はトラック三台を徵發、ミラー轉運公司のトラックも同様損傷

117元	清輪染織廠	馬白路二五五	四時	四〇%増賃	交渉無し復業	二月二十九日一〇〇名合流 二月の工人は南市工會員 の脅迫で暴行恐嚇手な破 壊一名起訴
117元	Advertising Art Studio	愛文義路八三	二時	五〇%増賃、三〇日の支拂 日を一日繰上	無條件復業	職工、見習
121元	北米洲保險公司	九江路一三〇 二〇二號室	二時	二〇%増賃、野榮手當一月分 月分賃銀	未解決 賃銀、生活手當を含み一〇 〇元引上	
121元	依巴德電氣公司	蘇州路三九〇	二時	二〇%乃至一五〇%増賃	未解決 生活手當一〇元引上	
121元	正廣和公司	船房路四〇〇	二時	三〇%乃至一〇〇%増賃	三〇%乃至一〇〇%増賃	
121元	電氣用具業六〇軒	佛租界	三〇分	二〇%増賃、毎月現米四 斗支給		
121元	▲上海市海運販賣店		二時	賃銀四〇%の特例手當、徒 弟毎月手當四元引上	二〇%引上、徒弟手當二元 引上	
121元	▲上海市木業(棺 桶)		二時	一五〇%増賃、毎月四分分 賃銀追加、遺費及死亡慰 料二〇〇元支給、毎月現 米四斗支給	七〇%増賃、毎月四分分 賃追加	
121元	▲上海市製糖業		二時	四〇%増賃、年末賃銀三ヶ 月分賃銀	二五%増賃、年末賃銀二〇 日分賃銀支給	
121元	▲上海市水泥業		二時	五〇%増賃	三〇%増賃、新賃銀制一月 一日から實施	
121元	▲上海市製紙業		二時	賃銀の承認、十時間制、公 會の不具に對する慰料、給 料は二日に一六日、給料日 は二日と一六日、徒弟毎月三 元支給、片工は五打毎 五〇%増賃、他は五打毎 五〇%増賃、米手當年末賃 銀支給、米手當年末賃 銀支給、米手當年末賃	承認、十時間制、慰料は 二日と一六日、給料日は 二日と一六日、徒弟毎月三 元支給、片工は五打毎 五〇%増賃、他は五打毎 五〇%増賃、米手當年末賃 銀支給、米手當年末賃	

136	支那靴店三〇〇軒	共・佛租界	1000名	一五〇%増賃、毎月米手當 三斗支給	一五〇%増賃	男女
137	水車販賣業一五〇軒		六〇〇名	食料供給又は工部局米二斗 支給二〇%増賃、毎月配 連夫特別手當五元、徒弟最 低賃銀四元支給	徒弟毎月二元五〇仙支給	
137	華商銀扣廠	九江路二八九	九日	年末賃銀は二ヶ月分賃銀、 殘業毎月一元増賃	解雇手當五元支給	
138	立報館	延平路二二八	二時	解雇手當	未解決	
138	黑人牌牙膏	戈登路A二二 三四弄二二二	二時	牛ヶ月分の臨時手當に反對 解雇手當五〇〇元支給	解雇手當六〇元乃至九〇元 支給	一八日から工人全部退場 一二月八日以降停刊、職 員四三名残存 女工不況のため解雇、工 場は男工三〇名で操業、 臨時工の解雇、常雇工に て操業
138	上海鋼鐵廠	愛多亞路一四 六二弄六二	三時	解雇手當一〇〇元支給	未解決	
138	華成印製製履廠	蘭明路一一三	三時	解雇手當、解雇手當交渉中	賃銀支給解雇手當三〇元支給	昨今の状況により停業 不況のため
138	Henry H. Cohen Ltd.	膠州路八一〇	三時	解雇手當八〇元支給	解雇手當八〇元支給	
138	▲美康織廠	膠州路四一九	三時	材料入取難による一時停業 に反對	一七九名解雇、手當四二元 乃至八九元支給、殘余九〇 名で再開	失業工人は社會運動指導 委員會との會見を依頼に よつて拒れ罷職、傷二名
138	昌明製電氣公司	浦東バンド	三時	一二月分賃銀は物價及米手 當加算年末賃銀、停業の場 合米手當を含む一ヶ月分賃 銀支給	一ヶ月分賃銀九〇%の生 活手當支給、二週間分の米 手當及び特別手當支給、解 雇手當二元支給	浦東橋内日側接収、一月 一六日臨時手當一週間分 賃銀に不服、解雇手當半 年分要求
138	▲馬勒造船廠		三時	解雇手當	解雇手當	昨今の状況により停業
138	別發公司	小沙渡路一〇	三時	解雇手當	解雇手當	電力め節減のため停業、登 察調停
138	Kelly & Walsh Ltd. Printing Office	小沙渡路四〇	三時	解雇手當	解雇手當	
138	大中華五金廠	戈登路一〇四 九弄六〇	三時	停業中の米手當一日一元支 給反對	解雇手當八〇元乃至三三〇元 の 解雇手當支給	

三三三	英國製造公司	靜安寺路七九	英	八閉	臨時工を長工同様待遇、車馬費支給、一二月賃銀は二ヶ月分病氣缺勤も賃銀支給	解雇手當三ヶ月分賃銀支給、年末賞與一ヶ月分賃銀支給	昨今の状況により停業
三三四	油漆業				未解決		
三三四	▲汽車行四軒	北京路		一、二、三、四、五、六、日	ガソリン不足により停業、一二月分賃銀半減、年末賞與一ヶ月分賃銀反對	解雇手當は交渉中	一六日より日本海軍當局の依頼により再開
三三四	▲祥生銀色泰來雲飛	遼寧路		一、二、三、四、五、六、日	昨今の状況により停業		
三三五	謀得利公司	倍開爾路九二		三閉一日			
三三五	永安紡織公司機器間	賽根路六八一		六閉			
三三五	申新第九廠	漢口路一四〇		三、四、五、六、日	現米支給、年末賞與は一五〇元		
三三六	中央鋼鐵廠	武定路五五〇		四、五、六、日	五〇%増賃		
三三六	歐亞化學廠	西摩路一五七		四、五、六、日	停業のため		
三三六	▲徐重道藥號	愛文義路一〇		四、五、六、日	解雇工一名の復職		
三三七	細紗三〇〇軒	共・佛租界		四、五、六、日	開北工會員の脅迫により閉店		
三三七	文成絲織廠	小沙渡路六一		八閉			
三三七	成良織網廠	七弄一七一號		八閉			
三三七	美新棉織廠	西摩路八四九		三、四、五、六、日	解雇手當		
三三八	金聲工業社圓筒廠	東京路一〇一		三、四、五、六、日			
三三八	密勒轉運公司	勞勃生路一二		三、四、五、六、日			
三三八		北京路一〇六		三、四、五、六、日			

三三八	Tosca Zip-fartener Manufacturing Co.	愛文義路一二三四	米	一、二、三、四、五、六、日	解雇手當一ヶ月分賃銀	賃銀一二月分と解雇手當五ヶ月分賃銀支給	資材不足により停業
三三八	良友轉運公司	漢口路一二六		一、二、三、四、五、六、日			停業による解雇、運轉手三名、苦力一六名
三三八	National Herald Newspaper	寧波路一三〇		一、二、三、四、五、六、日	解雇手當一〇ヶ月分賃銀	解雇手當四ヶ月分賃銀支給	昨今の状況により停業
三三八	含芳紙廠	小沙渡路六二		一、二、三、四、五、六、日			不況により閉鎖
三三八	Sugar Wholesale Market	佛租界		一、二、三、四、五、六、日			配運夫
三三八	寶綠公司	膠州路五五六		一、二、三、四、五、六、日	解雇手當五〇〇元	解雇手當五〇元乃至一五〇元支給	停業により解雇
三三九	▲沙利文織頭廠	西摩路一二五	米	一、二、三、四、五、六、日	一、二〇%増賃、停業又は短縮の場合も賃銀、手當支給、年末賞與一ヶ月分賃銀	年末賞與一ヶ月分賃銀、特別手當半ヶ月分賃銀支給	
三三九	上海皮廠	(事務所) 四川路六二〇 (工場) 勁里南路	米	一、二、三、四、五、六、日	解雇手當	解雇手當五〇元乃至一五〇元支給	停業により解雇
三三九	頤中運銷煙草公司	浦東構内		一、二、三、四、五、六、日	停業のため	操作再開、賃銀支拂を約束	資制と工人代表と會合し生活手當に關し討議、二週一日乃至二日操業
三三九	振中紡織整染廠	小沙渡路八四		一、二、三、四、五、六、日	資材不足により停業解雇	停業期間に對し日割五〇仙米一升支給	男女工
三三九	大昌織廠	赫德路一二〇		一、二、三、四、五、六、日	年末賞與毎日一〇仙の米手當支給	未拂賃銀、解雇手當四ヶ月乃至八ヶ月分、歸省手當七〇元支給解雇	當面の状況により停業
三三九	同豐印染廠	周家嘴路一一八		一、二、三、四、五、六、日			
三三九	▲英商中國公共汽車公司	康腦脫路一一七	英	一、二、三、四、五、六、日	一九日よりの賃銀半減反對待遇改善	賃銀半減取止め一時的解雇制を廢棄、工人は仕事の有無に拘らず出勤する條付で賃銀支給	その他待遇改善は考慮
三三九	Tsang Foonng Dyeing & Factory	佛租界 Amial Bayle路		一、二、三、四、五、六、日	八〇%増賃	交渉を殘し復業	女工

1110	永通仁記織造廠	膠州路三一九	二	不況により解雇	二〇日分賃銀解雇手当二五元支給	女工罷業、男工九名で操業
1110	靴下工場三〇軒	佛租界	1000	不況による時間短縮反対	未解決	男女工洗濯部
1111	華盛染織廠第四廠	華盛路一一二	三〇	年末賞與五〇〇元と三ヶ月分賃銀	未解決	當面の状況により停業
1111	Ying Foong 織造廠	小沙渡路一〇	二六	—	仙支給	當面の状況により停業
1111	鴻輪染織廠	馬白路二五五	三	—	八元支給解雇	當面の状況により停業
1113	上海クラブ	バンド三	三〇	四二日間の未拂分給料支給	未解決	クラブ委員により考慮
1113	信友企業公司	四庫路二二	二	解雇の場合三ヶ月分給料	未解決	當面の状況により工場閉鎖
1113	アメリカン・クラブ	福州路二〇九	三〇	解雇手当三〇〇元	未解決	—
1113	永安紡織廠	麥根路四九一	三〇	復職を要求	未解決	—
1113	華銘鋼鐵廠	眉州路六一〇	二	—	未解決	—
1113	中國新築器昌製造公司	愛文義路一二	二	解雇手当一年分賃銀	未解決	—
1113	平和公司	福樹浦路八	四	解雇手当	未解決	—
1113	大實染織廠	慎德路二七	三〇	—	未解決	—
1113	昌興紡織印染公司	勞動生路一一	三〇	半時要求なし	未解決	—
1113	美文織廠	昌平路六四五	三〇	労働時間短縮反対	未解決	—
1113	Poh Zung 織造廠	小沙渡路六一	三〇	労働時間短縮反対	未解決	—
1113	新亞化學製藥公司	四庫路一〇三	二	米手当一三〇元を石一七〇元引上、年末賞與は二ヶ月分賃銀	未解決	—
1113	三工場	愛文義路七三五	二	—	未解決	—

1113	均益五金織造廠	宜昌路二六九	三	停業のため	未拂賃銀支給解雇	當面の状況により停業
1113	▲彼得織布公司	赫德路八〇九	三	—	未解決	—
1113	怡順印字局	四川路四九四	三	—	未解決	—
1113	▲華陽染織廠	小沙渡路一四	三	解雇手当は米手当、年末賞與を含む半年分賃銀	未解決	—
1113	華昌印刷公司	愛文義路一二	三	解雇に對し、年末賞與、解雇手当五〇〇元支給	未解決	—
1113	▲品華玻璃公司	戈登路一四二	三	—	未解決	—
1113	▲同利織造廠	小沙渡路一二	三	—	未解決	—
1113	新民機器廠	〇九弄四二	三	—	未解決	—
1113	—	勞動生路一一	三	—	未解決	—

外商經營工場と華商經營の比較

一九四一年に於ける一ヶ月當り實際所得

一九三六年	10000	10000	10000
一九三七年	10000	10000	10000
一九三八年	10000	10000	10000
一九三九年	10000	10000	10000
一九四〇年	10000	10000	10000
一九四一年	10000	10000	10000

△實質賃銀指數 實際所得指數 改正生計費指數 實質賃銀指數

全工人 二八〇三 六〇〇五 三〇三三 三〇三七

女工出來高拂 二八〇三 六〇〇五 三〇三三 三〇三七

男工出來高拂 二八〇三 六〇〇五 三〇三三 三〇三七

女工時間給 二八〇三 六〇〇五 三〇三三 三〇三七

男工時間給 二八〇三 六〇〇五 三〇三三 三〇三七

全工人 二八〇三 六〇〇五 三〇三三 三〇三七

生計維持に要する所得額

一九四一年 主要賃銀所 其他の家族 維持収入 収入總額

得者の所得 構成員所得

一、低下水準 一九四一年 二、最低限度

一月 二五九六 一月 三〇三七

二月 三〇三七 二月 三〇三七

三月 三〇三七 三月 三〇三七

四月 三〇三七 四月 三〇三七

五月 三〇三七 五月 三〇三七

六月 三〇三七 六月 三〇三七

七月 三〇三七 七月 三〇三七

八月 三〇三七 八月 三〇三七

九月 三〇三七 九月 三〇三七

十月 三〇三七 十月 三〇三七

十一月 三〇三七 十一月 三〇三七

十二月 三〇三七 十二月 三〇三七

商品市況報告

棉花

△外棉市況

今年は年初より日米關係不安を懸つて、日英米危懼到來其他流言蜚語續出、之がため製品市場恐怖人氣を誘導する反面、亦法幣價值不安を誘ひ一般換物人氣を刺戟する等市況動向は極めて複雑であつた。舊正明け印棉暴騰と原棉獲得難見越にて、細番手の奔騰に先づ加洲棉引合活況を呈したが、二月初週より米人引揚に依る不安人氣は製品を鈍化せしめ、棉花市況も閑散となる。爲替は對英三片、對米五片見當保合、三四月は製品も一高一下、棉花は閑散ながら先行手當難見込のため引續き伯棉加洲棉の成約あり、五月に入り米國參戰日支和平等のデマを入れ棉取定期暴落も一時買付見送りとなつたが、六月に入り相場再び回復伯棉の商内旺盛となり、各社共大量の手合を見た。七月は紡績も手當一順の態にて高値には買添はなかつたが、獨蘇開戦後以來の船隻難を更に激化し市中相場各棉奔騰した。

變、廿六日遂に英米一齊に日資凍結令發布となり、市場之れがため混亂状態に陥り、外棉の狂騰相場は「ノミナル」となり、既約定解約問題に紛糾した。然し當地紡績は約六ヶ月の外棉ストックを擁して英米の資金凍結に依り直接の損害なき爲め成行静觀の態度に出でたが、直輸入業者にありては先拂ひ外棉約定の着否は死活の重大問題にて、印棉未出約定は本國處分伯棉未出出品は無條件解約となり、航海中の貨物及香港滬貨は上海輸入可能の見込つき、既約定は一應片附きたるも其後新規外棉輸入は絶望状態に陥り、八月八日爲替の暴落と相俟つて上海外棉市場は更に奔騰の一途を辿り、華商銀行債莊筋の換物投資により米印伯の各棉現物市場は連日五十弗刻みに暴騰、伯棉五番級八百弗の高値を呈した。此間次々と未出品の約定解約の現物買漁り益々相場上昇を刺戟した。

萬弗と内定したが棉花に對しては割當無く邦人商社は第三國物資獲得の途完全に杜絶せられ、右割當制を通じてなされる貿易管理の實施に依り輸入物資の不足先高見越の根強き底流をなし、法幣の對内價值下落先行不定と俟つて上海在荷外棉は新高値運びはなつた。綿糸布も連日暴騰の一途を辿り、十月は之がため綿業取引も立會停止を繰返した。十一月に入つて日米關係益々惡化米國マリンの引揚あつて不安人氣極溢、又工部局物價統制にて製品反落、棉亦最高より二百元程度下押した。

△中支棉花市況

年初上海棉は奥地出廻り引續き順北支上海會波相場百八十元見當を唱へたが細番手採算有利にて北支太倉棉の邦人訪商内閑散、僅かに二十番手混棉用として通州、常熟の小口商内止

まる。一月中日本軍民需用として五萬担滿洲製綿用として一萬五千担の輸出商談出來、中支棉花協會を通じて各會員に割當てらる。舊正明けは奥地出廻り僅少乍ら相場市況に追隨、當地紡績も五六千俵の成約あつたが、三月より五月迄は紡績も細番手外棉に買氣集中し、支那棉を顧みなかつたため中支棉は商内殆んど無く各社在庫滿腹市中在荷益々増加し外棉相場に逆行しり安歩調を辿つた。然るに更次年度の作柄減少の予想と外棉輸入難見越しに六月より商談復活先づ米貨經濟により對北支向商談が急速に實現し、青島、天津、濟南向七萬担、更に七月に掛けて日支向十數萬担の輸出商談整ひ、茲に奥地滬貨は出廻開始漸く懸眉を開くに至つた。

中支棉花協會新議購買付に就ては折餘曲折の結果十一月八日漸く日滿及當地紡績への供給割當決定せられ最高價格も理詰めに定められ、本格的買付あり十一月中協會員は十二萬九千担の蒐集買付を見たが、十二月大東亞戰の非常事態に際會し金融の途絶したる故、各地買付停止の余儀なきに至り越年した。

昭和十六年度の綿糸布市況を概観するに、之を大別して一月より三月、四月より六月、七月より九月、十月より十二月の四期に分けて得るものと思ふ。

一月より三月に至る第一期は、一年を通じて最も純爛たる自由市場的色彩を有するものとせば、四月より六月に至る第二期は自由市場止に崩壊せんとする斷末魔の苦しみであり、七月より九月に至る第三期は統制經濟への生みの痛みを味ひ、更に十月より十二月は新東亞秩序確立への基礎の出來た秋ともへよう。

之を要するに、昭和十六年なる記念すべき一年は過去十年にも比すべき大波瀾を見、精神的に又物質的に新支那再建への最も記念すべき年と云ふべきであらう。

次に各月別綿糸布市況の略説を次に述べよう。

一月 昨年來の通貨不安人氣にて換物思惑買氣旺盛、更に紡績操短による適品買物薄のため各品相場續騰綿糸藍風 30s、1、300弗、細布龍頭四六弗二五、加工品四綫四君子一弗二八即ち前月末に比し夫々一割方の昂騰を見た。

下旬に至り米國の對支援助案や在米資金凍結案等の噂を入れ不安人氣、商内亦需薄閑散とな

綿糸布

れるも依然相場波瀾調裡に月を終る。
二月 本月一日より綿業取引所定期綿布上場さ
る(標準品は細布龍頭)

春高見越と原棉手當難による賣物薄に綿買人
となり相場連日大暴落を演じ、藍風一、三七
〇弗細布五二弗(先物五月限は五七弗二〇)

か品も亦四綫四君子一弗四五の新高値を現出、
昨春來の綿業ブームを思はせたるも買過による
反動と日米關係の懸念濃厚、在支米人引揚動
或は又重慶政權との和平説や在米外國資金凍結
の噂等にて標金落着のため定期現物市場共に綿
賣人氣となり相場急落定期は十八日の後場遂に
立會停止の止むなきに至つた。(先物四一弗七〇)

斯くて月初より相場の風高下甚だしく人氣は
殆んど交易所に奪はるゝの状態を現出した。下
旬に至り投げ一巡り賣筋の買筋しにて稍々落
ち着き相場も回復、更に又電力不足による紡績
操短不可避に各品一齊高氣配願る堅調裡に越
月した。

三月 月初佛印問題協定成立並に日蘇通商協定
成立のルーマー及重慶政權が上海香港にて爲替
費を中止するとの噂にて、法幣不安現高騰綿
糸布市況も俄然好調、相場急騰せるも中旬に至
り高値には紡績賣筋したると呈軍南支上陸重慶
ルートに完全封鎖等々にて華商側賣筋定期暴
落投物殺到人氣願る不良となつた。

其の後南支雷州半島方面より呈軍撤退するとの
發表あり、又安値には香港南洋よりの引合を見
人氣漸着き相場も漸次恢復した。
加工品は概して賣筋不振殊に染織面に甚しく擦
染工場は大部分休業中である。

四月 概して材料薄保合相場たりしも中旬頃よ
り現物寄動き活潑と法幣不安に相場上伸した。
其の後南支方面の戦局に華商側賣筋、更に日
支和平説等にて一般氣迷ひ相場下押ししたるも定
期高、金塊高と相俟つて氣配概して良好裡に越
月した。

五月 前月に引續き月初は外棉手當難、秋高見
越にて高値保合ひたるも、引續く賣筋不振と米
國參戰説に相場下押し、更に中旬に入りて日ソ
關係不安を入れ相場漸落月初に比較して現物
藍風20 一三五弗安の一、二五〇弗
細布龍頭 七弗九十安の四四弗
加工品四綫 〇弗一五安の一弗四二平
の安値にて越月。

六月 月初は氣配堅強しからざるも賣筋薄は紡績
賣筋漸着にて相場伸張みたるも、月央汪主席の
訪日に一般好感又米國參戰必至と見て外棉の手
當難、物資不足を見越して思惑賣筋旺盛、更に
下旬獨ソ閉戦と日本綿糸布相場暴騰を入れ、上
旬海相相場安であるつた。

其の後も依然相場波瀾調裡に月を終る。
二月 本月一日より綿業取引所定期綿布上場さ
る(標準品は細布龍頭)

春高見越と原棉手當難による賣物薄に綿買人
となり相場連日大暴落を演じ、藍風一、三七
〇弗細布五二弗(先物五月限は五七弗二〇)

其の後南支雷州半島方面より呈軍撤退するとの
發表あり、又安値には香港南洋よりの引合を見
人氣漸着き相場も漸次恢復した。
加工品は概して賣筋不振殊に染織面に甚しく擦
染工場は大部分休業中である。

四月 概して材料薄保合相場たりしも中旬頃よ
り現物寄動き活潑と法幣不安に相場上伸した。
其の後南支方面の戦局に華商側賣筋、更に日
支和平説等にて一般氣迷ひ相場下押ししたるも定
期高、金塊高と相俟つて氣配概して良好裡に越
月した。

五月 前月に引續き月初は外棉手當難、秋高見
越にて高値保合ひたるも、引續く賣筋不振と米
國參戰説に相場下押し、更に中旬に入りて日ソ
關係不安を入れ相場漸落月初に比較して現物
藍風20 一三五弗安の一、二五〇弗
細布龍頭 七弗九十安の四四弗
加工品四綫 〇弗一五安の一弗四二平
の安値にて越月。

六月 月初は氣配堅強しからざるも賣筋薄は紡績
賣筋漸着にて相場伸張みたるも、月央汪主席の
訪日に一般好感又米國參戰必至と見て外棉の手
當難、物資不足を見越して思惑賣筋旺盛、更に
下旬獨ソ閉戦と日本綿糸布相場暴騰を入れ、上
旬海相相場安であるつた。

加工綿布

二六〇一年の上海棉業界を展望、回顧すれば世
界情勢の急激なる變動、即ち我日本帝國を襲る國
際情勢の緊迫化に、一年を通じて殆ど市中謠言の絶
えたる事なく、或時は西南太平洋の危殆説が覆り
に市中に流布されるかと思へば、日支全面和平説
が提議され、歐洲に於ては我獨輪獨逸のバ
ルカン諸國攻略に次ぎ、突如對ソ聯開戦に依る情
勢の急變、中立條約締結直後の日ソ聯關係の微妙
化、世界注視の内に行はれた來栖大使の日米ワシ
ントン會談の経過と目まぐるしい程國際關係の動
きに、國際都市上海の棉業界にさり同一材料が強
固何れにも解せられ(即ち日支和平説等は年初め
は法幣の反響を豫想され弱材料なりしも、年末に
入つてからは品不足與地需要増大に依る強材料と
變つた)相場騰落甚だしく、終に十二月八日我帝
國の大東亞開戦、大東亞共榮團建設に當り、南
方圍に對する維持保衛の基地として、重要使命を
帯び新たなる發足をなした。
此の同國際關係の緊迫化と新中央儲備銀行券の
出現による、舊法幣騰落、通貨不安増大に金融筋
の猛烈なる換物操作の連續と市中場邊筋の遊資棉
業界に流入、思惑買筋に殆ど思惑賣買に繼續と

なり相場騰勢の一路を辿り、買入の對照は思惑品たる綿糸、細布、加工品は四百子四線に集注され、その間の騰落激變を極めた。實需方面は我皇軍の南支沿岸援將ルートの各個擊破に南支密輸ルートの完封、上海周邊密輸ルートの嚴重取締に依る荷物の不活潑、北支の統制實施に依る上海品の移入制限に、上海に於て從來大手筋を形成して居た天津、青島等の活潑の衰退、北支無爲善後手當の乏々たるものにて昔日の備無く、南支、廣東、香港等の、香港經由マニラ南洋横濱或は奧地密輸の適品買手當横送の活潑稍々目覺しく注目に値するものがある。

尙第三國輸出は日本に於ける輸出統制實施に、上海品の新規引合となり南洋、印度關係外面、華僑の適品買取りとなり、探染物無地物は春夏物は各地許可機荷と小口地場荷動き僅少、在貨盛みたるも、五、六月外面の第三國輸出に買拾はれ市中在貨一掃されたる模様にて稍々愁眉を開いたが、爲替割當、資金凍結による外幣割當入手に依る、外商紡績の製品安値賣感と十、十一日國際關係の緊迫化に大量投物放出に終始壓迫され、實需不振販路の狹隘化に探染割れの連續となり、環境の不味に加工品としての妙味乏しく閑散裡に終始した。

一月前年末重慶政權の對米借款成立に、爲替強調に、氣配低調の跡を受けて一月を迎へ、中

央儲備銀行券の新法幣出現に法幣不安人氣に、金融筋の換物操作と實需期を控へ、堅調裡に推移す、併て年明け爲替強調、金標安に買氣沮喪氣配じつくりの跡、新法幣租界流通の報に金融筋の思惑買出動と實需期を控へ、華商問屋方面の時期物手當に氣配好轉期に保合裡に推移、中旬に入り爲替割當と春高人氣を期待、思惑買氣に相場騰勢、十六日新銀行券の租界進出に爲替低落、金標高に市中舊法幣に對する我當局のアタックを恐れ、金融筋の狼狽換物買旺盛、市中適品買物薄に相場暴騰、氣配一段と硬化、中旬過ぎより舊年末を控へ、華商積極的な動きなく高値には値頃観より利喰賣物散見せるも爲替強軟と實需期を控へ、先高人氣濃厚堅調裡に推移。

二月正明け春高人氣期待と、日米關係強化に、船運難に依る外補手當先行困難化に、紡績の製品賣溢りに、思惑筋の細糸物を中心に思惑買旺盛を極め、連日相場暴騰各品相場一段と新高値に躍進せるも、五日我皇軍大勳勳勳前上陸の報に援將ルートを断たれ、華商狼狽利喰急ぎに相場軟化、中旬に入り香蘭ルート完全遮断に香港筋の手持品處分と時局懸念から思惑筋の騰氣投げものも加はり、相場騰落、引續き日米關係強化に租界不安人氣増大、市中稍々恐怖人氣に、手持筋の縮取定期賣感定期騰落を眺め、現物買氣も全然喪失暴落を演ず、中旬過ぎより安値には香港筋、地場實需筋の値頃買と爲替軟化に依る金融筋の買氣出で、月末に至り電力減配に依る邦人紡績の三月以降二割短縮の報に紡績、洋行の安値、賣見送りに氣配好轉、先高人氣に相場反騰、國際問題を懸念ながら底意堅調裡に推移す。

Table with market data for various commodities like cotton, silk, and wool. Columns include item names and prices.

Table with market data for various commodities like cotton, silk, and wool. Columns include item names and prices.

三月月末好調の跡を受けて、月初め日佛印問週圖漸解決の報を入れ、引續き日ソ通商協定設立に爲替安、金標高に好感依然思惑筋の買氣旺盛に相場上伸氣配堅調裡に推移、跡皇軍北海上陸、沿岸援將ルート續々攻勢、密輸ルートの完封に華商問屋筋の騰氣賣物散見思惑筋の利喰賣出動に相場軟轉、安値には小口買氣崩しあるも市中商内海閑散、上旬過ぎ南支沿岸皇軍撤退の報に、香港筋麻草液手當の加工品適品賣溢りに市中適品薄に相場軟り、折柄南洋向細糸大口商談成立の好材料を入れ各品相場騰騰、爲替引續き弱含みに金融筋の換物買も入り、市況著しく活況を呈す、下旬に入り實需筋の買一巡に金標高ながら、高値には租界不安人氣に底意軟りながら稍賣買治せず、相場伸縮み情勢懸望に閑散、月末に至り爲替強軟に金融筋の買崩しに駭り保合堅調裡に推移す。

Table with market data for various commodities like cotton, silk, and wool. Columns include item names and prices.

四月三月末好調の跡四月に入り、月初め實需筋の積極的な買氣も出で市中閑散定期安に氣配不味、割保合裡に終始せるも旬末紡績洋行の靜態と華商紡績の操縦說に華系双馬高、市中賣物薄の折柄、南支方面よりの新規買引合に市中實需筋の小口買溢りも加はり氣配好轉、中旬イスターホリデー明け、日ソ關係好轉、日支全面和平說市中に流布され、氣配頓に硬化相場上伸せるも、皇軍浙江沿岸奇襲入報に氣迷ひ爲替安、金標高ながら金融筋の解懸と引續き、皇軍福州上陸占據の報に浮動相場を續け氣勢揚らず呆懼保合、廿六日重慶對米借款成立に市中騰氣賣物も散見、軟調裡に推移、月末に到り華商銀行の復業、爲替安に金融筋の換物買氣抬頭、氣配好轉、市中高唱へに相場一齊上伸、堅調裡に推移した。此の同市中實需筋の唯一の密輸ルート、南支各沿岸各個擊破し、實需筋の動きも少く閑散に終始した。

Table with market data for various commodities like cotton, silk, and wool. Columns include item names and prices.

四月子Mポプリン三三、竹林瓦斯毛三〇、探染金由三〇〇

四月子Mポプリン三三、竹林瓦斯毛三〇、探染金由三〇〇

四君	黒五	スレ	水月	擦染	40白地
子四	枚	布	晒金	五枚	40仁新
初	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
高	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
安	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
末	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
月末相場					
四君子Mオプリン	三三	三三	三三	三三	三三
竹林瓦斯毛	三三	三三	三三	三三	三三

六 月 前月大波瀾落の跡を受けて月初め引續き買需不振に新規買需なく、依然米獨危懼脱市中に流布され、租界不安状態の思惑筋の買物絶えず、新規材料待ち弱保合裡に終始す。

中甸に入り外棉(特に米棉)の漸騰と船腹不足に依る外棉の入荷難は、綿糸布原價算高を招來安値には買需の小口買漁りとなり、尙七月一日以來、國民政府の統稅引上げ決定の報に、市中現物引合散見相場稍々持直し駭り氣配に一變す。此の間赤木工部局副總監遺難に租界不安人氣加はり一時反落を呈するも、下旬に入り租界銀行預金利子停止に金融緩慢、遊資は勢ひ綿業界に流入せられ折柄國民政府主席汪精衛氏の訪日は、華商間に何らかの好果を齎すべしとの期待人氣に、綿取市場の漸騰を眺め、現物市場も追従各品一齊高となり、氣配頓に好轉す。

足新段階に入り、戰爭買の人氣を映し、思惑市場は即人氣漸騰氣配なるも、國際關係の複雜前途の見透し難に、氣運人氣に低迷氣配ほけとなる、但し買需加工品は今後獨逸染料の入荷絶無とならんとする理想に買需期を控へて市中適品薄に相場一齊暴騰、月末に至り我帝國政府と汪主席との日華共同聲明の發表に各地輸出制限緩和を見越し思惑筋の買需となり、尙南洋向新規引合綿糸、生地に商談成立、加工品は適品薄にMKオプリン、二〇仁新等現物期近物成約、久し振りの第三國輸出大口成約と外棉引續き暴騰に先高人氣益々濃厚堅調裡に越月す。

七 月 前月末高潮裡に越月、七月に入り次々に現る強弱重大材料續出、結局國際情勢の複雑緊迫化に氣運不安定の浮動相場を繰返したり。借て月初めサンマー、ホリデー二日間の休日中の獨伊初め備五ヶ國の新國民政府正式承認は、法幣不安爲善安全標高となり金融筋の適品

買漁りに相場駭りに推移せるも、我日本帝國の南進實行說、日ソ緊迫化のルーマ市中に流布され、更に米獨海軍のアイスランド進駐に國際關係惡化増大に先行不安視され新規商内乏しく漸落歩調となり氣運裡に終始す。

但し七月一日以降日本の第三國輸出統制實施に外國の日本品引合弱阻化は自然上海品引合に移行され各品共安値はこれら外國筋に拾はれ、適品白地染擦物、無地物二〇仁新等相當數量買漁られたる模様なり。

四君	黒五	スレ	水月	擦染	40白地
子四	枚	布	晒金	五枚	40仁新
初	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
高	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
安	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
末	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
月末相場					
四君子Mオプリン	三三	三三	三三	三三	三三
竹林瓦斯毛	三三	三三	三三	三三	三三

八 月 前月末日支資金凍結令に大波瀾の跡月初め凍結令の全貌も稍々明かとなりその結果、一、外棉特に米棉手當先行困難となりたる事、一、製品市場の著しき狭隘化、一、法幣不安増加、金融弱重大材料續出前途豫測至難を思はしめたるも採算惡化市場買物薄と法幣不安換物人氣

拍頭に一ヶ月を通じ各品相場奔騰好調一踏を辿り。

借て、月初め國際情勢の不透明に積極的動きなく氣運ひながら原棉輸入難、先高人氣濃厚に市中賣物少く各品相手堅く、中央儲備銀行券の強制流通説に爲善安、法幣不安換物買氣拍頭金融筋の買漁りに各品相場漸騰、堅調裡に推移せり特に加工品の内細系原糸の四五枚、士林布等は原棉、染料關係に思惑の好對照となり相場續騰す、中甸北支積み華商無爲替輸入許可に天津青島筋の市中適品買進みと香港現物買氣絶えず現物市場の好需要に相場強調の折柄國民政府の公租課金に備蓄採用に法幣漸落、金融筋素人筋の買進みに秋季需要期を控へて總買人氣となり市中適品買物薄に相場連日奔騰新高値に更進市況著しく活況を呈せり。

下甸、匯豐銀行の爲替建値大引上對米5%對英3%公定發表に高値には稍警戒人氣なるも、外貨供給條件が一部商人の利し得る程度のもにて實質的好果期待されず市中爲替暗相出現依然法幣不安解消されず原棉益々昂騰と電力問題に訪談の操業難を傳へ引續き買氣旺盛を極め更に新高値に躍進上海棉業界初つて以來の高値相場を現せり、月末に至り野村、ハル會談、各地搬出取締嚴重を傳へ高値には利噴賣物散見稍反落を見て越月せり。

四君	黒五	スレ	水月	擦染	40白地
子四	枚	布	晒金	五枚	40仁新
初	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
高	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
安	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
末	一六五	一七〇	一七五	一八〇	一八五
月末相場					
四君子Mオプリン	三三	三三	三三	三三	三三
竹林瓦斯毛	三三	三三	三三	三三	三三

九 月 前月末の好氣配に引續き、原棉手當愈々困難となり尙香港幣外商筋の輸出適品買氣旺盛を極め、これら各種好材料に各品相場空前の高値に躍進市況極めて活況を呈したり。借て月初め日米國交調整の好轉期待薄に外棉新期手當益々困難となり尙は地場棉本年度極度の不作に紡績原棉手當憂慮されるに到り紡績製品賣溢り勞々電力不足に操短不可避説も流布され市中賣物薄に相場漸騰の折柄香港幣、外商筋の香港、南洋方面積買氣旺盛洋行筋第三國向賣止めに適品市中買漁りに各品共又々新高値に躍進晒MKオプリン、白地擦染金巾、白地擦染仁新等市中適品買さらわれ跡中甸に入り上海相場の異狀なる暴騰は香港相場を上廻る形勢となり新規引合停頓と日米協定説、日支和平の謠言又々市中に流布され、高値警戒人氣濃厚氣運裡に推移、市況不味の折柄租界内外華紙の高物價抑制思惑筋の買あふり糾彈輿論の喚起に華商手持

筋の煙氣賣物出で旁々大手思惑筋の相場一應頭打ちとの観測に利噴賣出相場相々低落氣流...

Table with columns for commodity types (e.g., 四君子, 綫子, 高), prices, and other details.

十月去る七月下旬米、英、蘭諸國の資金凍結令實施後、九月の二ヶ月間無慮數十億と稱せられたる租界内の膨大な法幣遊資は今後の物...

續短必至との見透しに思惑筋金融筋の猛烈な買出動に各品一齊高を演じ市場極めて好調裡に推移せり、八月江海關の綿製品輸出許可制公布...

十一月九、十月市場大暴騰大混亂の跡十一月に入り、日米交渉の経過が市場リードの主動力となり一憂一憂、先行見透難に大氣迷裡に終始せり...

騰落ミナリ大波瀾を演じ旬末に至り米マリン支那引揚説は租界不安人氣となり總賣人氣に氣配急變投物續出一舉にして相場大騰落、奔騰に大混亂を演じた直後の事として皮肉な現象を呈せり...

十二月今夏暴慢米國に於て實施せられたる資金凍結令に依り日米經濟關係は全く斷絶狀態となり西南太平洋よりする我帝國に對する壓迫は益々高からんとする時、平和的解決に不眠不休の野村、來栖兩大使の獻身的努力にも不拘、頑迷なる米國爲政者の依然たる恫喝的態度に政治的解決の光明を齎す能はず、全世界の注視の裡に...

シタ)の預金者に対する緊急公告に法幣不安人
氣となり、恩恵筋の小口買取りに相場一齊暴騰
久し振りを呈したるも、日米會談は何等意
見の一致を見るに到らず決然必至との観測大勢
をリードし、大手筋の縮取賣場至に相場急反落
手持筋の狼狽賣物現はれ、尙英系紡績製品のス
トック大口放出は引續き投げ賣行はれ(倫昌製
加工品の如きは市中相場の二割安見當にて大口
投資相當數量行はれたる模様)氣迷ひ軟勢裡に
六日大引せり。
週明け八日我日本帝國の對米英戰開始に皇軍の
租界平和接收となり、一日にして世界の形勢全
く一變、上海全經濟界も事態の急變に臨時休止
の余儀なきに至りたり。

十二、三日頃より華商間に於て六日相場を標準
に小口の實需商内行はれたるも一個二個の極小
量に過ぎず。
十六日邦人銀行の一般業務開始せるも匯割の取
扱ひに難點あり邦人銀行も受入れに躊躇せる爲
邦人紡績、邦人商社も匯割に依る取引は一應見
合せ、現金に依る小口取引のみにて殆ど休業狀
態を續けたり。
下旬金融關係に依り天津幫大手筋の賣出動に時
節柄稍々恐怖人氣にて相場大暴落を演じたるも
殆ど轉りたる出合なく閑散裡に推移、
月末に至り年明け相場高を期待恩恵買氣抬頭と

端埋筋の買相場見直し、對英匯價暴落品パ
ター對廣東組合の商談成立等各地商談成立
に好感閑散ながら駢り保合裡に越年せり。

Table with 2 columns: Item (e.g., 四君子, 探染, 水月, 探染, 五枚) and Price (e.g., 四君子, 探染, 水月, 探染, 五枚). Includes a note: (六日以降殆ど商内なく適匯なる相場なし)

今次日支事變以來年度別相場比
二六〇一年 四君子 探染 四君子
最高値(一月) 四六六 五枚 四六六
最低値(一月) 四六六 五枚 四六六
二六〇二年 二五九 九枚 二五九
最高値(一月) 二五九 九枚 二五九
最低値(一月) 二五九 九枚 二五九
二五九八年 二五九 九枚 二五九
最高値(八月) 二五九 九枚 二五九
最低値(八月) 二五九 九枚 二五九

軍配綿業

軍配組合綿業部の昭和十六年中に於ける業績は
左の通り新聞報道があつたので参考迄に轉載す
る。
軍配綿業部が取扱つてゐる品種は生綿糸、漂白
及染色綿布、探染綿布等で、購入は主として日本
より輸入し、配給は大部分占領地與奥地で行つ
た。下半期中の購入配給状況は概ね良好で、購入
總額四百八十七萬圓、配給總額三百二十九萬圓と
なつてゐる、これを上半期に比較すると配給三十
五萬餘圓、購入三百十五萬圓をそれより増加し
た。同部は資産凍結後對日輸入確保並に日本の第
三國向滯貨の關境向振替により製綿用棉花交換用
として相當量の割當を受けた。
昭和十五年年度繰越三十一萬反第一回半期割當
十萬反は着荷を處分し、十六年度割當二萬反の
殘十萬反の積出は次年度へ繰越されたが、新に
製綿用棉花交換用分として十一萬反、第三國滯
荷の中支向轉換分として五、六萬反、棉花交換
用分として二千萬方碼(二四萬反)計九十一萬反
を十六年度割當として獲得したので、大東亞戰
勃發後も支障を來さなかつた。

なほ綿布類市場の下半年各月末相場は次の如く
である。
七月四八元五角、八月五六元五角、九月六十元
十月一〇五元、十一月八〇元五角、十二月八二
元、と十月に空飛高
となり空前の相場となつたのは、國府財政部の綿
糸布輸出許可制を初まる賣人氣から、重慶の上
海市場放棄説による法幣不安人氣の激化で買人氣
に轉する激動裡に、市場放棄説が根強く存在した
ためである、このため清算市場における賣方であ
つた邦商は莫大な損失を蒙つた。

落綿

本年度初期の概況は好勢裡に迎へ比較的平穩裡
に送つたが各紡績は五〇%の操業短縮を繼續し、
落綿の生産額半減の状態は依然として改善せられ
ず、一方歐米向輸出も國際狀勢を反映して全部杜
絶した。對日輸出は油綿の市價高騰に依り不引合
となり商談はなかつたが對滿輸出は三月迄續とし
て各種一三、〇〇〇擔の取引成立した。
中期に於ては上格品は支那棉市價訂付相場の影
響を受けて殆ど變化はなかつたが原料物即ちスカ
ッチ、カード、風綿等は此の期を通じて漸騰を續
け期初、期末の比較は二割五分乃至三割高、油綿
は永く低迷相場を維持したが期末一ヶ月前より急

阿漢洲向商談ありたるため外交商の買進みにより
三割見當の急騰を見一般に品薄を映して底意強調
裡に本期を終つた。
下期は六月末獨ソ開戦によつて航路の配船減少
となり船積運送又は不能の結果市況不振を招來し
特に七月末の資金凍結後は契約放棄による賣場分
物市場に多數現はれて暴落となり、入札市況は一
時三割安見當を示した。然し乍ら投物一巡と換物
人氣によつて九月中旬頃より再び上昇を初め駢り
に期末となつた。但し一等物等の太糸原料落綿は
支那棉花の昂騰に比例して暴騰を續けた。
本期對日取引四、〇〇〇擔對滿五、〇〇〇擔商
談成立した。十二月八日大詔發せと共に大東亞戰
争勃發、皇軍租界進駐によつて租界經濟狀勢は一
變し、取引停止狀態の儘越年した。謂て紡績は原
棉難に極度の操短(約七割)行はれ、從て落綿の出
貨率激減を來し斯界の前途は暗澹たるものあるを
豫測さる。

人絹糸布

軍配組合の人絹部の昭和十六年中の業績は左の
通り新聞に報道されたので参考迄に轉載する。
軍配人絹部は人絹糸及人絹布を日本より輸入し
租界内華商筋に配給してゐるが、下半期中の購入
總額は七百萬圓、配給總額は千五百九十九萬圓で前

期に比較し購入五十萬四千三百八十二圓六十一圓
配給六百二十三萬五千六百七十七圓三十七圓の増
加を示した特に配給は一一五・九%といふ好成績
を挙げた、この好成績は法幣不安並に船腹不足によ
る先高見越しの恩恵買による相場の傾上りも一因
を成してゐる。十六年三月に下請華商團體である
同興会社の主任が重慶テロリストのため犠死した
ので一應解散し、華人問屋に個別配給を行つたが
華人の發起により九月初旬に資本金五百萬元の賣
發会社が結成され、再び同公司を通じて一元的配
給を行つた。
しかしして資産凍結後毎月の人絹糸五十五萬封度
輸入を七十五萬封度に割當が増加され、新たに
八月からスフ糸月五萬封度(六〇番手双糸△四
〇番手双糸)第三國向滯貨中支轉換分として五
十萬ヤール(二萬五千反)の増加割當を受けたの
で軍器工作に更に一段の偉力を加重した。
下半年各月末の天橋一二〇の相場は左の如くであ
る。
七月一六二〇元、八月二五〇〇元、九月二二五
〇元、十月二五五〇元、十一月四三〇〇元、十二
月四〇〇〇元

毛糸、毛織物

一、概説(支那事變以來の推移概観)

商品市況

支那事變勃發以來、從來日本及第三國に其の需
要の過半数を依存してゐた當地は、日本よりは完
全に輸出禁止(純毛製)となつた爲入手出来ず、
反面消費が上海地區のみに限定されたる爲一時は
非常なる發微状態に陥つたが、戦火が上海より遠
のくに從ひ漸々落着き状態を見せ、且、日本品の
香港及び其他第三國經由並に英本國、澳洲、ポ
ランド等より少量作らも引續き荷物の輸入せられ
るに從ひ、當地製造工場は概して中級以下の製品
の製造に各社獨自の設備を發揮し、又、商人も大
衆購買力の増大に伴ひ、本格的に活動を始め、其
の間、時に依りては相場の上昇、金融逼迫等に依
り苦境に陥つた時があつたが、反面事變後より引
續く法幣不安に依る換物人氣の一貫的操縦に依
り、作れば必ず何時かは儲り、又買へば必ず何時
かは儲るの考への下に(事實さうであつた)非
常に不健全ながらも順調に或程度の利益を得つ、
推移して來つた。

第二次歐洲大戰は一時的には第三國よりの輸入
を減退したが、時日の経過するにつれ、アングロ
サクソン一流の根強い工作の下に又復少量年らも
引續き入荷有り、在庫状態は大戦前よりも大なる
減少は無かつた。反面換物人氣は時に依り程度の
差こそあれ一貫して市場を操縦し、工場、商人も
も順調に過してゐる。昭和十六年七月に至り資
産凍結令の實施あり、邦人側は第三國より原料及

び製品も入手の途を完全に断たれ反面外人側
も從來の如く自由に輸入出来ず、相場は暴騰した
が、原料入手困難の爲、紡績、織屋も暗澹たる
状態の中に、遂に大東亞戰勃發した。
二、昭和十六年度中に於ける市況
昨年末に引續き堅實なる歩みを辿つて居た三
月頃より又復法幣不安に依る換物人氣の擡頭に加
へ、七月に入り資産凍結令の發布は先行品薄懸念
を猛烈化し、且素人筋の思惑品の好個の對照物等
の諸原因に依り、年初より漸騰の一路を辿つて
居た十一月に至り、換物人氣行過ぎ訂正、實需
不振、金融機關の貸出制限等に依り市況さえず不
活潑の儘、弱含み保合状態にて十二月八日に至
る。
十二月初めに於ける日華外各工場の操業状態は
原料、電力關係よりして全能力の約三割と思惟さ
れる。
大東亞戰爭、皇軍租界進駐は從來の上海を完全
に清算し、新しき體制の下に進發する事になつた
が差當り、過渡期的現象として極端なる金融難、
實需不振の爲め、全然荷動き爲く、且當局の設置
觀望等に依り、完全なる商賣停止状態の儘、越年
した。

昭和十六年中相場
一、一月 二、二月 一、八弗
三、大東亞戰勃發以後の見透し
羊毛、毛糸、毛織物等の輸入は、目先全然期待
出来ぬも、現在の消費地が上海地區のみに限定さ
れて居り、且、目下の人心状態より考慮すれば、
今後當分の間活潑なる商賣は豫想出来ず、従つて
現在の在庫品を持てば、毛糸、毛織物も並、少
く共一年間は品不足及び値段の暴騰を云ふが如き
事無は生ぜぬ事と思はれる。
更に、目を先へ轉じた場合、今後は敵性工場の
完全なる停止に依り、日華兩工場は、益々重大な
る責務を有するも、從來余りに自由經濟の舊體依
然として放任されてゐた當地、羊毛製品界は此際
積極的に自ら生産、販賣機構の整理統合を行ひ、

Table with 2 columns: Month (二月 to 十二月) and Price (e.g., 一四弗, 一七, 二〇, etc.).

商品市況

以て對しき熊勢の下に來るべき長江沿岸、或は南
方よりの莫大なる需要に對應せんが爲の態勢を、
速に樹立する事を望む事切である。
四、皇軍租界進駐に依る影響
一、進駐前の状態
イ、輸入状態 昭和十六年一月—十一月迄
羊毛及びトップ

Table with 2 columns: Category (日本, 其他諸國, 合計) and Amount (數量, 金額).

(一)毛織物 數量 金額
日本人 100,000碼 4,000,000弗
支那人 1,000,000碼 8,000,000弗
外國人 20,000碼 2,000,000弗
合計 1,100,000碼 14,000,000弗
(二)毛糸 織物用毛糸
日本人 100,000封度 6,000,000弗
支、外國人 30,000 1,000,000
合計 130,000 7,000,000
(三)毛糸 手編用毛糸
日本人 無し
支、外國人 100,000封度 6,000,000弗
合計 100,000 6,000,000
二、相場
毛織物 サージ五分五厘目付一碼 四五弗
背廣地七分目付一碼 六〇〇
毛糸 織物用毛糸六〇双于一封度 六五弗
手編用毛糸ピ・ビ級一 五〇〇
下級品一 三五〇

ホ、状態
法幣不安に依る換物人氣、資産凍結令に依る
先行品薄懸念及び素人筋の思惑品の好個の對
照物等の諸原因に依り漸騰の一路を辿りたる
處十月末に至り、換物人氣の行過ぎ訂正、實

需不振、金融機關の貸出制限等に依る、金融
逼迫並に國際關係惡化に依る租界不安等に依
り市況さえず、不活潑の儘弱含み保合状態に
て十二月八日に至る。
一、進駐後の状態
極端なる金融難、實需不振の爲全然荷動き無く、
且當局の處置待も等に依り完全なる商賣停止狀
態の儘新年を迎へたが、皇軍の進駐たる戰果
に人氣明るく且依然先行品薄等の材料に依り、
安値には或程度買手有り一月十五、六日頃より
弗々、不活潑ながらも商賣成立し居た一月廿
日の軍布告に依り荷渡、賣買等を禁ぜられた爲
又復停止状態に至る。一月中旬相場ノミナル。
サージ(五分五厘)四十弗 六〇双糸織物用毛
糸五十五弗
三、見透し
原料(羊毛)の輸入は目先全然期待出来ぬも、現
在の消費地が上海地區のみに限定されてなり且
目下の人心状態より考慮すれば、今後活潑なる
商賣は豫想出来ず、従つて現在の在庫品を持て
ば毛糸、毛織物も並、少く共一年間は品不足及
び値段の暴騰を云ふが如き事無は生ぜぬ事と思
はれる。
五、軍配の毛糸毛織物部
軍配組合の毛糸毛織物部の昭和十六年に於ける
業績については新聞に發表されたまゝを左に參考

迄に轉載する。
毛糸毛織物は規格外毛織物、スフ製品並に毛糸を日本より輸入し、毛織物は租界華商、毛糸は邦人工場に配給した。下半年中の購入総額は百八萬圓、配給総額は百五萬で前期に比し購入二千八百六十六圓三十四錢増、配給七十一萬圓減を示した。配給に於て減少となつたのは船舶關係による配給の不活潑が主な原因であつた、スフ毛織物は中支那市場に初めて、且つ純毛糸が割高なことから需要者の歓迎を受けたことは、市場開拓の努力と共に特筆に値するものがあつた。
資産凍結後、日本に滯貨せる第三國向純毛製品並にスフ糸が中支向に振向けられる事になつたので船舶關係が解決されれば昭和十七年度の配給は相當の好成績をあげることが豫想される。
下半年各月末の純毛ソージの相場は次の如し
七月二元、八月三元、九月三元、十月四元、十一月四元、十二月五元。

印度ジニート
及新麻袋

一、印度ジニート
昨年来安値低迷せる甲谷陀黃麻相場は、本年に入り新麻豐收確實となり、一方英政府の各種統制特に強度の輸出制限により三十留比見當迄崩落し

たが、獨り開戦後崩落し、一時七十留比見當の高値あり、年末には六十留比見當保合となつた。
次に當地倉入値段は年初「ハート」級三百元見當を示し、其の後産地相場の昂騰並に爲替低落により五百元見當迄騰貴したが、米英の對日資産凍結後は爲替取得不能となり相場判明せず。
一、新麻袋
年初青筋麻袋三元二十仙見當を示した當地麻袋市況は、原料並に製品共輸入益々困難となり、且つ米穀用として實需旺盛であつた爲め相場昂騰の一路を辿り、六月には既に八元見當の高値となり七月末米英の對日資産凍結後は原料製品共輸入全く杜絶し、會社の大叩操短、怡和の操業停止により次第に在荷薄となり、年末には既に十六元見當迄騰貴した。

乾繭、生絲

△乾繭
昭和十五年の上海租界内に於ける乾繭相場は大體前年末と同調に始つたが、繭價の上進と春繭の減産見越しに三月頃より騰勢に轉じ、四月には前年一月以來の高値を示し、特に凍結直後は生絲と共に換物の好對象となつて品薄買漁られて相場も更に躍進したが、九月以降は形勢全く逆轉し果月崩落した。大東亞戦後は生絲の輸出杜絶と繭廠

の總停工に一段と悪化し、各品共に千元台を割り込み、江蘇省改良種繭さへ高値九百元となつた。即ち左表の如くである。

昭和十六年上海租界内乾繭相場表 (單位元)

月別	江蘇省	浙江省	浙江省	安徽省
一月	高値 1,000	高値 1,000	高値 1,000	高値 1,000
二月	1,000	1,000	1,000	1,000
三月	1,000	1,000	1,000	1,000
四月	1,000	1,000	1,000	1,000
五月	1,000	1,000	1,000	1,000
六月	1,000	1,000	1,000	1,000
七月	1,000	1,000	1,000	1,000
八月	1,000	1,000	1,000	1,000
九月	1,000	1,000	1,000	1,000
十月	1,000	1,000	1,000	1,000
十一月	1,000	1,000	1,000	1,000
十二月	1,000	1,000	1,000	1,000

には相場は遂に昨年一月の最高値たる六千四百元を突破し、實需、假需を含めて商内も極めて活況を呈してゐたが、六月二十二日獨り開戦の報を入れて、市場は俄然昏迷状態となり相場も一應頭打ちの態となつた。然るに七月中旬以降、資産凍結予想に法幣の一段安と經濟市場の爆發高を移して、再び換物の好對象物とされ高値々々進まされてゐたが、二十六日遂に凍結令が發動されるに及んで市場は内外を通じて停止状態となつた。併し一部敵性外華商は暗爲替を巧みに手に入れて商内を繼續、生絲輸出も八、九月は殆んど平常通りに行はれ其の敵性振りを遺憾なく發揮してゐたが、十月には輸出商談は流石に激減、十一月には殆んど杜絶の状態となり、商内は地道向一本となつた。斯くて十二月八日突如として大東亞戦が勃發するや市場は呆然自失、全機能を停止する他なく、月末に至つて漸く人氣も落付き、ノミナル相場年ら地道向四千二百元見當と極めて不勢裡に越年した。

上海に於ける各主要銘柄の生絲相場、及上海港生絲輸出高を表示すれば次の如くである。
昭和十六年生絲の上海相場表
(華中蠶絲公司調) (單位元、一擔建)

昭和十六年上海港生絲輸出高(海關調に據る) (單位擔)

月別	白蠶絲	黃蠶絲	小計	白蠶絲	黃蠶絲	小計	玉蠶絲	總計
一月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000
二月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000
三月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000
四月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000
五月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000
六月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000
七月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000
八月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000
九月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000
十月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000
十一月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000
十二月	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	3,000

昭和十六年白蠶絲の上海相場表 (上海生絲輸出商同業公會調) (單位元、一擔建)

月別	Extra A. (6 Numbers 2 Numbers)	Extra C. (Solet Class, 1 Numbers)	Good A. (Solet Class, 1 Numbers)
一月	1,000	1,000	1,000
二月	1,000	1,000	1,000
三月	1,000	1,000	1,000
四月	1,000	1,000	1,000
五月	1,000	1,000	1,000
六月	1,000	1,000	1,000
七月	1,000	1,000	1,000
八月	1,000	1,000	1,000
九月	1,000	1,000	1,000
十月	1,000	1,000	1,000
十一月	1,000	1,000	1,000
十二月	1,000	1,000	1,000

從來不引合であつた、頭物迄日本に引合ふ様になり日本筋の優勢買進みに地元取引順の旺盛を極め統制筋の消費も一掃された。月中手合高三〇〇〇擔内外

十月 英米向輸出は輸出検査證入手難に極限され租界華商紡は製品輸出を樂觀し始終買氣旺盛で北支から「バーター」制に因る移入山東兩四千擔内外を買取した外、特殊移入をも買取り相場昂騰した、但し船腹難に日本向も地元買控へ居たが法幣崩落換物入氣の激發に買氣はれ相場昂騰した。月中手合高六、〇〇〇擔内外

十一月 華商紡依然として買一貫に出て月央迄は他商品奔騰を眺めて愈々買氣相續騰した。地元は軍票高にじり高を辿り、日本向も船腹難目鼻付き善く買進み商内可成出来たが下旬軍票暴落して採算割となり、月中手合高二、〇〇〇擔内外

十二月 華商紡は依然買進つたが、日本筋自重、英、米向は全然杜絶の折柄八日拂曉大東亞戰爭勃發し、平和裡に皇軍租界の進駐あり、敵性倉庫の封鎖あり副産も製品も當分日本以外は輸出不可能に陥り、日本向も船腹不安あり一般資金難あり買見送れば地元相場暴落思惑手持華商等大恐慌を惹起した、月中手合高一、〇〇〇擔内外。今毎月末主要副産相場を示せば左の如し

昭和十六年每月末相場表 (百斤單位位元)

Table with columns for month (一月 to 十二月) and various commodity prices (品名) such as 器機織斗上落格, 玉蘭改良純貨, etc.

競争品一無し 恐るべきは供給不足なり 日本産副産物は輸出余力なく米國に於ける生絲層も年産一萬擔内外、其出廻りも生絲缺乏で當分杜絶の外なく山東及廣東副産も大東亞戰爭勃發以後は全部日本向となるが、用途益々擴大の副産物は競争品としては恐るべきものなし、只憂ふるは日本需要に對し供給不足の事のみ。

廣巾絹織物

概況 年頭より法幣不安と國際狀勢の危機に感惑的換物人氣擡頭し、舊正後より相場漸騰、二月末三月に入るに従ひ需要頓に活況を呈し品薄をかこつ状態となつたが、同月下旬よりの法幣下落により圓貨物資は大部分が建建賣却なる爲、相場強調にも拘はらず採算不利に陥り商内出来ず、かかる状態の内には五月には絹糸布を初め一般織維製品の下落、六月には獨ソ開戦となり、一般に見送り態度にて七月末に到るや米國其の他の對日資産凍結を見、法幣不安の愈々激化して市場は極度の混亂を來し、空人氣ばかりにて買取引は皆無の状態と

なつた。又一方この時内地にて對滿支向輸出承認を停止されるに及び、從來より採算不引合にて徹々たる對日輸入はここに完全に袂を分つこととなり、その後は現地製品のみにて大略「ノミナル」に終始し、十月の法幣暴落に起因する換物人氣物價騰貴にも適品薄にて殆んど實質なき状態であつた。十二月大東亞戰爭の大詔を拜し、對米英兩國の火蓋切られるや、租界の狀勢一變し、唯一の自由性の喪失及び金融逼迫により、閉店休業と云ふも過言でない商況となつた。

現地生産額は統計資料なき爲正確なる數字不詳なるも、原絲の消費量は左記の如し。

生糸 10,000ピクル 5,000,000弗
人絹 3,000,000ポンド 4,000,000弗

土糸

右額は昭和十六年一ヶ年中間支に於て華人用服地として本絹織物又は本絹人絹交織物に使用せられたであらうと推定せられる糸の原價に依る計算であつて、絹布として實際に賣買された金額は、右金額に約四割の製造工賃が加算せられるので約二五二、〇〇〇、〇〇〇弗と推定せられる。

絹織物の消長

絹織物に關しては内地製品は生産コスト、原料たる生糸及び製織仕上技術等諸要素に於て何等三國に劣りたる所なく、唯柄及び染色に學ぶべき點あるも、競争品として擧げる程の事はない。現地製品は内地製品に比べて諸要素の不備不良はまぬがれず、特に無地物は現地に於て完全なる品質のものなしと云ふも可であるが内地製品に加重されたる負擔により、漸く微力乍ら生産を續けてゐる柄物等に於ては現地に於て自國民の嗜好に適合する事容易なる關係上價格に於ける優位を利用して相等数の現地消費に應じ一般需要に何等の痛痒を感じない状態である。

大東亞戰爭勃發後の見透し

蘇々たる戰果により大東亞共榮圈の擴大と共に、今や上海の地位は新しき使命の下に一段と昂められて來た事は否めない。斯業に於け一大消費都市としての上海は需給體制の根源的な變化を経済的必然性、特に日本を基幹とする廣域計畫經濟に律せられて、その豊富なる土産生糸を原料とする絹織物の奥地及對外供給地となるは當然と思惟せらるるも、之が見透しは混沌として、具體的な表現は大戦の推移を待つにあらざれば不可能かと思考する。

莫大小

上海に於けるメリヤス工業は支那の事變前既に見るべき發達ありて、従前日本よりの輸入は殆んど其の跡を絶ち、其の生産品は單に中支一圓の需要を充足せるのみならず、南北支及南洋方面に輸出せられ、上海に於ける輕工業發達の尤なるもの一として算へられたものである。今事變に於て相當多數の工場は戦火の被害を蒙つたが、需要依然旺盛であつた爲比較的規模にて生産し得る該工業は租界内に移出し、昭和十六年度に於て大小二百軒に近い華人工場の亂立を見るに至つた。邦人間に於ては廣泰絨布廠は當地に於ける該工業の始祖とも云ふべく二十年の歴史と名譽を保持

してゐるものであるが、事變後邦人メリヤス工場
の進出せるもの八社に及び、其の生産能力も見る
べきものがあつて、其の製品は中支地帯に留邦人
の需要を充し、更に華人同業者と激烈なる競争の
もとに奥地輸移方面に販路を開拓しつゝあつ
た。然るに事變進展に伴ひ上海地帯以外に物資搬
出の制限強化せられるに及び、著しく販路が狭少
となつて、十六年度に於ては生産過剰の状況にあ
つた。

日本よりのメリヤス製品の輸入は在邦邦人の増
加に伴ひ増加したが(十四年度)爾後日本に於て
純綿毛織品の輸出禁止、前述邦人工業の發達
により今日殆んど輸入を見ない。(一部人絹製品
を除く)而して日本以外の第三國よりの輸入は當
地に於ける該工業の發達の結果、在邦外人需要を
目標せざる高級品の一小部分だけである。十六年
度中に於けるメリヤス製品の相場に就ては之等製
品は、主として原料綿糸の高値と、工賃及加工費
に依つて左右されるものであるから、年初より順
次昂騰を示し、九、十月の期にあつて最高價格を
示したが、半面圓價表示に依れば、軍票相場の高
騰に伴ひ年初に比し漸く二割程度の騰貴に過ぎな
い。

英米の資金凍結令後十六年九月江海關に於て綿
製品の輸出許可制が發令され、從來第三國船を利
用し、香港或はマニラを経由し、支那奥地又は南

洋方面に輸出せられてゐた、華人生産品は完全に
販路を閉鎖せられ、華人工業者の困難増大せるこ
ころ、更に大東亞戰の勃發により取引の停頓、金
融の硬化、需要の減退等のため現在租界華人工場
は殆んど操業停止の状況にある。

將來大東亞戰の進行に伴ひ、南方共榮團に於け
る、メリヤス製品の需要はけだし莫大なるもので
之等製品供給の大任は實に當上海に集中するべき
ものと判断せられる。

故に今後生産販賣に就て日華工場協力提携し高
所よりの之を統制し、以て必要地域に對し正當な配
給の必要ありと信ぜらるが、こゝ當分の間は販路
閉鎖のため日華双方共生産維持に對し大きな困難
があるものと豫想される。

藥品

日本製品に關しては日本内地に於て前年下半期
未より實施せられたる留保金制度の藥品に對する
適用の結果日本製品の輸入原價は二二三割以上高
騰を來し、其上軍票の對法幣相場は百五十元台よ
り逐次昇騰して三、四月頃には二百二、三十元台
を示現し、結局法幣相場は日本品のみ短期間の
内に約十割の暴騰を爲したる譯にて従前日本品に
依つて壓迫され居たる外國製品及中國製品に販路
挽回の機會を與へ邦品進出は大打撃を蒙つた。

六月下旬獨逸の開戦に依り獨逸品は勿論諸外國
製品の輸入の前途に暗影を投じ、多少共日本品の
運路に光明を與へたは云へ、十月中旬急激に下
落を始めた法幣は遂に軍票百圓に對し四百元突
破の狂亂相場を演じ、全く混沌たる形勢となり
華人向け商談は爲めに杜絶するに至つた。

尙皇軍の援助の下に行はれつつある清郷工作は
着々として和平郷を擴大しつつあるも、是が作戦
途上に於て行はるる物資交流の制限は漢口、九江
地區への搬出制限の強化と共に鐵道沿線の地區に
對しても九月以降漸に搬出許可制の實施を見るに
至つた。一方内地よりの輸入状況は軍票組合及
輸入組合を経て全期に涉り概ね順調を辿つたが、
是が配給部門に於ては上記の如き法幣の直線的な
下落と云ひ搬出制限強化と云ひ、原材料の騰出に
常にオバーストックを憂慮しつつ越年した。

次に外國製品に關しては、法幣不安の反響とし
て華人側換物人氣の對照物資として素人筋に於て
輸入ストックする者多く異常の活況を呈するに至
つた。

十二月二十日現在に於ける重要醫藥品八十品目
に付き華人業者のみの在庫状況は實に夥しき數
量に昇り、此の外華人筋に於ても多數量の藥品を
保有せる様子にて中支全體の消費に充當するも僅
に二、三年間の使用に耐へ得るものと信ぜられ
る。

工業藥品

軍票組合の工業藥品部の昭和十六年に於ける業
績は左の通り報道されたので参考までに轉載す
る。

工業藥品部は四科に分れてをり、第一科工業藥
品、第二科醫藥藥品、第三科油脂蠟燭、第四科マ
チ原料及マツテを取扱つてゐる、而して各科の取
扱品目は第一科は苛性曹達、晒粉曹達灰、硫酸そ
の他の工業藥品、第二科は各種の醫藥藥品、第三
科は鯨油、魚油その他、第四科はマツテ及その原
材料である、下半年中の購入配給は第四科の本格
的運用開始と、その他各科の順調なる業績と相俟
つて好成績を収めた。即ち購入總額千七百二十二萬
圓、配給總額千六百一十一萬圓で前期と比較し購入
において九百一萬圓、配給において七百三十二萬
圓を増加した、工業藥品は資産凍結による輸入不
足を豫想し、又原料確保の見地から華人側への
市販を嚴重に差控へ、軍官需要を優先的に配給
し、残余を邦人工場向に可能な範圍内で計畫的に
配給する方針に終始した。マツテは八月より上海
占領地區奥地向配給を始め南京、蘇州、鎮江、無
湖、九江、漢口の出張所、安慶は安慶邦人倭寸同
業組合を通じてそれぞれ配給した。價格も前配給機
構の聯營社解散に鑑み一ヶ四錢の軍票賣定價格

制度を採用し、小賣も價格統制、消費規正の目的を
達成する見地より一人當り十個入り三包を限度と
する制限費を強行せしめた。次で十一月から工場
生産原價昂騰のため一ヶ五錢に直上げを行った。
大東亞戰が勃發すると共に、租界内のストック確
保を期するために華人側の公會と連絡を取り、工
業藥品並に醫藥藥品に對し在庫の登記を行はし
め、之を中心配給の統制團體結成に着手した、
下半年各月末(十二月は月初め)の工業藥品苛性曹
達の相場は次の如くである。

七月七〇〇元、八月八五〇元、九月八五〇元、
十月一、六〇〇元、十一月一、五〇〇元、十二
月二、五〇〇元

工業藥品の市況は資産凍結、船舶面などから輸
入皆無が見越され、連月思惑筋の買一本で昂騰を
辿り英商ブナモンド社の地位に軍配が取つて更
つたことなどの特記すべき事象となり、十一月に
法幣デフレから一時的に落着相場を示したが、十
二月には再び騰勢氣配に轉じ、大東亞戰開始まで
上げ一本の相場となつた。

石鹼

概説(支那事變以來の推移概観)
南市及開北方面に散在してゐる華人及米系石鹼
工場は事變直前に於て其機械及設備を租界内に移

し、昭和十三年初頭より操業を開始した。其他華
人工場に於て租界内に所在せしもの操業も亦略
同時に開始した。

英商中國肥皂有限公司(所在揚州浦)は月産十萬
噸の生産能力を有し、全支に於ける最大の工場で
あるが事變突發の昭和十二年十一月に至り皇軍
備區内に於て已に操業を開始し、日本側當局の米英
商社に對する寛大なる所置を好境とし其操業に於
て不謹慎振りを發揮した。

邦商工場は事變に因り全焼せしもの一部分復興
成り、他無被害工場と共に操業開始したのは概し
て十四年初頭である。事變後當地に進出せし日本
油脂株式會社は南市に所在せる米系工場にして月
産五萬噸の能力を有し前記英商中國肥皂有限公司
に次ぐ大工場の委任經營を受けたが、同工場は事
變直前其主要機械及設備を租界内に運搬し、工場
は概ね空室となり、且又所々甚しく損傷せるもの
を十三年八月より復舊工事に着手し機械設備を補
充新設し月産能力七萬噸に整備し十四年一月操業
を開始した。

斯くして事變前英米を背景とせる蔣政權の徹底
せる排日政策と底制日貨實行のため、極度の苦業
難行を續けた邦商も、茲に白日の下斷乎外支工場
業者に對し商戦を開始する事となり着々順調なる
發展を遂げつゝある。特に十五年八月に至り中支
石鹼販賣協議會の結成を見、其筋の意圖に従ひ軍

票賣の實行非占據區への流出防止に一致協力しつゝ、自製ある販賣をなした。英商中國肥皂有限公司は強大なる資本を有する倫敦ユニバーサルを背景とし、當地に進出する事貳拾餘年に及び在支英國の權益として自國官憲の厚き保護を受け、已に多年全支に渉り強固なる地盤を獲得した。事變突發後は原料の獲得工場は操業製品の運轉等に種々困難を伴ふ際、飽迄自國官憲の援助並に便宜を許與せられ、從つて其地盤は容易に侵されず特に非占據區租借界内に於て全社製品は極めて歡迎を受け、十五年度の出荷は壹百萬箱に達した。

十六年中に於ける上海市況
需給狀況
外人業者生産高洗滌石鹼約一、三〇〇、〇〇〇箱、化粧約三〇〇、〇〇〇打、右の内租界内に販賣せられし洗滌石鹼約九〇〇、〇〇〇箱であるがその内占據區及非占據區への流出多數である。残金は北支南支方面に移出した。

邦人業者生産高洗滌石鹼約四〇〇、〇〇〇箱、化粧約三五〇、〇〇〇打にして其販賣は石鹼販賣協議會員に於て取扱はれ、占據區域向とし、非占據區域の流出防止を堅持し一少部分の租界内販賣を見たに過ぎない。
奥地賣製品は軍票建而も非占據區域への流出の相場の變動

恐れある場合はその輸出は許可せられないので自然數量の制限調節となり法幣下落にも不拘、軍票賣を容易ならしめ、市價安定を見た。然し乍ら法幣

代表品相場表(洗滌石鹼一箱値段)

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
外人製	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
華人製	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
邦人製	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇

一面原料油類は蘭印、暹羅、英海峽植民地より輸入せるもの大半を占めたが、彼地の輸出は許可制となり、當地に對しては工場需用のみ許可を與へられたが、其許可を得るものは實際に於て外人工場及一部華人工場のみとなり、除外せられたる工場は之を市場に買求むる外なく、從つて買漁り賣情が錯交し、加ふるに法幣漸落を反映し換物人氣も多分に含まれ諸原料は一齊に昇騰した。
邦人工場は一部油脂原料を日本内地、及滿洲國に期待し之を得たが、其價格は概して前記昇騰せる市價に準じ決定配給せられたので、之又高値となり、副原料たるソーダ類の配給價格は市價に比し邦商に有利であるが、其數量動きたり多くは高價なる市場に求めざるを得ぬ状態にて経過した。

主なる原料市價表

幣建にて販賣せらるる安價品は租界内に充満し、之等は種々の手段を弄し盛に占據區に流れ軍票賣に懸々脅威を與へた。
一、北支向けはバーターに依るが邦商品は僅少の化粧石鹼を除き概して不引合に終つたが、英商中國肥皂有限公司製品は粉十萬箱の出荷をなした。其代金決済が如何なる方法に依つて爲されたるか不明である。
一、南支向邦商品は殆んど皆無であつたが英商品は相當の數量を出荷した。
製品の上海輸入
日本内地よりの輸入は實績に基礎を置き朝鮮大

連よりは別途の許可に限り輸入せらる。近來日本内地に於ける本品の生産は極度に制限せられたるに不拘日本内地より本年中の輸入額洗滌石鹼約十萬箱、化粧石鹼約十一萬五千箱にして主として邦人の需要に充當せられた。
大東亞戰動以後の業界見透し
當地業界は其需用原料の大半を南洋方面に期待したから其見透しは一つに全方面よりの原料輸送問題の解決と否とに係つて居る。而して目下の情勢に於ては之れが急速に解決を予想し得ないので其油脂原料は不足せる當地に期待せらるゝの結果價格の昇騰も免れない。一方必要副原料のソーダ類は種々の關係上今後益々入手難となるべきを以て之等を綜合せば少くも樂觀を許さざるものがある。
對外人業者に關しては從來南洋方面より油脂原料獲得上特恵的位置に在りし英米業者及一部華人業者は今後其特恵の扶掖により邦商と全等の立場に於て商戰をなす事となつたのは喜しき趨勢を言へる。

燐寸

マッチについては當會議所發行の經濟月報四月號を参照されたい。ここには重複を避けるため轉載しない。

蠟燭

一、概況
國際情勢惡化に隨ひパラフィンワックス(大體蠟燭原料の殆ど八〇%はパラフィン)の蘭印及米國よりの輸入數量次第に僅少となり(統計その一参照)一方石油の輸入激減による蠟燭需要増大、特に電燈設備の不完全な奧地に對する輸出數は相當なカーブを描いて上昇し(統計その二参照)兩者相俟つて上海に於ける品價は拂底を極むるに至り併せて法幣の下落により十四年度初より漸時市價上昇を辿り、刺さへ七月二十六日突如實行された在米資産凍結令及同二十八日帝國の外國人關係取引取締規則公布に依り外油商社は邦人へ原料販賣を停止せる爲、その余波を受け華人側の投機運濃厚となり、十一月以降は判然たる市場相場も建たざるに到つた。
十六年度に於ける蠟燭販賣價格變動左の如し。

(一)アジア石油製 王冠印 美孚 鷹印 (二)兩替

日附	價格	對軍票	對米	對英
一月八日	一九〇	五四分一	三二分一	三二分一
二月廿五日	三三三	四四分一	二八分一	三三分一

三月七日 三三三 四四分一 二八分一 三三分一
三月廿六日 三三三 四四分一 二八分一 三三分一
五月十九日 三三三 四四分一 二八分一 三三分一
八月十九日 三三三 四四分一 二八分一 三三分一
十月廿九日 三三三 四四分一 二八分一 三三分一

(二)統計
(その一)パラフィンの月別輸入數量(單位公擔)

月別	輸入數量
十六年一月	一三、二八〇
二月	二四、一六六
三月	二二、八八四
四月	三六、四八二
五月	一七、四二五
六月	一一、一五九
七月	一八、一四六
八月	一一、九〇一

(その二) 獨逸與地月別輸出數量(單位 圓)

月別	輸出數量
九月	五、一〇七
十月	二、三八四
十一月	一、八八七
十二月	〇
十六年一月	四八、六九〇
二月	六三、六六〇
三月	五七、五〇〇
四月	五二、七五五
五月	四七、二七八
六月	二一、六二五
七月	二四、五五〇
八月	三二、八七八
九月	七三、二三〇
十月	一七四、六一一
十一月	一六一、九八〇
十二月	五五、九八六

三、今後の見送り
 昨年十二月八日大東亞戰爭勃發による軍軍租界進駐を見るに至り上海始め奥地方面の經濟機構改革されるに當り十七年二月末第七號上海出張所の指示の下に邦商と華商の繼續組合が設立された。組合商社左の如し
 (イ) 邦人側 理事長 榮泰洋行 三井洋行 三愛公司 福昌公司
 理事 榮泰洋行 三井洋行 三愛公司 福昌公司

染料

和興洋行 瀛華洋行 大丸洋行 淺野物産
 新井洋行 出光洋行 大阪博愛
 (以上十一社)
 (ロ) 華人側 理事長 萬康公司
 亞細亞火油公司 美孚白禮氏公司
 光華火油公司 同華火油公司
 烟華公會協昌行 榮華洋行
 萬康公司 (以上七社)
 右組合設立により上海に於ける繼續在庫を兩組合統制の下に奥地輸出に制限を加へ配給調節を計るべくその實行に掛つて居る。

一、支那事變後の概況
 昭和十二年支那事變に依り閉鎖中であつた染工場は翌十三年下半年頃より再び操業を開始し漸時舊態に回復し、その間十三年夏の獨逸チエツコ侵入、十四年九月の獨逸開戦の報道の都度、軍需品とその原料を一にし、戰事擴大と共に必然的に製造減を見送られ染料は思惑買の對象となり、再度暴騰を繰返したが、獨逸IG染料のシベリヤ線經由に依る依然たる旺盛なる輸入の繼續に押へられ、且亦十五年五月の綿糸布大暴落による染工場の打撃及奥地輸送路の禁絶強化に染料市況は低落を續け、殊に法幣の對軍票軟調は日本染料界を一

層の不況状況に迫込んで来た。
 一、十六年度概況
 本年度染料市況は獨逸開戦を契機とし、上半期下半年に於て僅然たる相異を見出し得る。即ち上半期の極度の低迷商情に比し下半年は未曾有のブーム市場を現出した。
 上半期不振の原因として次の諸因が考へられる。
 1、歐洲戦後の見越輸入品の過剩ストック
 2、IG染料の輸入旺盛
 3、染工場の貸銀ストライキに依る操業率低下
 4、舊正決済期を挟んでの仕入手控へと、四五月の不需要期による季節的事由
 下半年暴騰の原因は次の諸點である。
 1、獨逸開戦に依るシベリヤ輸送路の杜絶
 2、IG染料の販賣數量の制限
 3、IG染料の毎月の値上斷行
 4、軍配染料部の販賣制限
 5、一般的換物人景
 IG染料は舊後の染料補給難を見透し七月以來毎月一回賣りに制限從來の販賣實績を基礎とし華商へ割當制をなし、ストック噴延しに懸命と見受らる。
 軍配染料部も今後の對日期待薄に九月末ストックの六分の一量宛の販賣方針を採り邦人染色工場へ優先配給をなし、華商へは從來の數分の一量し

か配給せざる状況となつた。此等の動きは左記値段の移行が如實に示してゐる。

月	直接黒	直接青	硫化黒	人造藍
一月	四〇〇	三〇〇	二〇〇	五〇〇
二月	四〇〇	三〇〇	二〇〇	五〇〇
三月	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇
四月	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇
五月	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇
六月	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇
七月	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇
八月	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇
九月	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇
十月	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇
十一月	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇
十二月	三〇〇	二〇〇	一〇〇	三〇〇

三、外國品の輸入状況
 アニリン染料、硫化黒及人造藍(ナフトール染料を除く)海關輸入統計(一十月)
 上海總輸入量 五、九七四、〇一八金單位
 獨逸 四、八一二、四二五
 瑞 五三二、五二六
 米 五一九、四四六
 英 二二〇、五六〇
 日本輸入品は軍組關係の爲め海關經由せず
 四、大東亞戰爭後の染料界

大東亞戰爭勃發後は軍布告により登記申告品に指定されたため日華外染料總て登記され華人側は登記數量の變更を畏れ買せず、軍票組合も將來對策樹立の爲め販賣中止をなし、獨逸IGが從來並みの販賣意圖を示したるも買手なく、染料市況相立不申裡に越年した。
 軍配組合染料部の昭和十六年に於ける業績は左の通り新聞に報道されたので参考迄にこゝに轉載する。
 染料部は二科に分類され、第一科は染料、第二科は顔料、塗料、香料となつてゐる。而して第一科は硫化黒、人造藍、直接染料、酸性染料を取扱つてゐる、獨逸開戦によるシベリヤ鐵道の閉鎖によりドイツ染料の輸入が杜絶せるため、日本品の需要が擴大し、従つて業績も良好を示した。又資産凍結による供給不足を見越し、八月一日から華外人側への市販を停止し、配給方法を次の如く決定した。
 一、人造藍は華人側の需要大部分に鑑み、華人側への市販は自由とする。
 二、硫化黒は邦人側需要分を控除せる殘餘を華人側へ市販する。
 三、其他一般染料に就ては第二、四半期の對日輸入數量を六ヶ月に分ち、邦人側に優先配給し、殘餘を華人側に市販する。
 右の方針は大東亞戰爭まで繼續され需給調整に効

塗料

果をあげた、下半年各月末(十二月は月初め)のコゴレットの相場は次の通りである。
 七月一、〇一七元九角、八月一三六元七角五分、九月一、九九九元、十月二、二五〇元、十一月四、一〇三元、十二月四、一〇三元
 相場の昂騰を示したのは獨逸IGの品薄による建値引上げ、制限賣りによる邦品への需要増大のためである。
 支那事變勃發後の當地塗料界は、從來の不統制な輸入方法に依り當地各商社の手により輸入供給されて居り、一部分特殊塗料、高級塗料は租界内外人商社の製品が大部分使用されて居た。
 然し事變後の復興充分でなかつた爲め塗料の需要も大した事なく、其の後現地の復興並に建設の進捗に伴ひ、必然的に塗料界も旺盛に成り來るものである。
 然る處一昨年九月圓城輸出統制實施に依り、當地輸入は半減し、一部外品並に粗悪なる支那製品を織り混ぜ現地日本人工場製品にて間に合せて來た。從來塗料は大牛内地品に依存し、殊に船舶用特殊塗料は現地で製造するものも内地より牛製品として輸入し、精製して居たに過ぎず、現地に於ける需要の増大と共に與亞院に於ても現地自給を

確立する立前にて、大日本塗料、日本油脂、關西
ペイント等現地工場は凡ゆる困難を克服して現地
需要の自給に努力を傾け、一部原料入手困難なる
塗料を除き漸次自給の域に迄進捗しつゝある現狀
である。

昭和十六年度に於ける當地輸入總額は約五拾萬
圓程度で、上半期に於て約五分の一、七下半
期に殘の約五分の三、三程度を輸入したが、世界
情勢の悪化に伴ひ益々品外の入手困難に成り殊に
七月廿六日米國の我國に對する資産凍結令以後外
品入手の見透無く、粗悪なる一部支那製品を除き
全部現地日本人工場並に内地輸入品に頼らざるを
得なくなつた情勢と成つた。一方現地建設工作は
漸次進展し塗料の需要は益々増大して來た。其の
間市場相場は外國の品薄と下落の一路を辿る法幣
安の爲め、昭和十六年一月以來急速な騰貴を續
け、自然内地輸入の塗料も騰貴を免がれず多少の
漸騰を來した。

然し内地塗料が軍票組合配給品である事並に軍
票建なる爲め、大體に於て大した價格の變化無
く、今後現地の統制強化に依り一定價格が決定さ
れて來るものと考へられる。

第三國商品は今迄に於ても歐洲情勢の悪化に伴
ひ原料輸入困難にて漸次減少して來てゐるが、昭
和十六年度に入つて船舶の不足其の他で極度に輸
入減少し、一部特殊塗料のみが供給され、亦價格

も騰貴を經け、七月以後は殆んどこの輸入も絶え
た爲めにストック品は急騰した。一方支那製品も
同様騰貴を續けたが、製品粗悪なる爲め結局日本
製品に依存せざるを得ない狀勢である。

大東亞戰爭と共に現地塗料界は内地品の輸入に
待つ事は勿論、現地日本人工場の技術並に増産に
依り現地自給の方針に進んで行く事は當然と見る
可きである。尙今迄原料不足の爲め入手出来な
かつた一部塗料、或は特殊塗料も戰爭進展と共に入
手可能となるものと考へられる。それと同時に今
迄外品を使用して來た支那人其の他第三國人間に
急速に日本品が使用される様になるだらう事は
亦當然の成行と見られる。

五倍子

五倍子は桐油アンチモニー茶葉と共に中國特産
物の一である年産二、三千担程度の安徽省の如き
は除外して主要産地は年産各約八萬担と推定され
る四川省、湖北省、河南省の三省である生産高
殆ど全部は輸出に向けられ、國內消費は五倍子其
儘を粉砕して助劑として使用する家内工業の域を
出でざる染屋に過ぎない状態である。輸出の中七
〇%は歐洲特に獨逸向けであり三〇%が對日輸出
である。

歐洲戰爭勃發後獨逸商社による買付旺盛を極め

上海相場は昂騰の一途を辿りつゝ昭和十六年を迎
へた。

十六年度に於ける原産地の產出量は、原産地が
何れも皇軍非占領地である爲に其の詳細を知る
事は不可能である如何なる経路を取るかは明か
ないが兎に角漢口、九江、安慶等に集荷され上海
へ移出されるもの、陸路香港に出で上海へ轉送さ
れるもの、非占領地を寧波方面に運ばれ上海へ
流入するもの、以上の方法によつて上海へ供給せ
られた。

邦人商社による奥地漢口方面よりの上海搬入は
一、五倍子として第三國人及華人に賣却せざる事
二、上海に於て原料として使用し製品に變形され
たる場合、該製品を援府行爲となる體れある第
三國人及華人に賣却せざること
と云ふ條件附にて許可された、故に邦人商社に
よる移入は一般市中には出廻り難き事情に在る。

從つて獨逸商社による買付は華人により上海に
流入したものに向けられざるを得ない、其の華人
による上海搬入は香港より海路行はれるもの、寧
波方面より流入するもの、及び如何なる経路か如
何なる方法か判然せぬがニビクル三ビクルと僅少
な數量づゝ搬入せられるもの蓋然とである、獨
逸商社は三等を買取つてシベリヤ鐵道經由歐洲へ
輸出を行つた。即ち
一、上海出廻りの不圓滑

二、獨逸商社による買付
三、法幣價值の漸落
等の諸要因により市中價格は漸騰を示しつゝ上半
期は推移した。

十六年度下半年は波瀾を極めた半年であつた、
世界的重大事項を列舉すれば

- 一、六月の獨逸開始
- 一、日蘭會商
- 一、日米會談
- 一、日本の政變
- 一、米國の資産凍結令
- 一、大東亞戰爭勃發

右は上海一般市況に非常な影響を及ぼしたが五
倍子市況に如何なる響を與へたか觀察して見るに
獨逸開始は唯一の輸送路シベリヤ鐵道閉鎖によ
り對獨輸出は停止の止むなきに至つた、然し乍ら
獨逸商社は既に買付済のもの放出を行はず、又
依然として買付を續行せるため一時値下りを豫想
せられたにも拘らず五倍子市價には變動を生じな
かつた、一方法幣相場は七月獨逸の國府承認によ
り軟化し日本の第二次近衛内閣の退陣により一時
急騰を示したが米國の資産凍結令により軟化し、
日蘭會商、日米會談の諸情報を入れて小波瀾は示
しつゝも大勢は軟化の一途を辿りつゝあつた。法
幣の貨幣價值下落は一般物價の騰貴を來たし、五
倍子も亦法幣下落に從つて漸騰を續けて行つた。

一方、日本内地に於ては日蘭會商の決裂、日米
會談の悲觀的狀態によりタンニン劑の確保を痛感
するに至り、五倍子統制會社の設立氣運を見るに
至つた、中支那より輸入確保を目的としたもので
あるが「生産統制を無視して輸入中心の統制會社
は設立の意味なし」と云ふ農林省意向を受けて十
月中旬創立總會を開く豫定を延期して種々整備に
當り「五倍子、タンニン酸の輸移入、國産品の集
荷配給」を目的として日本五倍子統制會社が十一
月廿四日正式認可となつた。

- 島根縣五倍子出荷統制組合
- 香川縣五倍子集荷統制組合
- 鳥取縣五倍子出荷統制組合
- 廣島縣五倍子集荷組合
- 三重縣五倍子出荷統制組合
- 高知縣五倍子集荷統制組合
- 岡山縣五倍子集荷統制組合
- 和歌山縣五倍子集荷統制組合
- 德島縣五倍子卸賣組合
- 京都五倍子集荷統制組合
- 兵庫縣五倍子集荷統制組合
- 大阪府五倍子集荷統制組合

大分縣農産品回數統制株式會社

山口縣農聯

福井縣木附子集荷組合

奈良縣五倍子卸賣業組合

結局之等の組合は五倍子統制會社に包含せられ
其仕入部として活動して行くことになると思
はれる、日本五倍子統制會社の活動により内地に
於ける栽培集荷、中支那よりの輸入は全面的に統
制下に入るものと思はれる。

前記の如き情勢により下半年漢口方面に集荷せ
られた五倍子は上海移出を停止され對日輸出に振
向けられた、年末迄に大阪神戸に輸入せられた五
倍子は十八萬斤に達したと云はれてゐる。

前述の如く下半年に至つて奥地よりの邦人商社
による上海搬入は停止の狀態となり、華人による
寧波紹興方面よりの少量搬入を見るに過ぎなくな
つた。獨逸開始後シベリヤ輸送路閉鎖にも拘ら
ず依然少量の買付を續行して居た獨逸商社は如何
なる理由によるか九月末頃より猛烈な買取りを再
開し、此の爲供給不圓滑の五倍子は急騰を演じ十
一月に至つて千三百兩の高値を呈するに至つた。

十二月八日の大東亞戰爭は東亞の事情を一變せし
めた、物資移動は制限せられ一般の取引は不活潑
となり、獨逸商社による五倍子買付は大東亞戰爭
境として中止せられた、香港寧波方面よりの流入
遮断せられたにも拘らず一般の取引不活潑の情勢

は五倍子価格を下落せしめ、年末前取引が行け
る頃に至つての五倍子市中価格は千二百兩であつ
た。

右の如き市況による昭和十六年度五倍子上海相
場の變動を表示すれば左の如くである。

Table with 12 columns (months) and 2 rows (prices). Values range from 300.00 to 600.00.

右表によれば法幣による価格は毎月漸騰の一
途を辿り十二月は一月に比較して四倍の騰貴を示
してゐる。

然し乍ら一方法幣其物の貨幣価値も下落を續け
て居たので法幣下落の跡をも調べて見なければな
らぬ、法幣の對軍票相場は大略次の如くである。
法幣一〇〇兩に對する軍票レート

Table with 12 columns (months) and 3 rows (exchange rates). Values range from 180.00 to 600.00.

前記五倍子相場を各月の軍票相場により軍票價
格に換算して考察して見るに

Table with 12 columns (months) and 2 rows (exchange rates). Values range from 150.00 to 500.00.

即ち法幣の貨幣価値下落を計算に入れて五倍子
價格變動を觀察すれば、上半期は大した變動は無
く、下半年より漸次騰貴を辿り昭和十六年度中に
於て約二倍の騰貴を示してゐる。

印刷インキ

昭和十五年十六年(一月十一月迄)上海港印刷
インキ輸入統計表(單位封度)

Table with 2 columns (years) and 4 rows (input types). Values range from 110,000 to 350,000.

印刷インキ界も一般商品同様昭和十六年度程
國際情勢の激變する毎に顯面、且深刻に市況に影
響を受けたる年少く三月の泰佛印協定成立或は日
米關係不安と租界不安、六月の獨ソ開戦、七月の
資産凍結令、十二月の大東亞戰爭勃發等、其都度
印刷インキ界にも直接、間接大きな影響を與へら
れ恩恵買、買控等、業界としては嘗て経験せる事
無き變態的現象を見せたやうである。

而も一年間の内六月、十二月の二度に渉る印刷
界の全面的大ストライキ、節電問題より來る作業
大印短縮、十月の法幣の大暴落等の悪材料に左右
せられつゝも、此の難關突破に成功し近來に無き
良好なる商内を續けた大きな原因は邦人煙草箱
印刷所方面、其他邦人經營印刷工場の活況にして
其外に法幣暴落、國際情勢の險惡化より先高見越、
或は品不足懸念より來る實需を無視せる買溜め思

感買ありたる事、華人印刷インキ工場が原料入手
難、節電、物價高等にて意の如く從來通りの生産
出來ざりし爲、品不足を來したる事等、此等好悪
各材料錯綜し一年間を通じて波瀾萬丈の動きを見せ
たが結局年頭の悲觀的予想を裏切り、印刷インキ
界全般として之を質的に見る時良好なる足跡を残
し越年せるものと言ひ得る。

只茲に特筆すべきは上記上海港印刷インキ輸入
統計表(十二月の統計無き爲十一月間の海關統
計表に依る)中に明かなる如く日本製印刷インキ
が内地の輸出制限其他船腹不足より意の如く輸入
出來ざる間隙に乘じ、米國製品の恐るべき進出振
りとして昭和十五年度の三倍の増はこの間の事
情を明かにするもので、十六年度の印刷インキ輸
入に於ては米國は第一位を占め多年の上海印刷イ
ンキ界制覇を十六年度に於て再び實現せしめた事
は大東亞戰爭の甚々たる戰果を見る今日の吾々日
本人印刷インキ業界としては遺憾千萬の次第であ
る。邦商は十七年度に於ては名實共に印刷インキ
界をリードせねばならぬが爲には邦品の輸入
緩和と現地邦人工場の生産増加を計るより方法無
く而もこの二つが實現する時邦品の上海印刷イン
キ界をリードし、現地の需給調整にも主動力と成
り得る一石二鳥の策と思惟せらる。

昭和十六年度印刷インキ消費量
輸入之部(一月十一月迄海關統計十二月は予想)

Table with 2 columns (years) and 4 rows (input types). Values range from 110,000 to 350,000.

輸入部門に於ては十一月間は海關統計にして
間違なきも現地生産は大體の予想なる爲、其間實
際が生産とに多少の差異あるものと思はるゝも綜
合的に十六年度の印刷インキ消費量を檢討する時
多少大膽なる結論となるも年四百萬封度の消費あ
りたるものと認む。

紡織機械及要品

支那事變勃發以來苦難を重ね來た紡織機械及要
品界も、昭和十六年度に入り益々入手困難とな
り、僅かに一昨年設定せられた設許許可制に依り
極めて少量の入手を得たるのみで、鐵製品如きは
依然入手皆無の状態である。加ふるに紡織の原
綿入手困難、其の他種々の情勢に依り極度の操短

の止むなきに立到つた状態である。
現在紡績に對する割當品目、針布、木管、羊毛製品、皮革製品等の輸入配給は、さのみ困難でない模様であるが、現在の操業に使用出来る程度である。其の間第三國製品(支那製品)も極めて少量の入手が有つたが特筆大書することもなく今日に到つた。

大東亞戰爭勃發後資材の入手は豊富になると思考されるも、戰爭遂行上、當然軍需工業方面に使用される事を覺悟せねばならぬ故、平和産業たる紡績の資材配給を望む事は、當分不可能と見なければならぬ。

米

昭和十六年の米の市場相場を列記すれば次の通り

西貢白尖一號米	
最低價格	最高價格
一月 八四・〇〇	八七・〇〇
二月 八一・〇〇	八五・〇〇
三月 八五・〇〇	八五・〇〇
四月 一一〇・〇〇	一四九・〇〇
五月 一〇九・〇〇	一五七・〇〇
六月 一一六・〇〇	一三五・五〇
七月 一二一・〇〇	一三三・〇〇

備前白尖小號米	
最低價格	最高價格
一月 八二・〇〇	八六・〇〇
二月 八〇・〇〇	八四・〇〇
三月 八四・〇〇	八四・〇〇
四月 一〇五・〇〇	一四七・〇〇
五月 一〇八・五〇	一五五・〇〇
六月 一一五・〇〇	一二八・八〇
七月 一一八・〇〇	一二九・〇〇
八月 一二四・〇〇	一三三・五〇
九月 一〇三・五〇	一一八・五〇
十月 一二〇・〇〇	一七〇・〇〇
十一月 一二〇・〇〇	一八五・〇〇
十二月 一二〇・〇〇	一三〇・〇〇

〔註〕十一月月中旬より工部局に於て公定價格制實施
運前白尖一號米

市況概要	
一月 八二・〇〇	八九・〇〇
二月 八〇・七〇	八五・〇〇
三月 八五・〇〇	八五・〇〇
四月 一〇八・五〇	一四八・〇〇
五月 一〇四・〇〇	一五五・〇〇
六月 一一三・〇〇	一三三・〇〇
七月 一二四・〇〇	一三五・〇〇
八月 一一一・〇〇	一四九・〇〇
九月 一一五・〇〇	一三五・〇〇
十月 一二九・〇〇	一八一・四〇
十一月 一三〇・〇〇	一九〇・〇〇
十二月 一二〇・〇〇	一三〇・〇〇

〔註〕十一月月中旬より工部局に於て公定價格制實施

予行はれ居たる模様である。
尙全十一月月中旬より食米一三〇弗(八〇弗)の公定價格制を採用民食安定を計つた。爾來右價格を維持平穩裡に越年した。

高騰の主なる原因を挙げれば左の通り
一、重慶政權政治力の失墜、奥地への遊資誘引、法幣安定委員會等舊法幣維持の爲の經濟工作の失敗、上海市場放棄等
一、外米手當難、上海在庫米の減少
一、軍票の流通範圍擴大強化につれ舊法幣價值の下落
奥地並に上海思惑遊資筋の法幣不安に依る換物操作、食米見越買占、賣惜
一、國際情勢の緊迫化、日米關係悪化の影響

小麥、麥粉、麩

△小麥(五〇斤に付)	
一月 高 價 三三・六〇	安 價 三一・九〇
二月 三六・八五	三六・八五
三月 四二・五〇	四〇・八〇
四月 四二・〇〇	四〇・〇〇
五月 四二・〇〇	四〇・〇〇
六月 四〇・〇〇	四〇・〇〇
七月 四二・八〇	四〇・〇〇

八 月		四五・〇〇	四四・〇〇
九 月		四七・五〇	四五・〇〇
十 月		七三・〇〇	六〇・〇〇
十一 月		七五・七五	七二・〇〇
十二 月		七五・〇〇	七五・〇〇

一 月 法幣不安、換物人氣潛在、且つ出廻薄に強調
二 月 法幣崩落、一般物價急騰昂騰に高値唱、賣入薄
三 月 端境期に入り賣物僅少、換物人氣に昂騰
四 月 一般市場軟調に思惑筋利食賣物出で相場軟化
五 月 新物出廻りを控へ買方警戒氣配、且つ國際關係不安人氣を入れ、爲替強調諸商品軟調に相場シリア
六 月 新麥豐作を唱へ手持筋賣氣あり相場軟調
七 月 新麥出廻期に入り市場活況、賣方買方共に思惑人氣旺盛、相場浮動したが通貨不安に底意堅調
八 月 資金凍結令實施に日本、北支、外參輸入杜絶、新價高値唱に急騰
九 月 産地華商筋先高見越しに思惑操作濃化賣手高唱、工場筋は北支向麥粉積出に關滑に買控へ相場強保合
十 月 法幣崩落換物人氣旺盛思惑筋買偏り相場

奔騰	
十一月 法幣不安市場安定せず相場高値唱、産地中旬に到り一般金融便塞商内閉歇 十二月 一般市場何れも金融不調滑商内停頓乍ら國際關係急變に相場奔騰氣配を含み越年した。	

△小麥粉	
一月 高 價 二二・〇〇	安 價 二一・〇〇
二月 二五・二五	二二・二〇
三月 三〇・九五	二五・二五
四月 三〇・五〇	二九・五〇
五月 三〇・〇〇	二九・五〇
六月 二九・五〇	二九・〇〇
七月 三〇・〇〇	二九・三〇
八月 三一・五〇	二九・三〇
九月 三二・五〇	二〇・五〇
十月 四八・〇〇	三三・〇〇
十一月 五三・〇〇	四八・〇〇
十二月 五三・〇〇	五三・〇〇

一 月 舊止手當旺盛に相場隆起
二 月 法幣暴落米穀類の昂騰に伴ひ相場續騰
三 月 換物人氣引續き旺盛投機筋の跳梁も加はり昂騰
四 月 新小麥出廻りを控へ手持筋賣人氣各工場原料手當容易麥粉相場下押
五 月 法幣不安換物人氣の跡日米關係不安人氣

となり爲替強調諸商品急落に伴ひ相場シリア
 六月 新多相場期に入り相場軟調
 七月 新多相場期旺盛を眺め形勢觀望市況低迷
 八月 資金凍結令實施に依り外多依存離脱見越
 九月 工場側北支向多相場高値買見送りな
 十月 法幣暴落換物人氣旺盛諸商品一齊に暴騰
 十一月 小多相場期細まり同屋筋一勢買進み相場
 十二月 大東亞戦争の勃發を見たが各工場共原料
 手當一巡の跡強保合裡に越年した。

十一月 五八〇〇 五一・五〇
 十二月 五六〇〇 五四・五〇
 一月 舊正前後にて商内閉歇
 二月 市況保合
 三月 法幣暴落相場奔騰
 四月 前月高値訂正小戻す、台灣向引合旺盛
 五月 台灣向引合引續き旺盛新多相場を控へ
 六月 新多相場期の爲市況保合買氣薄
 七月 月末資金凍結の報に新高値示現
 八月 法幣不安換物人氣の爲相場暴騰、對日輸
 出久振りに再開
 九月 金圓對日輸出引合開始、中支製粉聯合
 會第六部(穀部)會員決定
 十月 法幣大暴落相場暴騰、對日輸出促進の爲
 地場與亞院にて禁止せり
 十一月 原麥高の爲相場引續き堅り
 十二月 大東亞戦争勃發相場暴騰したが商内閉歇

雜 談

雜談は事變前に於ては相當量の輸移出があつた
 が、事變直後は産地治安關係に依る出廻り不振及
 歐洲戰動のため同地地方輸送難並に價格差によ
 る對日輸出困難等があつた。然し其後軍票相場高
 騰ノミナルなる

四月 法幣相場落著と相場行過ぎ訂正まで小戻
 五月 雜穀新作物柄豊作を傳へられたが本格的
 相場立たず
 六月 小多相場期米相場保合に連れ市況反落
 七月 豆類新物出廻り開始の市況順調であつた
 八月 月末資金凍結の結果相場上向く
 九月 法幣不安換物人氣に相場昂騰、對日約定
 旺盛
 十月 豆類相場不變なるも船腹關係から對日積
 出停頓、玉蜀黍輸入入荷旺盛相場下押す
 十一月 法幣第二回暴落のため相場一齊暴騰玉蜀
 黍の如き月初に比較月末八割見當高を示した
 十二月 法幣相安定相場反動安、與亞院より雜穀
 對日輸出商社指定さる
 一、概説
 支那事變發生以來の上海港輸出高は海關統計に
 依れば左の如し

雜 談

に連れ追々對日輸出探察團内に入ると共に、日本
 内地側にも夫々輸入配給統制會社を設立、積極
 的に活動を開始當地も之に呼應輸出業者は探察を
 度外視し、以て日本食糧對策に全幅の協力をなし
 た。

但し雜穀の中現在對日輸出されつゝあるものは
 大豆、豌豆、玉蜀黍等であり其他の高梁、赤小豆
 綠豆等は未だ本格的引合に入つては居ないが對日
 輸出を望み得る可能性がある。

一、昭和十六年中に於ける上海市況
 (一)需給狀況
 豆類は六月頃より出廻り始めたが本年は稍々
 豐作を豫想され出廻り高大豆四〇萬擔白豌豆
 二〇萬擔見當と稱された。

七月に入り日本では支那産大豆豌豆全國輸入
 同業組合が發展的解消し東亞雜穀輸入株式會
 社が設立され輸入統制を行ふ事となつた。

當初は爲替關係にて探察困難であつたが、軍
 票高並に業者の探察切詰により漸く引合軌道
 に乗つた。但し後半に至り船腹極度に窮乏と
 なり多量の未積出品を残す結果となつた。

本年中に於ける對日輸出高は大豆、豌豆三十四
 萬擔一千二萬擔であり、上海港輸出高の九八
 %を占めた。

玉蜀黍は年初より三、四月に亘り地場品の端
 端品扱れ相場高に西貢、爪哇、セレベス物の

大量契約を見るに至り、其後米麥高となるに
 及び代用食としての需要旺盛となつたため引
 續き輸入盛んとなり本年中に於ける輸入高は
 九萬屯の多額に上り最高記録を示した。

七月資産凍結後、之等輸入玉蜀黍の特圖建に
 よる對日輸出計畫がなされたが船腹資金關
 係から所期の目的を達するに至らなかつた。
 然し本年中輸出高は約二萬屯二千萬弗に上つた。

(2)相場の變動(毎月央 單位五〇元)

月 別	豆 (無湖物)	白豌豆 (江北物)	玉蜀黍 (西貢物)
一月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
二月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
三月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
四月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
五月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
六月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
七月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
八月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
九月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
十月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
十一月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
十二月	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇

年 度 數量(キントル) 金額(上海元)

昭和十二年	二八三九〇	三三三三・五〇
昭和十三年	一四六〇三	一三三三・六三
昭和十四年	二〇〇三	二二七・七三
昭和十五年	一〇三〇三	一三三・八四
昭和十六年	三三三三	三三三・七三

(註)昭和十六年度は十一月迄の統計なり

該表に見る如く數量金額共に漸減の傾向を見た
 るのは事變發生以來奧地取引の杜絶、並に重慶政
 權の茶葉對外輸出政策の關係より支那茶葉中心が
 上海より香港に移つた結果と見られる。昭和十五
 年度に於て數量的に稍増加し金額に於て躍進を見
 たるのは前年度の好調を受け綠茶價格の昂騰した
 るの、法幣相場の低落並に獨逸向紅茶の高値賣
 行によるものである。而して昨年に至り急激なる
 減少を示したのは獨逸開戦に伴ひシベリヤ鐵道に
 依る獨逸向輸出不能となり、且米國の資金凍結に
 依り米國其他への輸出一般に困難となつた結果と
 見られる。十二月八日大東亞戦争勃發と共に上海
 港の茶輸出商内は茲に杜絶した。

二、昭和十六年中に於ける上海市況
 (一)需給狀況
 〇綠茶は昨年に引續き好況を呈し米國よりの引合
 盛にして國內用と共に活潑なる衝動を見た。
 然るに米國の資金凍結の結果綠茶の需要著しく
 減少したが外商の手により引續き香港經由米國

綠茶、紅茶

一、印度、南洋方面へ輸出されてきた。然るに大東亞戦争勃発するや輸出は杜絶し、爲めに上海市場荷動きなく滞貨を生じた。

○紅茶は獨逸、米國向商内盛であつたが、漢口方面より原料茶入荷は奥地交通不便の爲め出運遅延し前年に比し著しく減少した。獨逸開戦により對獨輸出は據に中絶し大口需要は無く、對米其他商内ボツ／＼あつたが、米國の資金凍結以後は外商又は華商により、香港經由北米、印度南洋等に輸出された。紅茶の地場消費は僅少にて下級品の北支向移出があつたが少量である。

(ロ)相場の變動

綠茶、紅茶共昨年好況の後を受けて市場開始と共に買氣旺盛であつたが、綠茶原料品薄と法幣相場の下落關係により毛綠茶相場は近年に無き高値を示した。今月別に見る綠茶、紅茶の相場推移を表記すれば左の如し。

月別	綠茶		紅茶	
	上	下	上	下
一月	250	230	100	90
二月	250	230	100	90
三月	250	230	100	90
四月	250	230	100	90
五月	250	230	100	90
六月	250	230	100	90
七月	250	230	100	90
八月	250	230	100	90
九月	250	230	100	90
十月	250	230	100	90
十一月	250	230	100	90
十二月	250	230	100	90

(註)各月五、六日頃の相場とす單位百市斤

尙最近四ヶ年に於ける品種別海外輸出統計を示せば左の如し

品種	一九四一年	一九四〇年	一九三九年	一九三八年
綠茶	3,077	100,646	3,288	3,288
紅茶	2,513	3,213,333	3,201	1,313,333
磚茶	8,857	2,285,857	8,857	1,285,857
毛茶	—	—	—	—
其他	3,333	3,333	3,333	3,333
合計	14,787	3,529,826	10,182	8,020,333

(註)一九四一年度は十一月末日迄の統計なり。

葉煙草

一、概況 (支那事變以來の進出概況)

三、今後の見通し

大東亞戦争に於ける皇軍の赫々たる戦勝に依り世界主要茶園たる印度、錫蘭、爪哇、スマトラ等が大東亞共榮圏に包含せらるゝこととなれば之れに日本、台灣、支那の茶業を加へ世界茶産國の殆ど全部共榮圏内に入る事となるであらう。試みに之等茶産國の一ヶ年の茶輸出数量を見れば一九三七年(一九三七年四月—一九三八年三月)總量八億七千三百萬封度、之れに對し一ヶ年の世界消費量は八億六千一百萬封度である。内英國の消費量最も多く四億二千三百萬封度にして、世界需要量の半を占むる。然るに英國の需要するものは紅茶であり、現在印度、錫蘭、爪哇、スマトラ等よりの輸入品大部分を占め支那紅茶は僅少である一方支那綠茶の需要地は北阿、印度、アフガニスタン、南洋、蒙古、滿洲等各方面に涉り夫々特殊地盤を有し、自ら消費市場を具にする點注目がある。但し支那茶當面の問題海外市場便害の爲め困難なるべきも共榮圏の秩序回復と共に上海市場は復活し、南洋方面との物資の交流を始めとし、總て支那茶の輸出も舊態に復するものと信ぜらる。

事變前の中支に於ける葉煙草事業は、英米トラストが莫大なる資本を擁し、以て支那に於ける小葉煙草業者を壓倒し、獨占的王座を占め日華兩業者の進出を殆んど完封してゐたものであるが、今事變を分岐點とし中支葉煙草株式會社が率先、中支に於ける各産地に進出し順調に社運を固め、買付機構は勿論調査機關等整備し積極的に新業の發展に努め、着々活潑なる事業の運営を見てゐる。即ち全社は中支に於ける唯一の葉煙草會社にして、中支各地に産出する各種葉煙草の發展と統制に全力を傾注し、以て當局の指導の下に葉煙草の統制機關として専ら我國策の練に副ひ、着々各種葉煙草の我方確保につき最善の方圖を講じてゐる。

全社は事變直後、進んで蚌埠に於ける鳳陽米種葉煙草の農事指導及び増産計畫に着手し、専ら之を一手に蒐集して居るのは勿論、數年來高難を拂して許州米種葉煙草の上海誘導に成功、相當の實績を挙げたる外、昭和十六年度より山東米種葉煙草の當地移入並に内鮮各種葉煙草の輸入を開始して、全社に於て一手取扱に統制せられ、且つ中支各地に産出の在來葉は從來日華外人に依り各個自由に取り扱はれてゐたが、諸種の不便と我方確保に障害を生じ、甚だしきは敵地流出の因をなす等の弊害があつたので、之亦昭和十六年度より全社の手に一元的に統制せられ、全社の直接買付は勿論

他當當地支那側葉煙草業者を以て組織せしめた中國土菸業公司を指導監督し中支各地は勿論邦人の手の届かざる地域迄も進出せしめ、其の獲得に努め着々其の實績を収めつつある。即ち十六年度末迄の蒐集實績は後述の如く已に三五〇萬封度を越えた。

更に全社は在來葉の獲得を決定的ならしめる爲め無湖、杭州、大通に出張所を設け、その獲得に任じつつあるが、之を擴大強化する爲め其他の地方に近く全社の買付機構を益々擴充し、その全面的我方確保に精進しつつある。

今や大東亞戦争の勃發により外國産葉の輸入全く杜絶せる爲、中南支産出の葉煙草の確保は益々その重要性を加へるに至り、中支日系煙草會社への原料供給は勿論、滿洲方面に對しても原料葉供給の必要に迫られて來たので、全社は更に進んで武漢方面及その他の地域に於ける原料葉の蒐集をも着々計畫中で、近くその實現を見ようとしてゐる。尙全社に於ては南洋羣島占領地區の原料葉の獲得工作についても目下研究中である。

一、昭和十六年度中に於ける上海市況

(一)需給狀況(邦人工場のみ)

(イ)鳳陽葉煙草 約 八〇〇萬封度

(ロ)許州葉煙草 約 一五〇萬封度

(ハ)在來葉煙草 約 三五〇萬封度

(ニ)山東葉煙草 約 三六〇萬封度

(ホ)内地葉煙草 約 三五萬封度

合計 約 一、六九五萬封度

以上は大約一ヶ年の實績であつて、昭和十六年中に獲得したものである。

(二)相場の變動

昭和十五年再乾燥品一〇〇封度當り平均八拾圓であつたが

(イ)産地に於ける減産 鳳陽葉は一般農産物價高及氣候關係の爲、非常な減産を來した外、在來葉も運輸關係其他により逐次減産した。

(ロ)運送費の増加 前年度より約三割見當増

(ハ)電力料金の昂騰 漸次昂騰した。

等の爲再乾燥品一〇〇封度當り平均百拾圓であつて、前年比約四割の騰貴を來した。

一、競争品の消長

事變前にあつては英米トラストが支那市場、特に中支に於て壓倒的獨占を示して居たが、既述の如く昭和十六年七月の英米團の資産凍結後漸次衰微の一途を辿り、殊に今次大東亞戦争勃發後、敵性商社の活動は全面的に封じられつつある實狀につき、葉煙草の我方確保は愈々決定的となるだらう。

一、價格の見通し

諸種の理由による品拂底の爲益々漸騰の趨勢にある。

一、蒐集見透し
中支に於ける葉煙草事業は我方、即ち中支葉煙草株式會社の手により統制せられ、或は政治工作

胡麻

Table with columns for location (e.g., 南京, 漢口, 蕪湖) and quantity (e.g., 壹萬五千袋, 五萬五千袋).

桐油

昨年の年報にも觸れた通り、本品の取扱は特殊なるものとなり、一般市場にては賣買共に不可能な商品となつた。

茶油

十六年度に於ける茶油市況は前中期に於て温州方面より華人側にも多少入荷を見た様子なれど五月頃外人筋の買進みに殆ど上海在庫品一掃され其後僅かつ入荷せる模様なるも在庫品は途切れ途切れとなり従て市中相場年初頭に於ては百斤三百二十元見當に在りしも八月頃には四百元を越し更に十一月には七百元となり以後在庫の皆無と共に相場も立たず越年せり。

軍配穀肥

軍配穀肥の昭和十六年度業績は新聞報道によ

豚毛

輸出数量
十月 2,500,000人(2000元)
十一月 2,000,000人(1,500元)
十二月 2,000,000人(1,500元)

Table showing trade statistics for various countries (e.g., 仕向國, 英國, 香港, 日本) with columns for quantity and value.

昭和十六年度に於ける上海港よりの輸出は中國海關統計に依れば十一月末迄二、九四七公担四二にして其の内譯は左記の通りである(十二月の七日間の輸出数不明なれ共約六〇〇公担を思はれる。)

示し居るも之が原因は数量の減少は現地に於ける統制強化特に資金凍結後之が非常に強化された爲で有り又金額の増加は海外債の暴落と爲替の暴落に依るものである。

たが、此際一層拍車を懸けて之が實現に努力を爲したのである。
次で七月二十六日米國に於て邦人資産凍結令發布せられ、之に對して當地日本總領事館の告示發布せられ、以後英國向生卵及卵製品の販賣は断然中止せられることとなり、英國向卵輸出の約定殘の英國船積取は英國海軍省側から中止して來り、全く杜絶するに至つたのである。

茲に於て英米卵工場は全然操業を中止するに至つたが、八月以降當地法幣の暴落に伴ひ香港卵の値開き莫大となり、爲めに爲替安を利用して香港外海に當地にて卵を買漁り、其結果當地の卵相場は無類の高値を呼ぶに至つた。又之と同時に密移入卵は上海へ續々流入し來つて香港、マニラ向輸出のみ盛に行はれると云ふ現象を呈した以上は、利益の動には何物をも犠牲にして顧みない支那商人が外人商社と結託して實行したのである。之が爲め邦人商社は奥地に集卵に非常な困難を嘗めたのであるが、良くて之に堪へて卵の買付に繼續努力したのである。然るに懸案の對日輸出は十月初旬漸く關係當局の援助の下に途開かれ、並に中支那は最も適當なる消化市場を得ることとなり、邦人商社は全力を擧げて奥地卵の買付、箱詰對日輸出に努力を續けた。十二月八日大東亞戰爭勃發と同時に英米系卵工場は日本軍の占領することとなり、前記對日輸出に邁進する揚子運業の

み事實上、中支那を取據ふ工場として經營を續けて居る現状である。

(一)昭和十六年度中の市況

(A)原卵

Table showing monthly egg production and prices from January to July. Columns include month, quantity (担), and price (円).

Table showing monthly egg production and prices from August to December. Columns include month, quantity (担), and price (円).

(B)卵製品

(イ)冷凍卵
一九四一年一月十一月冷凍卵上海輸出高次の如し。

Table showing egg products (frozen eggs) with columns for name, quantity, and price.

以上の数量は大體一月以降六月迄英國向輸出の合計であり、七月以降は船腹無道に凍結令の結果對英輸出は無く、僅に對日輸出に當てられたものである。

(ロ)生卵

生卵の輸出は本年度は香港、マニラを主な

るものとし、他は對日輸出に當てられたるもので次の通りである。

Table showing monthly egg production and prices from January to December. Columns include month, quantity (担), and price (円).

(一)乾燥卵

英國政府は年初以來船腹難の爲め、船腹を取ること多き乾燥卵も以て生卵、冷凍卵に代へることを希望せる爲め、各卵工場は争つて之が製造に努力し、六月英國よりの最終の配船迄毎月對英輸出を見た。一方獨逸商社も獨逸向乾燥卵の輸出を試みたのである。

一九四一年一月十一月

Table showing monthly egg production and prices for dried eggs from January to December. Columns include month, quantity, and price.

本品商賣の先行は大東亞戰爭勃發後判然と様相

を一變したのである。對日輸出を除きては極端な急減し目下の處は船腹の都合上近き將來輸出を望み得べくもない、只東亞共榮圏内の諸地域に中支那の供給を企圖せらるゝのみである。

海魚、淡水魚並に土産鹽乾魚いづれも其の入資状況は數量に於て大體前年全期と大差ないが、法幣低落に因る魚價昂騰の結果、金額に於ては著増を示し一々年間の取扱高は一億一千三百七十餘萬元に達した。(華中水産局)

鮮魚、土産鹽乾魚

Large table showing monthly fish production and prices for various types of fish (sea fish, river fish, dried fish) from January to December. Columns include month, quantity, and price.

商品市況

月一十	月十	月九	月八	月七	月六	月
ヒ	ハ	カ	フ	ニ	ア	ハ
ラ	モ	キ	セ	ベ	リ	モ
二二八〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇
ニ	ア	サ	マ	ソ	フ	キ
ハ	カ	フ	ニ	ア	ハ	カ
二二八〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇
ニ	ア	サ	マ	ソ	フ	キ
ハ	カ	フ	ニ	ア	ハ	カ
二二八〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇

商品市況

月一	月二	月三	月四	月五
ヒ	ハ	カ	フ	ニ
ラ	モ	キ	セ	ベ
二二八〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇
ニ	ア	サ	マ	ソ
ハ	カ	フ	ニ	ア
二二八〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇	二二九〇

2、観給価格
華中農業公司より通源農業公司に卸す価格は...

蔬菜、青果

輸入品の部

一、概況(支那事變以來の推移概観)
日本産青果物(臺灣産を除く)の上海向一元的輸入...

Table with columns for month (一月 to 十二月), category (苹果, 柑, etc.), and value. Includes a summary row for '日本産果實蔬菜の取扱總額'.

Table with columns for month (一月 to 十二月), category (苹果, 柑, etc.), and value. Includes a summary row for '日本産主要品目平均単價'.

十一月 九九 二五五 二二二 一 一五五
附記 苹果四貫二百斤入を大部とし四貫入の二種箱...

一、競争品の消長
上海市場に於ける果實類中輸入品の主なるは...

鑛油

一、支那事變以來の推移概観
支那事變動後以來當局は、事變完遂上の必要から奥地向輸出制度を強化し、輸入各社の自由活動を制限したる爲に資金凍結令、國際情勢不慮等種々なる悪條件の爲に輸入数は漸減した。

Table with columns for oil types (煤油, 燈油, 重油, 機油) and their monthly/quarterly trends.

註 右数量は中支各港の輸入数なり
一、昭和十六年中に於ける上海市況
(一)輸入数
日・米・英の資金凍結、其後の情勢逼迫、大東亞戰爭の勃發により必然的に減少した。

入品を入荷した。荷油類の月別國別輸入統計
左の如し(海關統計による)
△昭和十六年度上海月別輸入数

Table showing monthly import statistics for oil products from January to October.

十一月
三、三三三、八五六
一四四、〇六六
一、九二八

Table showing monthly import statistics for oil products from November to December.

Table with columns for oil types (煤油, 燈油, 重油) and their monthly/quarterly trends.

(2) 鑛油類價格
法幣の對外價值下落、情勢の悪化、輸入減少による市場品枯渇に起因し、昂騰の一途を辿り、揮發油は事變前の約七割、燈油は約四割の値上を示した。

Table showing price trends for various oil products.

同 四月 六九五弗 七二五弗
一、大東亞戰爭勃發以後の見通し
大東亞戰爭勃發による皇軍不滅の戦果により、東洋の重要地域は逐次我手中に歸して居るが、東亞共榮圈に就ては石油の生産と消費は略一致し、自給自足し得るやうであるが、製品別に見れば按配する必要があるため、益々樂觀を許されない現状故、今後は消費規正を一段と強化されるものと信ずる。

二酸化滿俺

日本に於ける統制強化の結果、昭和十五年以來當地入荷は見るべきものなし。猶右品は乾電池の主要原料なるも乾電池製造激減せる今日現地需要も皆無の状態と成つた。

珪瑯鐵器

右品に使用する鐵板の入手難に合せて珪瑯類の輸入事實上停止に依り、華人工場は全部休業の止む無き状態にて奥地開放の日が訪れる迄、不況は持續されるものと見られる。